



平成 26 年度 前期
学生による授業評価(アンケート調査)
集計結果

日本赤十字看護大学 看護学部

平成26年度 前期 授業評価実施科目

No.	科目コード	授業科目名	担当教員	履修登録者数	評価用紙種類	学年	学期	必修選択の別
—	講義全体集計平均							
1	1A0100	赤十字概論	小池 政行	142	講義	1	前期	必修
2	1A0103	赤十字概論	東浦 洋	11	講義	編3	前期	必修
3	1A0200	赤十字国際活動論	小池 政行	18	講義	3	前期	選択
4	1B0100/ A10100	哲学と倫理	榊原 哲也	18	講義	3・編3 4・編4	前期	選択
5	1B0300	心理学Ⅰ	遠藤 公久	128	講義	1	前期	選択
6	1B0501	教育学概論	山崎 裕二	8	講義	1	前期	選択
7	1B0502	教育学概論	山崎 裕二	13	講義	1	前期	選択
8	1B0801	身体運動論Ⅱ（実技）	岸田 登美	37	講義	1	前期	選択
9	1B0802	身体運動論Ⅱ（実技）	緒形 ひとみ	31	講義	1	前期	選択
10	1B0803	身体運動論Ⅱ（実技）	岸田 登美	37	講義	1	前期	選択
11	1B0804	身体運動論Ⅱ（実技）	緒形 ひとみ	30	講義	1	前期	選択
12	1C0100	社会学Ⅰ	三橋 弘次	105	講義	1	前期	選択
13	1C0300	社会保障論	畠中 亨	148	講義	3・編3	前期	必修
14	1D0101	数学Ⅰ	二宮 真理子	69	講義	1	前期	選択
15	1D0102	数学Ⅰ	二宮 真理子	64	講義	1	前期	選択
16	1D0300	生物学Ⅰ	吉田 健一	131	講義	1	前期	選択
17	1D0501	化学Ⅰ	小林 孝彰	46	講義	1	前期	選択
18	1D0502	化学Ⅰ	小林 孝彰	37	講義	1	前期	選択
19	1E0301	保健統計学	逸見 功	74	講義	2	前期	必修
20	1E0302	保健統計学	逸見 功	91	講義	2・編3	前期	必修
21	1F0101	日本語の表現	越後 敬子	65	講義	1	前期	選択
22	1F0102	日本語の表現	越後 敬子	66	講義	1	前期	選択
23	1F0201	英語RⅠ－Ⅰ	Karli Raudzens	37	講義	1	前期	必修
24	1F0202	英語RⅠ－Ⅰ	川崎 修一	34	講義	1	前期	必修
25	1F0203	英語RⅠ－Ⅰ	Karli Raudzens	36	講義	1	前期	必修
26	1F0204	英語RⅠ－Ⅰ	川崎 修一	34	講義	1	前期	必修
27	1F0401	英語WⅠ－Ⅰ	遠藤 花子	34	講義	1	前期	選択
28	1F0402	英語WⅠ－Ⅰ	Brennen L.Terrill	38	講義	1	前期	選択
29	1F0403	英語WⅠ－Ⅰ	遠藤 花子	32	講義	1	前期	選択
30	1F0404	英語WⅠ－Ⅰ	Brennen L.Terrill	35	講義	1	前期	選択
31	1F0601	英語LSⅠ－Ⅰ	Benjamin Tutcher	28	講義	1	前期	選択
32	1F0602	英語LSⅠ－Ⅰ	Tony Dani	22	講義	1	前期	選択
33	1F0603	英語LSⅠ－Ⅰ	Brennen L.Terrill	19	講義	1	前期	選択
34	1F0604	英語LSⅠ－Ⅰ	Benjamin Tutcher	22	講義	1	前期	選択
35	1F0605	英語LSⅠ－Ⅰ	Tony Dani	23	講義	1	前期	選択
36	1F0606	英語LSⅠ－Ⅰ	Brennen L.Terrill	26	講義	1	前期	選択
37	1F0801	英語RⅡ－Ⅰ	皆川 健次郎	38	講義	2	前期	必修
38	1F0802	英語RⅡ－Ⅰ	富田 佳子	34	講義	2	前期	必修
39	1F0803	英語RⅡ－Ⅰ	皆川 健次郎	39	講義	2・編3	前期	必修
40	1F0804	英語RⅡ－Ⅰ	富田 佳子	44	講義	2・編3	前期	必修
41	1F1001	英語WⅡ－Ⅰ	鈴木 実佳	23	講義	2	前期	選択
42	1F1002	英語WⅡ－Ⅰ	鈴木 実佳	27	講義	2	前期	選択
43	1F1003	英語WⅡ－Ⅰ	川崎 修一	11	講義	編3	前期	選択
44	1F1200	英語LSⅡ－Ⅰ	川崎 修一	18	講義	2	前期	選択
45	1F1400	英語文献を読むⅠ	川崎 修一	20	講義	3	前期	選択
46	1F1601	中国語Ⅰ	王 英輝	46	講義	1	前期	選択
47	1F1602	中国語Ⅰ	王 英輝	46	講義	1	前期	選択
48	1F1801	フランス語Ⅰ	坂原 真里	21	講義	1	前期	選択

平成26年度 前期 授業評価実施科目

No.	科目コード	授業科目名	担当教員	履修登録者数	評価用紙種類	学年	学期	必修選択の別
49	1F1802	フランス語Ⅰ	坂原 真里	17	講義	1	前期	選択
50	1G0101	基礎ゼミⅠ	遠藤 公久	15	講義	1	前期	必修
51	1G0102	基礎ゼミⅠ	川崎 修一	15	講義	1	前期	必修
52	1G0103	基礎ゼミⅠ	小池 政行	14	講義	1	前期	必修
53	1G0105	基礎ゼミⅠ	佐藤 裕子	14	講義	1	前期	必修
54	1G0106	基礎ゼミⅠ	東浦 洋	14	講義	1	前期	必修
55	1G0107	基礎ゼミⅠ	逸見 功	15	講義	1	前期	必修
56	1G0108	基礎ゼミⅠ	山崎 裕二	14	講義	1	前期	必修
57	1G0109	基礎ゼミⅠ	越後 敬子	10	講義	1	前期	必修
58	1G0110	基礎ゼミⅠ	小林 孝彰	11	講義	1	前期	必修
59	1G0111	基礎ゼミⅠ	熊澤 武志	10	講義	1	前期	必修
60	1G0112	基礎ゼミⅠ	三具 淳子	10	講義	1	前期	必修
61	1G0130	基礎ゼミⅠ	逸見 功	11	講義	編3	前期	必修
62	1H0100	人体の構造と機能Ⅰ	佐藤 裕子	142	講義	1	前期	必修
63	1H0200	人体の構造と機能Ⅱ	佐藤 裕子	142	講義	1	前期	必修
64	1H0300	人体の構造と機能Ⅲ	菅田 晴夫	142	講義	1	前期	必修
65	1H0900	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅵ	林 公輔	136	講義	3	前期	必修
66	1H1100	リハビリテーション医学	森本 正	147	講義	3・編3	前期	選択
67	1H1400	ラボラトリー・プラクティス	藤原睦憲,村上康弘	18	講義	2	前期	選択
68	1I0101	看護学概論Ⅰ	守田 美奈子	73	講義	1	前期	必修
69	1I0102	看護学概論Ⅰ	守田 美奈子	70	講義	1	前期	必修
70	1J0101	看護技術論Ⅰ	堀井湖浪,鷹野朋実,遠藤公久,小宮敬子,坂口千鶴,佐々木幾美,武井麻子,鶴田恵子,守田美奈子,岡本有子,西田朋子,濱田真由美,太田智子	72	講義	1	前期	必修
71	1J0102	看護技術論Ⅰ	鷹野朋実,堀井湖浪,遠藤公久,小宮敬子,坂口千鶴,佐々木幾美,武井麻子,鶴田恵子,守田美奈子,岡本有子,西田朋子,濱田真由美,太田智子	70	講義	1	前期	必修
72	1K0101	看護援助論Ⅰ	川原由佳里,樋口佳栄,殿城友紀,田中孝美,梅田亜矢,下村裕子,和田美也子,川上明希,山本伊都子,住谷ゆかり,西田朋子,安島幹子	71	講義	2	前期	必修
73	1K0102	看護援助論Ⅰ	川原由佳里,樋口佳栄,殿城友紀,田中孝美,梅田亜矢,下村裕子,和田美也子,川上明希,山本伊都子,住谷ゆかり,西田朋子,安島幹子	72	講義	2	前期	必修
74	1K0200	看護援助論Ⅱ	千葉 京子	144	講義	2	前期	必修
75	1K0301	看護援助論Ⅲ	江本 リナ	72	講義	2	前期	必修
76	1K0302	看護援助論Ⅲ	江本 リナ	72	講義	2	前期	必修
77	1K0400	看護援助論Ⅳ	清田 明美	144	講義	2	前期	必修
78	1K0501	看護援助論Ⅴ	川名 るり	72	講義	2	前期	必修
79	1K0502	看護援助論Ⅴ	川名 るり	72	講義	2	前期	必修
80	1K0600	看護援助論Ⅵ	谷津 裕子	143	講義	2	前期	必修
81	1K0701	看護援助論Ⅶ	鷹野朋実,堀井湖浪	71	講義	2	前期	必修
82	1K0702	看護援助論Ⅶ	堀井湖浪,鷹野朋実	72	講義	2	前期	必修
83	1L0201	精神保健看護学Ⅱ	鷹野朋実,堀井湖浪,武井麻子,小宮敬子	66	講義	3	前期	必修
84	1L0202	精神保健看護学Ⅱ	鷹野朋実,堀井湖浪,武井麻子,小宮敬子	69	講義	3	前期	必修
85	1M0101	発達看護学概論	江本リナ,川名るり,千葉京子	72	講義	2	前期	必修
86	1M0102	発達看護学概論	江本リナ,川名るり,千葉京子	73	講義	2	前期	必修
87	1M0200	発達看護学(成人期の看護)	本庄 恵子	144	講義	2	前期	必修
88	1M0400	発達看護学Ⅰ②	新田 真弓	136	講義	3	前期	必修
89	1M0601	発達看護学Ⅱ②	川名るり,江本リナ	66	講義	3	前期	必修
90	1M0602	発達看護学Ⅱ②	川名るり,江本リナ	69	講義	3	前期	必修
91	1M0800	発達看護学Ⅲ②	千葉京子,坂口千鶴,清田明美,江見香月,比留間絵美	136	講義	3	前期	必修
92	1N0100	プライマリーヘルスケア	福井小紀子,岡本有子	155	講義	2・編3	前期	必修

平成26年度 前期 授業評価実施科目

No.	科目コード	授業科目名	担当教員	履修登録者数	評価用紙種類	学年	学期	必修選択の別
93	1N0200	慢性期ケア	下村裕子,川上明希,丹羽淳子,住谷ゆかり	145	講義	2	前期	必修
94	1N0300	急性期ケア	和田美也子,梅田亜矢,丹羽淳子,山本伊都子	144	講義	2	前期	必修
95	1N0400	緩和・終末期ケア	吉田みづ子,田中孝美	149	講義	3・編3	前期	選択
96	100500	在宅看護学	藤田淳子,岡本有子,福井小紀子	148	講義	3・編3	前期	必修
97	1R0100	国際看護学Ⅰ	岡本 菜穂子	148	講義	3・編3	前期	必修
98	A10700	生涯学習論	山崎 裕二	6	講義	4	前期	選択
99	A11100	障がい論	乙黒千鶴,坂口千鶴,小宮敬子,太田智子,宮城恵里子	151	講義	4・編4	前期	必修
100	B10800	医療と経済	阿曾沼元博,松山幸弘	14	講義	4	前期	選択
101	G10400	赤十字国際活動論	小池 政行	17	講義	4	前期	選択
102	G11000	赤十字災害看護論Ⅱ	小原真理子,亀井 緑	141	講義	4	前期	必修
103	H10300	看護関係法規	安部陽子,鶴田恵子	141	講義	4	前期	必修
104	H10500	看護制度論	鶴田 恵子	6	講義	4	前期	選択
105	O10300	保健福祉行政論	永見 宏行	151	講義	4・編4	前期	必修
106	O10700	地域看護学Ⅱ②	澤井 美奈子	150	講義	4・編4	前期	必修
107	O10800	在宅看護論	藤田淳子,岡本有子,福井小紀子	151	講義	4・編4	前期	必修
108	P10200	看護管理学Ⅱ	安部陽子,鶴田恵子	11	講義	4	前期	選択
109	P10400	看護教育論Ⅱ	西田 朋子	7	講義	4	前期	選択
110	P10500	看護教育方法	西田 朋子	26	講義	4	前期	選択
111	Q10200	応用看護学特論Ⅰ	武井麻子,小宮敬子	5	講義	4	前期	選択
112	Q10300	応用看護学特論Ⅱ	井村真澄,喜多里己	11	講義	4	前期	選択
113	Q10500	応用看護学特論Ⅲ	下村裕子,濱中輝彦	19	講義	4	前期	選択
114	Q11000	応用看護学特論Ⅰ	高田早苗	3	講義	編4	前期	選択
115	U10300	研究方法論Ⅱ（情報科学Ⅱ）	逸見 功	7	講義	4	前期	選択
—	演習全体集計平均							
116	1J0301	看護技術論Ⅱ②	田中孝美,樋口佳栄,殿城友紀,安島幹子,源川奈央子	72	演習	2	前期	必修
117	1J0302	看護技術論Ⅱ②	田中孝美,樋口佳栄,殿城友紀,安島幹子,源川奈央子	72	演習	2	前期	必修
118	1J0401	看護技術論Ⅲ①	樋口佳栄,吉田みづ子,殿城友紀,田中孝美,安島幹子,川原由佳里,源川奈央子	72	演習	1	前期	必修
119	1J0402	看護技術論Ⅲ①	樋口佳栄,吉田みづ子,殿城友紀,田中孝美,安島幹子,川原由佳里,源川奈央子	70	演習	1	前期	必修
120	1J0601	看護技術論Ⅲ③	吉田みづ子,田中孝美,源川奈央子,殿城友紀,川原由佳里,樋口佳栄,安島幹子	72	演習	2	前期	必修
121	1J0602	看護技術論Ⅲ③	吉田みづ子,田中孝美,源川奈央子,殿城友紀,川原由佳里,樋口佳栄,安島幹子	72	演習	2	前期	必修
122	1N0601	健康レベル別看護学演習Ⅱ	千葉京子,清田明美,江見香月,比留間絵美,武井麻子,小宮敬子,鷹野朋実,堀井湖浪,谷津裕子,新田真弓,齋藤英子,佐々木美喜,山本由香,濱田真由美,江本リナ,川名るり,太田智子,吉田玲子,小原真理子,亀井 緑,安島幹子	67	演習	3	前期	必修
123	1N0602	健康レベル別看護学演習Ⅱ	千葉京子,清田明美,江見香月,比留間絵美,武井麻子,小宮敬子,鷹野朋実,堀井湖浪,谷津裕子,新田真弓,齋藤英子,佐々木美喜,山本由香,濱田真由美,江本リナ,川名るり,太田智子,吉田玲子,小原真理子,亀井 緑,安島幹子	69	演習	3	前期	必修
124	1R0600	災害看護活動論Ⅰ	小原真理子,亀井 緑,安島幹子	35	演習	2	前期	選択
125	1R0800	災害看護活動論Ⅲ	小原真理子,亀井 緑,安島幹子	9	演習	3	前期	選択
126	1T0101	研究方法論Ⅰ	谷津裕子,遠藤公久,坂口千鶴,山崎裕二,岡本菜穂子,齋藤英子,新田真弓,藤田淳子,堀井湖浪	66	演習	3	前期	必修
127	1T0102	研究方法論Ⅰ	谷津裕子,遠藤公久,坂口千鶴,山崎裕二,岡本菜穂子,齋藤英子,新田真弓,藤田淳子,堀井湖浪	80	演習	3・編3	前期	必修

(授業コード) ()	(担当教員名)	(科目名)
----------------	---------	-------

授 業 に 関 す る 調 査

この評価票は、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に活かされます。記入にあたっては、授業全体を視野に入れた上で、責任ある評価が求められています。あなたの真摯なご協力をお願いします。
なお、この評価票の記載内容や提出の有無があなたの成績に影響することは一切ありません。

以下のそれぞれの項目について、右のような5段階評価に従って、最も適切な番号に○を付けてください。この授業に該当しない場合、あるいは不明の場合には、空欄のままにしてください。

全くそうは思わない
 そうは思わない
 どちらともいえない
 そう思う
 強くそう思う

①授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	5	4	3	2	1
②授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	5	4	3	2	1
③教員の話し方（声量、スピード、マイクの使い方など）は適切だった。	5	4	3	2	1
④授業の内容はわかりやすかった。	5	4	3	2	1
⑤授業の内容は興味のあるものだった。	5	4	3	2	1
⑥この授業は自分にとって価値があった。	5	4	3	2	1
⑦授業は、正規の時間に始まり、終わった。	5	4	3	2	1
⑧シラバス（または講義予定表）に沿った授業が行われていた。	5	4	3	2	1
⑨授業の進行速度は適切だった。	5	4	3	2	1
⑩教員の熱意が伝わってきた。	5	4	3	2	1
⑪教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	5	4	3	2	1
⑫教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	5	4	3	2	1
⑬私の授業への出席率は〔5〕は9割以上、〔4〕は8～7割程度、〔3〕は6～5割程度、〔2〕は4割程度、〔1〕3割以下）だった。	5	4	3	2	1
⑭私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	5	4	3	2	1
⑮私は授業の学びやすい環境作り（私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等）に協力した。	5	4	3	2	1

自由記入欄にもご記入下さい

①この授業でよかったこと。

②この授業で改善してほしいこと。

③その他の意見・感想（今回の授業評価に関する意見・感想もあわせてお願いします）。

（授業コード） （ ）	（担当教員名）	（科目名）
-------------------------------------	---------	-------

授 業（演習） に 関 す る 調 査

この評価票は、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に活かされます。記入にあたっては、授業全体を視野に入れた上で、責任ある評価が求められています。あなたの真摯なご協力をお願いします。なお、この評価票の記載内容や提出の有無があなたの成績に影響することは一切ありません。

以下のそれぞれの項目について、右のような５段階評価に従って、最も適切な番号に○を付けてください。この授業に該当しない場合、あるいは不明の場合には、空欄のままにしてください。

全くそうは思わない
 そうは思わない
 どちらともいえない
 そう思う
 強くそう思う

①演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	5	4	3	2	1
②演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	5	4	3	2	1
③教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	5	4	3	2	1
④技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	5	4	3	2	1
⑤演習を通して、より興味をもち、深く学びたいとすることができた。	5	4	3	2	1
⑥実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	5	4	3	2	1
⑦学生への指示・安全への配慮は適切だった。	5	4	3	2	1
⑧演習時の（グループ等の）人数は適切だった。	5	4	3	2	1
⑨演習の時間配分は適切だった。	5	4	3	2	1
⑩教員の熱意が伝わってきた。	5	4	3	2	1
⑪教員（ティーチングアシスタント含む）は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	5	4	3	2	1
⑫教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	5	4	3	2	1
⑬私は事前学習をして演習に臨んだ。	5	4	3	2	1
⑭私は授業後に演習内容を復習した（オフィスアワーを含む）。	5	4	3	2	1
⑮私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	5	4	3	2	1

自由記入欄にもご記入下さい

①この授業でよかったこと。

②この授業で改善してほしいこと。

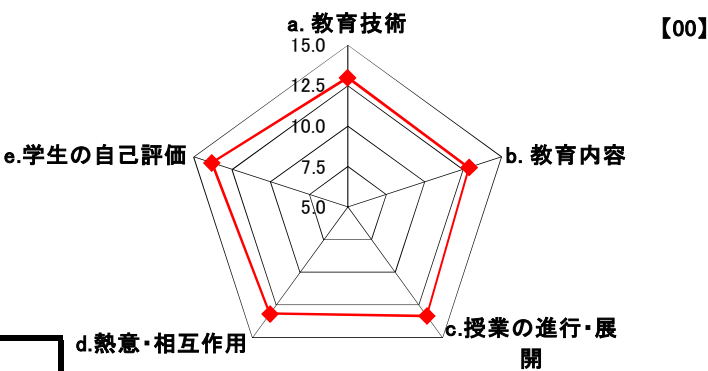
③その他の意見・感想（今回の授業評価に関する意見・感想もあわせてお願いします）。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	7,080	回収数	5,836	回収率	82.4%
------	-------	-----	-------	-----	-------

科目：
担当者：

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	5,810	13.00	2.46
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	5,819	12.89	2.66
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	5,820	13.33	2.19
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	5,794	13.17	2.41
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	5,803	13.84	1.63



N=5836

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3153 54.0	1974 33.8	531 9.1	110 1.9	58 1.0	10 0.2	4.37	0.83
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3020 51.7	1851 31.7	660 11.3	200 3.4	91 1.6	14 0.2	4.28	0.93
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3177 54.4	1781 30.5	537 9.2	221 3.8	107 1.8	13 0.2	4.31	0.94

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	3055 52.3	1756 30.1	625 10.7	248 4.2	144 2.5	8 0.1	4.25	0.99
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	3086 52.9	1760 30.2	667 11.4	185 3.2	131 2.2	7 0.1	4.28	0.96
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	3230 55.3	1731 29.7	616 10.6	146 2.5	105 1.8	8 0.1	4.34	0.91

c. 授業の進行・展開

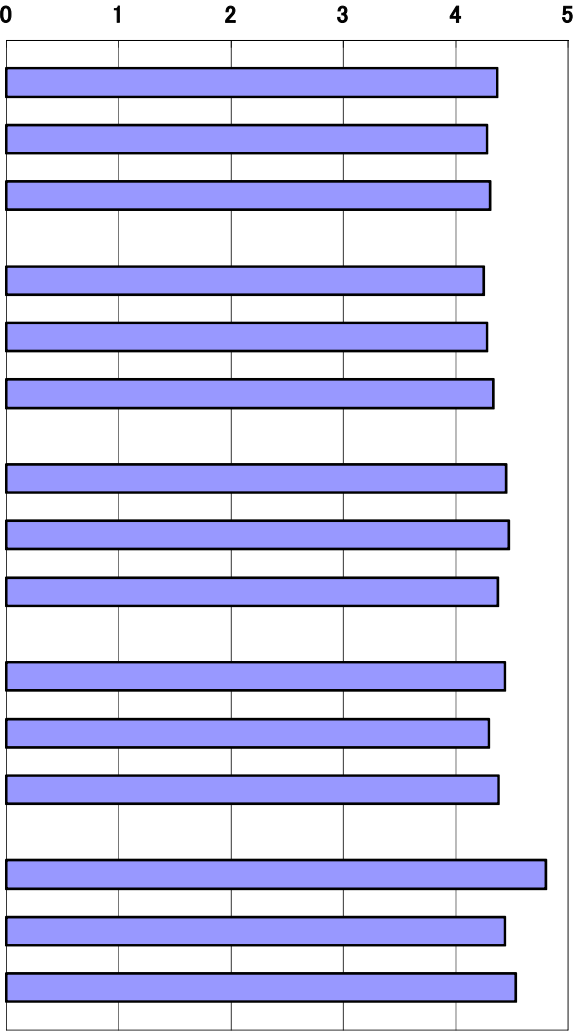
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	3599 61.7	1607 27.5	396 6.8	154 2.6	73 1.3	7 0.1	4.45	0.85
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	3493 59.9	1778 30.5	462 7.9	60 1.0	33 0.6	10 0.2	4.47	0.76
⑨	授業の進行速度は適切だった。	3314 56.8	1759 30.1	528 9.0	145 2.5	83 1.4	7 0.1	4.38	0.87

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	3504 60.0	1653 28.3	501 8.6	98 1.7	70 1.2	10 0.2	4.44	0.83
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	3185 54.6	1652 28.3	690 11.8	193 3.3	104 1.8	12 0.2	4.30	0.95
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	3387 58.0	1643 28.2	609 10.4	99 1.7	68 1.2	30 0.5	4.39	0.89

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	4931 84.5	756 13.0	111 1.9	11 0.2	9 0.2	18 0.3	4.81	0.54
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	3494 59.9	1634 28.0	566 9.7	82 1.4	36 0.6	24 0.4	4.44	0.83
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	3795 65.0	1541 26.4	412 7.1	47 0.8	15 0.3	26 0.4	4.54	0.75

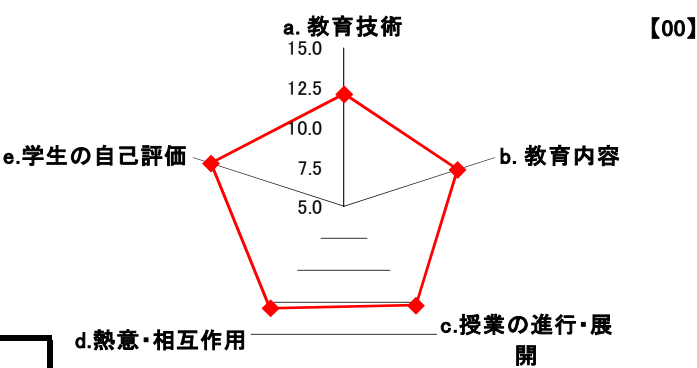


授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	142	回収数	47	回収率	33.1%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:赤十字概論
担当者:
小池 政行

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	12.11	2.20
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	12.53	2.19
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	12.70	1.95
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	46	12.93	2.46
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	13.83	1.21



N=137

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	15 31.9	23 48.9	7 14.9	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.09	0.79
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	18 38.3	17 36.2	7 14.9	5 10.6	0 0.0	0 0.0	4.02	0.98
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	15 31.9	20 42.6	9 19.1	3 6.4	0 0.0	0 0.0	4.00	0.88

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	15 31.9	18 38.3	10 21.3	3 6.4	1 2.1	0 0.0	3.91	0.99
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	22 46.8	17 36.2	7 14.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.28	0.79
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	23 48.9	17 36.2	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.34	0.72

c.授業の進行・展開

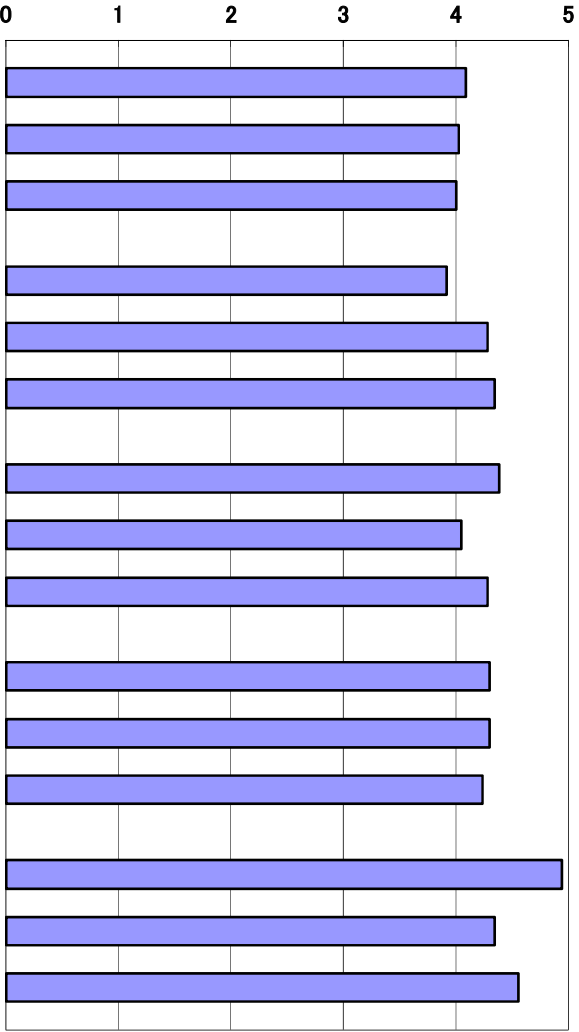
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	24 51.1	17 36.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.70
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	16 34.0	20 42.6	8 17.0	3 6.4	0 0.0	0 0.0	4.04	0.87
⑨	授業の進行速度は適切だった。	21 44.7	18 38.3	8 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.28	0.74

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	25 53.2	15 31.9	4 8.5	2 4.3	1 2.1	0 0.0	4.30	0.94
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	24 51.1	16 34.0	4 8.5	3 6.4	0 0.0	0 0.0	4.30	0.87
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	25 53.2	14 29.8	5 10.6	1 2.1	1 2.1	1 2.1	4.23	1.10

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	45 95.7	1 2.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.32
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	22 46.8	19 40.4	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.34	0.69
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	29 61.7	15 31.9	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.61



科目コード	1A0100	科目名	赤十字概論	担当教員名	小池政行
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

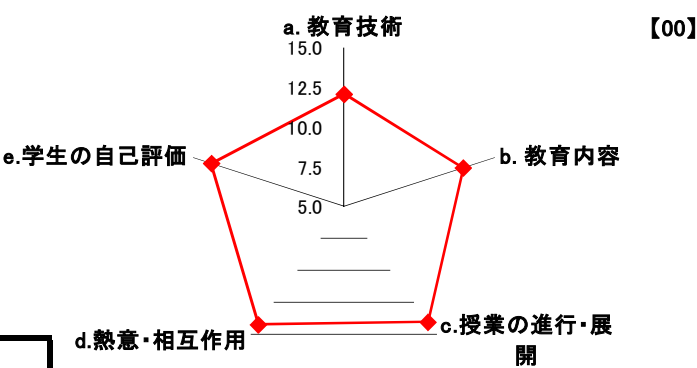
「赤十字概論」は本来、本学の教育基本理念に謳われている「人道」を概念化、そして実際の活動の中で、基本原則として教える科目として位置づけられているのに拘わらず、平成26年度にかけてこま数の削減、単位も1単位の必修科目となった。そのため、本来は200以上に上る四年生看護学科の中で、本学の特色、言い換えればソフト・パワーとして学生に魅力あるものとならなければいけないはずが、学生の中には、「消化不良」感がある。それは、「もっと多くの赤十字と同じようなNGO活動を行っているところの話を聴きたかった」等のコメントにもあらわれている。したがって、今後はこま数の増加、他の機関の代表者の講話などを余裕を持って、入れ込むことができるようなこま数、時間割り配置の改善が必要と思慮される。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	11	回収数	10	回収率	90.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:赤十字概論
担当者:
東浦 洋

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	10	12.10	1.64
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	10	12.90	1.51
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	10	14.00	1.10
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	10	14.20	1.25
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	10	13.80	1.40



N=10

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	1 10.0	6 60.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.80	0.60
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3 30.0	6 60.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.20	0.60
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3 30.0	5 50.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.10	0.70

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	3 30.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.46
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	4 40.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.64
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	4 40.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.64

c. 授業の進行・展開

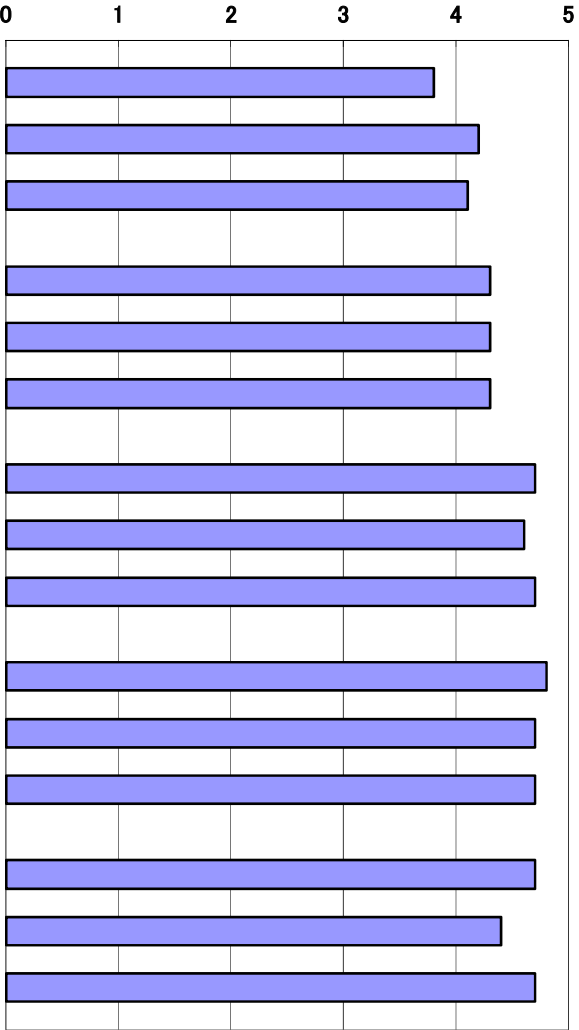
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	6 60.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
⑨	授業の進行速度は適切だった。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	8 80.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	6 60.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.80
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46



科目コード	1A0103	科目名	赤十字概論	担当教員名	東浦 洋
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

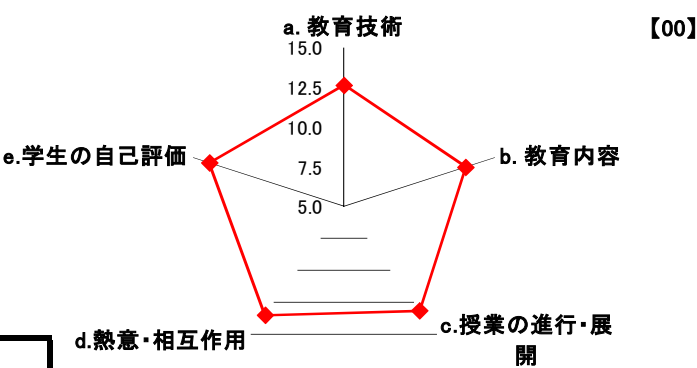
編入の皆さんと赤十字にかかわる種々の事項について、私の席中の現場での経験を交えながら、少しでもアクティブ・ラーニングにちかづけたいと取り組みました。皆さんの希望も入れて、日赤本社見学も実施しました。改善してほしいこととして、パワーポイントのレジュメがほしいとの記載がありました。このことについては、授業のオリエンテーションの際に、パワーポイントを使うが、あくまでも話を整理するためのものなので、そのコピーなどは配布しないが良いかと確認をしたことを思い出していただきたいと思いました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	18	回収数	15	回収率	83.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:赤十字国際活動論
担当者:
小池 政行

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	15	12.67	3.03
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	15	13.07	2.57
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	15	13.13	2.31
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	15	13.47	1.96
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	15	13.93	1.34



N=15

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	9 60.0	4 26.7	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	4.33	1.01
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	8 53.3	4 26.7	1 6.7	2 13.3	0 0.0	0 0.0	4.20	1.05
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	7 46.7	5 33.3	1 6.7	2 13.3	0 0.0	0 0.0	4.13	1.02

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	6 40.0	6 40.0	2 13.3	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.13	0.88
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	10 66.7	3 20.0	1 6.7	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.47	0.88
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	10 66.7	3 20.0	1 6.7	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.47	0.88

c.授業の進行・展開

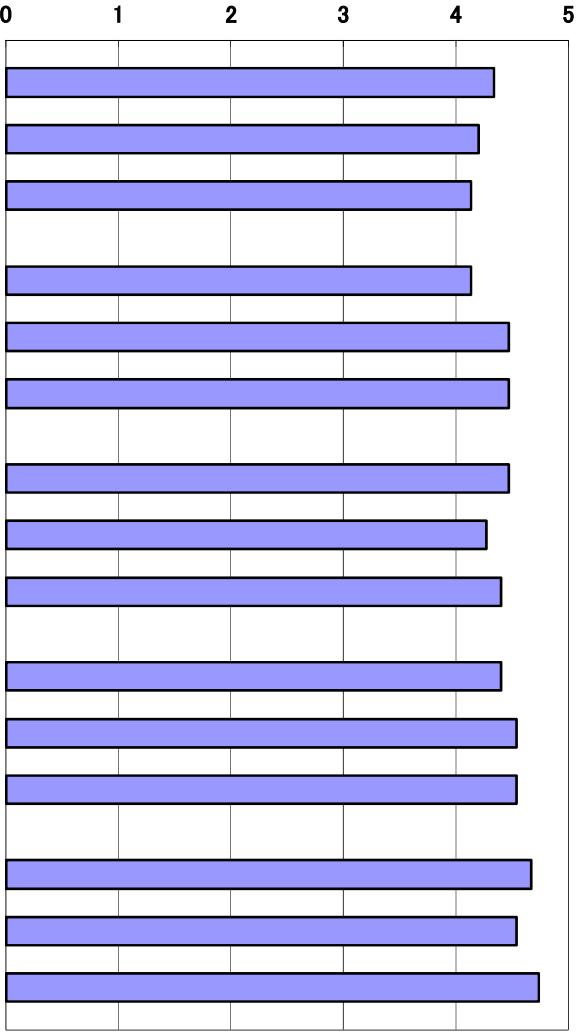
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	9 60.0	5 33.3	0 0.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.47	0.81
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	7 46.7	6 40.0	1 6.7	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.27	0.85
⑨	授業の進行速度は適切だった。	8 53.3	6 40.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.40	0.80

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	9 60.0	4 26.7	1 6.7	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.40	0.88
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	10 66.7	4 26.7	0 0.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4.53	0.81
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	9 60.0	5 33.3	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.62

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	11 73.3	3 20.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.60
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	9 60.0	5 33.3	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.62
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	11 73.3	4 26.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.44



科目コード	1A0200 G10400	科目名	赤十字国際活動論	担当教員名	小池政行
-------	------------------	-----	----------	-------	------

<教員からのコメント>

本、「赤十字国際活動論」は2008年度より開始され、「赤十字」の枠にとどまることなく、実際の赤十字の国際活動にとって密接な協力機関である、国連の専門機関である「国連高等難民弁務官事務所」UNHCR、「世界保健機関」WHO等の活動を学び、実際にこれら機関のおかれているスイス、ジュネーブを訪れ、UNHCR、WHOの本部を訪れ質疑応答を交わし、学生自らが皮膚感覚で捉えられる「赤十字国際活動」を得ることに主眼をおいたものであった。

右に加え、赤十字発祥の国であるスイスの多様性(フランス語20%、ドイツ語70%、その他イタリア語、ロマニユツシュ語10%)及びスイス大学教育における看護の総合性を学ぶためにも、スイス、ドイツ語圏であり、国の首都であるベルンを訪れ、総合大学であるベルン連邦大学の看護学科において、継続教育としての院における看護教育に触れつつ、学部教育における看護教育の模擬授業を座学である「赤十字国際活動論」と、演習である「赤十字国際活動論演習」と密接な連携を保ちつつ、赤十字の国際活動の有機的な広がりを体験できるものであった。

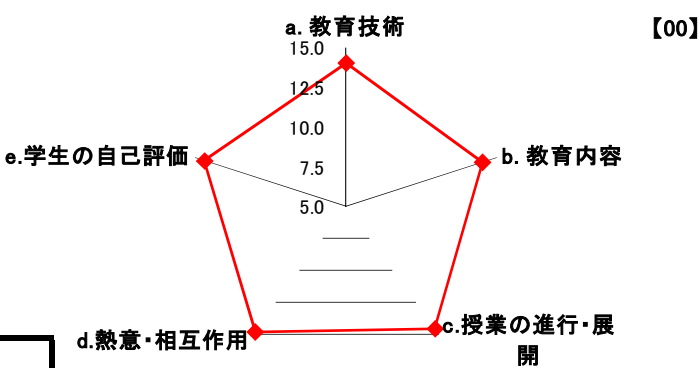
残念ながら、本年度は「演習」担当教員が異なったため、これまで2008年、2010年、2012年と常に40-50名弱演習に参加していた学生数が、14名と激減し、かつ、演習実施を確保するため院生3名、通常2名の教員も3名参加と、極めて従来とは異なる形態となった。このため、多くの「赤十字国際活動論」受講学生より、「演習」は毎年実施として、訪問場所も、過去の例と同じとしてしてほしい等々のクレームを受ける結果となった。講義をして先生が実施しない演習は、実施しないほうがよく、その参加費用も例年の1.5倍以上では、今年「赤十字国際活動論」を受講したものにとり、不公平であるとの指摘もあったことを、「赤十字国際活動論」、「赤十字国際活動論演習」をこれまでともに担当してきたものとして、重く受け止めたい。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	18	回収数	17	回収率	94.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:哲学と倫理
担当者:
榊原 哲也

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	17	14.06	1.26
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	17	14.06	1.21
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	17	14.53	0.85
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	17	14.76	0.73
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	17	14.41	1.03



N=17

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	13 76.5	4 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.76	0.42
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	10 58.8	6 35.3	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.61
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	13 76.5	4 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.76	0.42

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	10 58.8	7 41.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.59	0.49
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	11 64.7	6 35.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.48
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	14 82.4	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.38

c. 授業の進行・展開

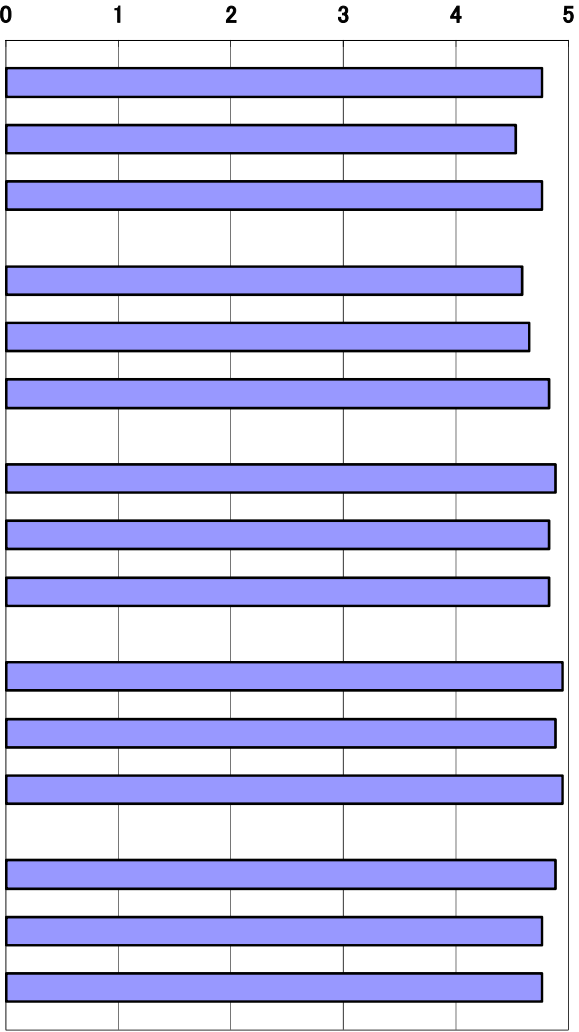
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	15 88.2	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	14 82.4	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.38
⑨	授業の進行速度は適切だった。	14 82.4	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.38

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	15 88.2	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	16 94.1	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	15 88.2	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	13 76.5	4 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.76	0.42
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	14 82.4	2 11.8	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.76	0.55



科目コード	1B0100 A10100	科目名	哲学と倫理	担当教員名	榊原哲也
-------	------------------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

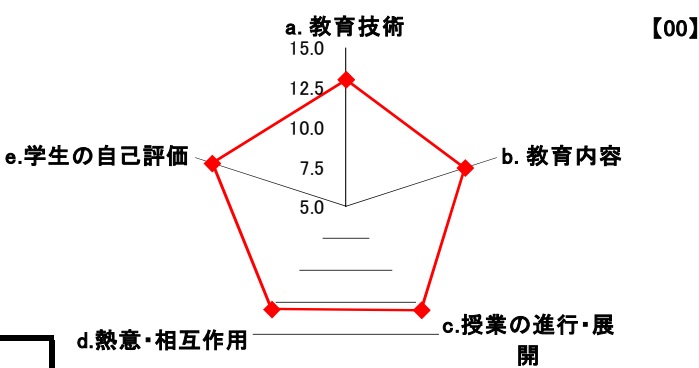
皆さん、コメントをありがとうございました。私にとっても、とても楽しく、また学びの多い授業でした。
皆さんからのコメントを励みとして、また参考にして、これからもより良い授業を心掛けていきたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	128	回収数	47	回収率	36.7%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:心理学 I
担当者:
遠藤 公久

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.00	1.80
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	12.89	1.88
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	13.09	1.83
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	46	13.00	2.01
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	13.87	1.36



N=78

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	20 42.6	22 46.8	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.32	0.66
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	19 40.4	24 51.1	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.30	0.68
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	21 44.7	24 51.1	1 2.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.38	0.64

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	19 40.4	22 46.8	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.28	0.67
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	19 40.4	24 51.1	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.32	0.62
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	20 42.6	21 44.7	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.68

c.授業の進行・展開

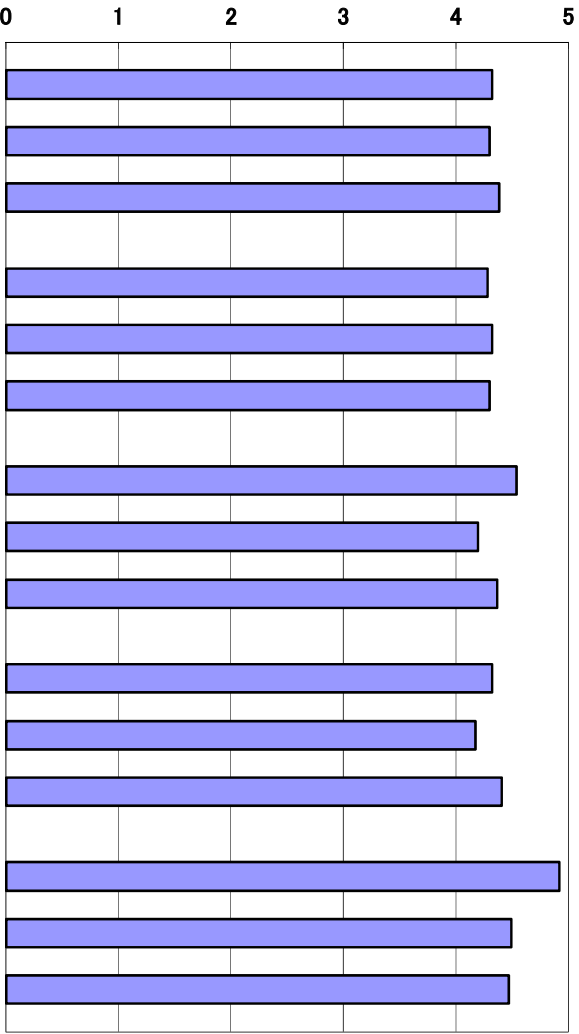
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	27 57.4	18 38.3	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.58
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	21 44.7	16 34.0	8 17.0	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.19	0.87
⑨	授業の進行速度は適切だった。	23 48.9	19 40.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.36	0.73

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	21 44.7	21 44.7	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.32	0.72
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	21 44.7	17 36.2	7 14.9	1 2.1	0 0.0	1 2.1	4.17	1.00
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	24 51.1	18 38.3	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.67

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	28 59.6	14 29.8	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.49	0.68
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	27 57.4	15 31.9	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.68



科目コード	1B0300	科目名	心理学 I	担当教員名	遠藤公久
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

授業が楽しかったとか、内容に興味をもてたというように、概ね授業評価は好評でしたが、以下の点で次回は改善しようと思います。

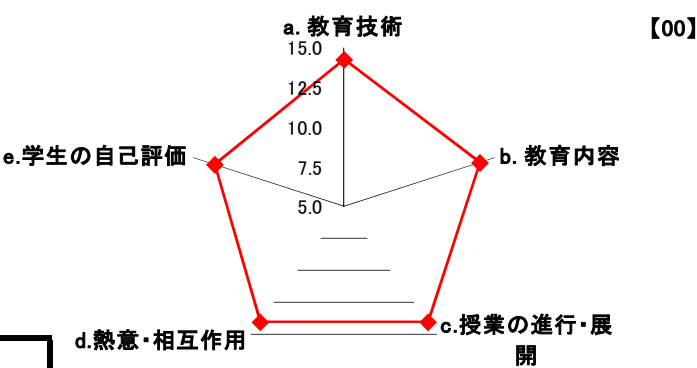
1. 配布資料とスライドを完全一致させる(1部だけ不一致なところがありました。)。 2. 課題のタイミングを早める(ときに少し遅れたときがありましたので、早めるように努力します。)。3. 冊子になっている小テストの問題と授業内容を一致させる(1部授業内容と小テストの内容が一致していませんでした。復習の小テストですが、改訂版を作成しようと思います。)。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	8	回収数	7	回収率	87.5%
------	---	-----	---	-----	-------

科目:教育学概論
担当者:
山崎 裕二

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	7	14.29	1.16
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	7	14.00	1.60
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	7	14.00	1.60
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	7	14.00	1.60
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	7	13.57	2.13



N=7

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 71.4	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.73

c. 授業の進行・展開

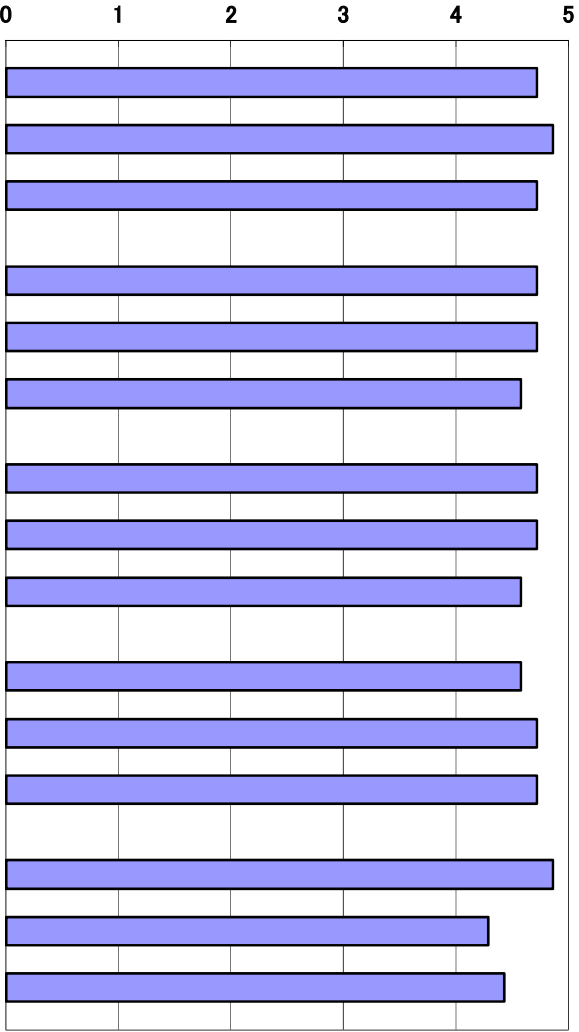
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑨	授業の進行速度は適切だった。	5 71.4	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.73

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	5 71.4	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.73
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4 57.1	2 28.6	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	4.29	1.03
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	5 71.4	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	4.43	1.05



科目コード	1B0501	科目名	教育学概論	担当教員名	山崎裕二
-------	--------	-----	-------	-------	------

＜教員からのコメント＞

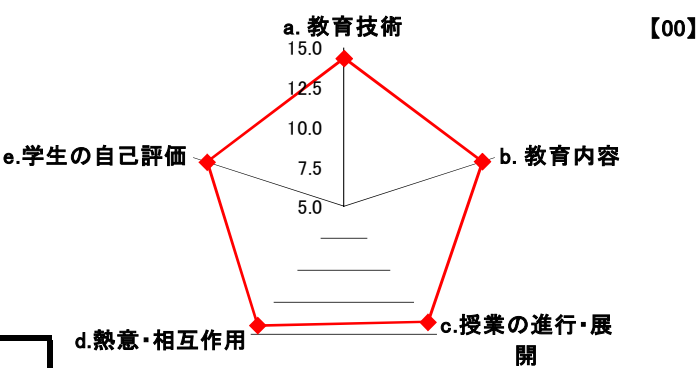
- ・少人数授業の利点を生かし、学生の意見などを取り入れながら授業を進めたことが評価されて良かったです。
- ・授業で見せた映像が古いとの意見がありました。デジタル放送になってからの映像がプロジェクターで映せなくなりました。何とか別の方法がないか検討します。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	13	回収数	11	回収率	84.6%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:教育学概論
担当者:
山崎 裕二

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	11	14.36	1.15
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	11	14.18	1.19
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	11	14.00	1.71
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	11	14.27	1.21
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	11	14.09	1.16



N=11

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	8 72.7	2 18.2	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.64
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45

c. 授業の進行・展開

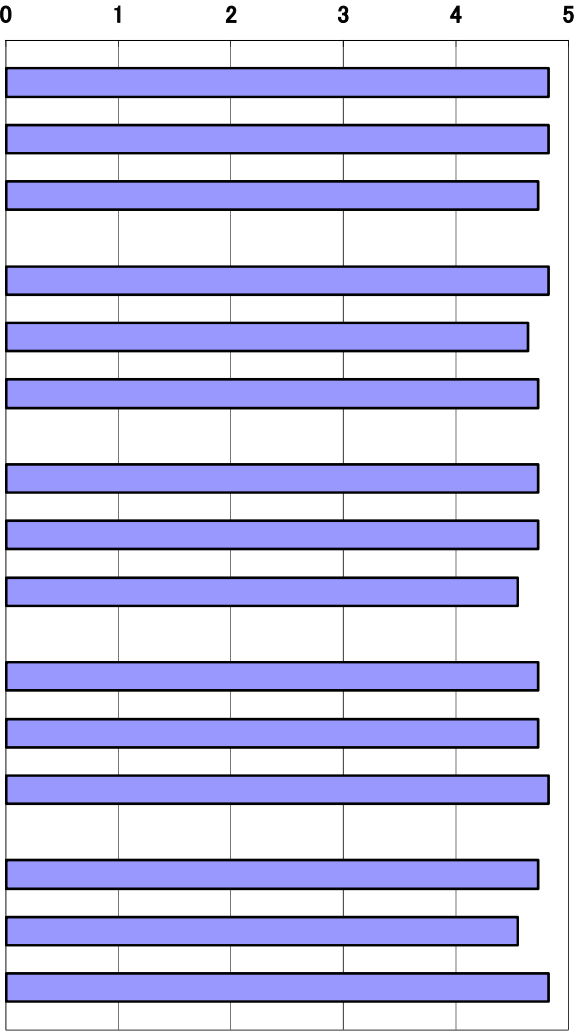
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑨	授業の進行速度は適切だった。	8 72.7	2 18.2	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	4.55	0.89

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	8 72.7	2 18.2	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	4.55	0.89
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39



科目コード	1B0502	科目名	教育学概論	担当教員名	山崎裕二
-------	--------	-----	-------	-------	------

＜教員からのコメント＞

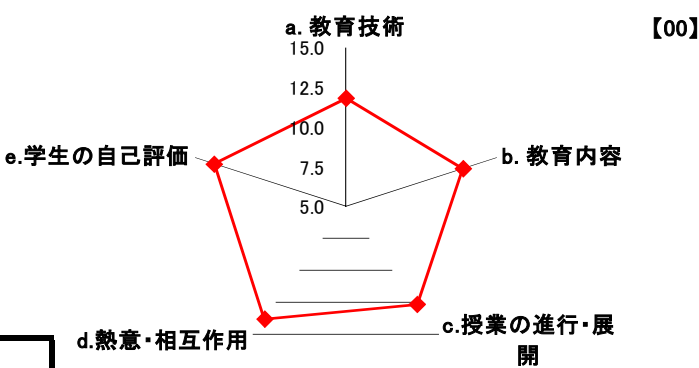
- ・わかりやすかった、看護と関連付けて理解できた、授業に参加できたなどの評価があり良かったです。
- ・授業の感想を書く時間をもう少し取ってほしい、討論などあるとよいとの意見がありました。来年度の授業で改善したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	37	回収数	32	回収率	86.5%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:身体運動論Ⅱ(実技)
担当者:
岸田 登美

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	30	11.83	2.49
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	32	12.75	2.99
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	32	12.63	2.68
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	30	13.77	1.75
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	32	13.75	1.68



N=32

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	9	6	14	0	1	2	3.50	1.32
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	8	4	17	0	1	2	3.38	1.29
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	20	9	2	0	1	0	4.47	0.87

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	20	7	4	0	1	0	4.41	0.93
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	16	8	4	2	2	0	4.06	1.20
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	18	10	1	1	2	0	4.28	1.10

c.授業の進行・展開

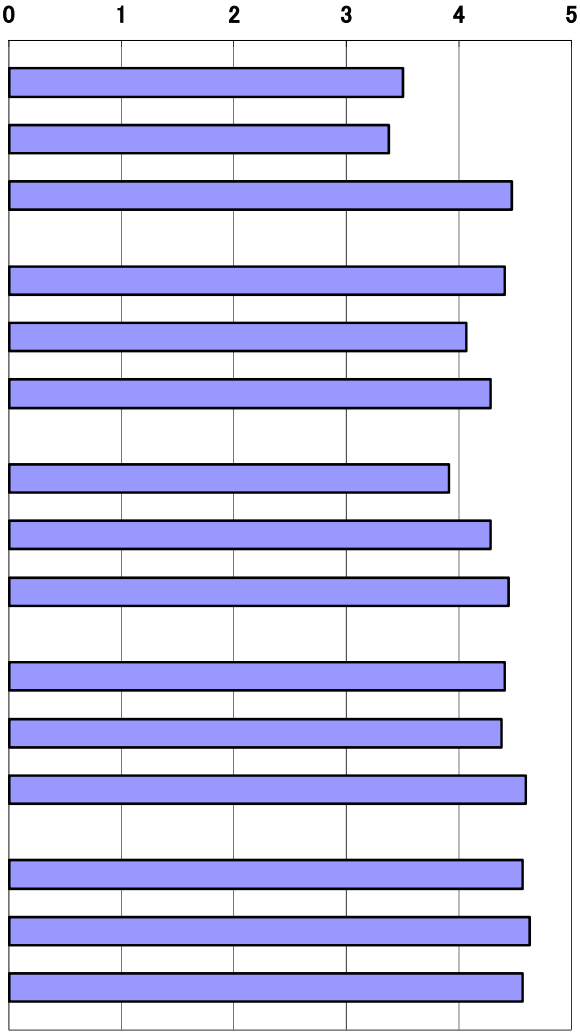
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	16	6	3	5	2	0	3.91	1.33
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	18	8	4	1	1	0	4.28	1.01
⑨	授業の進行速度は適切だった。	19	8	5	0	0	0	4.44	0.75

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	22	7	1	0	0	2	4.41	1.25
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	18	10	3	0	1	0	4.38	0.89
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	22	7	3	0	0	0	4.59	0.65

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	20	10	2	0	0	0	4.56	0.61
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	22	8	2	0	0	0	4.63	0.60
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	23	4	5	0	0	0	4.56	0.75



科目コード	1B0801	科目名	身体運動論Ⅱ（実技）	担当教員名	岸田登美
-------	--------	-----	------------	-------	------

＜教員からのコメント＞

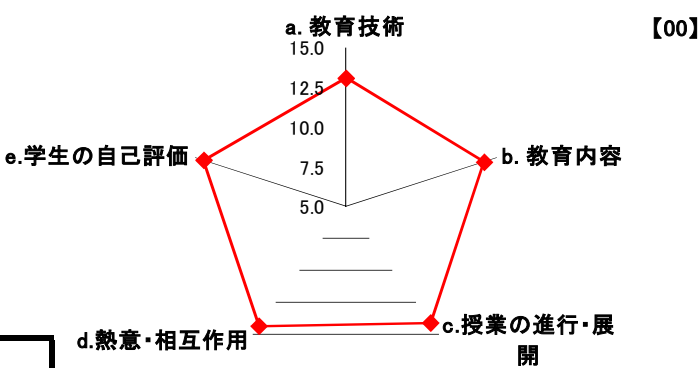
授業評価及び感想をありがとうございました。みなさんから頂いた感想や意見を真摯に受け止め来年度に活かしていきたいと思います。この講義の大きな目的であるコミュニケーションの大切さを理解してくれたと知りほっとしています。もっとからだを動かしたかったという意見もありましたが、最初の講義でも説明しましたが、これは高校までの「体育」ではないので、運動の苦手な人でも楽しむことのできるもの、自分のからだに向き合うもの、将来人を楽しませることのできるものの習得をめざしました。これからはからだを動かすことが少なくなってしまう学生も多いと思いますが、少しずつでもいいのでからだを動かすことを心がけて下さい。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	31	回収数	27	回収率	87.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:身体運動論Ⅱ(実技)
担当者:
緒形 ひとみ

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	26	13.12	2.12
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	27	14.15	1.74
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	27	14.07	1.86
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	27	14.33	1.44
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	27	14.44	1.69



N=27

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	17 63.0	5 18.5	5 18.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.79
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	12 44.4	5 18.5	9 33.3	0 0.0	0 0.0	1 3.7	3.96	1.17
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	19 70.4	5 18.5	3 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.59	0.68

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	21 77.8	4 14.8	2 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.60
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	22 81.5	3 11.1	2 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.58
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	21 77.8	4 14.8	2 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.60

c.授業の進行・展開

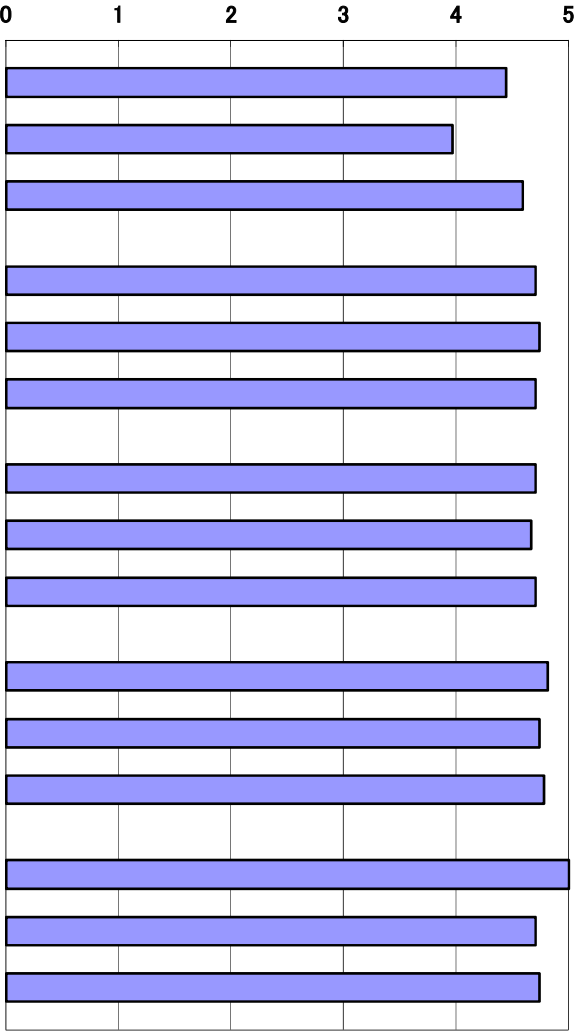
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	21 77.8	4 14.8	2 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.60
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	21 77.8	3 11.1	3 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.67
⑨	授業の進行速度は適切だった。	22 81.5	2 7.4	3 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.66

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	23 85.2	3 11.1	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.47
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	21 77.8	5 18.5	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.52
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	22 81.5	4 14.8	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.50

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	27 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	23 85.2	2 7.4	1 3.7	0 0.0	1 3.7	0 0.0	4.70	0.85
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	24 88.9	1 3.7	1 3.7	0 0.0	1 3.7	0 0.0	4.74	0.84



科目コード	1B0802	科目名	身体運動論Ⅱ（実技）	担当教員名	緒形ひとみ
-------	--------	-----	------------	-------	-------

<教員からのコメント>

基本的に広尾ホールでの活動がメインであったため、黒板やスライドを使用することがなく配布プリントで行ったため、教育技術②の平均点が低いと思われる。一度配布したプリントを次回の授業で使用したこともあったが、多くの学生が忘れてきていたので、そのときに対応できるだけの準備を次回からはしようと思う。

「体育」の授業としてしっかりとしたスポーツをやりたいとの意見も挙がっているが、この授業の目的を最初のオリエンテーションの際に話しているので、多くの学生が趣旨を理解して授業に参加してくれたように思う。

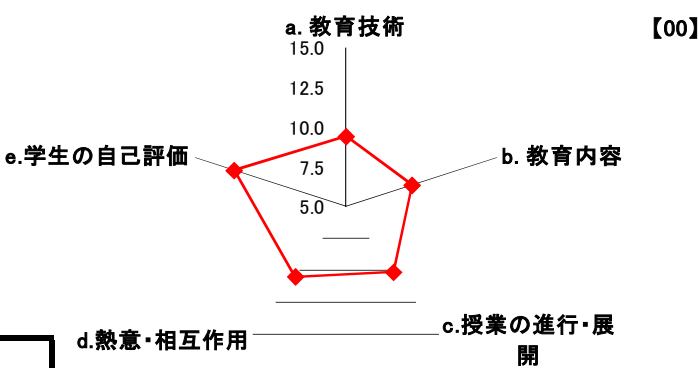
多様なニーズの学生が集まって授業を行うため、本格的なスポーツを行いたい人は、サークル活動に参加して取り組んでもらえればと思う。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	37	回収数	32	回収率	86.5%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:身体運動論Ⅱ(実技)
担当者:
岸田 登美

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	32	9.44	3.28
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	31	9.39	3.07
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	32	10.09	2.80
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	32	10.47	3.36
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	32	12.44	2.71



N=32

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	4 12.5	7 21.9	13 40.6	3 9.4	5 15.6	0 0.0	3.06	1.20
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	2 6.3	9 28.1	12 37.5	2 6.3	7 21.9	0 0.0	2.91	1.21
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	6 18.8	12 37.5	9 28.1	1 3.1	4 12.5	0 0.0	3.47	1.20

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	2 6.3	13 40.6	13 40.6	1 3.1	3 9.4	0 0.0	3.31	0.98
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	2 6.3	12 37.5	10 31.3	4 12.5	4 12.5	0 0.0	3.13	1.11
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	2 6.3	9 28.1	12 37.5	3 9.4	5 15.6	1 3.1	2.91	1.23

c.授業の進行・展開

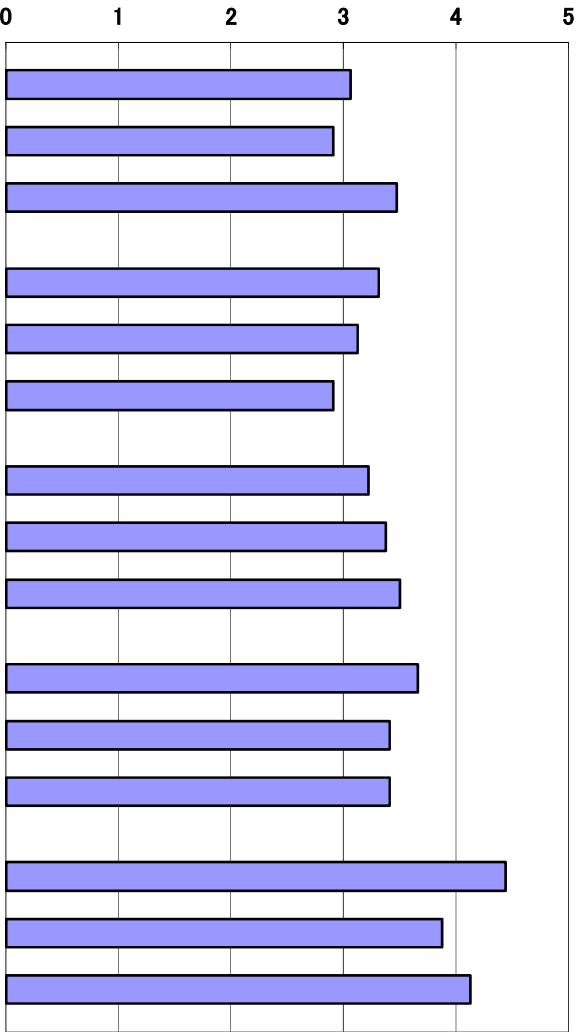
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	4 12.5	8 25.0	13 40.6	5 15.6	2 6.3	0 0.0	3.22	1.05
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	4 12.5	10 31.3	15 46.9	0 0.0	3 9.4	0 0.0	3.38	1.02
⑨	授業の進行速度は適切だった。	5 15.6	11 34.4	13 40.6	1 3.1	2 6.3	0 0.0	3.50	1.00

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	7 21.9	12 37.5	10 31.3	1 3.1	2 6.3	0 0.0	3.66	1.05
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	6 18.8	10 31.3	10 31.3	3 9.4	3 9.4	0 0.0	3.41	1.17
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	8 25.0	8 25.0	9 28.1	3 9.4	4 12.5	0 0.0	3.41	1.30

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	21 65.6	6 18.8	4 12.5	0 0.0	1 3.1	0 0.0	4.44	0.93
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	12 37.5	10 31.3	6 18.8	2 6.3	2 6.3	0 0.0	3.88	1.17
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	15 46.9	9 28.1	6 18.8	1 3.1	1 3.1	0 0.0	4.13	1.02



科目コード	1B0803	科目名	身体運動論Ⅱ（実技）	担当教員名	岸田登美
-------	--------	-----	------------	-------	------

<教員からのコメント>

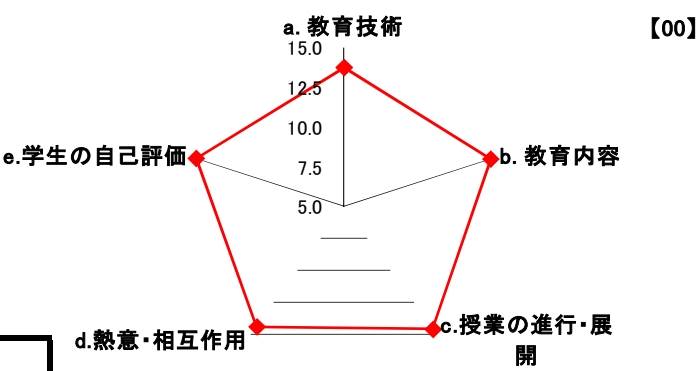
授業評価及び感想をありがとうございました。みなさんから頂いた感想や意見を真摯に受け止め来年度に活かしていきたいと思います。この講義の大きな目的であるコミュニケーションの大切さを理解してくれたと知りほっとしています。もっとからだを動かしたかったという意見もありましたが、最初の講義でも説明しましたが、これは高校までの「体育」ではないので、運動の苦手な人でも楽しむことのできるもの、自分のからだに向き合うもの、将来人を楽しませることのできるものの習得をめざしました。これからはからだを動かすことが少なくなってしまう学生も多いと思いますが、少しずつでもいいのでからだを動かすことを心がけて下さい。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	30	回収数	26	回収率	86.7%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:身体運動論Ⅱ(実技)
担当者:
緒形 ひとみ

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	26	13.77	1.53
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	26	14.73	0.81
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	26	14.54	0.93
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	26	14.38	1.27
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	26	14.81	0.48



N=26

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	15 57.7	8 30.8	3 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.46	0.69
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	14 53.8	8 30.8	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.74
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	23 88.5	3 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27

c. 授業の進行・展開

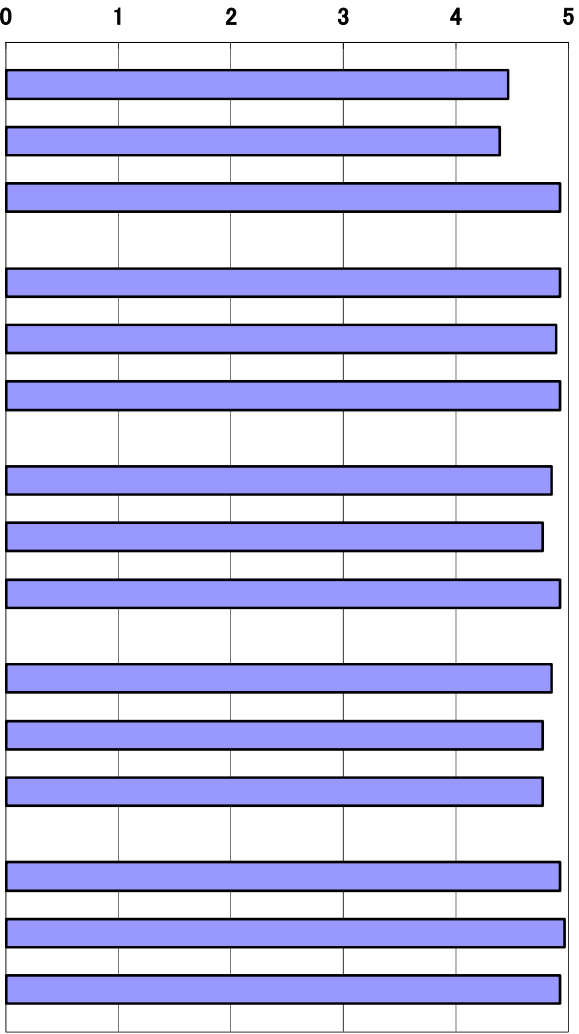
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	22 84.6	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	21 80.8	4 15.4	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.50
⑨	授業の進行速度は適切だった。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	22 84.6	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	21 80.8	4 15.4	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.50
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	21 80.8	4 15.4	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.50

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	25 96.2	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27



科目コード	1B0804	科目名	身体運動論Ⅱ（実技）	担当教員名	緒形ひとみ
-------	--------	-----	------------	-------	-------

＜教員からのコメント＞

基本的に広尾ホールでの活動がメインであったため、黒板やスライドを使用することがなく配布プリントで行ったため、教育技術②の平均点が低いと思われる。一度配布したプリントを次回の授業で使用したこともあったが、多くの学生が忘れてきていたので、そのときに対応できるだけの準備を次回からはしようと思う。

1年次の前期授業である体育の授業の役割として、意図的にさまざまな人と触れ合う機会を設けた。この授業をきっかけに、今後の学生生活での友達の輪を広げてもらえればと思う。

「体育」の授業としてしっかりとしたスポーツをやりたいとの意見も挙がっているが、この授業の目的を最初のオリエンテーションの際に話しているので、多くの学生が趣旨を理解して授業に参加してくれたように思う。

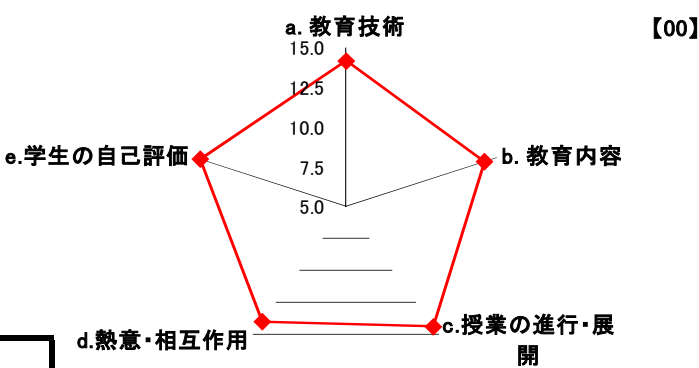
多様なニーズの学生が集まって授業を行うため、本格的なスポーツを行いたい人は、サークル活動に参加して取り組んでももらえればと思う。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	105	回収数	47	回収率	44.8%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:社会学Ⅰ
担当者:
三橋 弘次

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.19	1.63
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.17	1.95
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.36	1.39
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	13.98	1.78
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.68	0.85



N=99

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	38 80.9	6 12.8	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.56
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	37 78.7	8 17.0	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.52
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	38 80.9	5 10.6	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.70	0.68

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	39 83.0	5 10.6	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.74	0.63
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	39 83.0	2 4.3	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.68	0.75
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	40 85.1	3 6.4	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.74	0.67

c. 授業の進行・展開

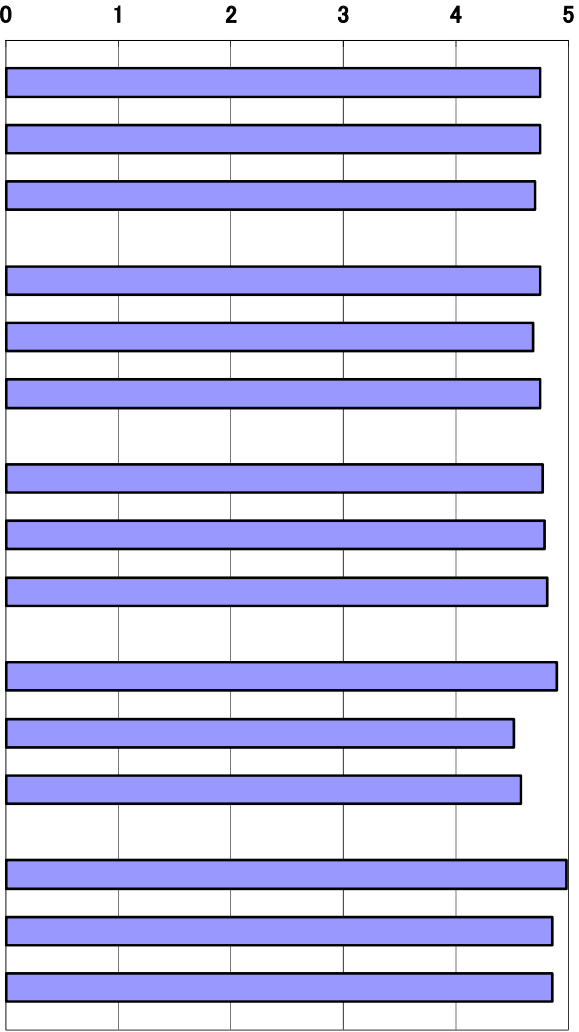
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	38 80.9	8 17.0	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.77	0.55
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46
⑨	授業の進行速度は適切だった。	39 83.0	7 14.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	33 70.2	7 14.9	6 12.8	0 0.0	1 2.1	0 0.0	4.51	0.87
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	34 72.3	8 17.0	4 8.5	0 0.0	1 2.1	0 0.0	4.57	0.82

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41



科目コード	1C0100	科目名	社会学I	担当教員名	三橋弘次
-------	--------	-----	------	-------	------

<教員からのコメント>

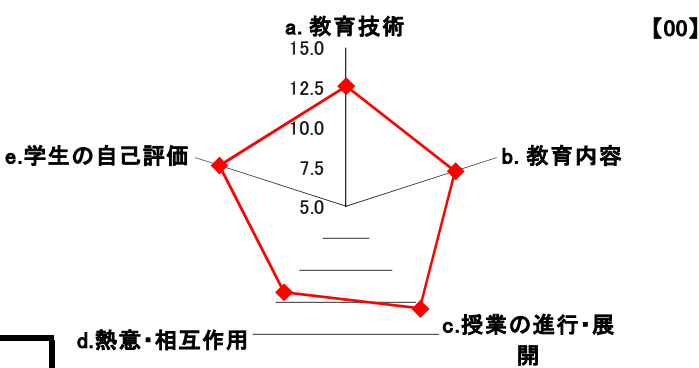
「教育技術」、「教育内容」、「授業の進行・展開」、「教員の熱意」、「学生の自己評価」のいずれも予想以上の高評価であったが、この結果は看護学生の学びに対する真摯な姿勢を反映したものであると考えている。社会学を専門としない看護学生がこれほど真摯に社会学を学ぼうとしている姿勢に応えるべく、担当講師として今後も授業内容の改善に取り組んでいきたい。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	148	回収数	58	回収率	39.2%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目: 社会保障論
担当者:
畠中 亨

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	56	12.61	1.92
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	58	12.24	2.37
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	58	12.95	1.61
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	58	11.67	2.53
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	58	13.41	1.47



N=104

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	22 37.9	33 56.9	2 3.4	1 1.7	0 0.0	0 0.0	4.31	0.62
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	19 32.8	30 51.7	6 10.3	3 5.2	0 0.0	0 0.0	4.12	0.79
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	20 34.5	29 50.0	5 8.6	2 3.4	0 0.0	2 3.4	4.05	1.06

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	19 32.8	27 46.6	7 12.1	2 3.4	3 5.2	0 0.0	3.98	1.03
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	21 36.2	22 37.9	13 22.4	1 1.7	1 1.7	0 0.0	4.05	0.90
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	24 41.4	25 43.1	7 12.1	1 1.7	1 1.7	0 0.0	4.21	0.85

c. 授業の進行・展開

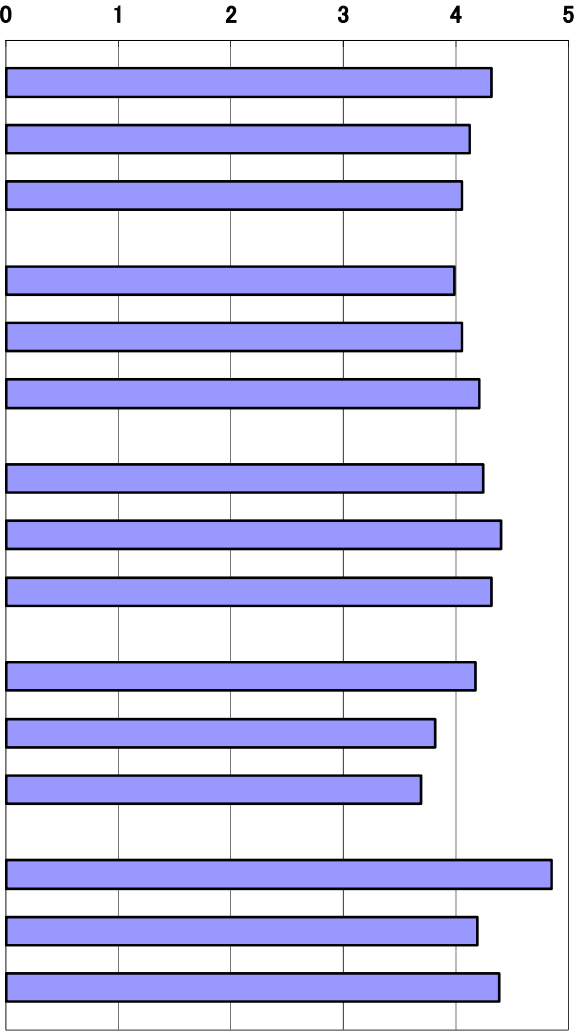
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	23 39.7	28 48.3	5 8.6	2 3.4	0 0.0	0 0.0	4.24	0.75
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	26 44.8	29 50.0	3 5.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.59
⑨	授業の進行速度は適切だった。	22 37.9	32 55.2	4 6.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.31	0.59

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	25 43.1	21 36.2	10 17.2	1 1.7	1 1.7	0 0.0	4.17	0.89
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	16 27.6	21 36.2	16 27.6	4 6.9	1 1.7	0 0.0	3.81	0.97
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	16 27.6	16 27.6	19 32.8	6 10.3	1 1.7	0 0.0	3.69	1.04

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	49 84.5	9 15.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.36
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	22 37.9	26 44.8	9 15.5	1 1.7	0 0.0	0 0.0	4.19	0.75
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	30 51.7	21 36.2	6 10.3	1 1.7	0 0.0	0 0.0	4.38	0.74



科目コード	1C0300	科目名	社会保障論	担当教員名	畠中 亨
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

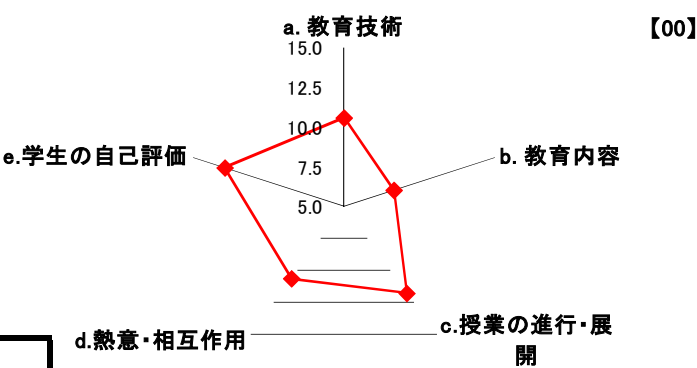
説明が聞き取りにくいということですので、聞き取りやすく喋るように努めます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	69	回収数	47	回収率	68.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:数学 I
担当者:
二宮 真理子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	10.60	2.65
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	8.32	3.18
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	11.74	2.03
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	10.64	2.31
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	12.91	2.11



N=65

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	7 14.9	19 40.4	17 36.2	2 4.3	2 4.3	0 0.0	3.57	0.94
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	8 17.0	13 27.7	19 40.4	4 8.5	3 6.4	0 0.0	3.40	1.07
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	13 27.7	15 31.9	10 21.3	6 12.8	3 6.4	0 0.0	3.62	1.19

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	3 6.4	4 8.5	13 27.7	15 31.9	12 25.5	0 0.0	2.38	1.14
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	6 12.8	8 17.0	16 34.0	9 19.1	8 17.0	0 0.0	2.89	1.24
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	6 12.8	9 19.1	20 42.6	5 10.6	7 14.9	0 0.0	3.04	1.18

c.授業の進行・展開

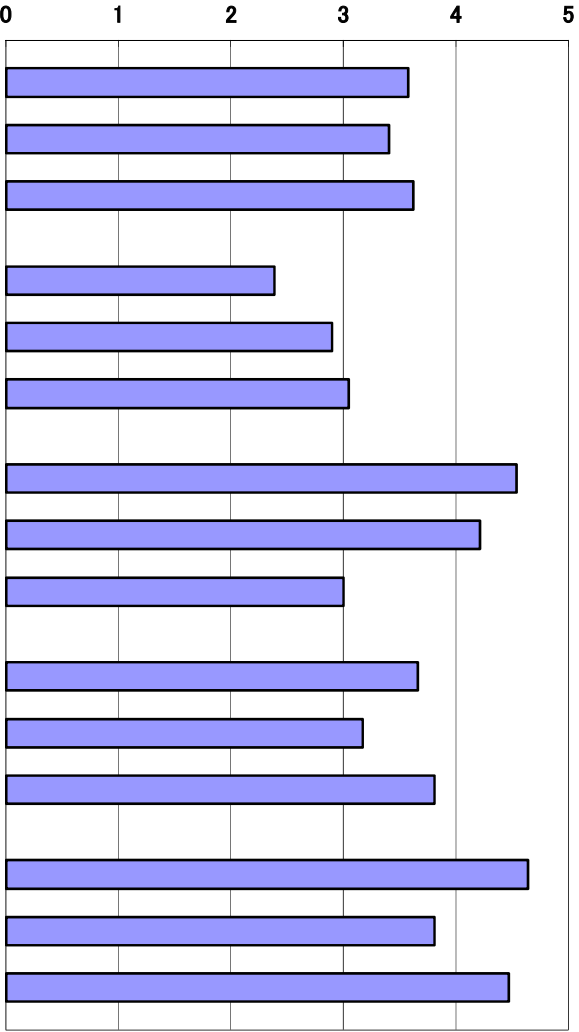
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	30 63.8	12 25.5	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.68
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	23 48.9	11 23.4	13 27.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.21	0.85
⑨	授業の進行速度は適切だった。	7 14.9	10 21.3	13 27.7	10 21.3	7 14.9	0 0.0	3.00	1.27

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	10 21.3	16 34.0	17 36.2	3 6.4	1 2.1	0 0.0	3.66	0.95
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	6 12.8	11 23.4	19 40.4	7 14.9	4 8.5	0 0.0	3.17	1.10
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10 21.3	19 40.4	17 36.2	1 2.1	0 0.0	0 0.0	3.81	0.79

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	35 74.5	9 19.1	2 4.3	0 0.0	1 2.1	0 0.0	4.64	0.76
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	17 36.2	12 25.5	13 27.7	2 4.3	3 6.4	0 0.0	3.81	1.16
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	28 59.6	13 27.7	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.71



科目コード	1D0101	科目名	数学 I	担当教員名	二宮真理子
-------	--------	-----	------	-------	-------

<教員からのコメント>

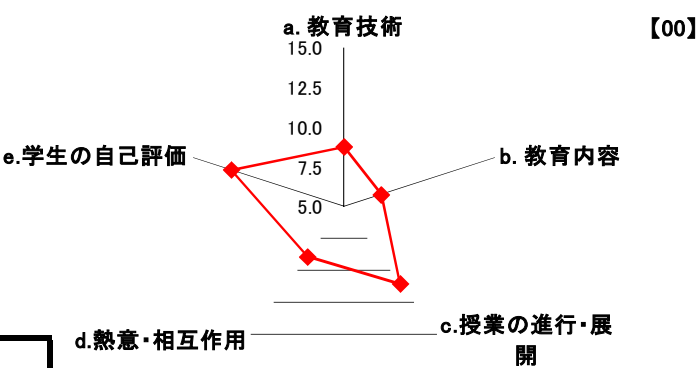
限られた講義回数で効率よく習得できる構成になるよう再検討したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	64	回収数	47	回収率	73.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:数学 I
担当者:
二宮 真理子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	46	8.76	2.44
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	46	7.48	3.02
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	11.02	2.05
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	8.91	2.68
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	12.47	2.34



N=63

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3 6.4	13 27.7	18 38.3	9 19.1	4 8.5	0 0.0	3.04	1.03
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	2 4.3	5 10.6	23 48.9	13 27.7	3 6.4	1 2.1	2.72	0.96
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	4 8.5	9 19.1	17 36.2	13 27.7	4 8.5	0 0.0	2.91	1.07

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	3 6.4	1 2.1	14 29.8	16 34.0	13 27.7	0 0.0	2.26	1.08
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	4 8.5	1 2.1	21 44.7	11 23.4	10 21.3	0 0.0	2.53	1.11
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	4 8.5	4 8.5	22 46.8	8 17.0	8 17.0	1 2.1	2.68	1.17

c.授業の進行・展開

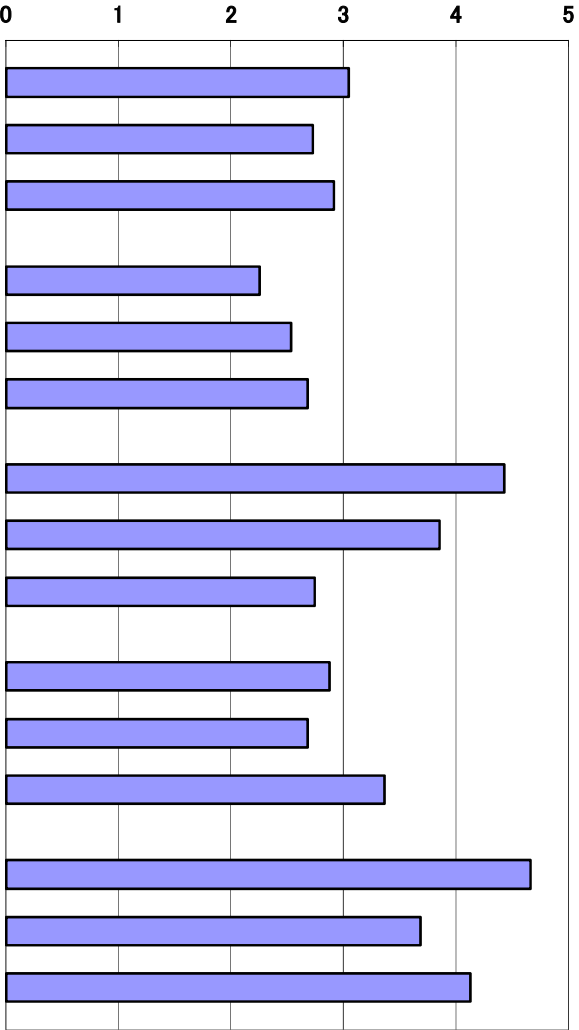
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	29 61.7	11 23.4	5 10.6	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.43	0.84
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	16 34.0	13 27.7	14 29.8	3 6.4	1 2.1	0 0.0	3.85	1.03
⑨	授業の進行速度は適切だった。	5 10.6	4 8.5	19 40.4	12 25.5	7 14.9	0 0.0	2.74	1.14

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	5 10.6	6 12.8	21 44.7	8 17.0	7 14.9	0 0.0	2.87	1.14
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	4 8.5	5 10.6	18 38.3	12 25.5	8 17.0	0 0.0	2.68	1.13
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	8 17.0	9 19.1	23 48.9	6 12.8	1 2.1	0 0.0	3.36	0.98

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	40 85.1	2 4.3	3 6.4	0 0.0	2 4.3	0 0.0	4.66	0.93
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	16 34.0	8 17.0	17 36.2	4 8.5	2 4.3	0 0.0	3.68	1.15
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	23 48.9	10 21.3	11 23.4	3 6.4	0 0.0	0 0.0	4.13	0.98



科目コード	1D0102	科目名	数学 I	担当教員名	二宮真理子
-------	--------	-----	------	-------	-------

<教員からのコメント>

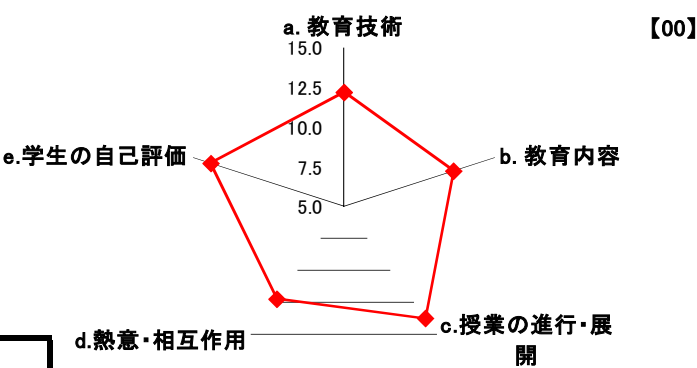
限られた講義回数で効率よく習得できる構成になるよう再検討したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	131	回収数	47	回収率	35.9%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:生物学 I
担当者:
吉田 健一

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	12.21	1.86
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	12.28	2.11
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	13.72	1.51
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	12.19	2.15
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	13.85	1.27



N=130

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	26 55.3	18 38.3	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.49	0.61
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	11 23.4	16 34.0	20 42.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.81	0.79
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	14 29.8	18 38.3	12 25.5	3 6.4	0 0.0	0 0.0	3.91	0.90

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	12 25.5	25 53.2	9 19.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.02	0.73
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	16 34.0	18 38.3	12 25.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.04	0.82
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	20 42.6	18 38.3	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.21	0.80

c. 授業の進行・展開

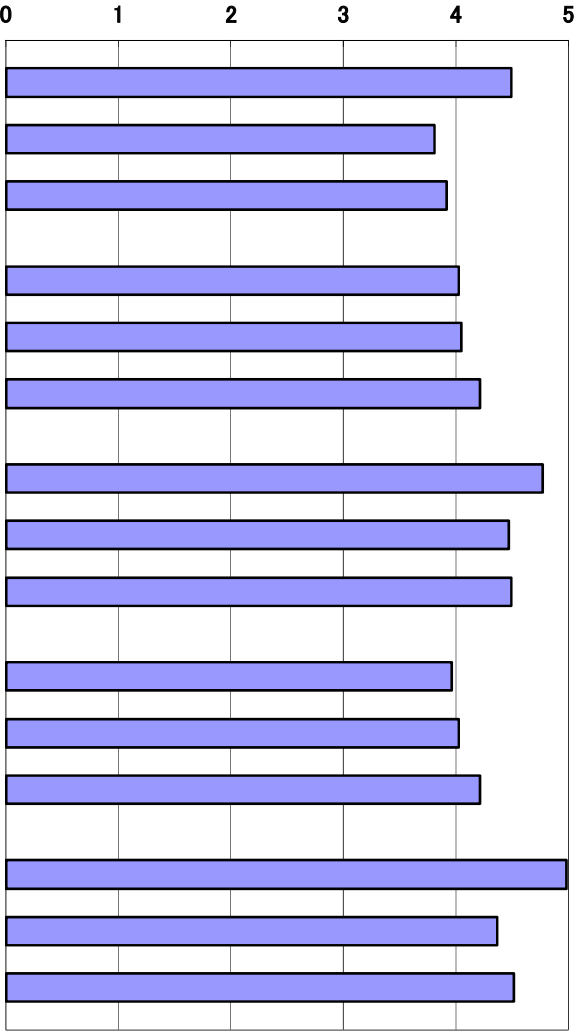
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	36 76.6	11 23.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.42
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	28 59.6	14 29.8	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.47	0.74
⑨	授業の進行速度は適切だった。	26 55.3	18 38.3	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.49	0.61

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	13 27.7	21 44.7	11 23.4	2 4.3	0 0.0	0 0.0	3.96	0.82
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	15 31.9	20 42.6	10 21.3	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.02	0.84
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	17 36.2	24 51.1	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.21	0.71

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	25 53.2	15 31.9	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.36	0.78
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	26 55.3	19 40.4	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.58



科目コード	1D0300	科目名	生物学 I	担当教員名	吉田健一
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

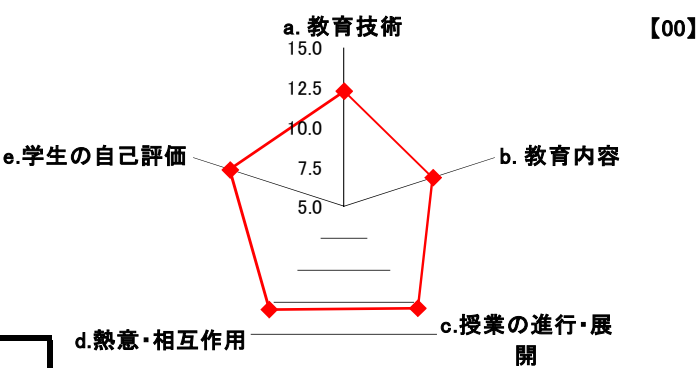
受講者は、入学前に生物学を履修しているか否かで、理解の度合いが大きく異なっている。したがって、大学一年生として理解しておく必要のある基本的な内容を講義している。総じて、受講者の講義への取り組みはまじめである。これは、本講義の受講者数が130名と多数にもかかわらず、本アンケートの回収率が99%以上であることから明らかである。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	46	回収数	35	回収率	76.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:化学 I
担当者:
小林 孝彰

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	35	12.29	2.36
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	35	10.89	2.46
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	35	12.91	1.71
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	34	13.03	1.82
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	35	12.57	1.66



N=35

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	13 37.1	18 51.4	0 0.0	4 11.4	0 0.0	0 0.0	4.14	0.90
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	15 42.9	11 31.4	6 17.1	3 8.6	0 0.0	0 0.0	4.09	0.97
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	14 40.0	11 31.4	8 22.9	2 5.7	0 0.0	0 0.0	4.06	0.92

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	6 17.1	12 34.3	12 34.3	5 14.3	0 0.0	0 0.0	3.54	0.94
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	6 17.1	13 37.1	12 34.3	4 11.4	0 0.0	0 0.0	3.60	0.90
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	7 20.0	16 45.7	9 25.7	2 5.7	1 2.9	0 0.0	3.74	0.94

c. 授業の進行・展開

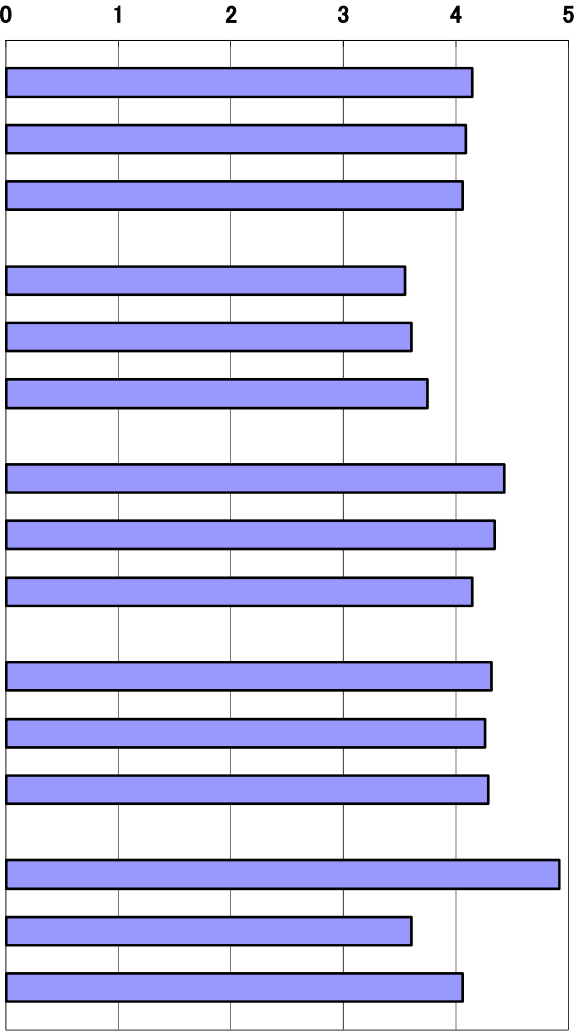
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	22 62.9	8 22.9	3 8.6	2 5.7	0 0.0	0 0.0	4.43	0.87
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	16 45.7	15 42.9	4 11.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.34	0.67
⑨	授業の進行速度は適切だった。	12 34.3	17 48.6	5 14.3	1 2.9	0 0.0	0 0.0	4.14	0.76

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	17 48.6	14 40.0	2 5.7	2 5.7	0 0.0	0 0.0	4.31	0.82
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	16 45.7	12 34.3	7 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.26	0.77
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	18 51.4	12 34.3	4 11.4	0 0.0	0 0.0	1 2.9	4.29	1.00

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	32 91.4	3 8.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	6 17.1	12 34.3	14 40.0	3 8.6	0 0.0	0 0.0	3.60	0.87
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	14 40.0	11 31.4	8 22.9	2 5.7	0 0.0	0 0.0	4.06	0.92



科目コード	1D0501	科目名	化学 I	担当教員名	小林孝彰
-------	--------	-----	------	-------	------

<教員からのコメント>

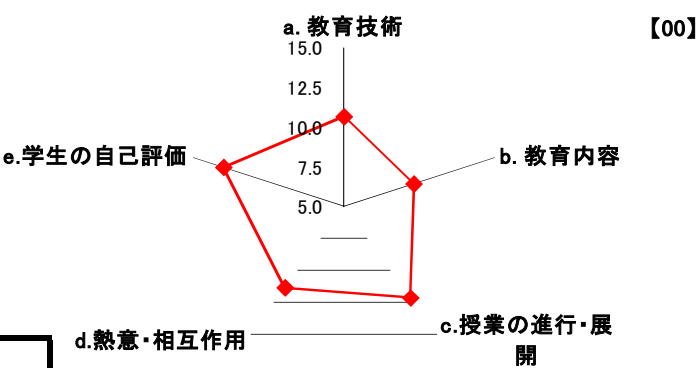
35人の中から①に20件、②に13件、③に11件の書き込みを戴けたので「寝られない授業」を目指した甲斐があったように感じました。「わかりにくい」と「わかりやすい」が混在するのはやむをえませんが、前者を少なくする工夫がなお必要であると受けとめています。看護に直結したトックに限るべきという意見に接すると、周期表の不規則な形を納得的に理解するには有用性とは別の観点の基本原理にまで立ち返る必要があるという説明が不足していたと反省せざるをえません。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	37	回収数	36	回収率	97.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:化学 I
担当者:
小林 孝彰

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	36	10.69	2.59
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	36	9.64	3.06
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	36	12.11	2.40
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	36	11.33	2.39
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	36	13.00	1.39



N=36

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	7 19.4	17 47.2	9 25.0	2 5.6	1 2.8	0 0.0	3.75	0.92
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	5 13.9	13 36.1	14 38.9	2 5.6	2 5.6	0 0.0	3.47	0.99
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	4 11.1	16 44.4	10 27.8	5 13.9	1 2.8	0 0.0	3.47	0.96

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	4 11.1	7 19.4	13 36.1	10 27.8	2 5.6	0 0.0	3.03	1.07
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	5 13.9	10 27.8	12 33.3	7 19.4	2 5.6	0 0.0	3.25	1.09
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	6 16.7	11 30.6	12 33.3	4 11.1	3 8.3	0 0.0	3.36	1.13

c.授業の進行・展開

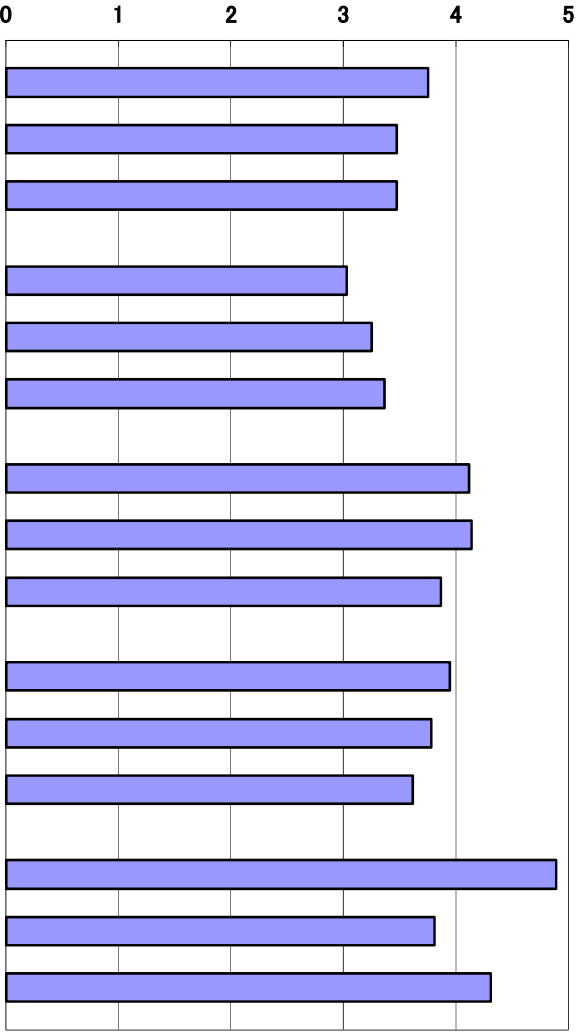
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	16 44.4	13 36.1	4 11.1	1 2.8	2 5.6	0 0.0	4.11	1.07
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	11 30.6	21 58.3	3 8.3	0 0.0	1 2.8	0 0.0	4.14	0.79
⑨	授業の進行速度は適切だった。	9 25.0	16 44.4	9 25.0	1 2.8	1 2.8	0 0.0	3.86	0.92

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	9 25.0	18 50.0	8 22.2	0 0.0	1 2.8	0 0.0	3.94	0.85
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	9 25.0	15 41.7	9 25.0	1 2.8	2 5.6	0 0.0	3.78	1.03
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	6 16.7	14 38.9	13 36.1	2 5.6	1 2.8	0 0.0	3.61	0.92

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	33 91.7	2 5.6	1 2.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.39
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	8 22.2	15 41.7	11 30.6	2 5.6	0 0.0	0 0.0	3.81	0.84
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	16 44.4	15 41.7	5 13.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.31	0.70



科目コード	1D0502	科目名	化学 I	担当教員名	小林孝彰
-------	--------	-----	------	-------	------

<教員からのコメント>

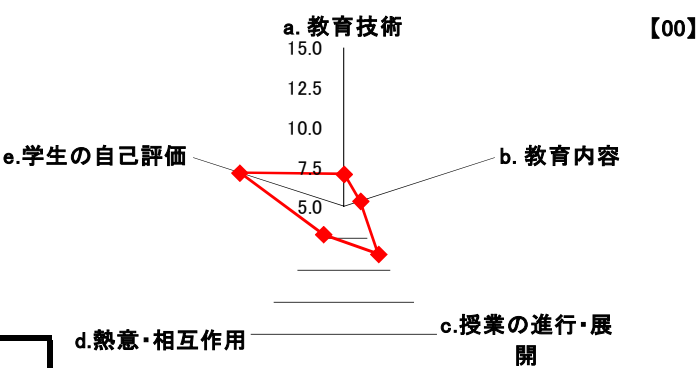
36人の中から①に17件、②に17件、③に14件の書き込みを戴けたので「寝られない授業」を目指した甲斐があったように感じました。「質問しやすかった」という声ばかりでなく「質問しにくい」があったことには工夫の不足を思いました。一方で「質問に答えてくれない」があったのには、個別具体的なケースに思い当たりがなく当惑しています。高校で化学を履修していなくても大丈夫とシラバスに書いたことについて「その通り」より「難しい」という声の方が多かったのは反省点です。化学と直接関係ない話をしたことにも賛否両論があってなかなか難しいものだと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	74	回収数	47	回収率	63.5%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:保健統計学
担当者:
逸見 功

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	7.04	3.50
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	6.09	3.53
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	8.70	3.73
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	7.19	3.52
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	11.91	2.92



N=57

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	4	7	13	10	13	0	2.55	1.27
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3	5	11	13	15	0	2.32	1.20
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3	5	8	12	19	0	2.17	1.24

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	3	1	9	9	25	0	1.89	1.17
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	3	2	9	8	25	0	1.94	1.21
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5	3	11	8	20	0	2.26	1.34

c. 授業の進行・展開

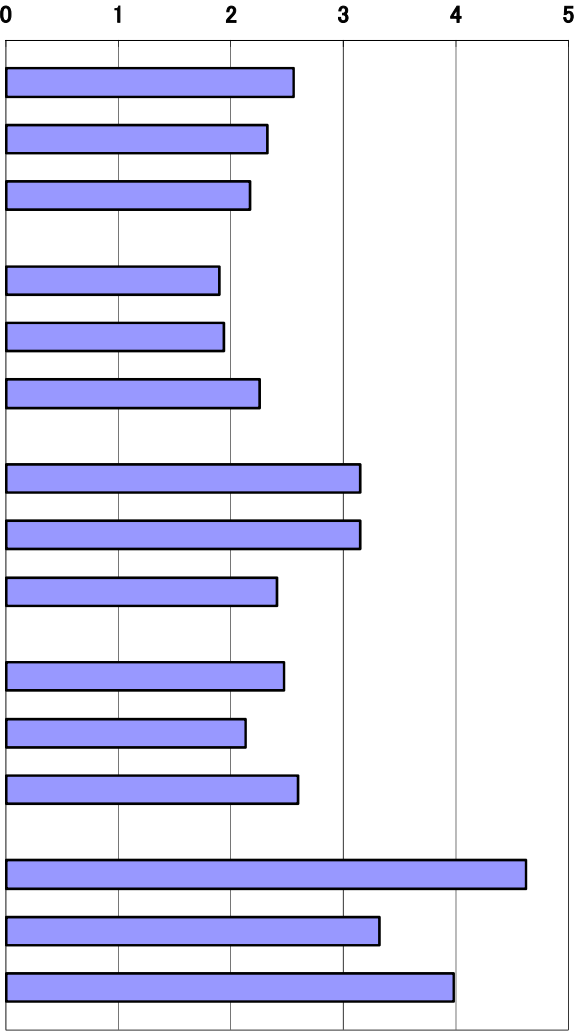
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	10	11	11	6	9	0	3.15	1.40
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	10	9	15	4	9	0	3.15	1.37
⑨	授業の進行速度は適切だった。	4	5	12	11	15	0	2.40	1.27

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	3	5	16	10	13	0	2.47	1.18
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	3	3	11	10	20	0	2.13	1.21
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	6	5	16	4	16	0	2.60	1.38

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	40	1	3	1	2	0	4.62	1.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	12	7	18	4	6	0	3.32	1.29
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	23	8	12	0	4	0	3.98	1.23



科目コード	1E0301	科目名	保健統計学	担当教員名	逸見 功
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

「1学期の授業に内容が詰め込みすぎである」「難しい」という意見がありました。保健統計学の授業では、保健師国家試験の出題範囲を1学期で扱うため、かなり盛りだくさんの内容で時間的にハードであり、学生の努力を要求するものとなっています。研究方法論Ⅱの授業評価でも、統計は重要な基礎科目なので、保健統計学と研究方法論Ⅱとも通年で開講した方がよいという感想がありましたが、私もまったく同じ考えです。例えば保健統計学をⅠとⅡに分けて、Ⅰは必修科目として記述統計など基本的な内容、Ⅱは選択科目として推測統計を扱う、という案が考えられます。しかし、残念ながらカリキュラムの変更を伴うので、すぐに改善できません。来年度は、取り上げる項目を絞れるか検討したいと思います。

「演習問題を解く時間が欲しい」という意見がありました。昨年の授業評価において、授業時間中に演習問題をもっと解きたいという要望がありましたので、今年度は反転授業を導入しようとしていました。そこで、数式があまり使われていない看護学生向けの教科書を指定して、事前学習を前提に授業で質疑・重要事項の確認・演習を行うというものです。しかし、教科書を読んでもわからないという学生が多く、反転授業の目論見はうまくいきませんでした。

「授業を数学の学力別に分ける」という意見がありました。以前から可能性を探っていますが、時間割編成上難しいということです。

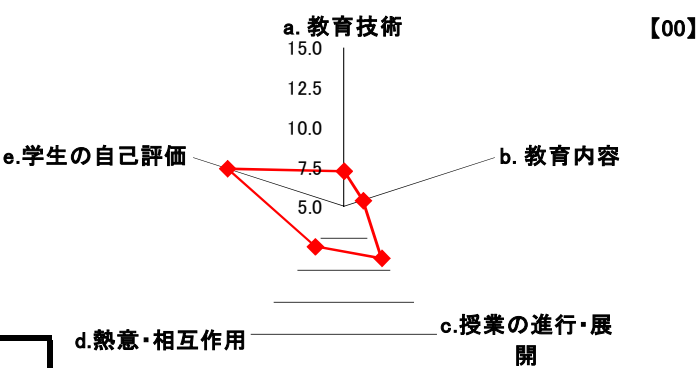
質問に答えてくれないというコメントがありました。リフレクションペーパーに書いてもらった質問を各授業のはじめに回答していますが、時間の制約があるため、すべての質問に答えることができません。全学生に聞いてもらいたい質問を優先的に取り上げています。そのほか、質問の意味がわからずに回答できなかったものもあります。授業で扱えなかった場合、個別に対応しています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	91	回収数	47	回収率	51.6%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:保健統計学
担当者:
逸見 功

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	46	7.24	3.36
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	6.26	3.06
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	9.04	3.35
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	45	8.11	3.84
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	12.74	2.56



N=88

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3	7	18	7	11	1	2.60	1.23
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3	4	14	8	18	0	2.28	1.23
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3	7	8	10	19	0	2.26	1.30

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	2	1	6	12	26	0	1.74	1.04
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	2	4	9	10	22	0	2.02	1.18
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	3	5	18	7	14	0	2.49	1.20

c. 授業の進行・展開

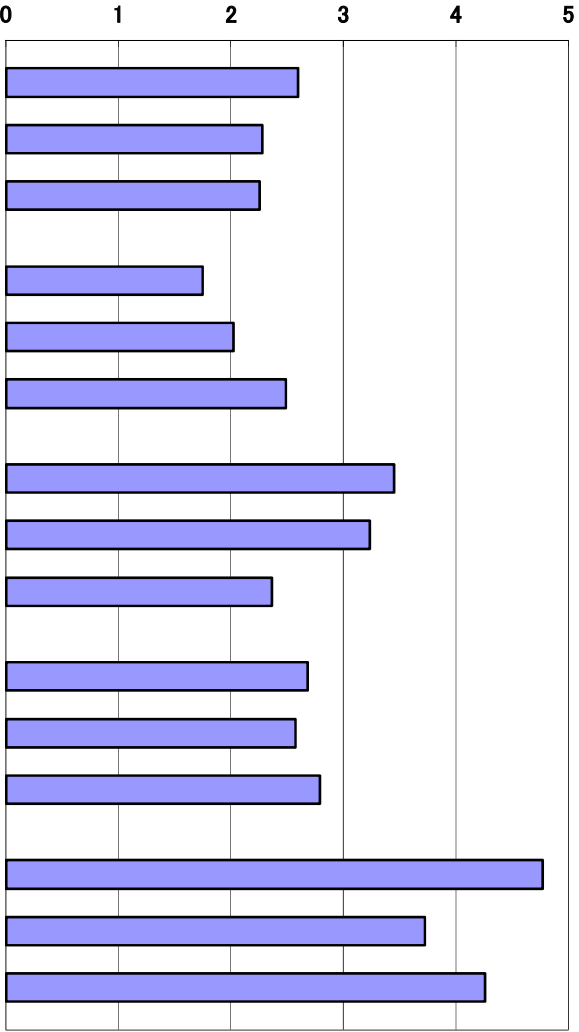
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	11	15	12	2	7	0	3.45	1.30
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	9	14	12	3	9	0	3.23	1.36
⑨	授業の進行速度は適切だった。	4	3	16	7	17	0	2.36	1.26

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	4	9	17	2	15	0	2.68	1.32
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	6	9	9	5	18	0	2.57	1.47
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	5	14	10	4	12	2	2.79	1.47

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	41	4	0	1	1	0	4.77	0.75
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	17	12	10	4	4	0	3.72	1.27
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	25	14	4	3	1	0	4.26	1.00



科目コード	1E0302	科目名	保健統計学	担当教員名	逸見 功
-------	--------	-----	-------	-------	------

＜教員からのコメント＞

「1学期の授業に内容が詰め込みすぎである」「難しい」という意見がありました。保健統計学の授業では、保健師国家試験の出題範囲を1学期で扱うため、かなり盛りだくさんの内容で時間的にハードであり、学生の努力を要求するものとなっています。研究方法論Ⅱの授業評価でも、統計は重要な基礎科目なので、保健統計学と研究方法論Ⅱとも通年で開講した方がよいという感想がありましたが、私もまったく同じ考えです。例えば保健統計学をⅠとⅡに分けて、Ⅰは必修科目として記述統計など基本的な内容、Ⅱは選択科目として推測統計を扱う、という案が考えられます。しかし、残念ながらカリキュラムの変更を伴うので、すぐに改善できません。来年度は、取り上げる項目を絞れるか検討したいと思います。

「演習問題を解く時間が欲しい」という意見がありました。昨年の授業評価において、授業時間中に演習問題をもっと解きたいという要望がありましたので、今年度は反転授業を導入しようとしていました。そこで、数式があまり使われていない看護学生向けの教科書を指定して、事前学習を前提に授業で質疑・重要事項の確認・演習を行うというものです。しかし、教科書を読んでもわからないという学生が多く、反転授業の目論見はうまくいきませんでした。

「授業を数学の学力別に分ける」という意見がありました。以前から可能性を探っていますが、時間割編成上難しいということです。

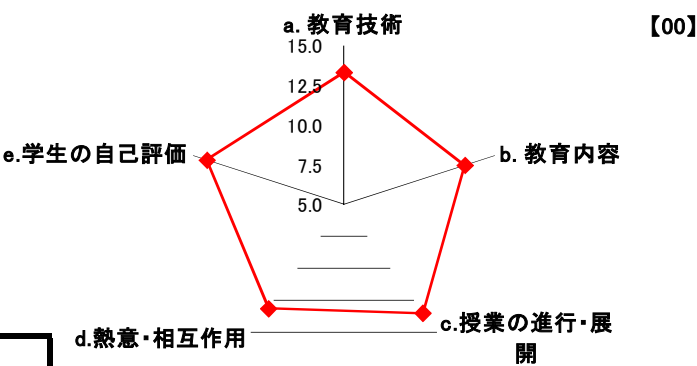
質問に答えてくれないというコメントがありました。リフレクションペーパーに書いてもらった質問を各授業のはじめに回答していますが、時間の制約があるため、すべての質問に答えることができません。全学生に聞いてもらいたい質問を優先的に取り上げています。そのほか、質問の意味がわからずに回答できなかったものもあります。授業で扱えなかった場合、個別に対応しています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	65	回収数	47	回収率	72.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:日本語の表現
担当者:
越後 敬子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.36	2.16
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	13.02	2.17
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	13.47	1.83
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	13.11	2.00
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.11	1.46



N=55

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	31	10	5	1	0	0	4.51	0.77
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	25	15	6	1	0	0	4.36	0.78
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	28	15	3	1	0	0	4.49	0.71

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	27	13	7	0	0	0	4.43	0.74
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	21	17	9	0	0	0	4.26	0.76
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	26	12	8	1	0	0	4.34	0.83

c. 授業の進行・展開

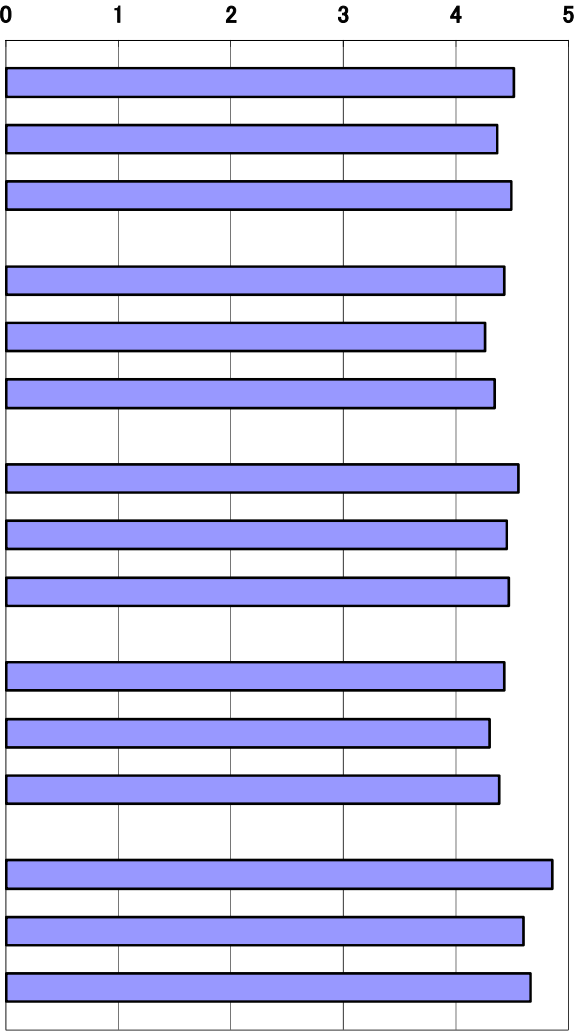
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	30	13	4	0	0	0	4.55	0.65
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	26	16	5	0	0	0	4.45	0.68
⑨	授業の進行速度は適切だった。	26	17	4	0	0	0	4.47	0.65

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	26	15	6	0	0	0	4.43	0.71
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	22	17	8	0	0	0	4.30	0.74
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	24	17	6	0	0	0	4.38	0.70

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	41	5	1	0	0	0	4.85	0.41
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	32	11	4	0	0	0	4.60	0.64
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	35	8	4	0	0	0	4.66	0.63



科目コード	1F0101	科目名	日本語の表現	担当教員名	越後敬子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

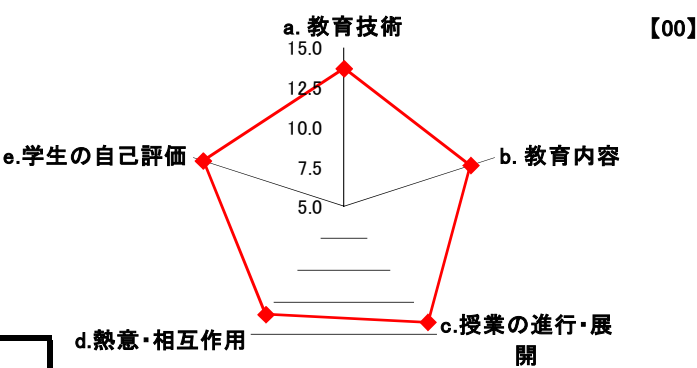
大学生活で、あるいは卒業して看護の道に進んでから、実際に役立つような日本語表現のあれこれについて取り上げてきたつもりです。授業中に何度か話しましたが日本語は変化していきます。みなさんには「正しい日本語」を使うのはもちろんですが、それよりも「優しい日本語」が使えるようになってほしいと切望しています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	66	回収数	47	回収率	71.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:日本語の表現
担当者:
越後 敬子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.72	1.73
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	13.40	2.06
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.02	1.54
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	13.40	1.96
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	46	14.35	1.22



N=53

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	33	12	2	0	0	0	4.66	0.56
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	28	13	6	0	0	0	4.47	0.71
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	31	13	3	0	0	0	4.60	0.61

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	27	17	2	1	0	0	4.49	0.68
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	24	18	4	0	1	0	4.36	0.81
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	30	14	2	1	0	0	4.55	0.68

c.授業の進行・展開

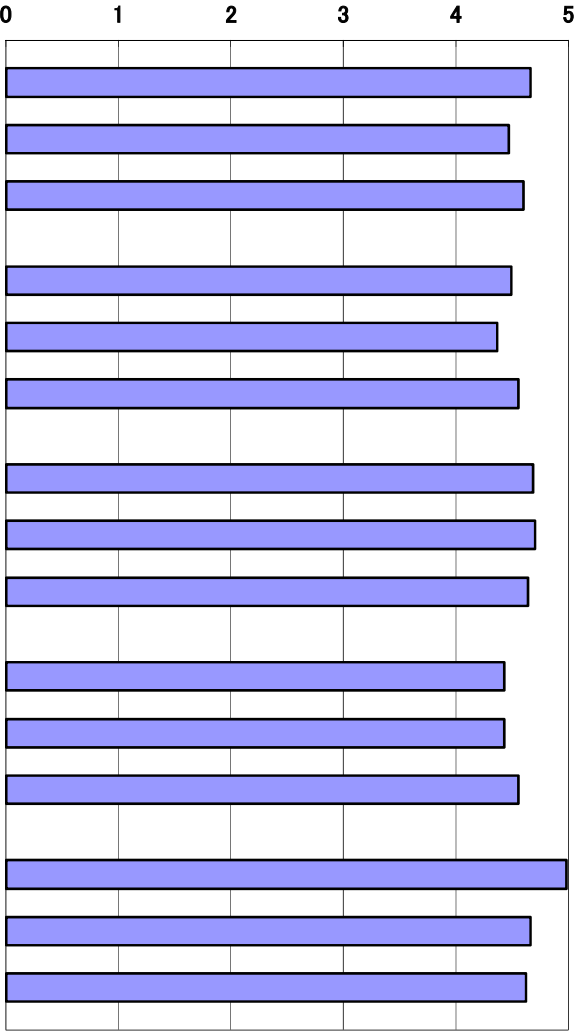
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	34	11	2	0	0	0	4.68	0.55
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	34	12	1	0	0	0	4.70	0.50
⑨	授業の進行速度は適切だった。	32	13	2	0	0	0	4.64	0.56

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	26	15	6	0	0	0	4.43	0.71
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	28	12	6	1	0	0	4.43	0.79
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	30	13	4	0	0	0	4.55	0.65

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46	1	0	0	0	0	4.98	0.14
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	35	8	4	0	0	0	4.66	0.63
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	37	5	4	0	0	1	4.62	0.91



科目コード	1F0102	科目名	日本語の表現	担当教員名	越後敬子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

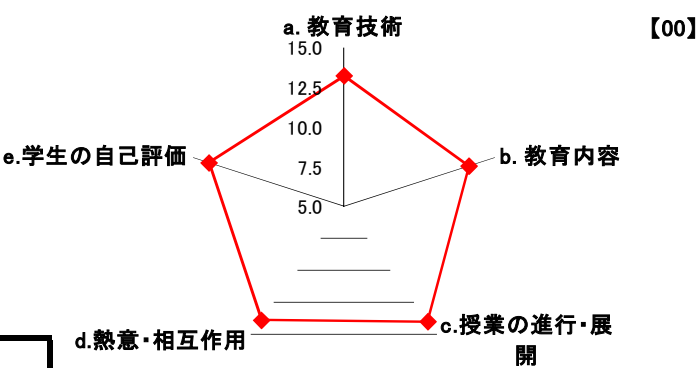
大学生活で、あるいは卒業して看護の道に進んでから、実際に役立つような日本語表現のあれこれについて取り上げてきたつもりです。授業中に何度か話しましたが日本語は変化していきます。みなさんには「正しい日本語」を使うのはもちろんですが、それよりも「優しい日本語」が使えるようになってほしいと切望しています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	37	回収数	27	回収率	73.0%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R1－1
担当者:
Karli Raudzens

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	27	13.26	2.07
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	27	13.30	2.26
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	27	13.96	1.55
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	27	13.85	1.74
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	27	13.96	1.40



N=27

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	18 66.7	7 25.9	1 3.7	1 3.7	0 0.0	0 0.0	4.56	0.74
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	11 40.7	10 37.0	5 18.5	1 3.7	0 0.0	0 0.0	4.15	0.85
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	18 66.7	6 22.2	3 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.68

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	14 51.9	9 33.3	3 11.1	1 3.7	0 0.0	0 0.0	4.33	0.82
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	16 59.3	8 29.6	3 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.69
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	19 70.4	3 11.1	4 14.8	1 3.7	0 0.0	0 0.0	4.48	0.88

c. 授業の進行・展開

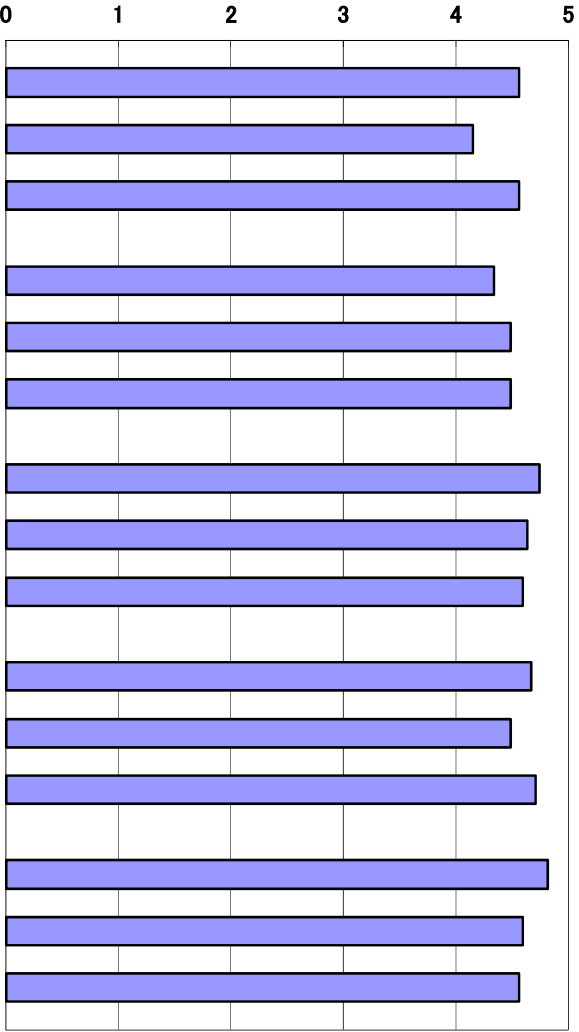
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	21 77.8	5 18.5	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.52
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	19 70.4	6 22.2	2 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.62
⑨	授業の進行速度は適切だった。	18 66.7	7 25.9	2 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.59	0.62

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	19 70.4	7 25.9	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.54
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	17 63.0	7 25.9	2 7.4	1 3.7	0 0.0	0 0.0	4.48	0.79
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	20 74.1	6 22.2	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.53

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	22 81.5	5 18.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.39
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	18 66.7	7 25.9	2 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.59	0.62
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	19 70.4	4 14.8	4 14.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.74

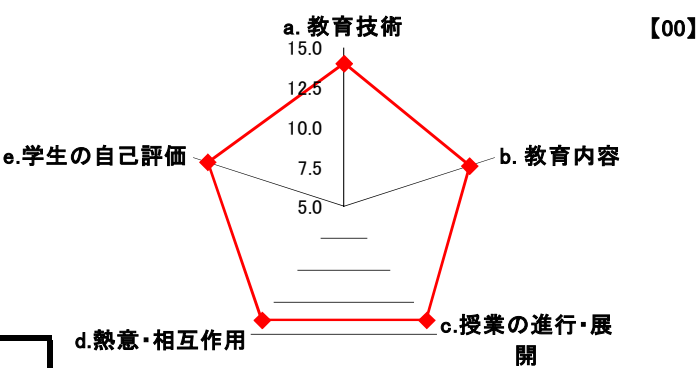


授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	34	回収数	31	回収率	91.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R1－1
担当者:
川崎 修一

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	31	14.03	1.40
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	31	13.32	2.15
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	31	13.84	1.46
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	31	13.84	1.55
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	31	14.03	1.38



N=31

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	22 71.0	8 25.8	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.53
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	21 67.7	9 29.0	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.54
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	22 71.0	9 29.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	18 58.1	10 32.3	3 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.67
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	19 61.3	8 25.8	2 6.5	2 6.5	0 0.0	0 0.0	4.42	0.87
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	18 58.1	8 25.8	5 16.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.75

c. 授業の進行・展開

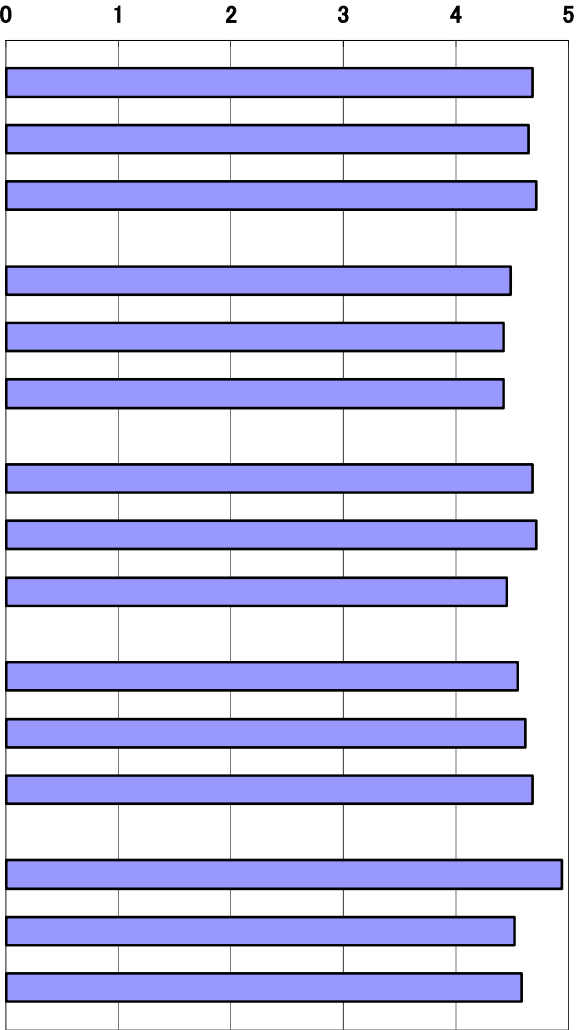
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	21 67.7	10 32.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.47
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	22 71.0	9 29.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑨	授業の進行速度は適切だった。	18 58.1	9 29.0	4 12.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.71

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	19 61.3	10 32.3	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.61
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	20 64.5	10 32.3	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.55
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	22 71.0	8 25.8	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.53

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	29 93.5	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.25
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	20 64.5	8 25.8	2 6.5	1 3.2	0 0.0	0 0.0	4.52	0.76
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	20 64.5	9 29.0	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.61



科目コード	1F0202	科目名	英語R1-1	担当教員名	川崎修一
-------	--------	-----	--------	-------	------

＜教員からのコメント＞

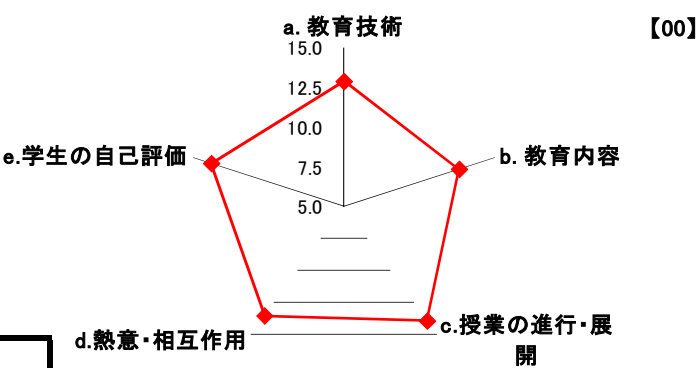
良かった点としては、資料が見やすい、英文のテーマが興味深い、わかりやすい解説、等が挙げられました。大学に入ったばかりで緊張感もある中、学生はまじめに取り組んでくれました。心より感謝します。改善点は、進度が速かったことが指摘されました。来年度は内容を少し圧縮し急ぎ足にならないように改善したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	36	回収数	33	回収率	91.7%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R1－1
担当者:
Karli Raudzens

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	33	12.91	2.07
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	33	12.64	2.20
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	33	13.91	1.38
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	33	13.52	1.69
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	33	13.82	1.64



N=33

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	17 51.5	15 45.5	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.56
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	12 36.4	14 42.4	5 15.2	2 6.1	0 0.0	0 0.0	4.09	0.87
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	17 51.5	12 36.4	2 6.1	2 6.1	0 0.0	0 0.0	4.33	0.84

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	15 45.5	13 39.4	3 9.1	2 6.1	0 0.0	0 0.0	4.24	0.85
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	13 39.4	14 42.4	6 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.21	0.73
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	14 42.4	12 36.4	6 18.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.83

c.授業の進行・展開

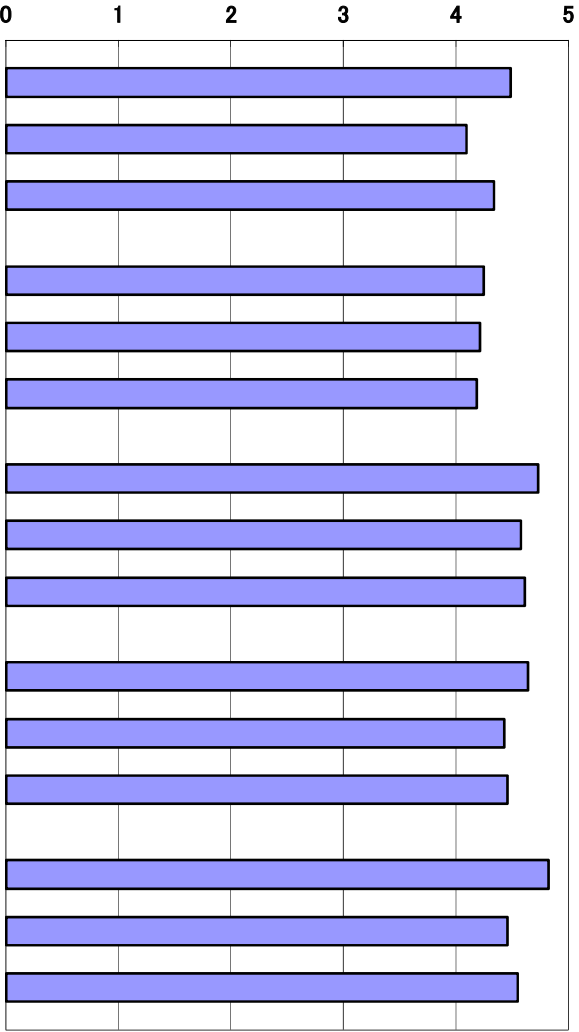
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	25 75.8	7 21.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.51
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	20 60.6	12 36.4	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.55
⑨	授業の進行速度は適切だった。	21 63.6	11 33.3	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.55

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	22 66.7	10 30.3	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.54
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	17 51.5	14 42.4	1 3.0	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.70
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	18 54.5	12 36.4	3 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.66

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	29 87.9	2 6.1	2 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.52
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	19 57.6	10 30.3	4 12.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.70
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	21 63.6	9 27.3	3 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.66

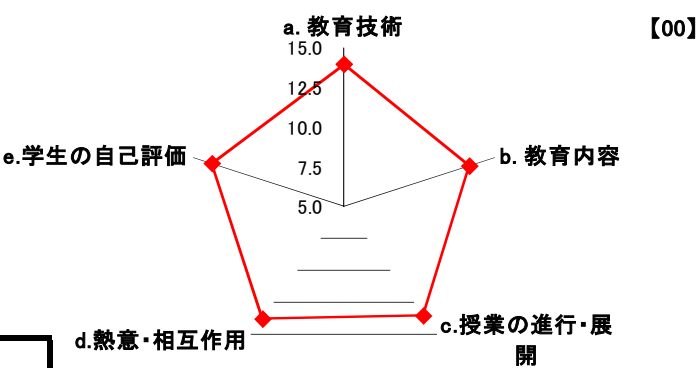


授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	34	回収数	32	回収率	94.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R1－1
担当者:
川崎 修一

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	32	13.97	1.51
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	32	13.31	2.02
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	32	13.50	1.77
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	32	13.75	1.58
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	31	13.77	1.54



N=32

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	22 68.8	9 28.1	1 3.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.54
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	23 71.9	8 25.0	1 3.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.53
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	22 68.8	8 25.0	2 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.60

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	21 65.6	9 28.1	2 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.59	0.61
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	17 53.1	11 34.4	3 9.4	1 3.1	0 0.0	0 0.0	4.38	0.78
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	17 53.1	10 31.3	4 12.5	1 3.1	0 0.0	0 0.0	4.34	0.81

c.授業の進行・展開

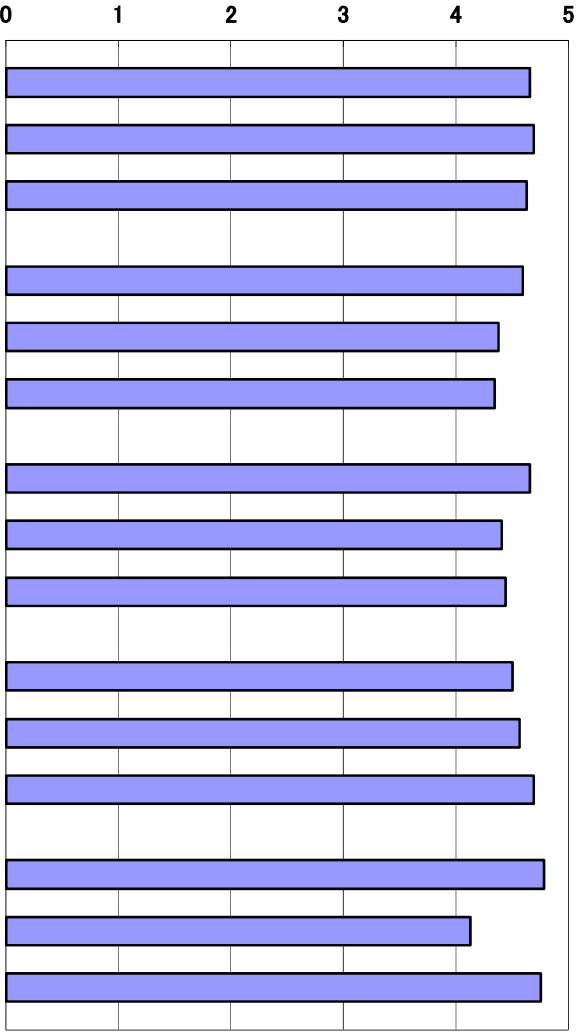
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	23 71.9	7 21.9	2 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.59
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	18 56.3	9 28.1	5 15.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.41	0.74
⑨	授業の進行速度は適切だった。	17 53.1	12 37.5	3 9.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.66

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	19 59.4	10 31.3	3 9.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.66
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	20 62.5	10 31.3	2 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.61
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	23 71.9	8 25.0	1 3.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.53

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	26 81.3	5 15.6	1 3.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.48
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	17 53.1	7 21.9	5 15.6	2 6.3	0 0.0	1 3.1	4.13	1.19
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	25 78.1	6 18.8	1 3.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.50



科目コード	1F0204	科目名	英語R1-1	担当教員名	川崎修一
-------	--------	-----	--------	-------	------

＜教員からのコメント＞

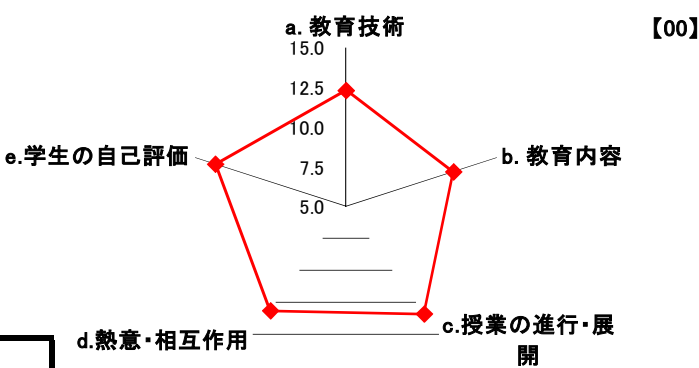
良かった点としては、教員と学生の距離が近く質問に答えていたこと、資料が見やすい、英文のテーマが興味深い、わかりやすい解説、等が挙げられました。大学に入ったばかりで緊張感もある中、学生はまじめに取り組んでくれました。心より感謝します。改善点は、スライド内の誤植、クイズの回数が予定通りにいかなかったこと、進度が速くなったことが指摘されました。来年度は資料作成に更に時間をかけ誤植をなくし、内容を少し圧縮して急ぎ足にならないようにしたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	34	回収数	33	回収率	97.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語W1－1
担当者:
遠藤 花子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	33	12.33	2.41
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	33	12.12	2.41
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	33	13.36	1.97
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	33	13.12	2.29
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	33	13.67	1.73



N=33

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	16 48.5	12 36.4	4 12.1	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.80
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	14 42.4	10 30.3	8 24.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.12	0.88
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	11 33.3	9 27.3	12 36.4	1 3.0	0 0.0	0 0.0	3.91	0.90

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	13 39.4	14 42.4	5 15.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.80
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	12 36.4	10 30.3	8 24.2	3 9.1	0 0.0	0 0.0	3.94	0.98
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	11 33.3	12 36.4	9 27.3	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.00	0.85

c.授業の進行・展開

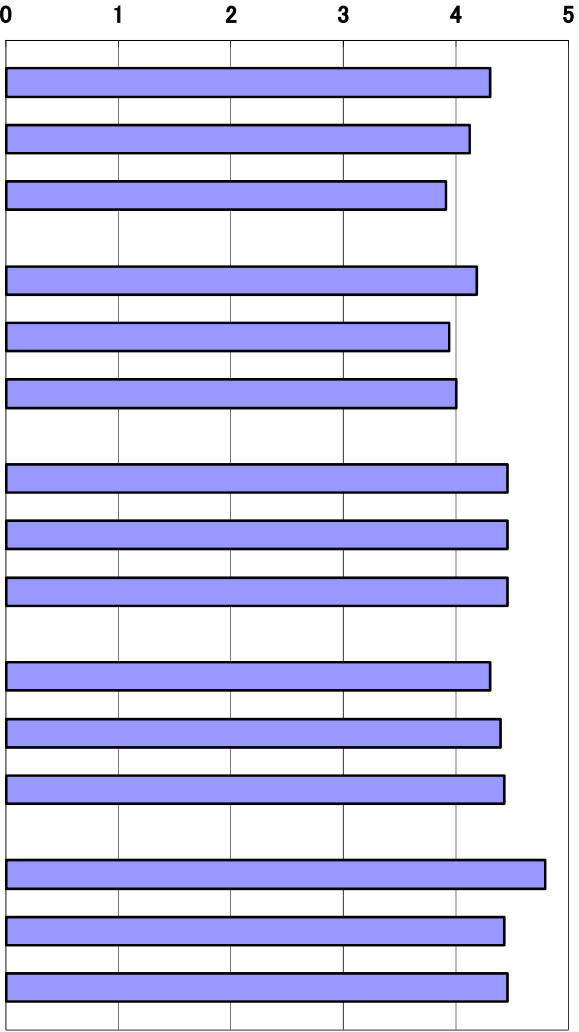
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	18 54.5	12 36.4	3 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.66
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	19 57.6	10 30.3	4 12.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.70
⑨	授業の進行速度は適切だった。	18 54.5	12 36.4	3 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.66

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	17 51.5	10 30.3	5 15.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.83
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	19 57.6	9 27.3	4 12.1	1 3.0	0 0.0	0 0.0	4.39	0.81
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	19 57.6	9 27.3	5 15.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.74

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	28 84.8	3 9.1	2 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.54
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	19 57.6	9 27.3	5 15.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.74
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	20 60.6	8 24.2	5 15.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.74



科目コード	1F0401	科目名	英語W 1-1	担当教員名	遠藤花子
-------	--------	-----	---------	-------	------

<教員からのコメント>

2回に1回のペースで課題を提出してもらい、それを添削して返却する形で授業を進めた。意欲的に授業や課題に取り組む学生も多く見受けられたが、改善点の中で指摘されたマイクの不都合に関しては、事前にきちんとマイクの充電が完了しているかの確認を怠ったのは反省すべき点であり、今後は少しでも改善していけるよう配慮したい。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

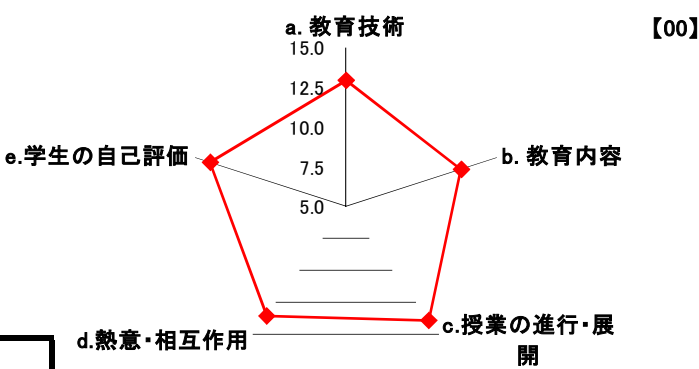
履修者数	38	回収数	35	回収率	92.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語W1－1

担当者:

Brennen L.Terrill

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	35	12.97	2.05
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	35	12.63	2.22
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	35	13.89	1.58
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	35	13.51	1.70
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	35	14.03	1.18



N=35

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	18 51.4	15 42.9	2 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.46	0.60
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	16 45.7	15 42.9	4 11.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.34	0.67
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	17 48.6	9 25.7	7 20.0	2 5.7	0 0.0	0 0.0	4.17	0.94

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	13 37.1	12 34.3	10 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.09	0.81
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	16 45.7	13 37.1	4 11.4	1 2.9	1 2.9	0 0.0	4.20	0.95
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	18 51.4	11 31.4	6 17.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.34	0.75

c.授業の進行・展開

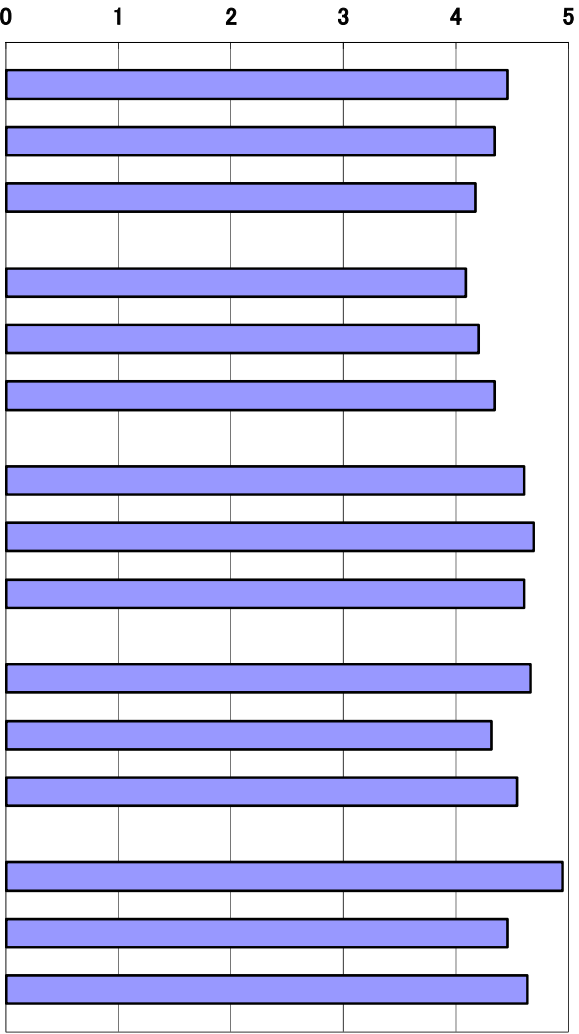
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	24 68.6	9 25.7	1 2.9	1 2.9	0 0.0	0 0.0	4.60	0.68
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	25 71.4	9 25.7	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.52
⑨	授業の進行速度は適切だった。	22 62.9	12 34.3	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.55

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	24 68.6	10 28.6	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.53
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	18 51.4	11 31.4	5 14.3	1 2.9	0 0.0	0 0.0	4.31	0.82
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	22 62.9	10 28.6	3 8.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.54	0.65

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	33 94.3	2 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.23
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	21 60.0	11 31.4	2 5.7	0 0.0	1 2.9	0 0.0	4.46	0.84
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	24 68.6	9 25.7	2 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.59



科目コード	1F0402	科目名	英語W1-1	担当教員名	Brennen L. Terrill
-------	--------	-----	--------	-------	--------------------

<commnet>

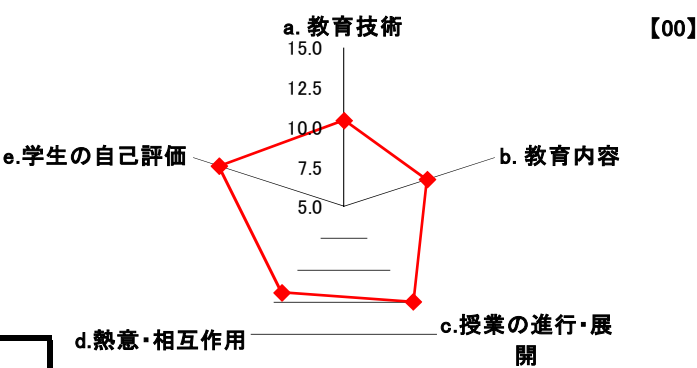
Thank you for the kind words and the helpful suggestions. Keep working hard and we can improve your English academic writing skills. Remember it is important to review your work for errors. Write as much as you can, every day to become more comfortable with writing.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	32	回収数	31	回収率	96.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語W1－1
担当者:
遠藤 花子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	31	10.45	2.47
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	30	10.50	2.57
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	31	12.42	2.03
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	30	11.70	2.54
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	30	13.30	1.66



N=31

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	5 16.1	15 48.4	10 32.3	0 0.0	1 3.2	0 0.0	3.74	0.84
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	4 12.9	14 45.2	10 32.3	2 6.5	1 3.2	0 0.0	3.58	0.91
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3 9.7	9 29.0	10 32.3	7 22.6	2 6.5	0 0.0	3.13	1.07

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	5 16.1	12 38.7	13 41.9	0 0.0	1 3.2	0 0.0	3.65	0.86
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	3 9.7	13 41.9	10 32.3	2 6.5	2 6.5	1 3.2	3.32	1.15
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	3 9.7	12 38.7	11 35.5	2 6.5	3 9.7	0 0.0	3.32	1.06

c.授業の進行・展開

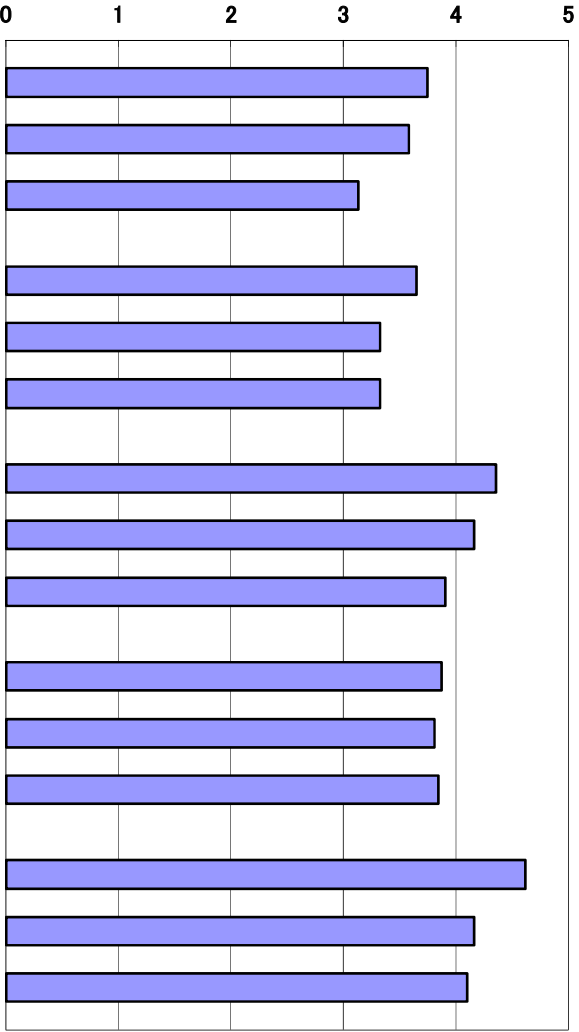
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	16 51.6	10 32.3	5 16.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.35	0.74
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	12 38.7	12 38.7	7 22.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.16	0.77
⑨	授業の進行速度は適切だった。	8 25.8	15 48.4	6 19.4	1 3.2	1 3.2	0 0.0	3.90	0.93

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	8 25.8	13 41.9	9 29.0	0 0.0	1 3.2	0 0.0	3.87	0.91
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	8 25.8	11 35.5	11 35.5	0 0.0	1 3.2	0 0.0	3.81	0.93
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10 32.3	11 35.5	8 25.8	0 0.0	1 3.2	1 3.2	3.84	1.17

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	24 77.4	5 16.1	1 3.2	0 0.0	0 0.0	1 3.2	4.61	0.97
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	14 45.2	11 35.5	5 16.1	0 0.0	0 0.0	1 3.2	4.16	1.05
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	15 48.4	7 22.6	8 25.8	0 0.0	0 0.0	1 3.2	4.10	1.12



科目コード	1F0403	科目名	英語W 1-1	担当教員名	遠藤花子
-------	--------	-----	---------	-------	------

<教員からのコメント>

2回に1回のペースで課題を提出してもらい、それを添削して返却する形で授業を進めた。ライティングの練習回数や添削に対しての評価があった一方で、マイクは使わなくていい、声が小さいといった声の聞き取りにくさに関する意見が寄せられ、教室のサイズや着席位置も含めて、今後最も考慮すべき点であると認識した。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

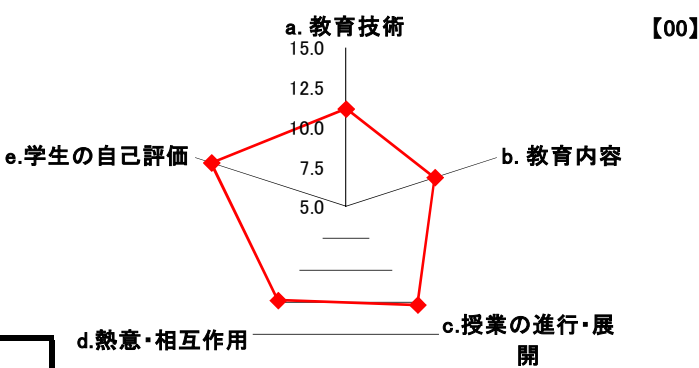
履修者数	35	回収数	35	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:英語W1－1

担当者:

Brennen L.Terrill

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	35	11.17	3.01
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	35	10.89	3.15
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	34	12.68	2.45
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	35	12.31	2.64
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	35	13.94	1.53



N=35

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	11 31.4	14 40.0	8 22.9	2 5.7	0 0.0	0 0.0	3.97	0.88
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	11 31.4	12 34.3	7 20.0	4 11.4	1 2.9	0 0.0	3.80	1.09
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	9 25.7	11 31.4	4 11.4	7 20.0	4 11.4	0 0.0	3.40	1.36

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	7 20.0	12 34.3	4 11.4	10 28.6	2 5.7	0 0.0	3.34	1.24
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	9 25.7	10 28.6	11 31.4	4 11.4	1 2.9	0 0.0	3.63	1.07
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	11 31.4	14 40.0	7 20.0	2 5.7	1 2.9	0 0.0	3.91	1.00

c. 授業の進行・展開

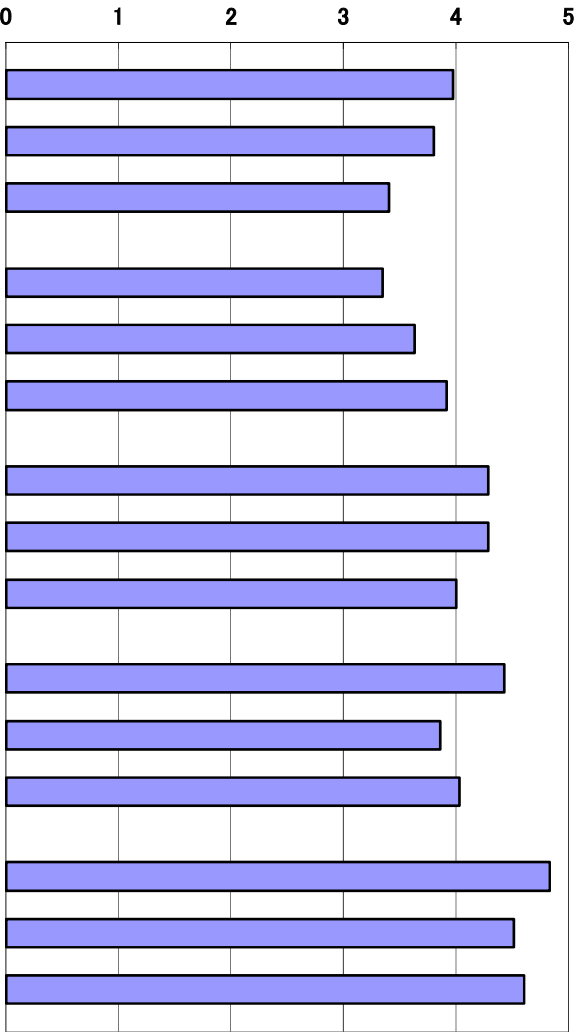
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	18 51.4	12 34.3	2 5.7	3 8.6	0 0.0	0 0.0	4.29	0.91
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	17 48.6	12 34.3	5 14.3	1 2.9	0 0.0	0 0.0	4.29	0.81
⑨	授業の進行速度は適切だった。	16 45.7	9 25.7	6 17.1	3 8.6	0 0.0	1 2.9	4.00	1.20

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	21 60.0	9 25.7	4 11.4	1 2.9	0 0.0	0 0.0	4.43	0.80
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	12 34.3	11 31.4	8 22.9	3 8.6	1 2.9	0 0.0	3.86	1.07
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	14 40.0	12 34.3	6 17.1	2 5.7	1 2.9	0 0.0	4.03	1.03

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	30 85.7	4 11.4	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.45
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	21 60.0	11 31.4	3 8.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.65
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	23 65.7	10 28.6	2 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.60



科目コード	1F0404	科目名	英語W1-1	担当教員名	Brennen L. Terrill
-------	--------	-----	--------	-------	--------------------

<commnet>

Thank you for the kind words and the helpful suggestions. Keep working hard and we can improve your English academic writing skills. Remember it is important to review your work for errors. Write as much as you can, every day to become more comfortable with writing.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

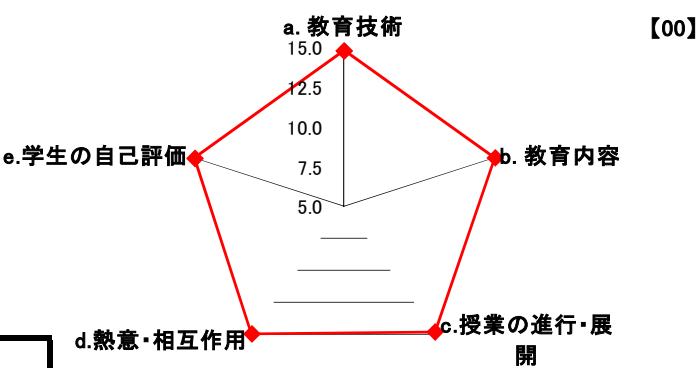
履修者数	28	回収数	26	回収率	92.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語LS1－1

担当者:

Benjamin Tutchter

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	25	14.84	0.46
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	26	15.00	0.00
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	26	14.77	0.70
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	26	14.92	0.38
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	26	14.92	0.27



N=26

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	24 92.3	1 3.8	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0	4.85	0.60
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	22 84.6	3 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	4.69	0.99
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	25 96.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	4.81	0.96

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

c. 授業の進行・展開

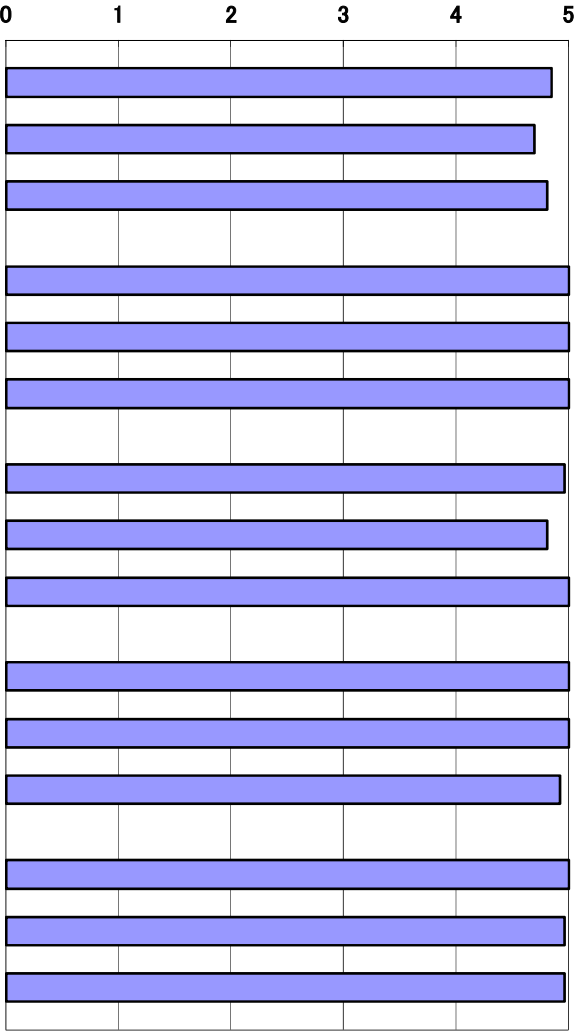
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	25 96.2	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	23 88.5	1 3.8	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.56
⑨	授業の進行速度は適切だった。	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	25 96.2	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.38

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	25 96.2	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	25 96.2	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19



科目コード	1F0601	科目名	英語LS1－1	担当教員名	Benjamin Tutchner
-------	--------	-----	---------	-------	-------------------

＜教員からのコメント＞

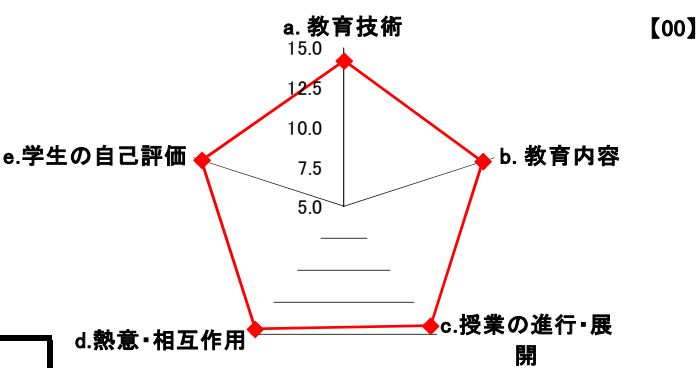
Thanks for the comments, I am always trying to improve my classes, so I'm happy to read students reactions. I will continue to try to provide varied lesson content to enable students to enjoy and participate in English language use and acquisition as much as possible.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	22	回収数	20	回収率	90.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語LS1-1
担当者:
Tony Dani

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	20	14.20	1.21
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	20	14.20	1.33
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	20	14.30	1.10
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	20	14.55	0.92
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	20	14.45	0.86



N=20

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	13 65.0	6 30.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.58
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.54
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	17 85.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	14 70.0	6 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	15 75.0	4 20.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.56

c. 授業の進行・展開

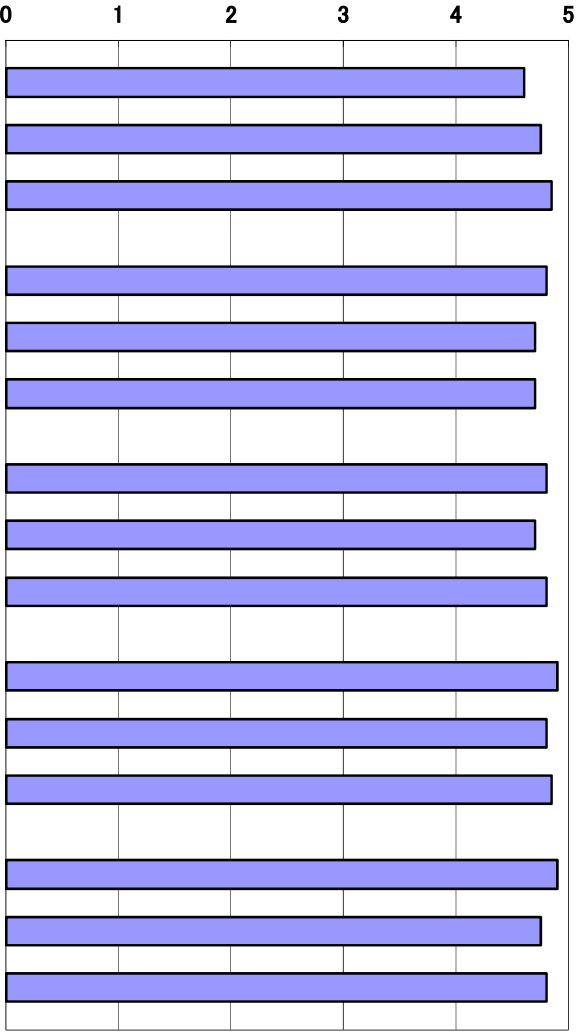
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	14 70.0	6 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46
⑨	授業の進行速度は適切だった。	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	18 90.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	17 85.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	18 90.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	15 75.0	5 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40



科目コード	1F0602	科目名	英語LS1－1	担当教員名	Tony Dani
-------	--------	-----	---------	-------	-----------

＜教員からのコメント＞

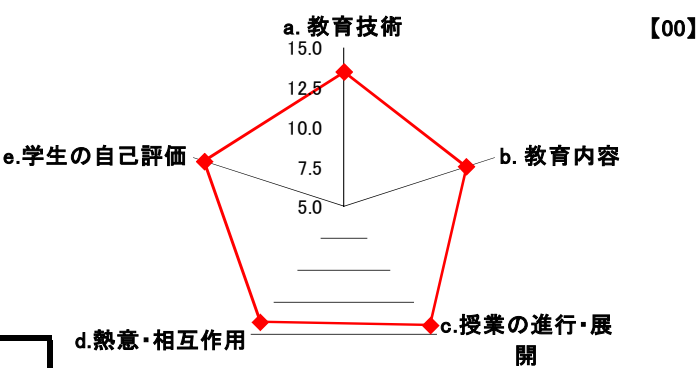
As always, I'm continuing to find ways of making my student learning experience an enjoyable one in which they can gain the confidence to express themselves in English with their classmates as well as their teacher. This I endeavor to do by taking into account my students comments as well as employing my ideas and finding interesting ways to approach the text book. This term I believe the students have been able to express themselves more through activities such as my activity the photo diary, regular presentations and quizzes which supplement their textbook.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	19	回収数	16	回収率	84.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語LS1-1
担当者:
Brennen L.Terrill

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	16	13.50	2.12
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	16	13.13	2.71
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	16	14.25	1.60
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	16	14.00	1.62
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	15	14.27	1.12



N=16

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	11 68.8	3 18.8	2 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.70
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	9 56.3	4 25.0	3 18.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.78
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	11 68.8	3 18.8	2 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.70

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	9 56.3	5 31.3	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	4.31	1.04
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	9 56.3	5 31.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	4.38	0.86
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	10 62.5	4 25.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	4.44	0.86

c. 授業の進行・展開

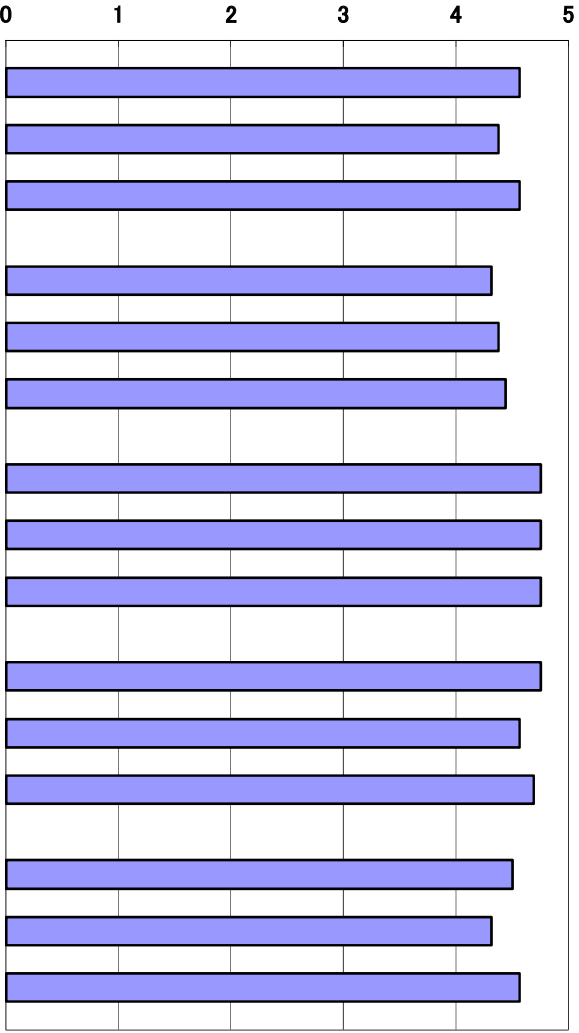
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	13 81.3	2 12.5	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.56
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	13 81.3	2 12.5	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.56
⑨	授業の進行速度は適切だった。	13 81.3	2 12.5	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.56

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	13 81.3	2 12.5	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.56
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	10 62.5	5 31.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.61
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	12 75.0	3 18.8	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.58

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	12 75.0	3 18.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	4.50	1.22
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	10 62.5	4 25.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	1 6.3	4.31	1.26
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	14 87.5	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	1 6.3	4.56	1.27



科目コード	1F0603	科目名	英語LS1-1	担当教員名	Brennen L. Terrill
-------	--------	-----	---------	-------	--------------------

<commnet>

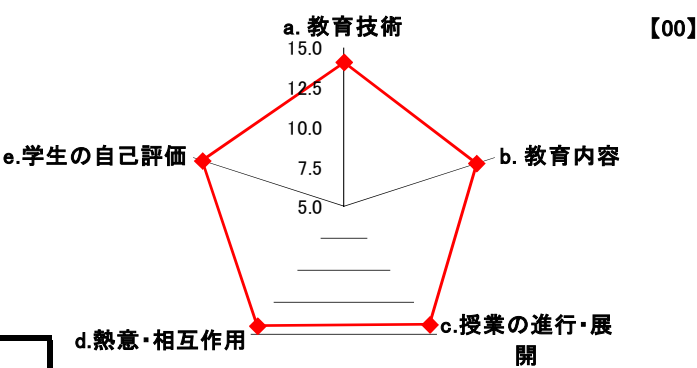
Thank you for the kind words and the helpful suggestions. Keep working hard and we can improve your English listening and speaking skills. Remember if you don't practice, you won't get better.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	22	回収数	20	回収率	90.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語LS1－1
担当者:
Benjamin Tutchter

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	20	14.10	1.51
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	20	13.80	1.78
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	20	14.20	1.50
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	20	14.30	1.38
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	20	14.40	1.28



N=20

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	14 70.0	5 25.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.57
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	14 70.0	5 25.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.57
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	17 85.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.51

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.54
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	13 65.0	5 25.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.67
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	12 60.0	6 30.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.67

c.授業の進行・展開

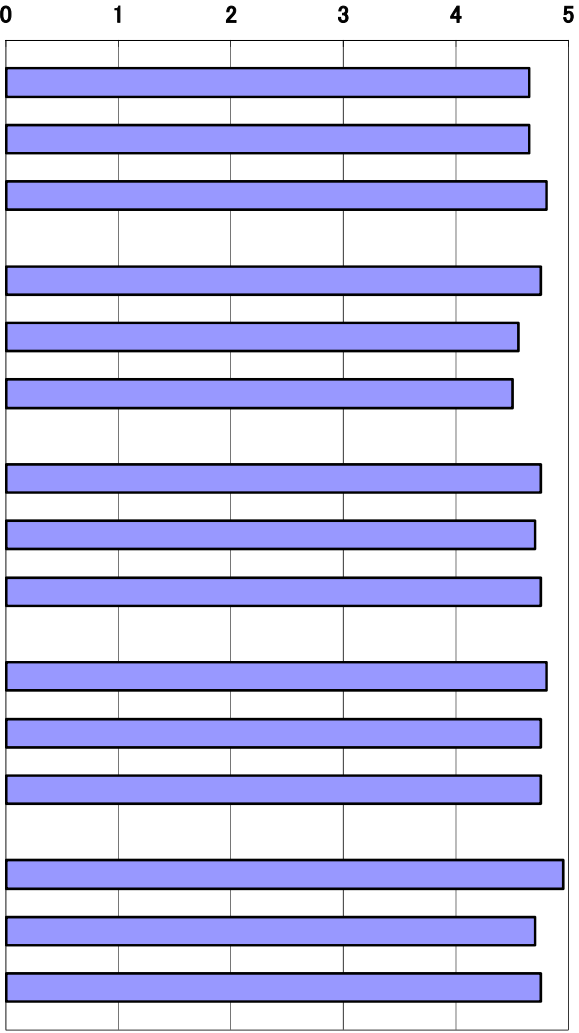
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.54
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	15 75.0	4 20.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.56
⑨	授業の進行速度は適切だった。	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.54

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.54
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.54

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	19 95.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.95	0.22
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	16 80.0	2 10.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.64
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.54



科目コード	1F0604	科目名	英語LS1－1	担当教員名	Benjamin Tutchner
-------	--------	-----	---------	-------	-------------------

＜教員からのコメント＞

I appreciated the feedback from the students. I will try to improve any of the points of dissatisfaction that were mentioned and continue with the aspects of my classes that the students responded to positively. I enjoy the Listening and Speaking classes and was very happy to read that most of the students seem to enjoy them too.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

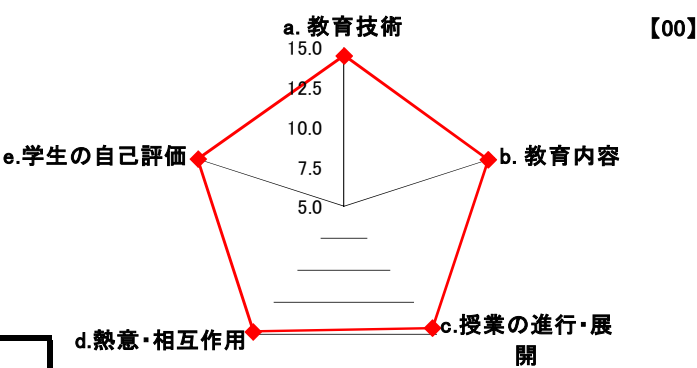
履修者数	23	回収数	23	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:英語LS1-1

担当者:

Tony Dani

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	23	14.52	1.06
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	23	14.57	0.97
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	23	14.48	0.93
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	23	14.74	0.74
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	23	14.70	0.75



N=23

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	18 78.3	4 17.4	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.53
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	20 87.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.34
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	21 91.3	2 8.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	21 91.3	2 8.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	19 82.6	4 17.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	19 82.6	4 17.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38

c. 授業の進行・展開

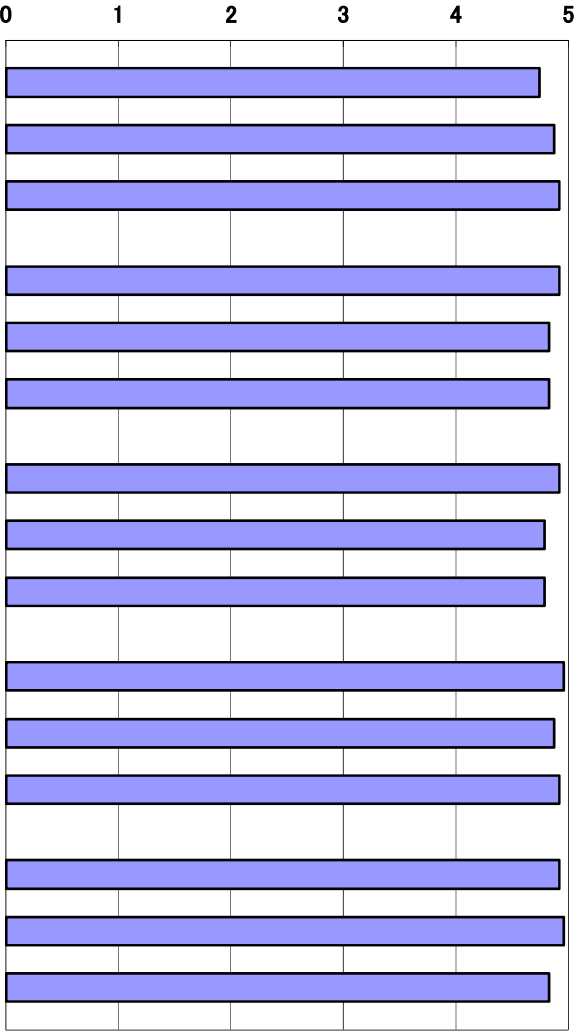
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	21 91.3	2 8.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	18 78.3	5 21.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.41
⑨	授業の進行速度は適切だった。	18 78.3	5 21.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.41

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	22 95.7	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	20 87.0	3 13.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.34
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	21 91.3	2 8.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	21 91.3	2 8.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	22 95.7	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	19 82.6	4 17.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38



科目コード	1F0605	科目名	英語LS1－1	担当教員名	Tony Dani
-------	--------	-----	---------	-------	-----------

<教員からのコメント>

I would reiterate what I've commented on with regards to Class A. Additionally, I'm encouraged to read that my students have felt that I have created a friendly learning environment in which they feel confident to express themselves. This has to be, in my opinion, the basis of any successful class. Self confidence and the ability to express themselves in English to the best of their ability are transferable skills for the career that lies ahead for them. Finally, with regard to the cost of the textbook, I'm in the process of choosing a new textbook for the course. One which should be less expensive and more streamlined.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

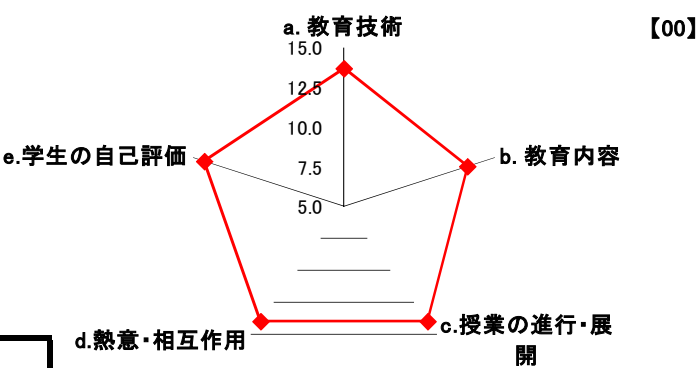
履修者数	26	回収数	25	回収率	96.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語LS1-1

担当者:

Brennen L.Terrill

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	25	13.72	1.64
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	25	13.20	2.00
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	25	13.96	1.61
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	24	13.96	1.59
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	25	14.28	1.15



N=25

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	16	8	1	0	0	0	4.60	0.57
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	15	9	1	0	0	0	4.56	0.57
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	15	9	1	0	0	0	4.56	0.57

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	13	9	3	0	0	0	4.40	0.69
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	11	11	2	1	0	0	4.28	0.78
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	17	5	2	1	0	0	4.52	0.81

c.授業の進行・展開

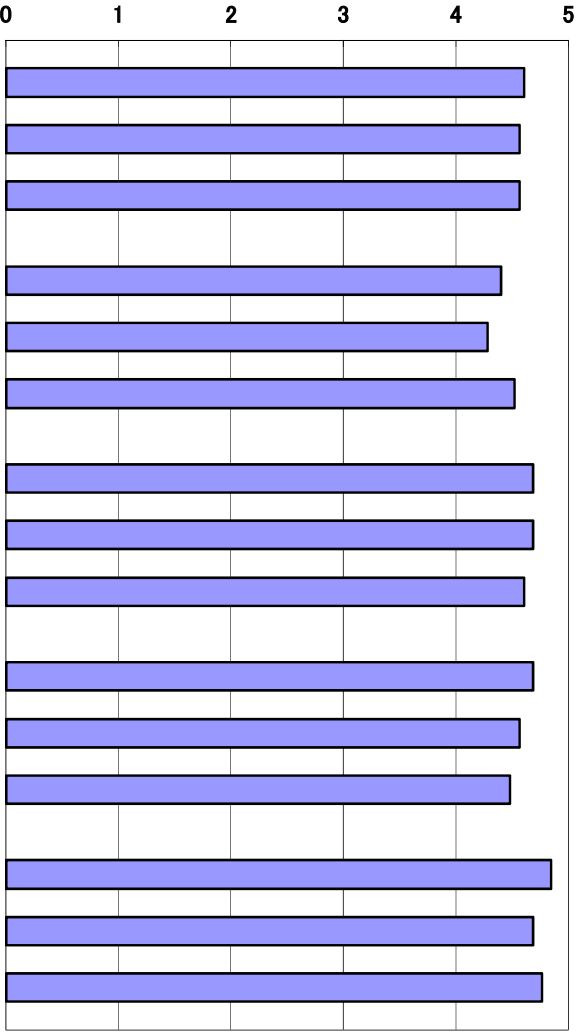
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	18	6	1	0	0	0	4.68	0.55
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	18	6	1	0	0	0	4.68	0.55
⑨	授業の進行速度は適切だった。	16	8	1	0	0	0	4.60	0.57

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	18	6	1	0	0	0	4.68	0.55
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	15	9	1	0	0	0	4.56	0.57
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	17	6	1	0	0	1	4.48	1.06

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	21	4	0	0	0	0	4.84	0.37
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	18	6	1	0	0	0	4.68	0.55
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	19	6	0	0	0	0	4.76	0.43



科目コード	1F0606	科目名	英語LS1-1	担当教員名	Brennen L. Terrill
-------	--------	-----	---------	-------	--------------------

<commnet>

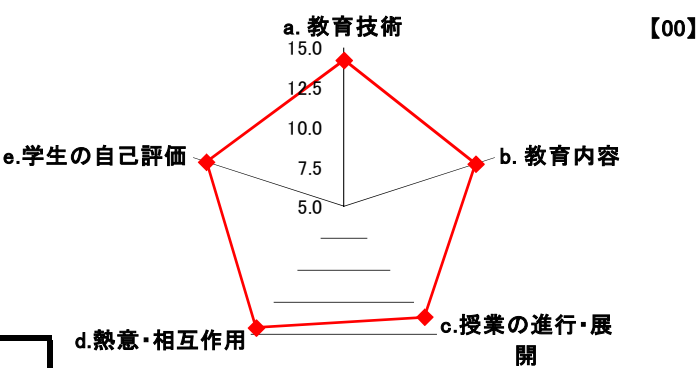
Thank you for the kind words and the helpful suggestions. Keep working hard and we can improve your English listening and speaking skills. Remember if you don't practice, you won't get better.

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	38	回収数	33	回収率	86.8%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R2－1
担当者:
皆川 健次郎

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	33	14.24	1.61
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	33	13.73	2.38
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	33	13.64	2.37
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	33	14.45	1.33
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	32	14.13	1.58



N=33

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	26 78.8	5 15.2	2 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.57
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	28 84.8	3 9.1	2 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.54
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	26 78.8	5 15.2	2 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.57

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	27 81.8	3 9.1	3 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.62
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	23 69.7	6 18.2	2 6.1	1 3.0	1 3.0	0 0.0	4.48	0.96
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	23 69.7	7 21.2	1 3.0	1 3.0	1 3.0	0 0.0	4.52	0.93

c. 授業の進行・展開

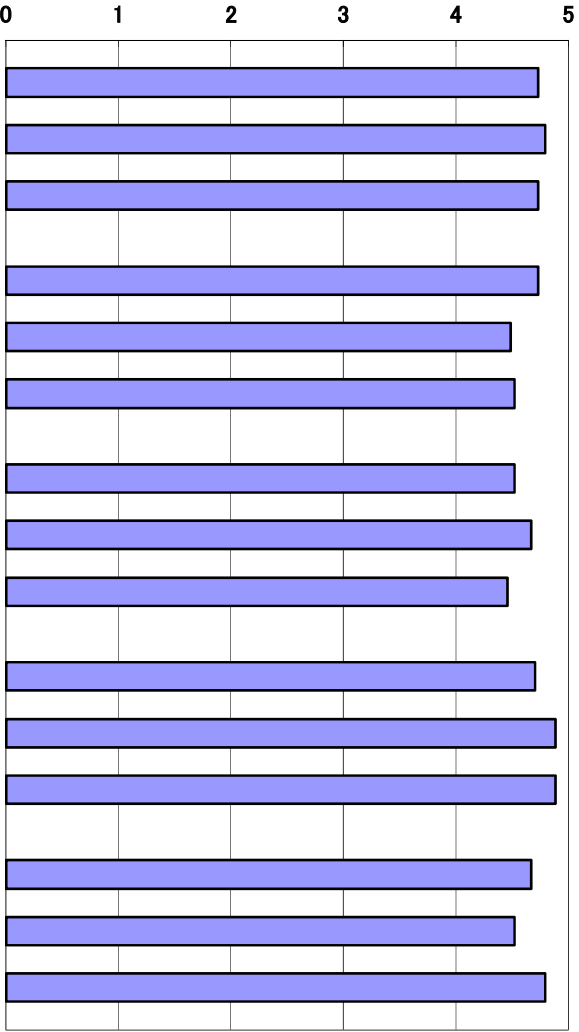
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	24 72.7	6 18.2	0 0.0	2 6.1	1 3.0	0 0.0	4.52	0.99
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	25 75.8	5 15.2	3 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.64
⑨	授業の進行速度は適切だった。	24 72.7	2 6.1	5 15.2	2 6.1	0 0.0	0 0.0	4.45	0.96

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	26 78.8	4 12.1	3 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.63
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	30 90.9	2 6.1	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.41
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	30 90.9	2 6.1	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.41

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	23 69.7	9 27.3	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.53
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	25 75.8	3 9.1	4 12.1	0 0.0	0 0.0	1 3.0	4.52	1.05
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	28 84.8	3 9.1	2 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.54



科目コード	1F0801	科目名	英語R2－1	担当教員名	皆川健次郎
-------	--------	-----	--------	-------	-------

<教員からのコメント>

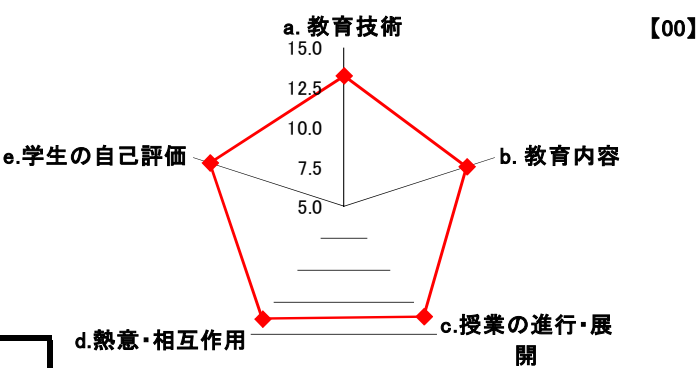
川崎先生にアドバイスを頂き、教材の難易度を少し難しくしたので、解説を多めに、「わかりやすく」と意識した結果が、前年度より良い結果を招いたと思います。英語がかなり出来る学生にとってはさらに難易度を上げて問題ないと思いますので、難易度の違う教材を用意しても良いかと思いました。アンケートありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	34	回収数	31	回収率	91.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R2－1
担当者:
富田 佳子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	31	13.26	2.02
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	31	13.13	1.96
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	31	13.58	1.76
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	31	13.74	1.80
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	31	13.90	1.59



N=31

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	17 54.8	12 38.7	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.62
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	16 51.6	13 41.9	1 3.2	1 3.2	0 0.0	0 0.0	4.42	0.71
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	16 51.6	11 35.5	3 9.7	1 3.2	0 0.0	0 0.0	4.35	0.78

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	17 54.8	11 35.5	3 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.66
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	15 48.4	12 38.7	4 12.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.35	0.70
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	15 48.4	11 35.5	5 16.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.32	0.74

c. 授業の進行・展開

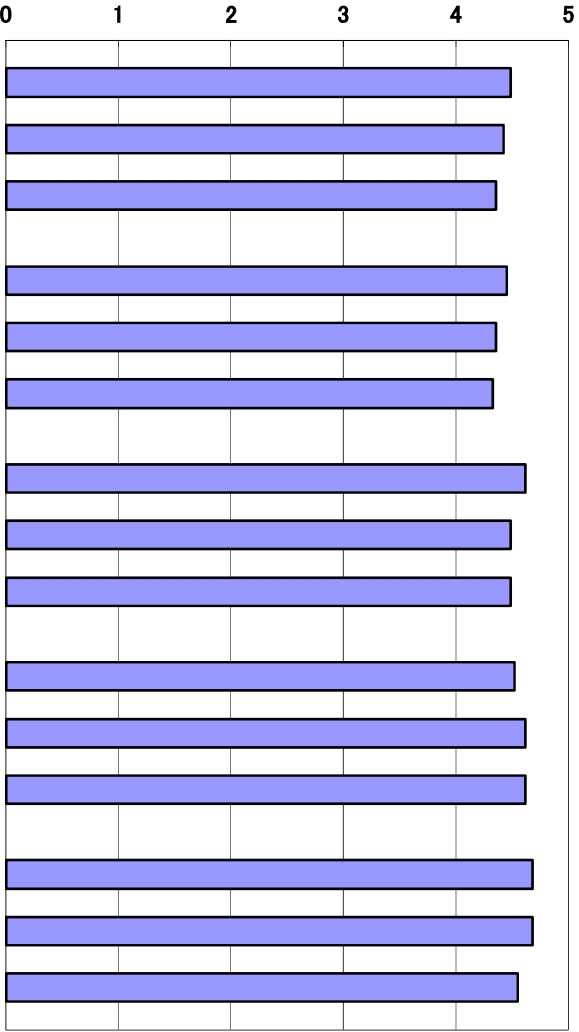
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	20 64.5	10 32.3	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.55
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	17 54.8	12 38.7	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.62
⑨	授業の進行速度は適切だった。	18 58.1	10 32.3	3 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.67

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	19 61.3	9 29.0	3 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.52	0.67
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	21 67.7	8 25.8	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.61
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	21 67.7	8 25.8	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.61

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	23 74.2	6 19.4	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.59
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	23 74.2	6 19.4	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.59
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	20 64.5	8 25.8	3 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.66



科目コード	1F0802	科目名	英語R2-1	担当教員名	富田佳子
-------	--------	-----	--------	-------	------

＜教員からのコメント＞

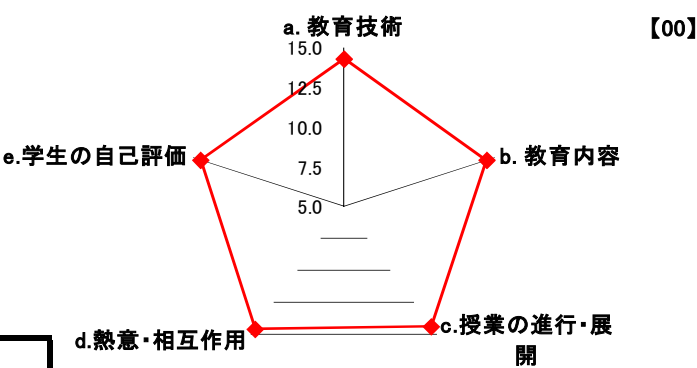
毎週、授業の復習テストがあり大変だったと思います。各自が毎週の予習・復習を行うことで意味の生まれる授業構成になっています。皆さんの英語力アップのサポートが少しでもできていたら、また、授業で身につけた積極性と自己管理能力をこれからの未来に繋げていただければ、幸いです。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	39	回収数	38	回収率	97.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R2－1
担当者:
皆川 健次郎

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	38	14.32	1.24
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	38	14.45	1.19
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	38	14.34	1.30
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	38	14.55	1.02
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	38	14.50	0.99



N=38

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	30	8	0	0	0	0	4.79	0.41
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	30	8	0	0	0	0	4.79	0.41
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	31	5	1	1	0	0	4.74	0.64

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	33	5	0	0	0	0	4.87	0.34
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	30	6	2	0	0	0	4.74	0.55
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	33	4	1	0	0	0	4.84	0.43

c. 授業の進行・展開

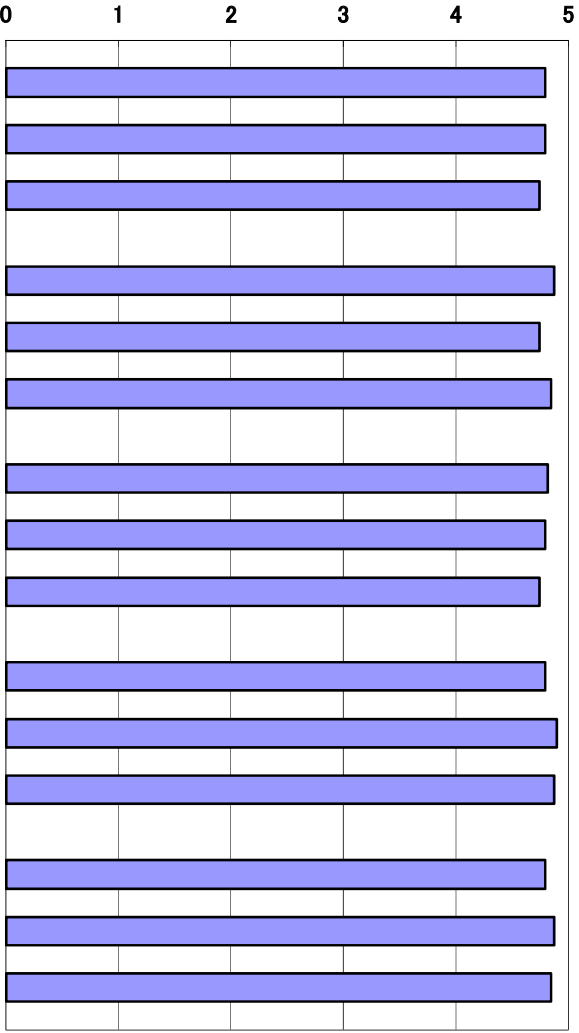
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	32	5	1	0	0	0	4.82	0.45
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	32	5	0	1	0	0	4.79	0.57
⑨	授業の進行速度は適切だった。	30	6	2	0	0	0	4.74	0.55

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	31	6	1	0	0	0	4.79	0.47
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	34	4	0	0	0	0	4.89	0.31
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	33	5	0	0	0	0	4.87	0.34

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	31	6	1	0	0	0	4.79	0.47
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	33	5	0	0	0	0	4.87	0.34
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	32	6	0	0	0	0	4.84	0.36



科目コード	1F0803	科目名	英語R2－1	担当教員名	皆川健次郎
-------	--------	-----	--------	-------	-------

<教員からのコメント>

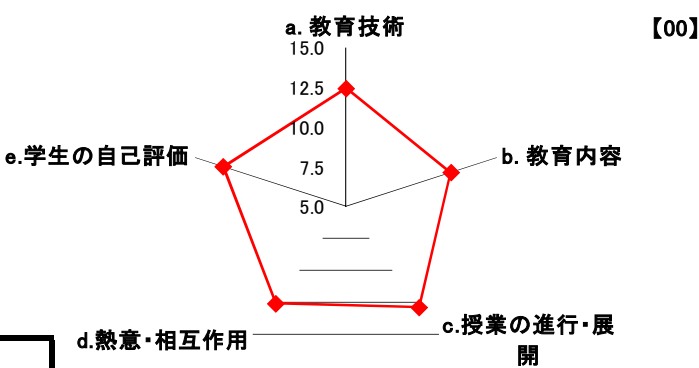
川崎先生にアドバイスを頂き、教材の難易度を少し難しくしたので、解説を多めに、「わかりやすく」と意識した結果が、前年度より良い結果を招いたと思います。英語がかなり出来る学生にとってはさらに難易度を上げて問題ないと思いますので、難易度の違う教材を用意しても良いかと思いました。アンケートありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	44	回収数	41	回収率	93.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語R2－1
担当者:
富田 佳子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	41	12.46	2.79
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	41	11.95	3.53
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	41	12.85	2.49
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	41	12.56	2.95
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	41	13.15	2.24



N=41

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	20 48.8	12 29.3	8 19.5	0 0.0	1 2.4	0 0.0	4.22	0.92
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	20 48.8	9 22.0	7 17.1	2 4.9	3 7.3	0 0.0	4.00	1.23
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	21 51.2	11 26.8	8 19.5	0 0.0	1 2.4	0 0.0	4.24	0.93

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	21 51.2	8 19.5	9 22.0	2 4.9	1 2.4	0 0.0	4.12	1.06
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	20 48.8	7 17.1	7 17.1	3 7.3	4 9.8	0 0.0	3.88	1.35
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	20 48.8	10 24.4	5 12.2	1 2.4	5 12.2	0 0.0	3.95	1.34

c. 授業の進行・展開

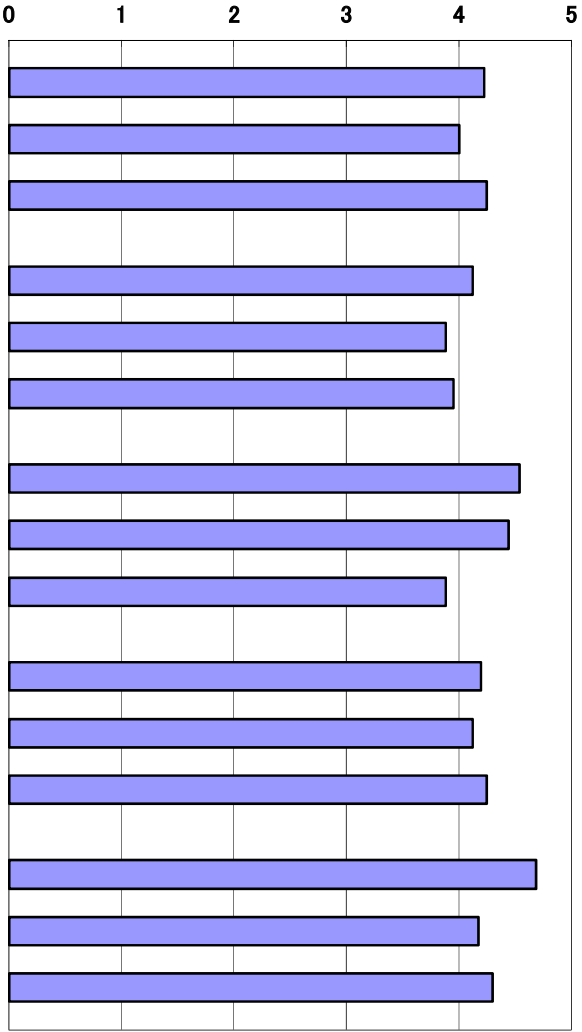
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	26 63.4	11 26.8	4 9.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.54	0.67
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	24 58.5	12 29.3	4 9.8	1 2.4	0 0.0	0 0.0	4.44	0.77
⑨	授業の進行速度は適切だった。	21 51.2	6 14.6	7 17.1	2 4.9	5 12.2	0 0.0	3.88	1.40

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	21 51.2	12 29.3	5 12.2	1 2.4	2 4.9	0 0.0	4.20	1.06
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	21 51.2	8 19.5	9 22.0	2 4.9	1 2.4	0 0.0	4.12	1.06
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	22 53.7	9 22.0	9 22.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	4.24	0.96

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	30 73.2	9 22.0	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.56
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	21 51.2	9 22.0	9 22.0	1 2.4	1 2.4	0 0.0	4.17	1.01
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	23 56.1	10 24.4	6 14.6	1 2.4	1 2.4	0 0.0	4.29	0.97



科目コード	1F0804	科目名	英語R2-1	担当教員名	富田佳子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

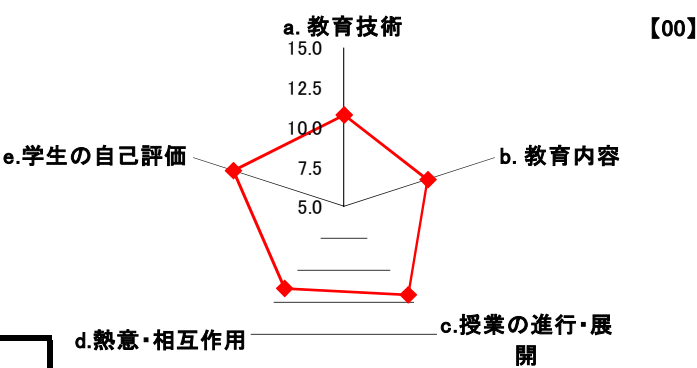
毎週、授業の復習テストがあり大変だったと思います。各自が毎週の予習・復習を行うことで意味の生まれる授業構成になっています。皆さんの英語力アップのサポートが少しでもできていたら、また、授業で身につけた積極性と自己管理能力をこれからの未来に繋げていただければ、幸いです。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	23	回収数	18	回収率	78.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語W2-1
担当者:
鈴木 実佳

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	18	10.78	2.32
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	18	10.56	2.57
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	18	11.89	1.52
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	18	11.39	2.34
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	18	12.33	1.49



N=18

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	2 11.1	9 50.0	6 33.3	0 0.0	1 5.6	0 0.0	3.61	0.89
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	2 11.1	7 38.9	6 33.3	3 16.7	0 0.0	0 0.0	3.44	0.90
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	2 11.1	10 55.6	5 27.8	1 5.6	0 0.0	0 0.0	3.72	0.73

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	2 11.1	10 55.6	4 22.2	2 11.1	0 0.0	0 0.0	3.67	0.82
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	2 11.1	9 50.0	3 16.7	3 16.7	1 5.6	0 0.0	3.44	1.07
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	2 11.1	8 44.4	5 27.8	2 11.1	1 5.6	0 0.0	3.44	1.01

c.授業の進行・展開

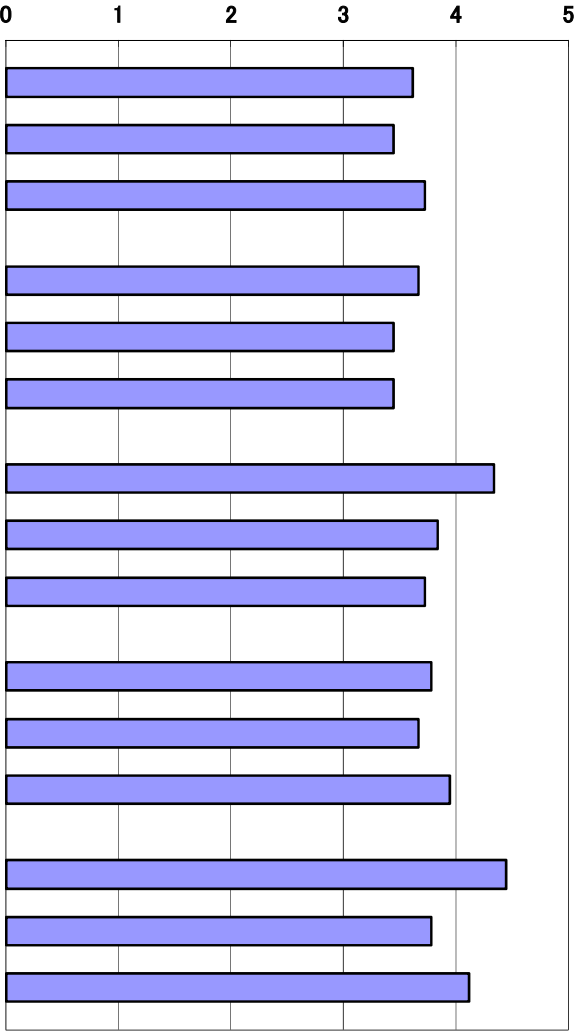
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	6 33.3	12 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.47
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	2 11.1	11 61.1	5 27.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.83	0.60
⑨	授業の進行速度は適切だった。	2 11.1	11 61.1	4 22.2	0 0.0	1 5.6	0 0.0	3.72	0.87

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	2 11.1	12 66.7	3 16.7	0 0.0	1 5.6	0 0.0	3.78	0.85
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	2 11.1	11 61.1	3 16.7	1 5.6	1 5.6	0 0.0	3.67	0.94
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	2 11.1	14 77.8	1 5.6	1 5.6	0 0.0	0 0.0	3.94	0.62

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	8 44.4	10 55.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.50
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	2 11.1	12 66.7	3 16.7	0 0.0	1 5.6	0 0.0	3.78	0.85
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	5 27.8	10 55.6	3 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.11	0.66



科目コード	1F1001	科目名	英語W2-1	担当教員名	鈴木実佳
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

授業は、英作文の練習でしたが、書きたいと思うようになるであろう文章の語彙や用法をまずは仕入れて、書いてもらおうと、International Federation of Red Cross and Red Crescent Societiesのウェブサイト掲載の文書を使い、意味を理解することや、文章の道標になっている語句、文法上の解説を行い、それを使って自分で思っていることを書くという手順で行いました。将来的に、看護の仕事をしているときなどに、自分の仕事の意味や、赤十字の世界的展開を考え、英語で説明する必要性が生じたときに、例えば、作文のときに学んだ、とか、英語のページにいけばこんなこと書いてあるんだった、参考にしてしゃべってみよう、とか思ってもらえることができれば、幸いです。

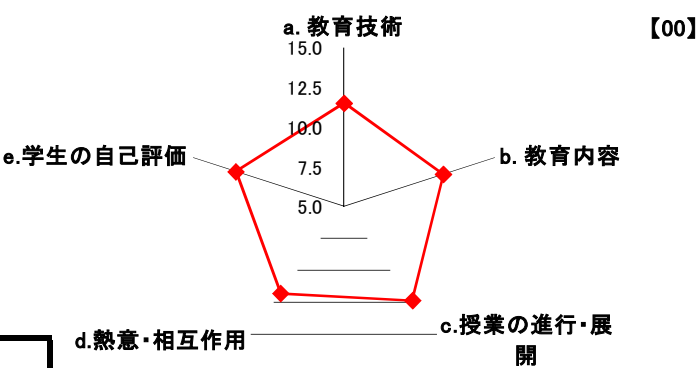
多くの人が教育技術、授業内容、進行などについてまあまあだと思い、ある程度の満足感を得たと受け取っています。そうは思わなかった人の話を聞いてみたいです。いずれにしても、この授業で学んだことが何らかの役に立つようにと願っています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	27	回収数	24	回収率	88.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語W2－1
担当者:
鈴木 実佳

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	24	11.54	3.25
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	24	11.58	3.50
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	24	12.33	2.48
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	23	11.78	3.26
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	24	12.17	2.25



N=24

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	8 33.3	7 29.2	6 25.0	1 4.2	2 8.3	0 0.0	3.75	1.20
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	8 33.3	6 25.0	6 25.0	2 8.3	2 8.3	0 0.0	3.67	1.25
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	11 45.8	7 29.2	5 20.8	0 0.0	1 4.2	0 0.0	4.13	1.01

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	9 37.5	7 29.2	5 20.8	2 8.3	1 4.2	0 0.0	3.88	1.13
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	9 37.5	8 33.3	3 12.5	2 8.3	2 8.3	0 0.0	3.83	1.25
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	9 37.5	8 33.3	3 12.5	3 12.5	1 4.2	0 0.0	3.88	1.17

c. 授業の進行・展開

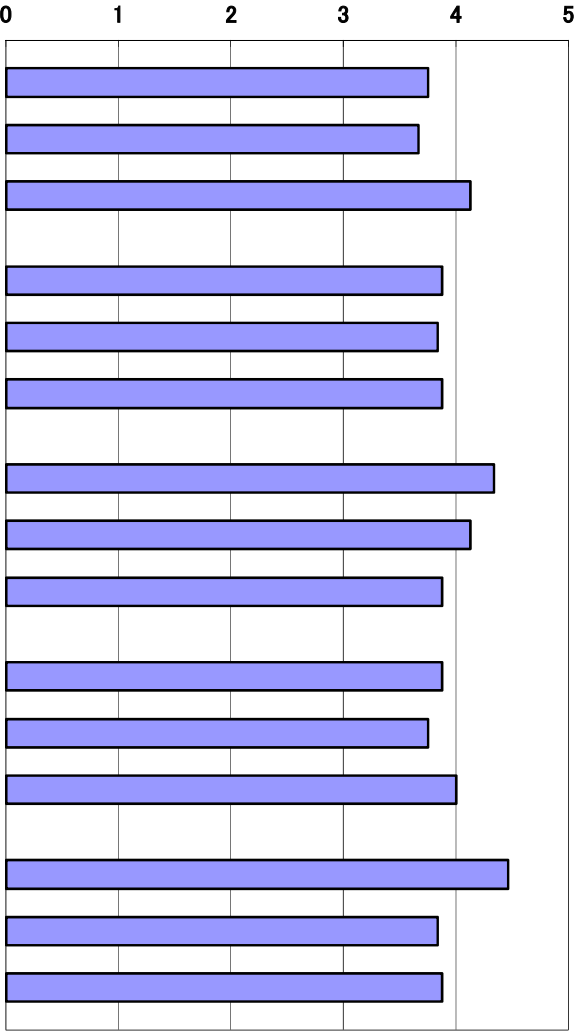
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	14 58.3	4 16.7	6 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.85
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	10 41.7	7 29.2	7 29.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.13	0.83
⑨	授業の進行速度は適切だった。	9 37.5	7 29.2	5 20.8	2 8.3	1 4.2	0 0.0	3.88	1.13

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	9 37.5	6 25.0	7 29.2	1 4.2	1 4.2	0 0.0	3.88	1.09
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	9 37.5	6 25.0	6 25.0	1 4.2	1 4.2	1 4.2	3.75	1.33
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10 41.7	7 29.2	5 20.8	1 4.2	1 4.2	0 0.0	4.00	1.08

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	13 54.2	9 37.5	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.46	0.64
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	7 29.2	9 37.5	6 25.0	1 4.2	1 4.2	0 0.0	3.83	1.03
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	8 33.3	9 37.5	4 16.7	2 8.3	1 4.2	0 0.0	3.88	1.09



科目コード	1F1002	科目名	英語W2-1	担当教員名	鈴木実佳
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

授業は、英作文の練習でしたが、書きたいと思うようになるであろう文章の語彙や用法をまずは仕入れて、書いてもらおうと、International Federation of Red Cross and Red Crescent Societiesのウェブサイト掲載の文書を使い、意味を理解することや、文章の道標になっている語句、文法上の解説を行い、それを使って自分で思っていることを書くという手順で行いました。将来的に、看護の仕事をしているときなどに、自分の仕事の意味や、赤十字の世界的展開を考え、英語で説明する必要性が生じたときに、例えば、作文のときに学んだ、とか、英語のページにいけばこんなこと書いてあるんだった、参考にしてしゃべってみよう、とか思ってもらえることができれば、幸いです。

自由記述部分のコメントについて。かなり厳しい内容が4件あり、大いに反省するとともに今後の参考にさせていただきます。「質問はしやすかった」という反応はとても嬉しいです。

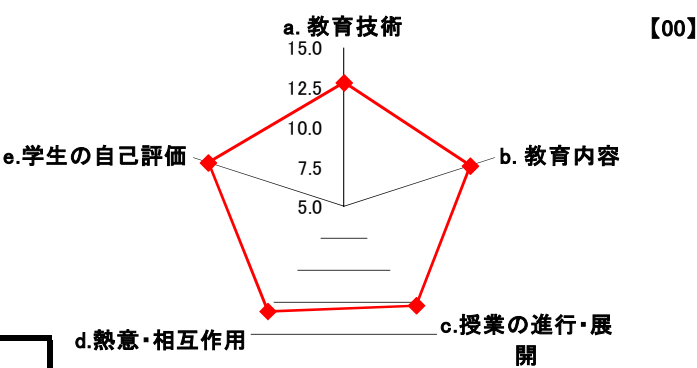
多くの人が教育技術、授業内容、進行などについてまあまあ以上だと思い、ある程度の満足感を得たと受け取っています。そうは思わなかった人の話を聞いてみたいです。いずれにしても、この授業で学んだことが何らかの役に立つようにと願っています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	11	回収数	11	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:英語W2-1
担当者:
川崎 修一

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	11	12.82	1.19
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	11	13.36	1.77
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	11	12.73	1.81
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	11	13.18	1.40
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	11	14.00	1.21



N=11

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3 27.3	8 72.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.27	0.45
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	2 18.2	9 81.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.39
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	4 36.4	7 63.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.48

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	5 45.5	5 45.5	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.64
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	6 54.5	4 36.4	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.66
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	7 63.6	3 27.3	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.66

c.授業の進行・展開

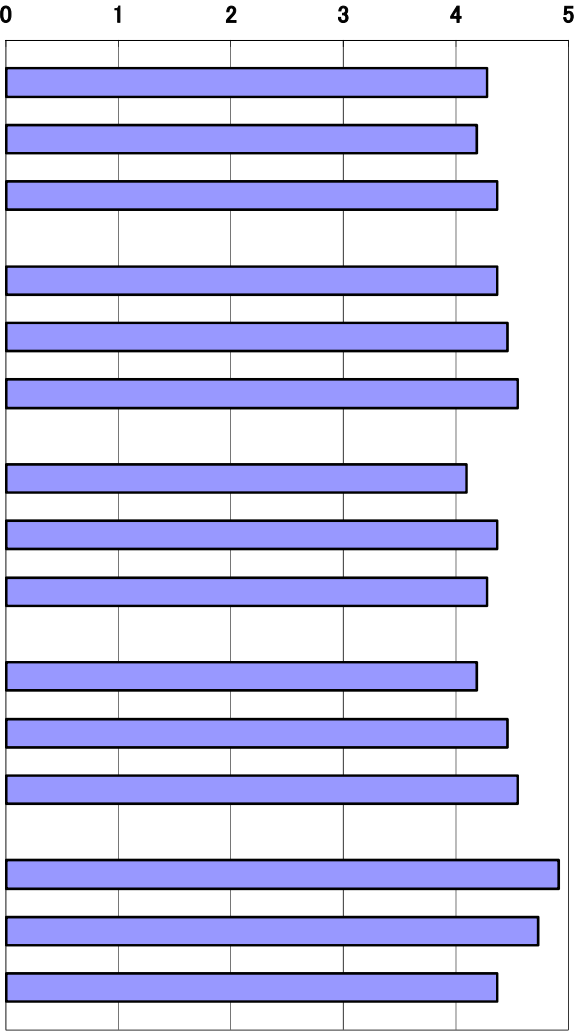
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	4 36.4	5 45.5	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	4.09	0.90
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	5 45.5	5 45.5	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.64
⑨	授業の進行速度は適切だった。	4 36.4	6 54.5	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.27	0.62

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	4 36.4	5 45.5	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.72
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	5 45.5	6 54.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.50
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	6 54.5	5 45.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.50

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	10 90.9	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.29
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	6 54.5	3 27.3	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.77



科目コード	1F1003	科目名	英語W2-1	担当教員名	川崎修一
-------	--------	-----	--------	-------	------

＜教員からのコメント＞

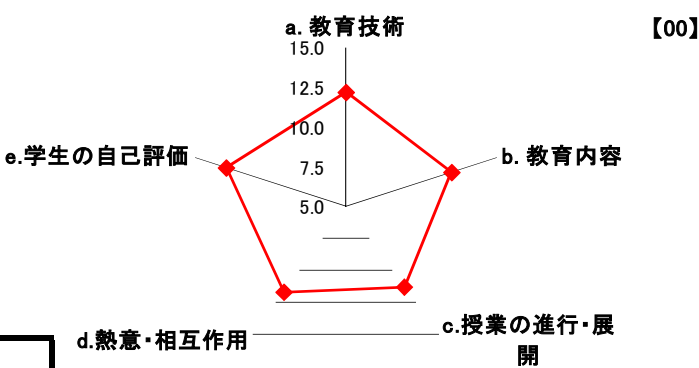
良かった点としては、クラスの雰囲気も良く基本から丁寧に学べたことが挙げられました。大人な学生ばかりで真剣に課題にも取り組んでくれたおかげです。心より感謝します。改善点としては、添削した課題の解説を口頭で一人ひとりに丁寧にすること、また課題返却の期限を厳守することが指摘されました。来年はこの2点を特に意識して授業運営に努めたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	18	回収数	18	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:英語LS2-1
担当者:
川崎 修一

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	18	12.22	3.68
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	18	12.00	3.99
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	18	11.28	4.27
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	18	11.67	4.26
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	18	12.94	3.46



N=18

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	10	3	3	1	1	0	4.11	1.20
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	10	3	3	1	1	0	4.11	1.20
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	10	3	1	3	1	0	4.00	1.33

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	10	3	2	2	1	0	4.06	1.27
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	10	3	2	2	1	0	4.06	1.27
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	10	3	1	1	3	0	3.89	1.52

c.授業の進行・展開

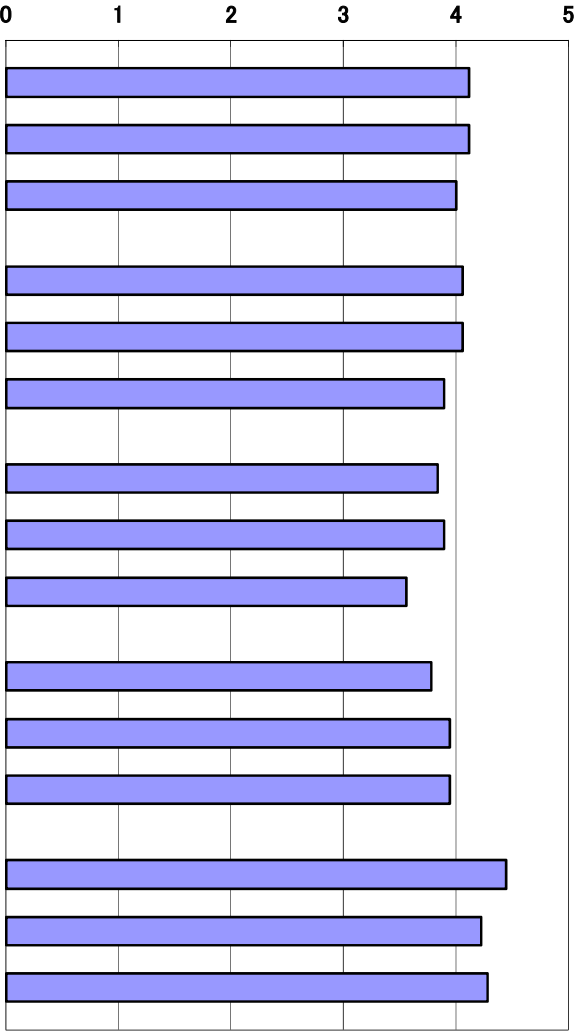
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	9	3	1	4	1	0	3.83	1.38
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	10	2	2	2	2	0	3.89	1.45
⑨	授業の進行速度は適切だった。	8	3	1	3	3	0	3.56	1.57

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	9	3	2	1	3	0	3.78	1.51
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	10	2	2	3	1	0	3.94	1.35
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10	3	1	2	2	0	3.94	1.43

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	14	1	1	1	1	0	4.44	1.17
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	12	1	3	1	1	0	4.22	1.23
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	12	2	2	1	1	0	4.28	1.19



科目コード	1F1200	科目名	英語LS2-1	担当教員名	川崎修一
-------	--------	-----	---------	-------	------

<教員からのコメント>

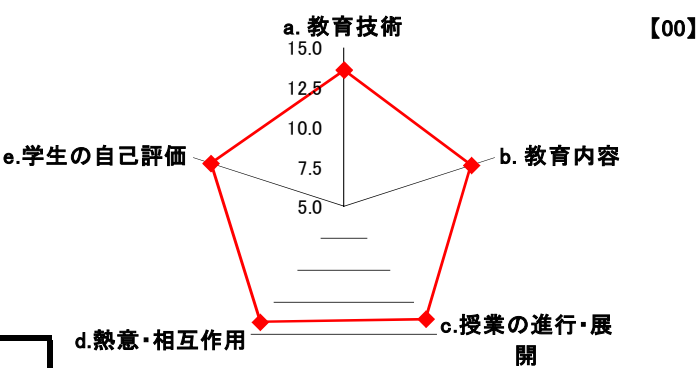
良かった点としては、概して、大変だったが楽しく勉強できプレゼンの技術を身につけることができ自信がついたとの感想でした。また、履修者は全員本当にまじめにがんばってくれました。心より感謝します。一方、改善点としてはプレゼン3回が大変すぎたこと、スケジュールが途中で変更を余儀なくされたことが挙げられました。まさにそのとおりですので、来年は受講生の人数やレベルに応じて授業マネジメントに努めたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	20	回収数	18	回収率	90.0%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:英語文献を読むⅠ
担当者:
川崎 修一

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	18	13.61	1.83
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	18	13.44	1.86
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	18	13.78	1.55
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	16	14.00	1.37
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	18	13.83	1.64



N=18

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	12 66.7	6 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	12 66.7	4 22.2	2 11.1	0 0.0	0 0.0	4.56	0.68
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	11 61.1	3 16.7	4 22.2	0 0.0	0 0.0	4.39	0.83

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	10 55.6	5 27.8	3 16.7	0 0.0	0 0.0	4.39	0.76
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	10 55.6	7 38.9	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.50	0.60
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	11 61.1	6 33.3	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.56	0.60

c.授業の進行・展開

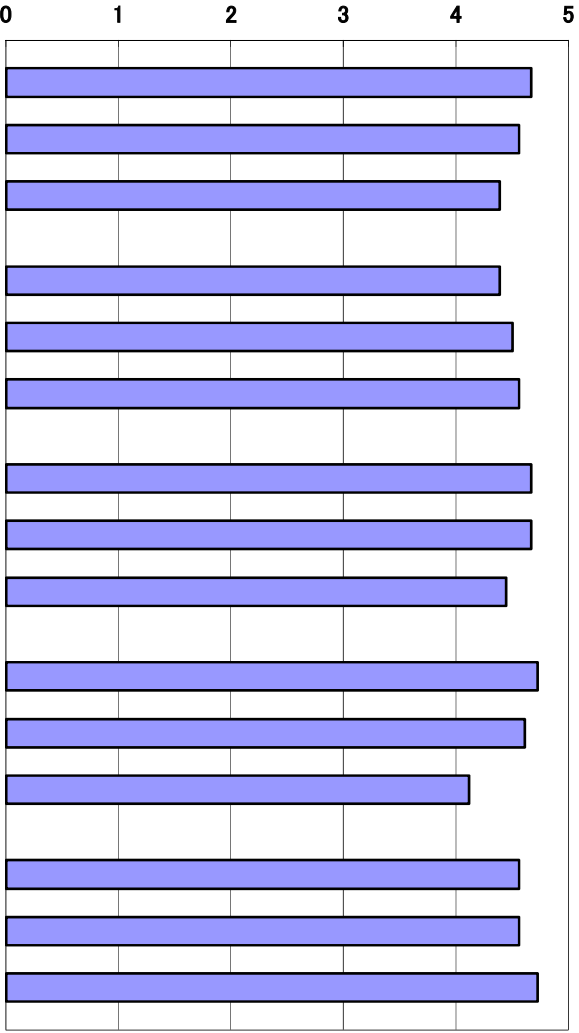
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	13 72.2	4 22.2	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.67	0.58
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	13 72.2	4 22.2	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.67	0.58
⑨	授業の進行速度は適切だった。	10 55.6	6 33.3	2 11.1	0 0.0	0 0.0	4.44	0.68

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	13 72.2	5 27.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.45
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	12 66.7	5 27.8	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.61	0.59
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10 55.6	6 33.3	0 0.0	0 0.0	2 11.1	4.11	1.52

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	11 61.1	6 33.3	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.56	0.60
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	11 61.1	6 33.3	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.56	0.60
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	14 77.8	3 16.7	1 5.6	0 0.0	0 0.0	4.72	0.56



科目コード	1F1400	科目名	英語文献を読む I	担当教員名	川崎修一
-------	--------	-----	-----------	-------	------

＜教員からのコメント＞

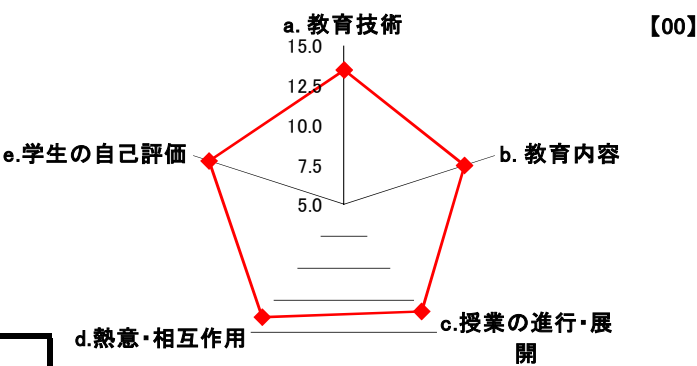
良かった点としては、楽しく学べたこと、基本から学び自分の弱点が明らかになったことなどが挙げられました。履修者は難解な英文にもかかわらず、予習を欠かさず真剣に授業に取り組んでくれました。心より感謝します。改善点は明記されていませんでしたが、時間帯を1限から変えてほしいという要望はありました。ただこれはカリキュラム全体に関わることなのでお応えできません。ご了承下さい。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	46	回収数	42	回収率	91.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目: 中国語 I
担当者:
王 英輝

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	42	13.50	1.67
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	42	13.00	2.02
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	42	13.33	1.89
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	42	13.79	1.75
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	42	13.95	1.43



N=42

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	23 54.8	16 38.1	3 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.63
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	23 54.8	17 40.5	2 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.59
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	24 57.1	16 38.1	2 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.52	0.59

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	23 54.8	15 35.7	4 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.66
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	20 47.6	16 38.1	5 11.9	1 2.4	0 0.0	0 0.0	4.31	0.77
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	17 40.5	19 45.2	5 11.9	1 2.4	0 0.0	0 0.0	4.24	0.75

c. 授業の進行・展開

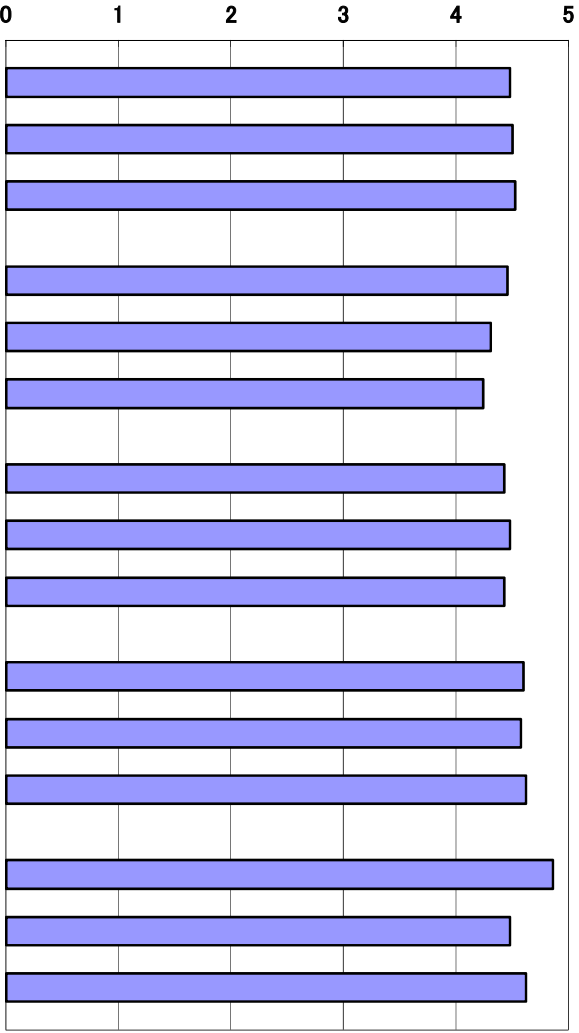
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	22 52.4	16 38.1	4 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.43	0.66
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	24 57.1	14 33.3	4 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.66
⑨	授業の進行速度は適切だった。	22 52.4	16 38.1	4 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.43	0.66

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	27 64.3	13 31.0	2 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.58
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	27 64.3	12 28.6	3 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.62
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	29 69.0	10 23.8	3 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.62

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	37 88.1	4 9.5	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.41
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	25 59.5	13 31.0	3 7.1	1 2.4	0 0.0	0 0.0	4.48	0.73
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	28 66.7	12 28.6	2 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.58



科目コード	1F1601	科目名	中国語 I	担当教員名	王 英輝
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

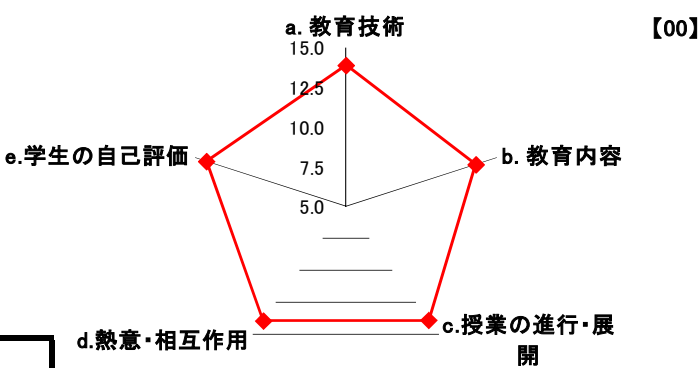
中国語はみなさんのほとんどが初めて習う外国語なので、最初はとても難しいと感じる人もいたと思いますが、みなさん授業にとってもまじめに取り組んで、外国語を勉強する楽しさを感じてもらえたようで、よかったです。中国語や中国の文化に少しでも興味を持ってもらえれば幸いです。これからもみなさんと一緒に楽しい授業ができるように努めていきたいです。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	46	回収数	41	回収率	89.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:中国語 I
担当者:
王 英輝

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	41	13.93	1.58
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	41	13.61	1.67
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	41	13.88	1.68
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	41	13.90	1.69
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	40	14.25	1.43



N=41

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	28 68.3	11 26.8	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.57
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	30 73.2	9 22.0	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.56
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	27 65.9	12 29.3	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.58

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	23 56.1	16 39.0	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.59
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	23 56.1	16 39.0	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.59
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	26 63.4	13 31.7	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.59	0.58

c. 授業の進行・展開

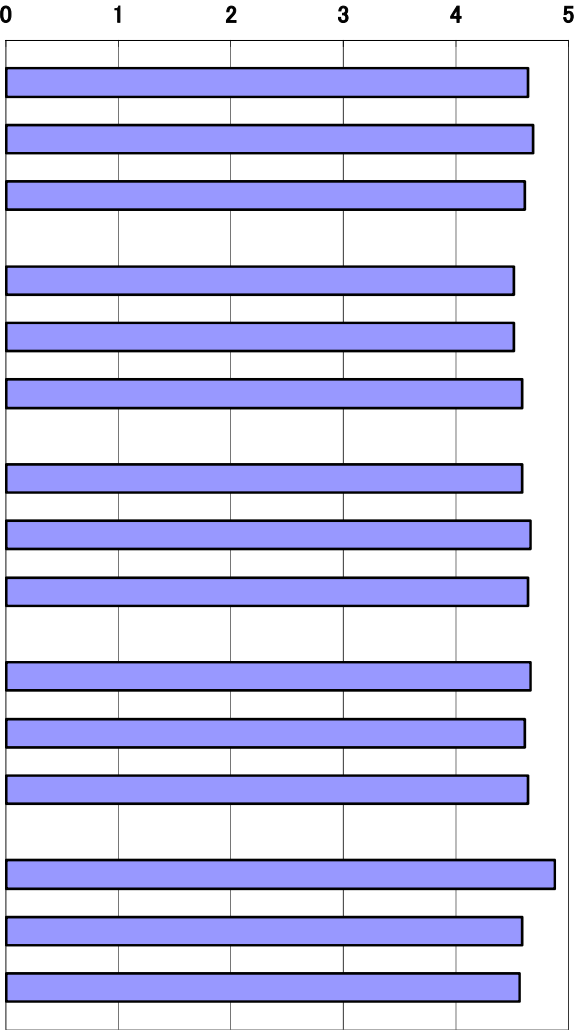
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	26 63.4	13 31.7	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.59	0.58
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	29 70.7	10 24.4	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.57
⑨	授業の進行速度は適切だった。	28 68.3	11 26.8	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.57

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	29 70.7	10 24.4	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.57
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	27 65.9	12 29.3	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.58
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	28 68.3	11 26.8	2 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.57

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	37 90.2	3 7.3	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.39
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	30 73.2	8 19.5	2 4.9	0 0.0	0 0.0	1 2.4	4.59	0.91
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	30 73.2	7 17.1	3 7.3	0 0.0	0 0.0	1 2.4	4.56	0.94



科目コード	1F1602	科目名	中国語 I	担当教員名	王 英輝
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

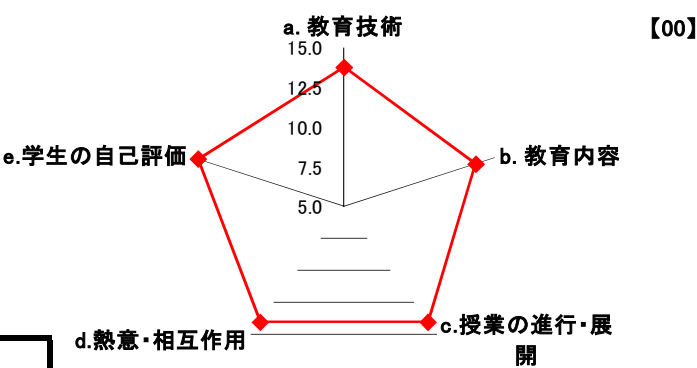
中国語はみなさんのほとんどが初めて習う外国語なので、最初はとても難しいと感じる人もいたと思いますが、みなさん授業にとってもまじめに取り組んで、外国語を勉強する楽しさを感じてもらえたようで、よかったですと思います。中国語や中国の文化に少しでも興味を持ってもらえれば幸いです。これからもみなさんと一緒に楽しい授業ができるように努めていきたいと思っています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	21	回収数	19	回収率	90.5%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:フランス語 I
担当者:
坂原 真里

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	19	13.79	1.67
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	19	13.74	1.58
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	19	14.00	1.45
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	19	14.00	1.41
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	19	14.68	0.65



N=19

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	15	4	0	0	0	0	4.79	0.41
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	12	5	1	1	0	0	4.47	0.82
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	12	5	2	0	0	0	4.53	0.68

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	10	5	4	0	0	0	4.32	0.80
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	14	5	0	0	0	0	4.74	0.44
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	14	4	1	0	0	0	4.68	0.57

c. 授業の進行・展開

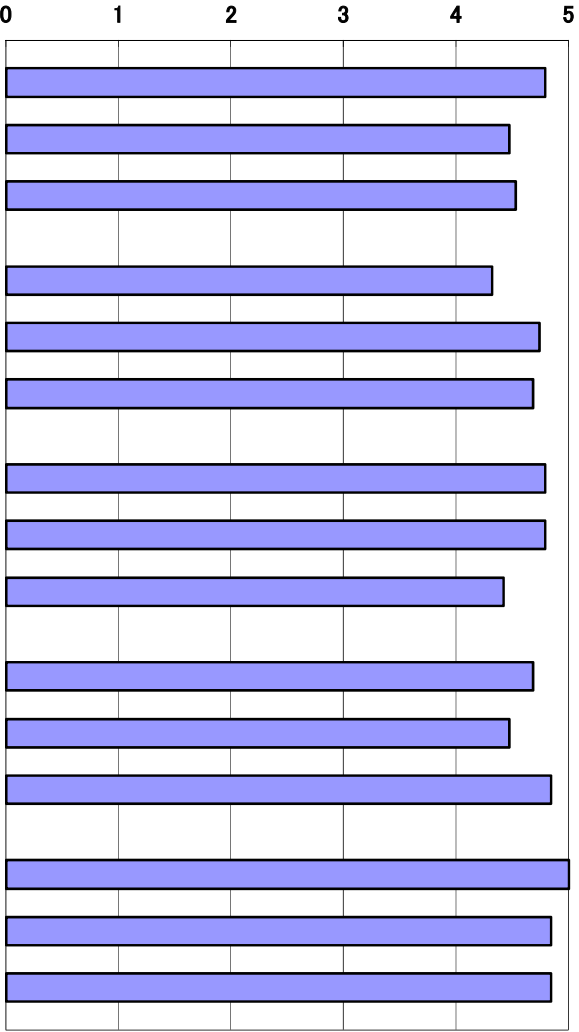
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	16	2	1	0	0	0	4.79	0.52
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	16	2	1	0	0	0	4.79	0.52
⑨	授業の進行速度は適切だった。	11	6	1	1	0	0	4.42	0.82

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	13	6	0	0	0	0	4.68	0.46
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	13	3	2	1	0	0	4.47	0.88
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	16	3	0	0	0	0	4.84	0.36

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	19	0	0	0	0	0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	16	3	0	0	0	0	4.84	0.36
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	16	3	0	0	0	0	4.84	0.36



科目コード	1F1801	科目名	フランス語Ⅰ	担当教員名	坂原眞里
-------	--------	-----	--------	-------	------

＜教員からのコメント＞

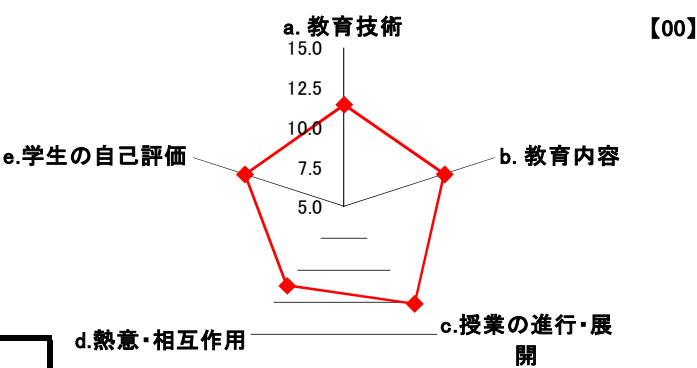
学生による自由記述の回答を読むと、学ぶことで関心が深まり楽しみが生まれ、学習意欲が高まって、その成果に満足する様子が感じ取れます。嬉しく思います。一方、授業の進め方が速い、詳しい説明がほしいという記述がありました。教科目標に沿ってできるところは、学期中でも改善します。遠慮なく意見を聞かせてください。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	17	回収数	14	回収率	82.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目: フランス語 I
担当者:
坂原 真里

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	14	11.43	2.06
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	14	11.64	1.95
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	14	12.57	2.47
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	14	11.14	2.64
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	14	11.57	2.35



N=14

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3 21.4	7 50.0	4 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.93	0.70
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3 21.4	4 28.6	6 42.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	3.64	0.89
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3 21.4	6 42.9	5 35.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.86	0.74

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	2 14.3	5 35.7	5 35.7	2 14.3	0 0.0	0 0.0	3.50	0.91
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	4 28.6	7 50.0	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.07	0.70
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 35.7	5 35.7	4 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.07	0.80

c. 授業の進行・展開

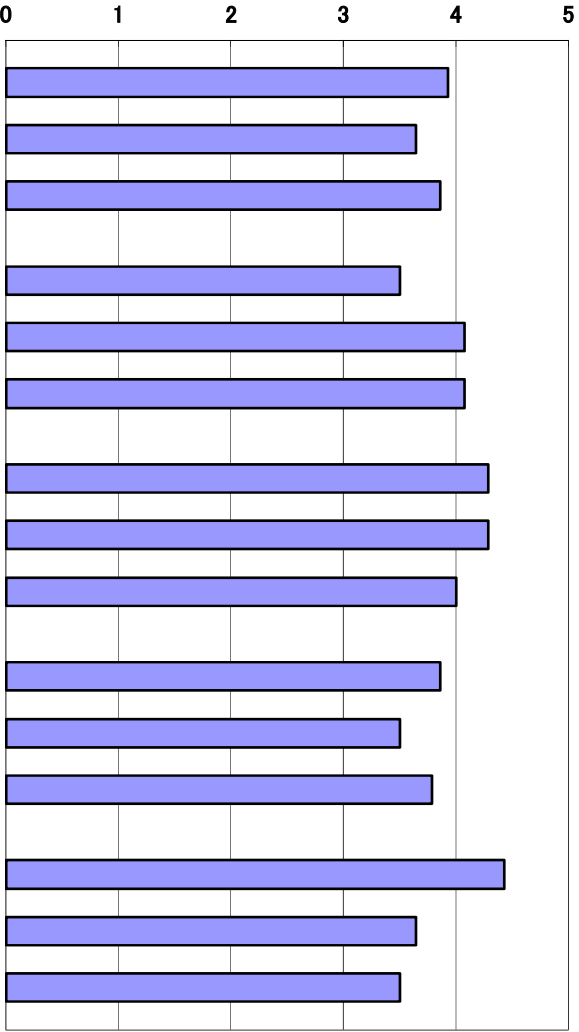
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	7 50.0	4 28.6	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.29	0.80
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	7 50.0	4 28.6	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.29	0.80
⑨	授業の進行速度は適切だった。	6 42.9	3 21.4	4 28.6	1 7.1	0 0.0	0 0.0	4.00	1.00

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	5 35.7	2 14.3	7 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.86	0.91
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	3 21.4	4 28.6	5 35.7	1 7.1	1 7.1	0 0.0	3.50	1.12
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	5 35.7	2 14.3	6 42.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	3.79	1.01

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	8 57.1	4 28.6	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.43	0.73
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4 28.6	3 21.4	5 35.7	2 14.3	0 0.0	0 0.0	3.64	1.04
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	2 14.3	5 35.7	5 35.7	2 14.3	0 0.0	0 0.0	3.50	0.91



科目コード	1F1802	科目名	フランス語Ⅰ	担当教員名	坂原眞里
-------	--------	-----	--------	-------	------

＜教員からのコメント＞

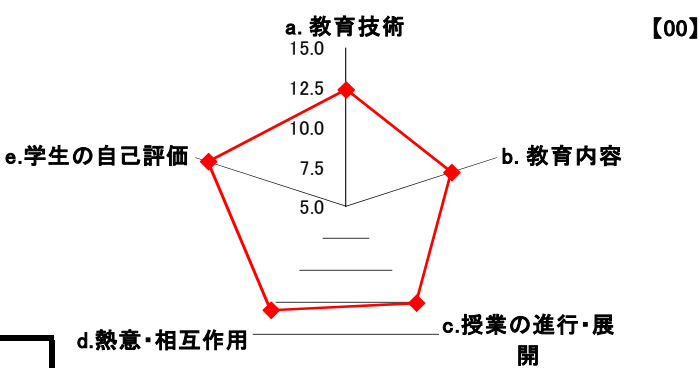
学生による自由記述の回答を読むと、自己紹介など実践的学習を通じて基礎を学ぶ方法が成果を生んでいるようです。一方、難しい、進め方が速い等の記述がありました。教科目標に沿ってできるところは、学期中でも改善します。評価アンケートを待たずに、遠慮なく意見を聞かせてください。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	15	回収数	13	回収率	86.7%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
遠藤 公久

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	13	12.38	1.21
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	13	12.00	2.08
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	13	12.54	1.69
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	13	13.08	1.64
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	13	14.15	1.17



N=13

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	2 15.4	10 76.9	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.08	0.47
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	2 15.4	11 84.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.15	0.36
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3 23.1	9 69.2	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.15	0.53

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	3 23.1	10 76.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.23	0.42
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	3 23.1	7 53.8	1 7.7	2 15.4	0 0.0	0 0.0	3.85	0.95
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	3 23.1	7 53.8	2 15.4	1 7.7	0 0.0	0 0.0	3.92	0.83

c. 授業の進行・展開

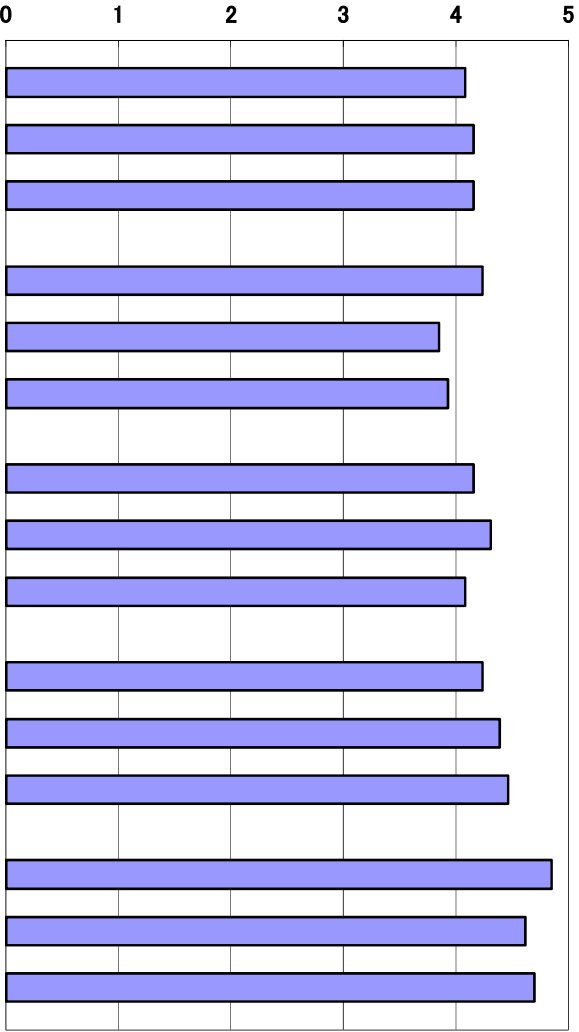
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	4 30.8	7 53.8	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.15	0.66
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	4 30.8	9 69.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.31	0.46
⑨	授業の進行速度は適切だった。	4 30.8	7 53.8	1 7.7	1 7.7	0 0.0	0 0.0	4.08	0.83

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	5 38.5	6 46.2	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.23	0.70
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	6 46.2	6 46.2	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.62
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	6 46.2	7 53.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.46	0.50

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	11 84.6	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	9 69.2	3 23.1	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.62
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	9 69.2	4 30.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.46



科目コード	1G0101	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	遠藤公久
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

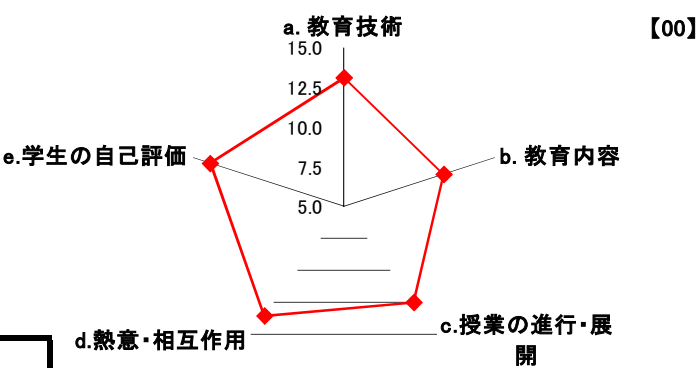
学生からのコメントとして、「とても身になった」「まじめで、でも堅苦しくなく楽しめた」「発表時に一人ひとりにアドバイスをいただけたことが良かった」などありました。また、授業時間がほぼ時間通りに終わったことも良かったようです。来年度も、わかりやすく、充実した内容になるように努力したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	15	回収数	15	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
川崎 修一

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	15	13.13	2.06
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	15	11.60	2.60
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	15	12.47	2.25
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	15	13.53	2.00
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	15	13.87	1.36



N=15

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	8 53.3	5 33.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.71
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	7 46.7	4 26.7	4 26.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.20	0.83
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	10 66.7	3 20.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.72

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	5 33.3	6 40.0	2 13.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	3.93	1.00
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	4 26.7	3 20.0	6 40.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	3.60	1.02
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 33.3	6 40.0	4 26.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.07	0.77

c. 授業の進行・展開

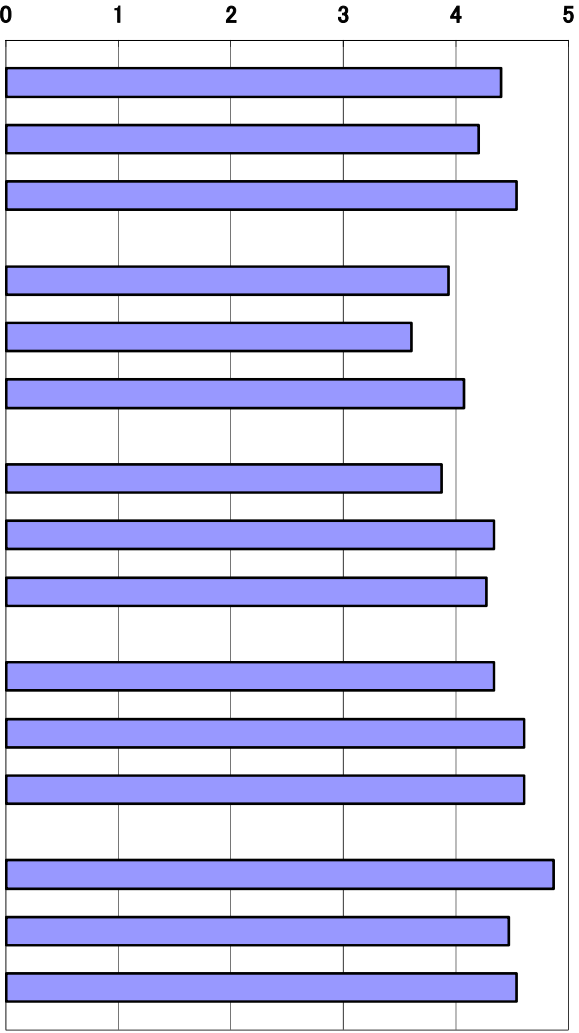
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	5 33.3	4 26.7	5 33.3	1 6.7	0 0.0	0 0.0	3.87	0.96
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	7 46.7	6 40.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.70
⑨	授業の進行速度は適切だった。	7 46.7	5 33.3	3 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.27	0.77

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	7 46.7	6 40.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.70
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	11 73.3	2 13.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.71
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	11 73.3	2 13.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.71

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	13 86.7	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.34
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	9 60.0	4 26.7	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.72
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	10 66.7	3 20.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.72



科目コード	1G0102	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	川崎修一
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

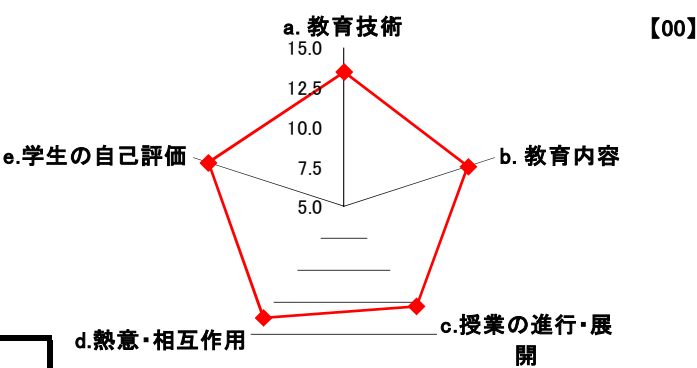
良かった点としては、クラスの雰囲気良かったこと、質問に丁寧に答えていたこと、質問しやすく熱心だったこと、レポートの書き方が学べたことが挙げられました。学生は皆毎回真剣に取り組んでくれたおかげです。心より感謝します。改善点としては、時間が延びてしまうこと、また基本的な文章の書き方が学びたいという要望が挙げられました。来年は延長することなく、また新たに文章講座的な時間も確保したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	14	回収数	9	回収率	64.3%
------	----	-----	---	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
小池 政行

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	8	13.50	2.60
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	9	13.22	2.04
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	9	12.78	2.44
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	9	13.67	1.83
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	9	14.00	1.89



N=9

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	6 66.7	0 0.0	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.94
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	6 66.7	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	1 11.1	4.00	1.63
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	6 66.7	0 0.0	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.94

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	6 66.7	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	5 55.6	2 22.2	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	4.22	1.03
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 55.6	2 22.2	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.82

c.授業の進行・展開

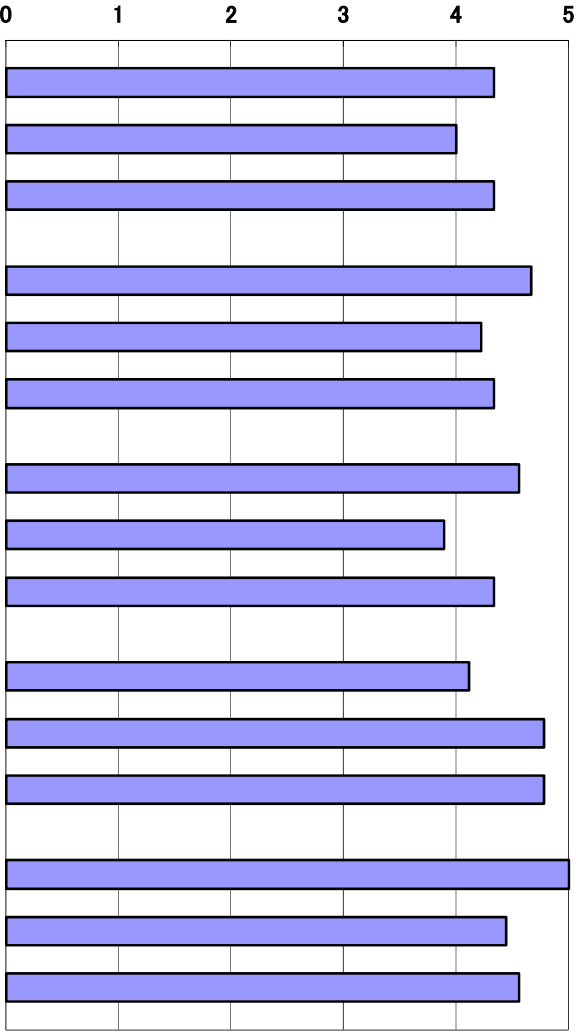
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	6 66.7	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.68
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	4 44.4	1 11.1	3 33.3	1 11.1	0 0.0	0 0.0	3.89	1.10
⑨	授業の進行速度は適切だった。	6 66.7	0 0.0	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.94

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	5 55.6	1 11.1	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0 0.0	4.11	1.10
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	7 77.8	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.42
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	7 77.8	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.42

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	7 77.8	0 0.0	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	4.44	1.07
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	7 77.8	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.83



科目コード	1G0103	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	小池政行
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

「基礎ゼミ I」については、毎年度試行錯誤が重ねられており、テキストになるものも、毎年異なっている。そのため、担当する教員においても、もちろん、今年度のテーマ、到達目標という概念は形成されるが、結果として、毎年度ある程度学力(特に基礎的)、知的好奇心のあり方が異なる1年生に対して、論文の読み方、論文の書き方を教えるものとなっている。

そのため、コメントにも「つまらなかった」、「ある程度役に立った」と相反する評価が混在している。

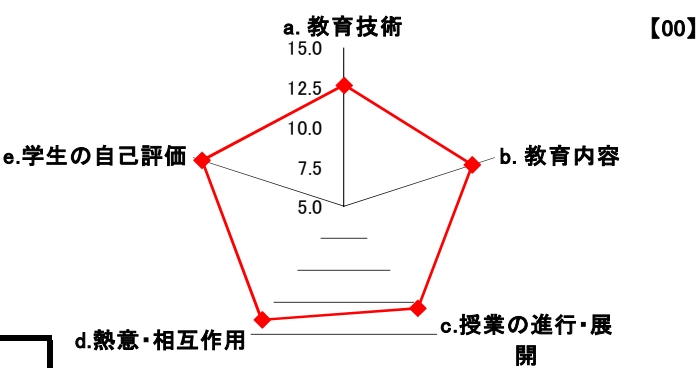
ここで、論文、おそらく卒論に向けて、ないしは各学年におけるレポートを想定している。論文の読み方、書き方的ゼミは、一律に行うよりも、結果、日々に講義で各自が学んでいくものであり、これほど多くの教員、かつ多様性、専門性がある教員の、ゼミナール指導を一学年で受ける機会を与えるという、本来の目的に戻る必要があると強く感じられた

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	14	回収数	12	回収率	85.7%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
佐藤 裕子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	12	12.67	2.09
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	12	13.50	1.94
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	12	12.92	2.29
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	12	13.83	1.82
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	12	14.42	0.95



N=12

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	6 50.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.75
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	4 33.3	4 33.3	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.00	0.82
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	6 50.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.75

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	6 50.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.75
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.64
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.64

c. 授業の進行・展開

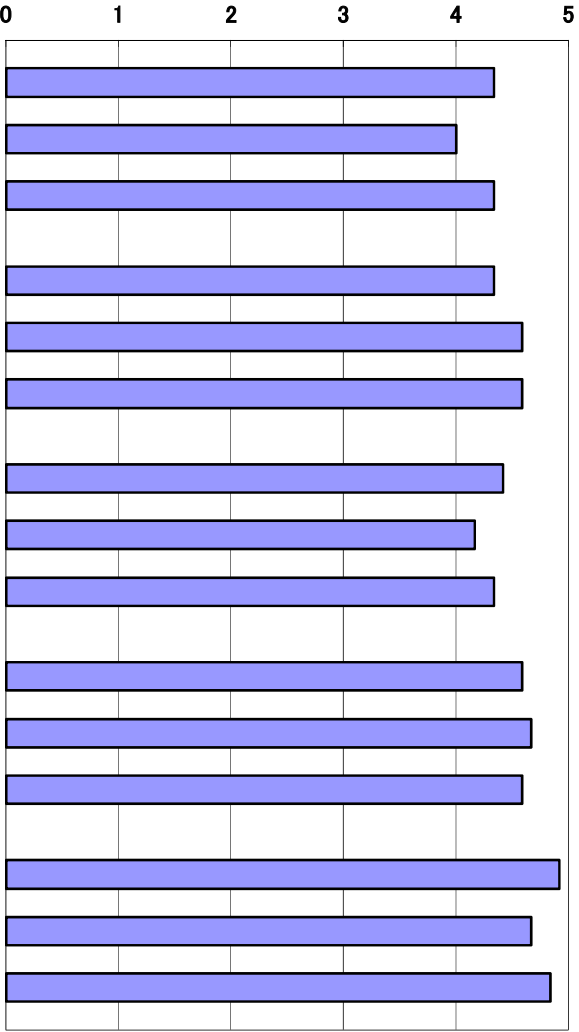
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	7 58.3	3 25.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.76
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	6 50.0	2 16.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.17	0.90
⑨	授業の進行速度は適切だった。	6 50.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.75

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.64
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	9 75.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.62
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.64

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37



科目コード	1G0105	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	佐藤裕子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

この授業は入学後、初めてグループに分けられて(強制的に教員により、グループにさせられている)、しかも、皆の前で自分の意見を披露する場面が多くあるので、最初は(同じ大学の同級生という安心感はあるが)、見ず知らずの人の前で自分の本当の気持ちを打ち明けてよいものか?・・・という戸惑うがあるように思う。その為、討論の場面でも不活発になりがちである。毎年、このパターンが認められるので、親睦を深める意味で最初に食事会を開いて、皆で打ち解ける場を設けた。その後は「同じ釜の飯を食った仲間」という意識が持てたせいか、討論も活発に行われた。

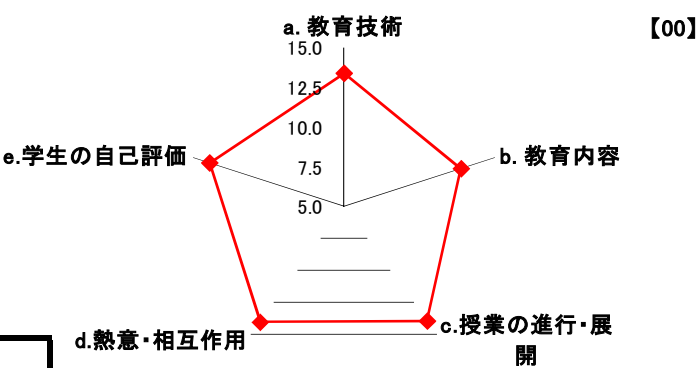
また、教員のパーソナリティを紹介する意味で、時々、和菓子を配り、その和菓子の謂われ、販売店の特徴などを話したところ、好評であった。教員との親睦も深めることが出来たと思う。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	14	回収数	12	回収率	85.7%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
東浦 洋

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	12	13.42	1.44
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	12	12.75	2.09
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	12	13.92	1.26
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	11	14.00	1.21
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	12	13.92	1.32



N=12

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	5 41.7	6 50.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	4.33	0.62
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	6 50.0	5 41.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	4.42	0.64

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	6 50.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	4 33.3	6 50.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	4.00	1.08
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	6 50.0	3 25.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	4.25	0.83

c. 授業の進行・展開

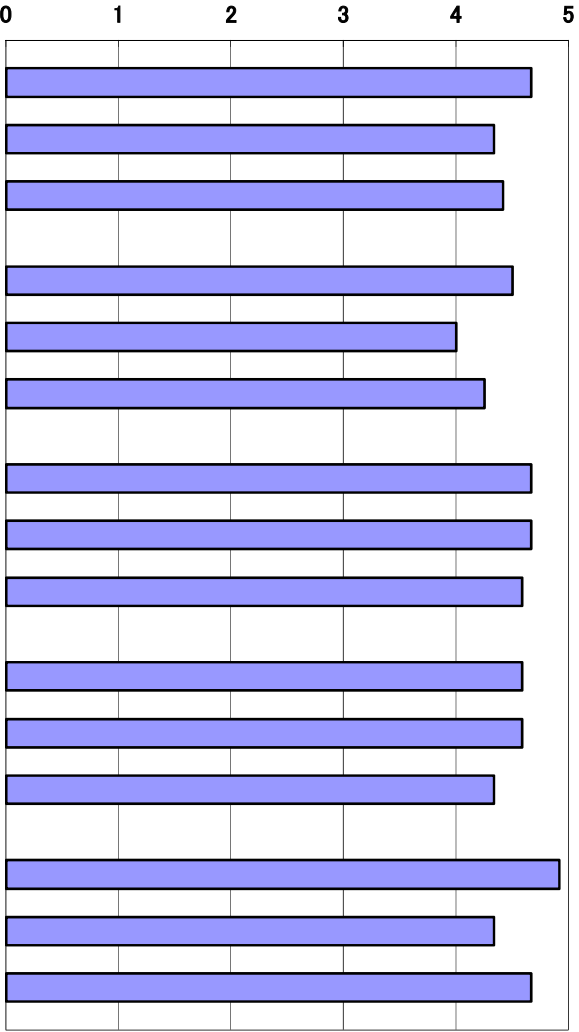
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
⑨	授業の進行速度は適切だった。	7 58.3	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.49

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	7 58.3	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.49
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	7 58.3	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.49
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	8 66.7	3 25.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	4.33	1.37

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	7 58.3	2 16.7	3 25.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.85
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47



科目コード	1G0106	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	東浦 洋
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

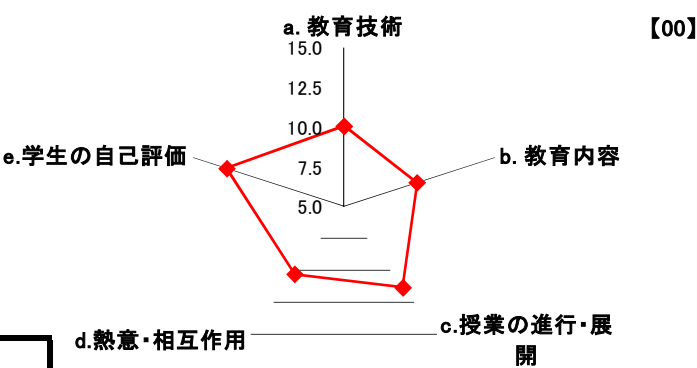
・私のゼミの受講生からのコメントは2点ありました。「先生の講義を聞けて、災害や海外について知れたこと」と「先生が親身に相談にのって下さったこと」でした。基礎ゼミの基本は崩さず、「ミニ講義」で私の研究テーマや私自身のこれまで国内外の活動について折に触れ話したこと、個々人の研究テーマの取り進め方について個別に相談にのる機会があったことが良かったのだと思います。分からないことをそのままにしないで、是非とも積極的に質問するようにしましょう。教員への質問は学生だからこそできる特権です。但し、質問の仕方・内容については少し考えたうえでの方が良いですね。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	15	回収数	14	回収率	93.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
逸見 功

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	13	10.08	2.95
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	14	9.86	3.38
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	13	11.31	2.01
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	14	10.29	2.91
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	14	12.79	1.70



N=14

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3 21.4	7 50.0	4 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.93	0.70
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	1 7.1	5 35.7	5 35.7	1 7.1	2 14.3	0 0.0	3.14	1.12
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	1 7.1	6 42.9	2 14.3	1 7.1	3 21.4	1 7.1	2.86	1.51

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	1 7.1	7 50.0	1 7.1	4 28.6	1 7.1	0 0.0	3.21	1.15
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	1 7.1	7 50.0	3 21.4	0 0.0	3 21.4	0 0.0	3.21	1.26
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	1 7.1	8 57.1	2 14.3	2 14.3	1 7.1	0 0.0	3.43	1.05

c. 授業の進行・展開

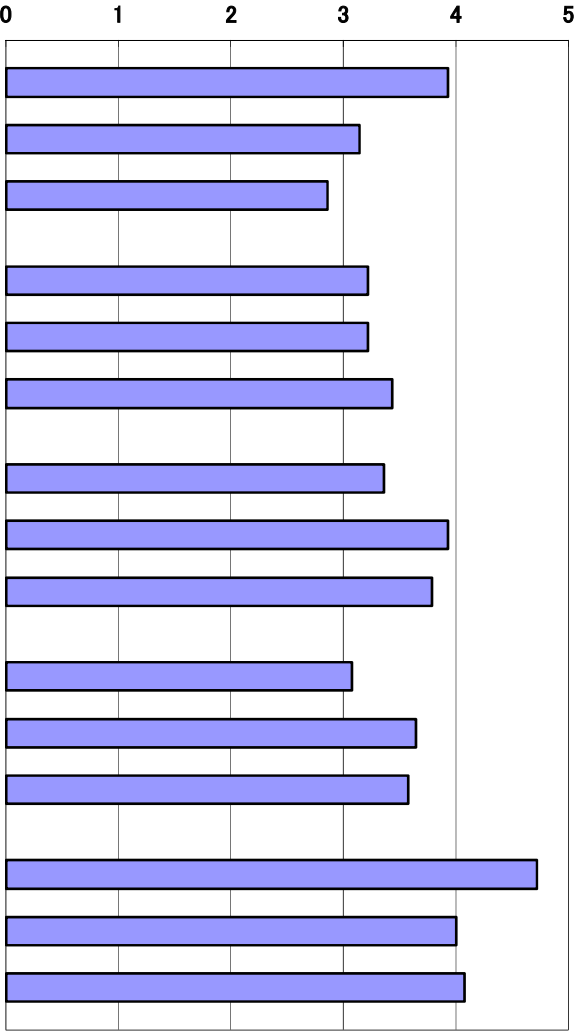
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	2 14.3	6 42.9	3 21.4	2 14.3	0 0.0	1 7.1	3.36	1.29
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	2 14.3	9 64.3	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.93	0.59
⑨	授業の進行速度は適切だった。	2 14.3	8 57.1	3 21.4	1 7.1	0 0.0	0 0.0	3.79	0.77

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	1 7.1	6 42.9	2 14.3	3 21.4	2 14.3	0 0.0	3.07	1.22
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	2 14.3	7 50.0	4 28.6	0 0.0	1 7.1	0 0.0	3.64	0.97
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	1 7.1	8 57.1	4 28.6	0 0.0	1 7.1	0 0.0	3.57	0.90

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	10 71.4	4 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4 28.6	7 50.0	2 14.3	1 7.1	0 0.0	0 0.0	4.00	0.85
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	4 28.6	7 50.0	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.07	0.70



科目コード	1G0107	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	逸見 功
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

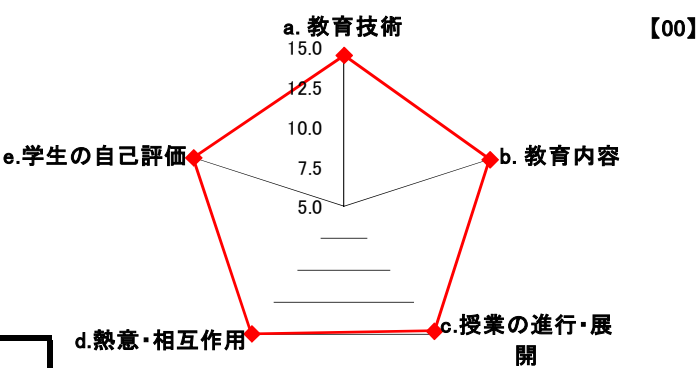
・つまらなかったそうですが、この基礎ゼミは大学で学ぶための基礎体力を養うようなものですので、まじめに取り組むことによって成果が出るものと考えています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	14	回収数	13	回収率	92.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
山崎 裕二

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	13	14.54	1.08
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	12	14.67	0.62
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	13	14.69	1.07
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	13	14.92	0.27
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	13	15.00	0.00



N=13

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	11 84.6	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	11 84.6	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	11 84.6	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	9 69.2	4 30.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.46
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	11 84.6	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	4.54	1.34

c. 授業の進行・展開

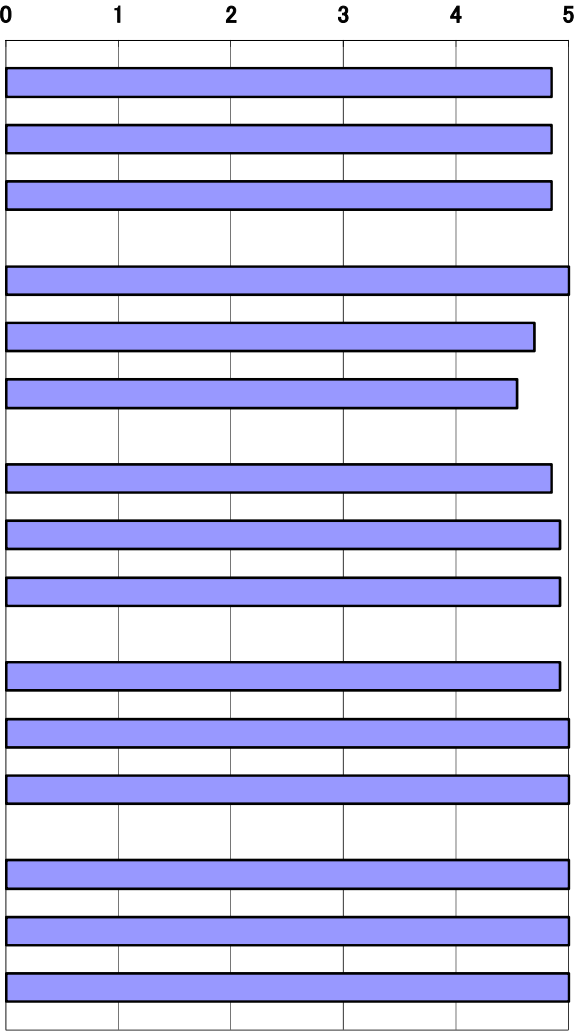
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	12 92.3	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.53
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	12 92.3	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27
⑨	授業の進行速度は適切だった。	12 92.3	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	12 92.3	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00



科目コード	1G0108	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	山崎裕二
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

・「丁寧に教えてもらえてよかった」というコメントが複数あり嬉しかったです。今後もより親切で分かりやすい指導を心掛けたいと思います。

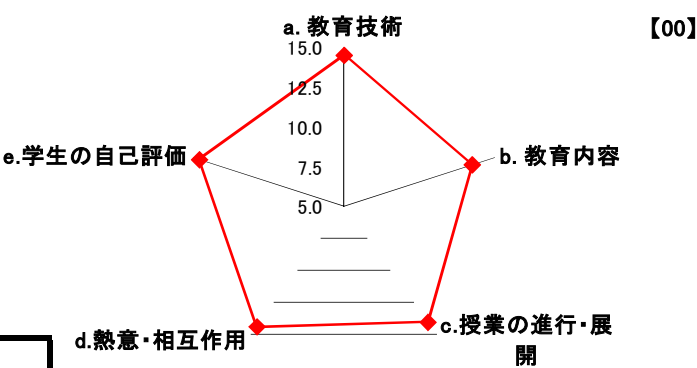
・「継続は力なり」です。知識・技術は反復練習で定着しますので、基礎ゼミ I で学んだことを今後のレポート作成に応用していきましょう。3年次の研究方法論の授業でその成果を確かめたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	10	回収数	8	回収率	80.0%
------	----	-----	---	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
越後 敬子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	7	14.57	1.05
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	8	13.50	1.73
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	8	14.00	1.22
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	8	14.38	1.11
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	8	14.63	0.99



N=8

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	6 75.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	4.25	1.64
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	5 62.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.71
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	4 50.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.70
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.48

c. 授業の進行・展開

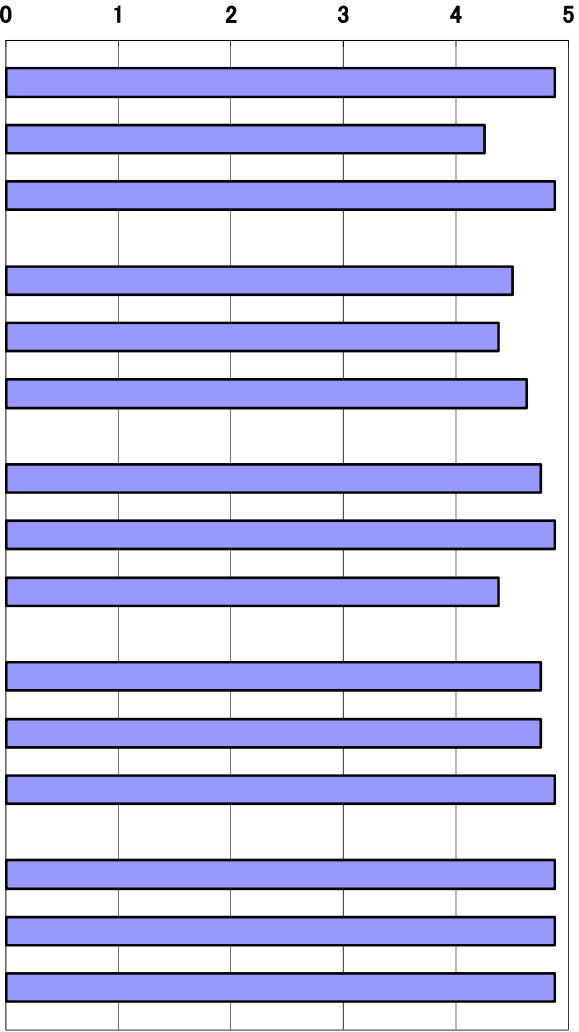
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33
⑨	授業の進行速度は適切だった。	5 62.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	4.38	0.99

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	7 87.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33



科目コード	1G0109	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	越後敬子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

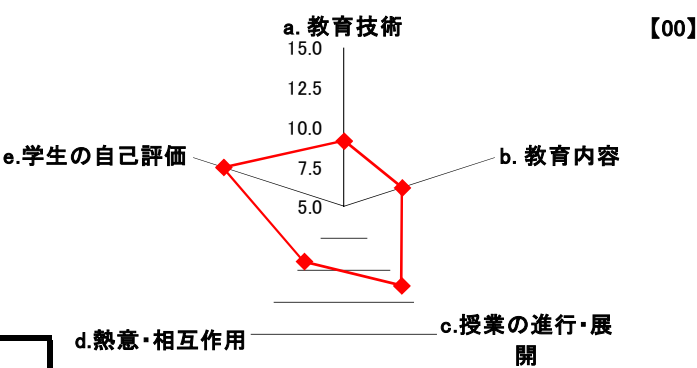
まだ大学に入学したばかりの一年生のしかも前期の段階では、論文、レポートの作成などあまりピンとこなかったかもしれません。しかし学年が上がるにつれて必ずこの授業の内容を思い出すときが来るでしょう。疑問に思うことがあれば、またいつでも相談に来てください。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	11	回収数	7	回収率	63.6%
------	----	-----	---	-----	-------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
小林 孝彰

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	7	9.14	3.83
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	7	8.86	3.52
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	7	11.14	3.27
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	7	9.29	4.10
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	7	13.00	1.41



N=7

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	1 14.3	2 28.6	3 42.9	0 0.0	1 14.3	0 0.0	3.29	1.16
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	1 14.3	2 28.6	1 14.3	2 28.6	1 14.3	0 0.0	3.00	1.31
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6	0 0.0	2.86	1.46

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	1 14.3	1 14.3	3 42.9	1 14.3	1 14.3	0 0.0	3.00	1.20
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	1 14.3	0 0.0	4 57.1	0 0.0	2 28.6	0 0.0	2.71	1.28
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	0 0.0	3.14	1.25

c.授業の進行・展開

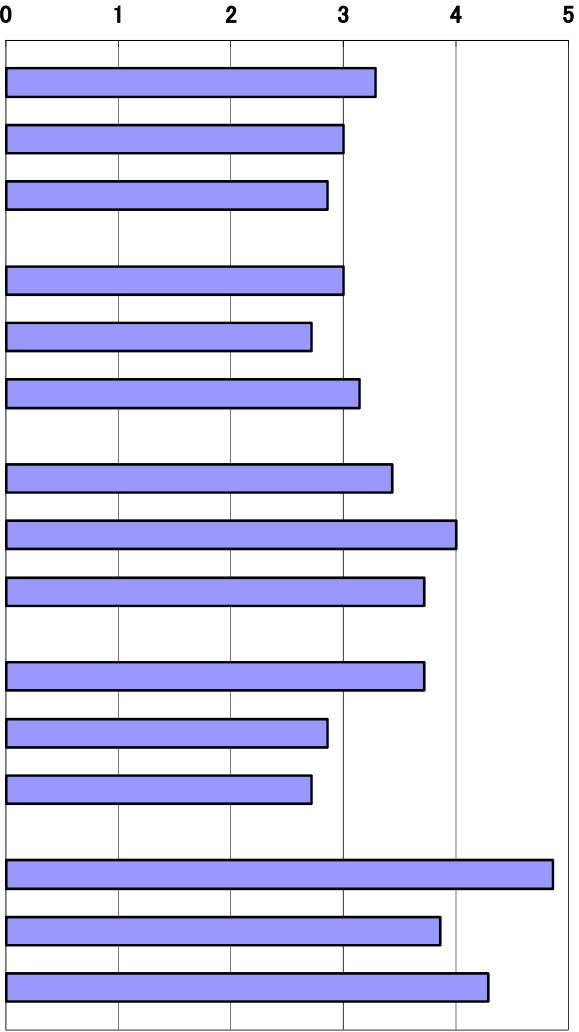
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	1 14.3	2 28.6	3 42.9	1 14.3	0 0.0	0 0.0	3.43	0.90
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	3 42.9	2 28.6	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	4.00	1.07
⑨	授業の進行速度は適切だった。	3 42.9	1 14.3	2 28.6	0 0.0	1 14.3	0 0.0	3.71	1.39

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	2 28.6	2 28.6	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	3.71	1.03
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	2 28.6	1 14.3	1 14.3	0 0.0	3 42.9	0 0.0	2.86	1.73
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	1 14.3	2 28.6	1 14.3	0 0.0	3 42.9	0 0.0	2.71	1.58

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	2 28.6	2 28.6	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.86	0.83
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	3 42.9	3 42.9	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.29	0.70



科目コード	1G0110	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	小林孝彰
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

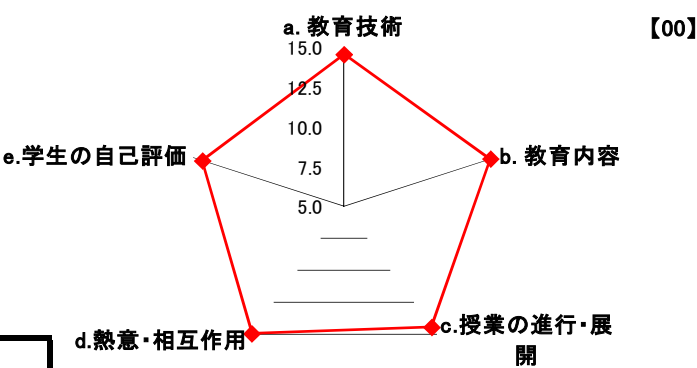
・あることをどう判断するか、特に価値判断を含む場合は複数の解なり選択肢がありますが、かけ算の九九や規約の遵守などの場合は正解はひとつですので徒に宥和的な態度をとるわけにはいきません。具体的な該当事項が書かれていないので直接コメントできませんが、押しつけられていると感じたそのときにイヤだと思いつつ黙っているのではなく「それは先生の個人的な意見であって...」のように発言することがディスカッションの出発点であるという理解が共有されるよう努めたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	10	回収数	10	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
熊澤 武志

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	10	14.60	0.66
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	10	14.70	0.64
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	10	14.40	1.28
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	10	14.90	0.30
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	10	14.40	0.80



N=10

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30

c. 授業の進行・展開

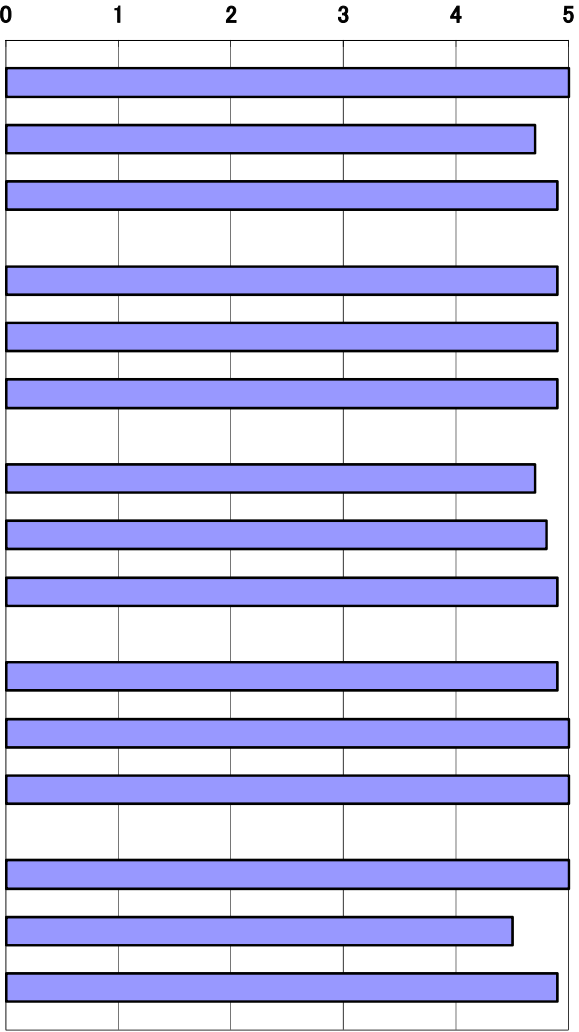
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.64
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	9 90.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.60
⑨	授業の進行速度は適切だった。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	6 60.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.67
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30



科目コード	1G0111	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	熊澤武志
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

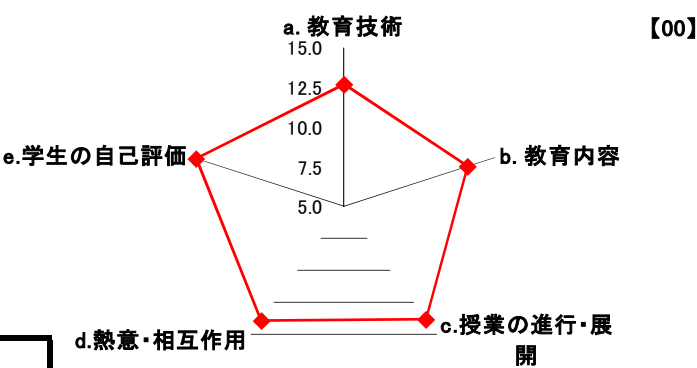
基礎ゼミ I の目的の一つに「話す力」の基本を身につけることがあげられています。授業の中ではゼミ生の発言や質問が少ない印象がありましたが、学生の自己評価⑭「私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ」の標準偏差が大きいところにも、それが表れているように思われます。来年度は発言しやすく、もっと意欲的に取り組めるように授業環境の工夫を行っていきます。改善点のコメントで「真じめ」がありましたが、もう少し具体的に書いてもらえれば回答できたと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	10	回収数	10	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
三具 淳子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	10	12.70	2.00
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	10	13.20	1.89
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	10	13.80	1.47
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	10	13.90	1.37
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	10	14.80	0.60



N=10

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	4 40.0	4 40.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.20	0.75
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3 30.0	4 40.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.00	0.77
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	6 60.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.67

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	5 50.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	5 50.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.78
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 50.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.66

c. 授業の進行・展開

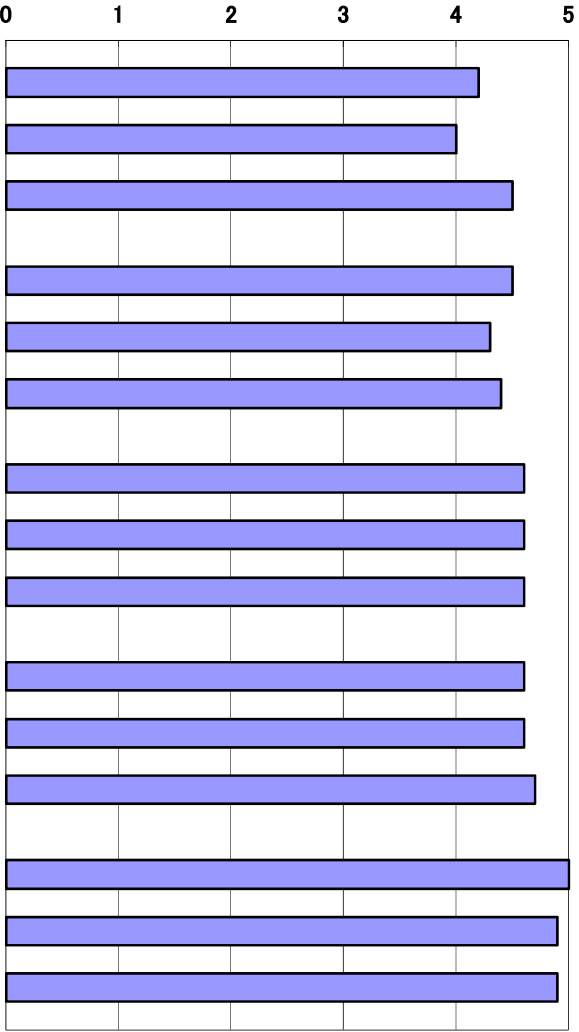
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	6 60.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	6 60.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
⑨	授業の進行速度は適切だった。	6 60.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	6 60.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	6 60.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30



科目コード	1G0112	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	三具淳子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

【基礎ゼミ I 全体のコメントについて】

「レポートの書き方を学ぶことができてよかった」「文献検索の方法やワードの技法など今後のレポート作成に役立つことが学べた」などのコメントが複数ありました。ぜひ今後の学習に生かしてってください。

改善点として、①「レポートを書く時の言葉遣いなど、基礎的な文章の書き方を教えてほしい」、②「先生によって終了時間や授業回数が違うのはどうかと思う」、③「基礎ゼミをやる意味がわからない。全体的に意味のないことが多かった。必要なことだけやってほしい」とのコメントがありました。①については、来年度の基礎ゼミ I の内容に盛り込むべきかどうか担当教員で検討したいと思います。②については、来年度の担当教員間でそのようなことがないように周知徹底したいと思います。③については、どのような授業内容が意味がないのかわかりませんので回答できません。今後、改善点のコメントは具体的にお書きください。

【担当教員へのコメントについて】

・この授業で学ぶことは大学生になるための重要なステップになります。資料収集の方法やレポートを書く際の決まりごとなど今後役に立つことばかりですから、しっかり身に付けましょう。

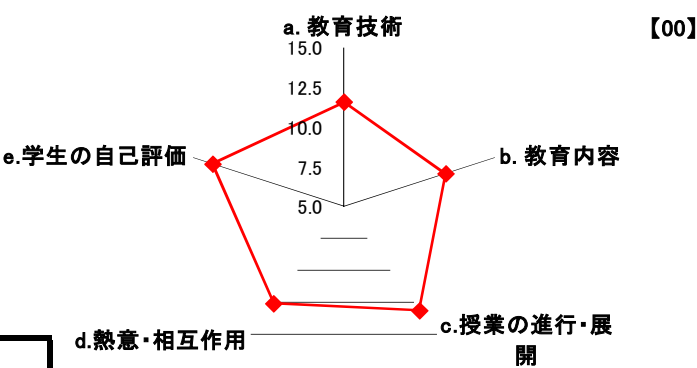
レポートのテーマを決めるのは難しいですが、身の回りの出来事やニュース、授業中にわいた疑問にもそのタネは潜んでいるものです。問題意識を育てていくことも大事だと思っています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	11	回収数	11	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:基礎ゼミⅠ
担当者:
逸見 功

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	10	11.60	1.28
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	11	11.73	1.76
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	11	13.09	1.38
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	11	12.55	1.78
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	11	13.73	1.35



N=11

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	1 9.1	9 81.8	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.00	0.43
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	0 0.0	6 54.5	4 36.4	0 0.0	0 0.0	1 9.1	3.27	1.14
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	2 18.2	7 63.6	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.00	0.60

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	1 9.1	7 63.6	1 9.1	2 18.2	0 0.0	0 0.0	3.64	0.88
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	2 18.2	6 54.5	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.91	0.67
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	2 18.2	9 81.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.39

c.授業の進行・展開

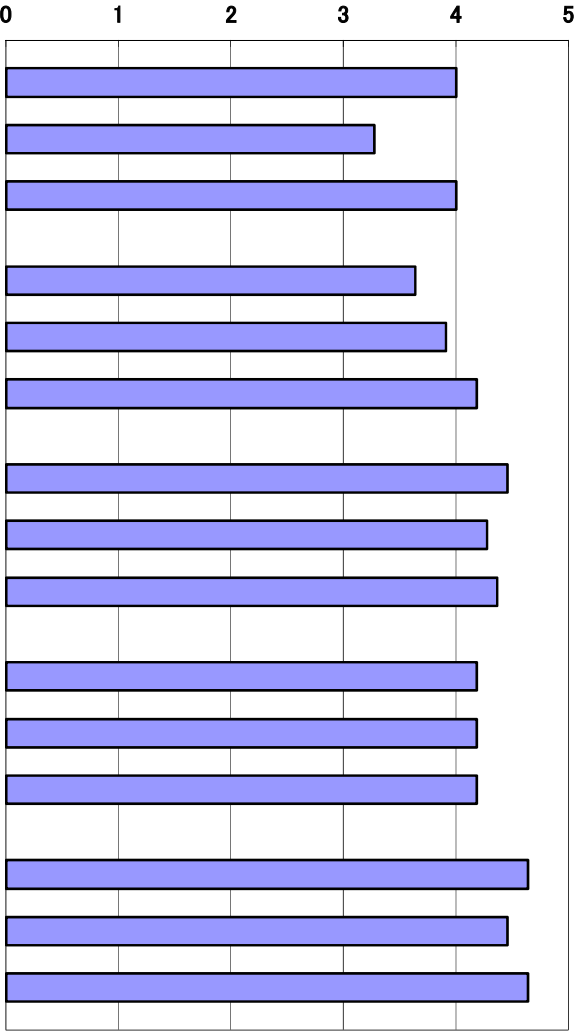
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	5 45.5	6 54.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.50
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	4 36.4	6 54.5	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.27	0.62
⑨	授業の進行速度は適切だった。	4 36.4	7 63.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.48

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	4 36.4	5 45.5	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.72
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	4 36.4	5 45.5	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.72
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	3 27.3	7 63.6	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.57

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	7 63.6	4 36.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.48
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	5 45.5	6 54.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.50
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	7 63.6	4 36.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.48



科目コード	1G0130	科目名	基礎ゼミ I	担当教員名	逸見 功
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

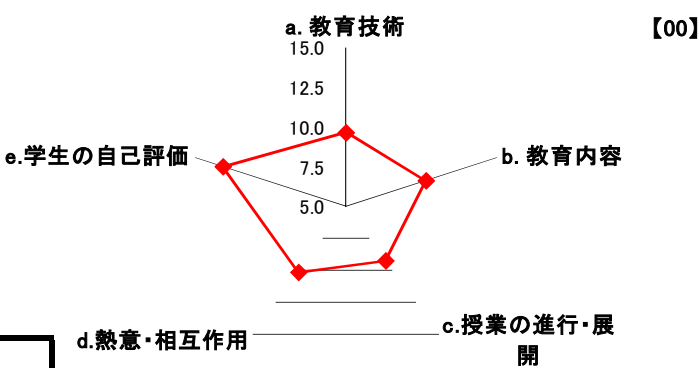
テキストが医療に関するリスクリテラシーのため、学生が興味を持って、活発な意見が交わされるゼミでよかったと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	142	回収数	67	回収率	47.2%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:人体の構造と機能 I
担当者:
佐藤 裕子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	67	9.67	2.82
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	67	10.28	2.81
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	67	9.24	2.70
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	66	10.12	3.01
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	66	13.17	1.93



N=130

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	14 20.9	27 40.3	17 25.4	6 9.0	3 4.5	0 0.0	3.64	1.05
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	9 13.4	10 14.9	28 41.8	15 22.4	5 7.5	0 0.0	3.04	1.10
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	8 11.9	11 16.4	25 37.3	18 26.9	5 7.5	0 0.0	2.99	1.10

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	7 10.4	12 17.9	29 43.3	12 17.9	7 10.4	0 0.0	3.00	1.09
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	22 32.8	20 29.9	19 28.4	2 3.0	4 6.0	0 0.0	3.81	1.11
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	14 20.9	20 29.9	23 34.3	4 6.0	6 9.0	0 0.0	3.48	1.15

c.授業の進行・展開

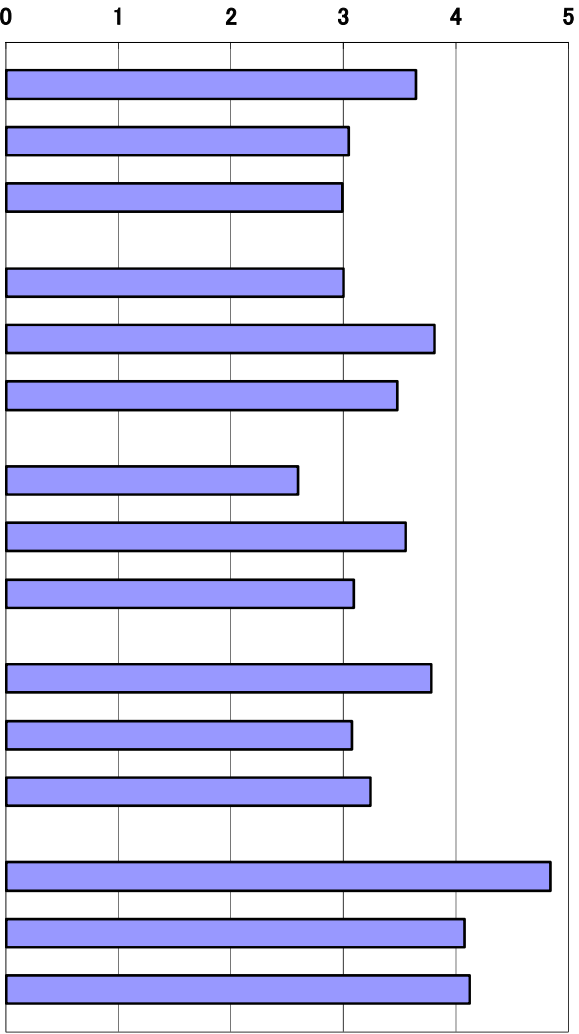
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	4 6.0	11 16.4	19 28.4	20 29.9	13 19.4	0 0.0	2.60	1.15
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	13 19.4	21 31.3	26 38.8	4 6.0	3 4.5	0 0.0	3.55	1.01
⑨	授業の進行速度は適切だった。	7 10.4	16 23.9	26 38.8	12 17.9	6 9.0	0 0.0	3.09	1.09

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	22 32.8	22 32.8	14 20.9	4 6.0	5 7.5	0 0.0	3.78	1.18
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	7 10.4	15 22.4	27 40.3	12 17.9	6 9.0	0 0.0	3.07	1.08
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10 14.9	15 22.4	30 44.8	6 9.0	5 7.5	1 1.5	3.24	1.13

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	60 89.6	6 9.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	4.84	0.66
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	31 46.3	17 25.4	14 20.9	3 4.5	2 3.0	0 0.0	4.07	1.06
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	29 43.3	23 34.3	10 14.9	4 6.0	1 1.5	0 0.0	4.12	0.97



科目コード	1H0100	科目名	人体の構造と機能 I	担当教員名	佐藤裕子
-------	--------	-----	------------	-------	------

<教員からのコメント>

この授業は文部省の提唱する「大学の授業は予習1時間、復習1時間を行って受けるものとする」という言葉がそのまま、当てはまる程、そもそも覚えることが多くて学生にはキツイ内容だと考える。本年の1年生は出席率もよく、授業中にも熱心に聞いている様子が窺える。評価の中に書かれている事項は全面的に改善したいと考える(授業時間の守ること。プリントの文字を見やすくすること。板書が見にくい。マイクの使い方が悪い)。しかし、「全体に詰め込みすぎ、どこが需要なのかが判り難い」と言う批判は「教科書通りに教えよう」とすると、このペースにならざるを得ない、全てが重要」というより、他はない。

経験が浅いので教え方が悪いのは良く判ります――頑張ります。

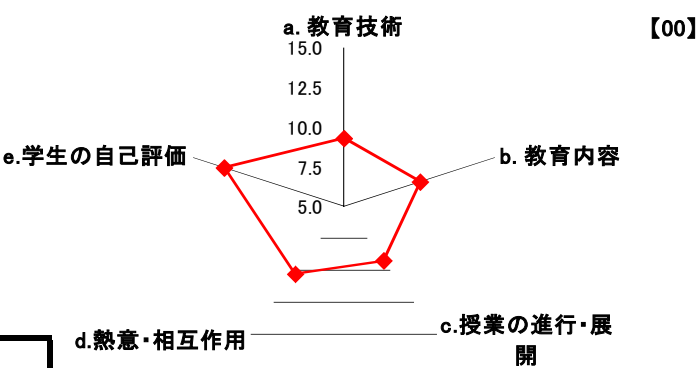
パワーポイント使って、板書をして欲しい、板書をモニターで写して欲しい――>これは技術的に可能でしょうか？

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	142	回収数	47	回収率	33.1%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:人体の構造と機能Ⅱ
担当者:
佐藤 裕子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	9.32	2.17
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	10.06	2.78
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	9.23	1.79
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	10.26	2.45
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	12.94	1.28



N=131

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	11 23.4	16 34.0	16 34.0	3 6.4	1 2.1	0 0.0	3.70	0.97
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	4 8.5	6 12.8	19 40.4	14 29.8	4 8.5	0 0.0	2.83	1.04
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	1 2.1	12 25.5	13 27.7	18 38.3	3 6.4	0 0.0	2.79	0.97

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	2 4.3	12 25.5	14 29.8	13 27.7	6 12.8	0 0.0	2.81	1.08
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	13 27.7	20 42.6	9 19.1	3 6.4	2 4.3	0 0.0	3.83	1.04
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	10 21.3	13 27.7	14 29.8	7 14.9	3 6.4	0 0.0	3.43	1.16

c.授業の進行・展開

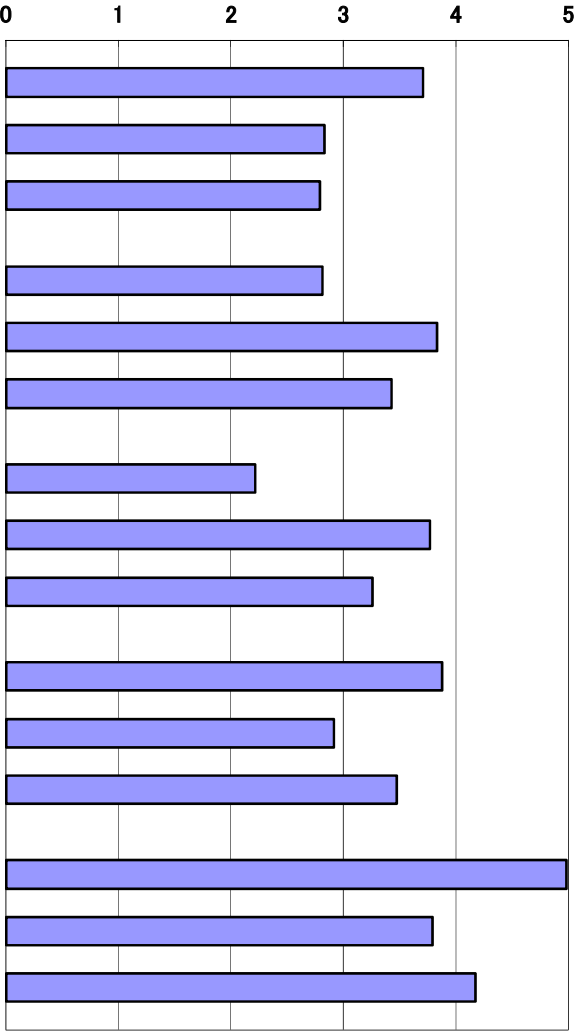
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	0 0.0	3 6.4	12 25.5	24 51.1	8 17.0	0 0.0	2.21	0.80
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	9 19.1	19 40.4	18 38.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	3.77	0.78
⑨	授業の進行速度は適切だった。	3 6.4	14 29.8	25 53.2	2 4.3	3 6.4	0 0.0	3.26	0.89

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	15 31.9	17 36.2	10 21.3	4 8.5	1 2.1	0 0.0	3.87	1.02
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	3 6.4	10 21.3	20 42.6	8 17.0	6 12.8	0 0.0	2.91	1.07
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	6 12.8	16 34.0	20 42.6	4 8.5	1 2.1	0 0.0	3.47	0.90

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	9 19.1	20 42.6	17 36.2	1 2.1	0 0.0	0 0.0	3.79	0.77
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	18 38.3	19 40.4	10 21.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.17	0.75



科目コード	1H0200	科目名	人体の構造と機能Ⅱ	担当教員名	佐藤裕子
-------	--------	-----	-----------	-------	------

＜教員からのコメント＞

この授業は文部省の提唱する「大学の授業は予習1時間、復習1時間を行って受けるものとする」という言葉がそのまま、当てはまる程、そもそも覚えることが多くて学生にはキツイ内容だと考える。本年の1年生は出席率もよく、授業中にも熱心に聞いている様子が窺える。評価の中に書かれている事項は全面的に改善したいと考えている(授業時間の守ること。プリントの文字を見やすくすること。板書が見にくい。マイクの使い方が悪い)。しかし、「全体に詰め込みすぎ、どこが需要なのかが判り難い」と言う批判は「教科書通りに教えようとする、このペースにならざるを得ない、全てが重要」というより、他はない。

経験が浅いので教え方が悪いのは良く判ります――頑張ります。

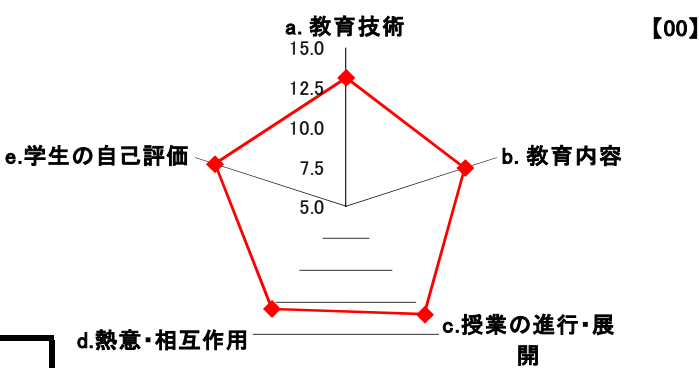
パワーポイント使って、板書をして欲しい、板書をモニターで写して欲しい――>これは技術的に可能でしょうか？

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	142	回収数	90	回収率	63.4%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:人体の構造と機能Ⅲ
担当者:
菅田 晴夫

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	90	13.13	1.90
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	90	12.89	2.06
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	90	13.41	1.81
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	88	12.98	1.91
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	90	13.71	1.52



N=120

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	45 50.0	38 42.2	7 7.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.63
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	42 46.7	38 42.2	10 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.67
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	43 47.8	37 41.1	9 10.0	1 1.1	0 0.0	0 0.0	4.36	0.70

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	38 42.2	35 38.9	17 18.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.23	0.75
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	40 44.4	35 38.9	14 15.6	1 1.1	0 0.0	0 0.0	4.27	0.76
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	44 48.9	37 41.1	9 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.39	0.66

c.授業の進行・展開

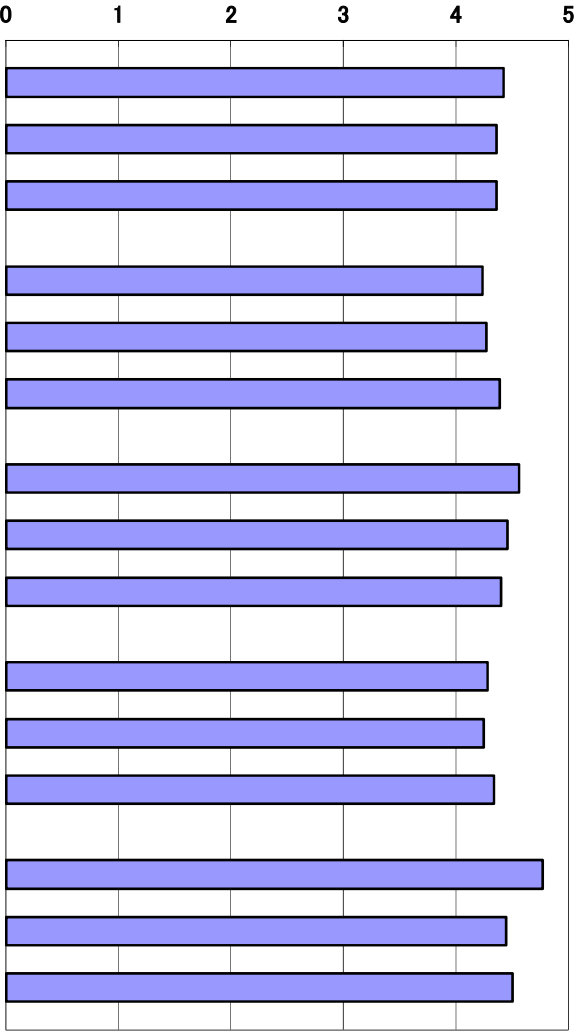
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	56 62.2	28 31.1	6 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.62
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	50 55.6	31 34.4	9 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.46	0.67
⑨	授業の進行速度は適切だった。	46 51.1	34 37.8	10 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.68

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	42 46.7	37 41.1	9 10.0	0 0.0	0 0.0	2 2.2	4.28	0.92
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	38 42.2	37 41.1	14 15.6	1 1.1	0 0.0	0 0.0	4.24	0.75
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	41 45.6	38 42.2	11 12.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.68

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	72 80.0	15 16.7	3 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.50
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	50 55.6	30 33.3	10 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.68
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	52 57.8	31 34.4	7 7.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.64



科目コード	1H0300	科目名	人体の構造と機能Ⅲ	担当教員名	菅田晴夫
-------	--------	-----	-----------	-------	------

＜教員からのコメント＞

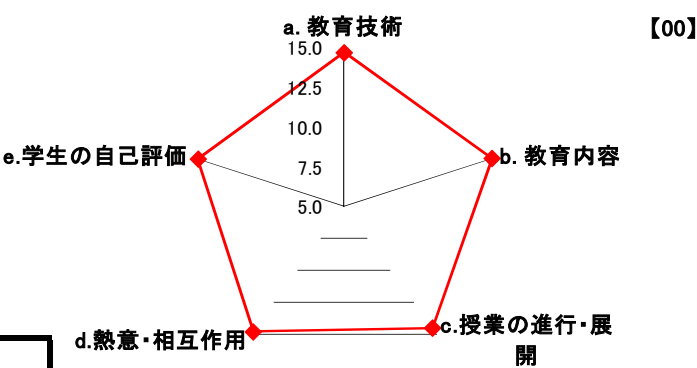
例年、授業の進行が速いと言われることが多いのですが、今年はそうした意見が少なく、ホッとしています。もっと授業時間が多ければいいのですが、カリキュラム編成上、なかなか難しいようです。プリントの図で見難いものがある、話がとぶ、など指摘された点については、来年度の授業で改善したいと思います。

授業（講義）評価結果（2014年度前期）

履修者数	136	回収数	56	回収率	41.2%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目：疾病の成り立ちと回復の促進Ⅵ
担当者：
林 公輔

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	56	14.73	0.74
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	56	14.82	0.54
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	56	14.48	1.48
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	56	14.75	0.69
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	56	14.70	0.73



N=101

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	51 91.1	5 8.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.29
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	50 89.3	6 10.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
③	教員の話し方（声量、スピード、マイクの使い方など）は適切だった。	52 92.9	4 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.93	0.26

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	54 96.4	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	50 89.3	6 10.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	54 96.4	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19

c. 授業の進行・展開

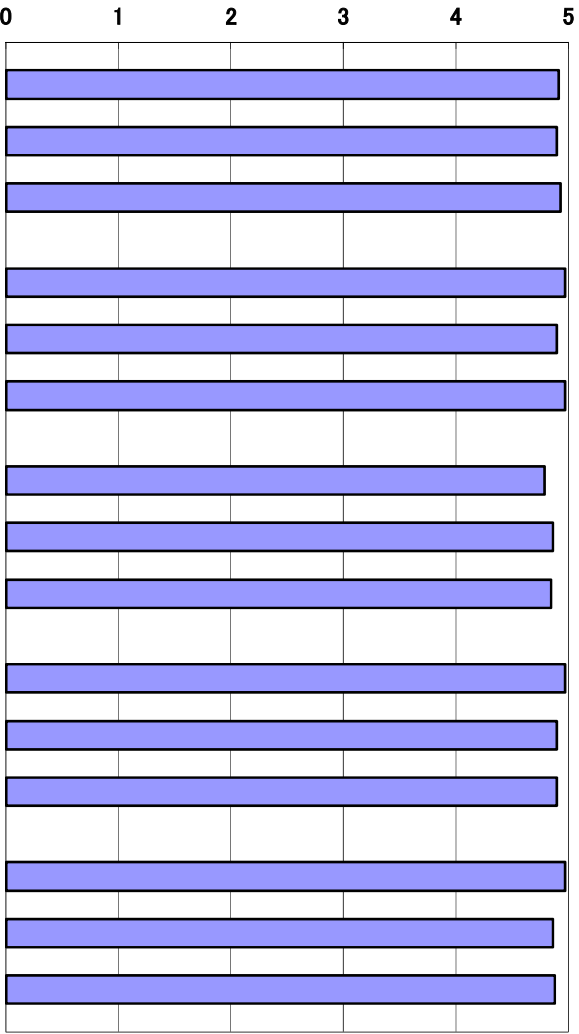
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	50 89.3	2 3.6	2 3.6	2 3.6	0 0.0	4.79	0.67
⑧	シラバス（または講義予定表）に沿った授業が行われていた。	49 87.5	6 10.7	1 1.8	0 0.0	0 0.0	4.86	0.40
⑨	授業の進行速度は適切だった。	49 87.5	6 10.7	0 0.0	1 1.8	0 0.0	4.84	0.49

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	54 96.4	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	50 89.3	6 10.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	50 89.3	6 10.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8～7割程度、(3)は6～5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	54 96.4	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.19
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	48 85.7	8 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑮	私は授業の学びやすい環境作り（私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等）に協力した。	49 87.5	7 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33



科目コード	1H0900	科目名	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅵ	担当教員名	林 公輔
-------	--------	-----	----------------	-------	------

<教員からのコメント>

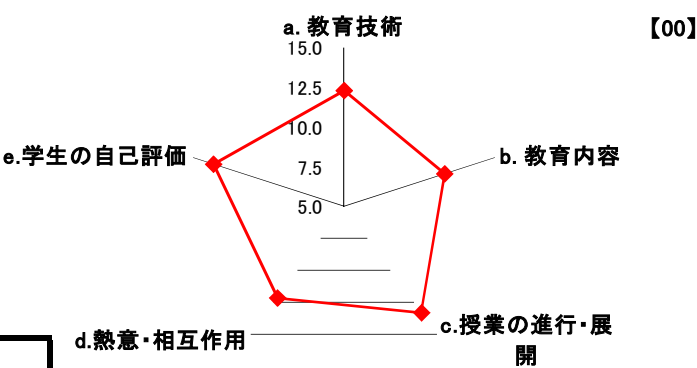
さまざまなご意見を頂きまして、ありがとうございました。肯定的な内容のものが多く、とても励みになりました。精神科の患者さんのところにも(当たり前ですが)健康な部分があるということを皆さんが忘れてしまわないような講義をすることを常に意識していました。授業に興味を持てなかった人や、看護師になった後、精神科に直接関わらない人もいるでしょう。例えそうであっても、臨床現場では精神的な病いを抱えた人たちに会います。そんなときに、少しでも皆さんの役に立つような講義をしたいと思っています。身体の具合が悪いだけなのに、「うちには精神科が無いから精神科の患者さんは診られない」というようなことが少しでも減るように、この講義を通じて、自分に出来る努力を続けていきたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	147	回収数	52	回収率	35.4%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:リハビリテーション医学
担当者:
森本 正

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	52	12.33	2.52
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	52	11.67	3.08
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	52	13.29	2.28
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	52	12.13	2.73
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	52	13.65	2.06



N=99

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	18	23	10	0	1	0	4.10	0.84
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	19	23	8	1	1	0	4.12	0.87
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	22	18	9	2	1	0	4.12	0.95

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	15	18	11	6	2	0	3.73	1.11
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	20	15	11	3	3	0	3.88	1.15
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	20	20	8	3	1	0	4.06	0.97

c. 授業の進行・展開

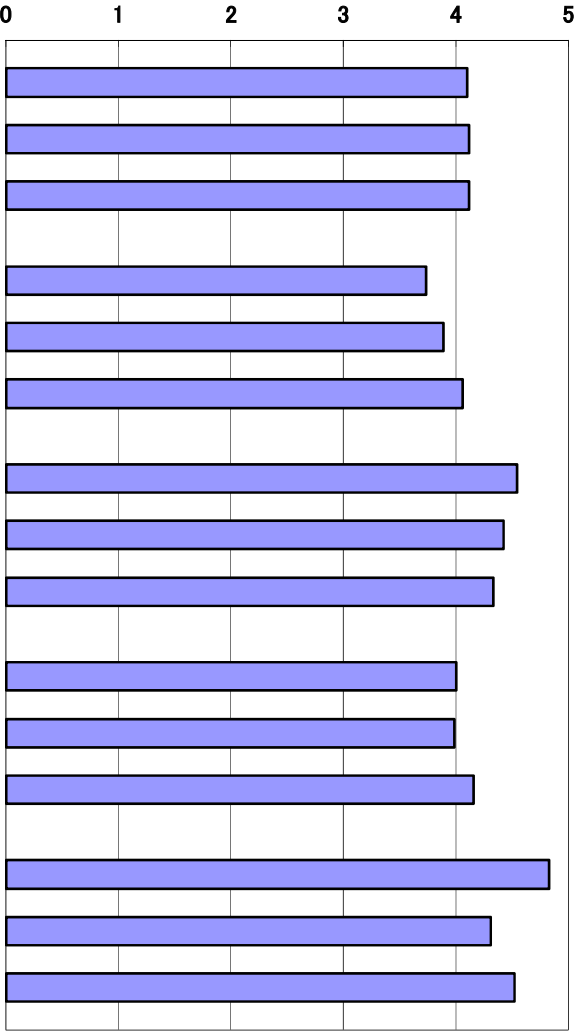
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	33	16	2	0	1	0	4.54	0.75
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	29	18	4	0	1	0	4.42	0.79
⑨	授業の進行速度は適切だった。	27	19	3	2	1	0	4.33	0.89

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	18	21	9	3	1	0	4.00	0.96
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	19	18	11	3	1	0	3.98	0.99
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	21	21	8	1	1	0	4.15	0.89

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46	5	0	0	1	0	4.83	0.61
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	27	16	8	0	1	0	4.31	0.87
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	35	11	5	0	1	0	4.52	0.82



科目コード	1H1100	科目名	リハビリテーション医学	担当教員名	森本 正
-------	--------	-----	-------------	-------	------

<教員からのコメント>

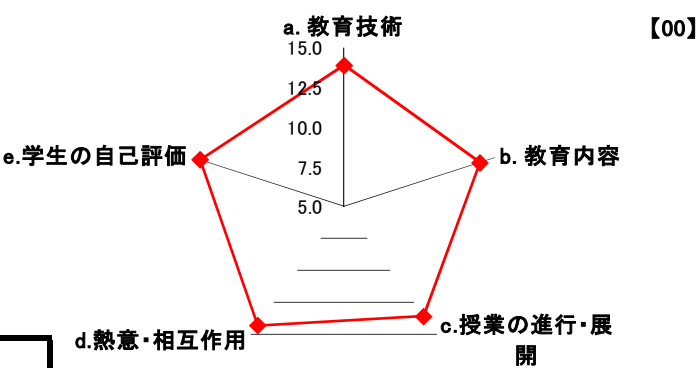
リハビリテーション医学が対象とする疾患は広範囲に及ぶため講義内容がやや散漫になったかも知れません。次年度以降は焦点を絞るように努力します。
PT.OT.STなど各職種の講義は継続して行います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	18	回収数	11	回収率	61.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:ラボラトリー・プラクティス
担当者:
藤原睦憲,村上康弘

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	11	13.91	1.50
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	10	14.00	1.67
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	11	13.55	1.62
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	11	14.27	1.21
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	11	14.55	0.99



N=11

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	7 63.6	3 27.3	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.66
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	7 63.6	4 36.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.48

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	7 63.6	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	4.27	1.42
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	9 81.8	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.62
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	8 72.7	2 18.2	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.64

c. 授業の進行・展開

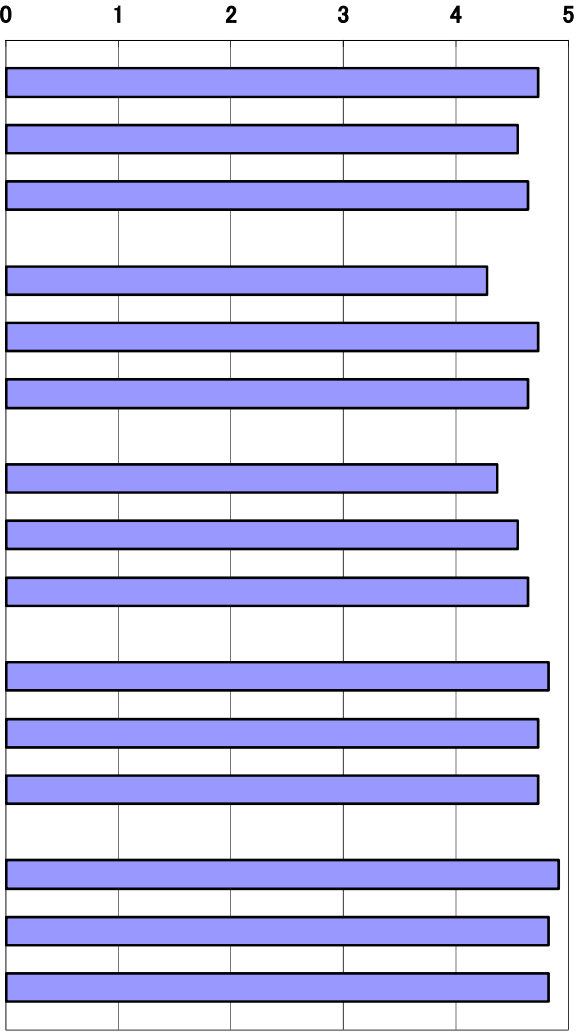
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	6 54.5	4 36.4	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	4.36	0.88
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	6 54.5	5 45.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.50
⑨	授業の進行速度は適切だった。	7 63.6	4 36.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.48

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	8 72.7	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	10 90.9	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.29
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	9 81.8	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.39

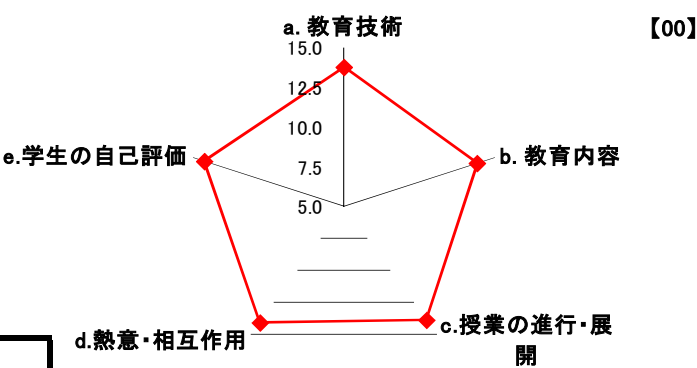


授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	73	回収数	47	回収率	64.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護学概論Ⅰ
担当者:
守田 美奈子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.79	1.37
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	13.83	1.46
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	13.85	1.52
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.04	1.27
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.28	1.03



N=66

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	25 53.2	22 46.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.50
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	28 59.6	18 38.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.54
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	32 68.1	15 31.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.47

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	28 59.6	16 34.0	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.61
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	31 66.0	13 27.7	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.61
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	33 70.2	14 29.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46

c. 授業の進行・展開

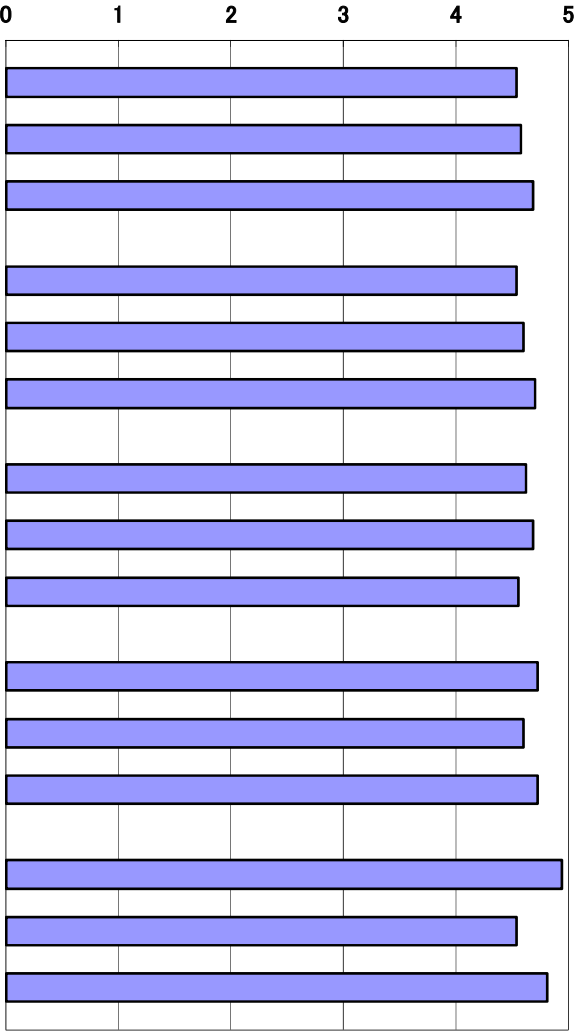
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	30 63.8	16 34.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.53
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	33 70.2	13 27.7	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.51
⑨	授業の進行速度は適切だった。	31 66.0	11 23.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.68

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	34 72.3	13 27.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.45
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	30 63.8	15 31.9	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.57
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	34 72.3	13 27.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.45

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	29 61.7	15 31.9	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.53	0.68
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	39 83.0	7 14.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44



科目コード	110101	科目名	看護学概論 I	担当教員名	守田美奈子
-------	--------	-----	---------	-------	-------

＜教員からのコメント＞

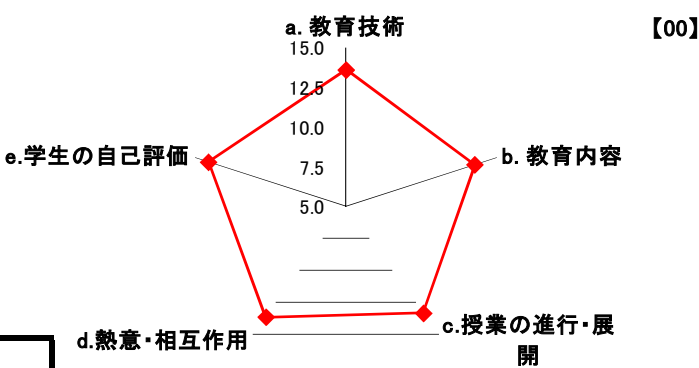
初めて看護学を学ぶ1年生に看護に対する興味を深めてもらうために、ビデオや事例等を取り入れながら学生が感じ、考える授業を心がけています。授業評価からは、意見交換が有意義で刺激を受けた、楽しかった、双方向の授業がよかった等、肯定的な意見が多く書かれていました。積極的に授業に参加して貰えていることをうれしく思っています。今後も、更に刺激的な授業を心がけると同時に、感想を書く時の課題を明確にすることや多くの理論家を紹介してほしい等、改善点で書いて頂いたことへの対策も講じていきたいと考えています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	70	回収数	47	回収率	67.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護学概論Ⅰ
担当者:
守田 美奈子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	46	13.63	1.49
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	46	13.54	1.81
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	46	13.30	1.64
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	46	13.63	1.66
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.13	1.23



N=68

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	24 51.1	21 44.7	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.40	0.84
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	26 55.3	19 40.4	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.58
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	31 66.0	15 31.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.52

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	27 57.4	17 36.2	2 4.3	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.45	0.87
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	26 55.3	13 27.7	8 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.76
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	32 68.1	11 23.4	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.64

c.授業の進行・展開

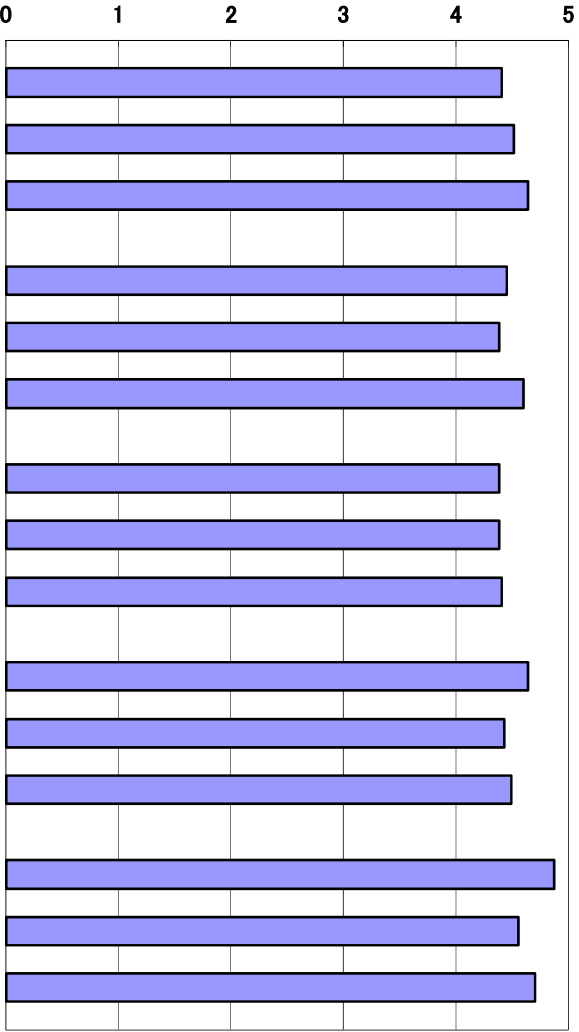
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	25 53.2	16 34.0	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.38	0.76
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	24 51.1	20 42.6	2 4.3	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.38	0.86
⑨	授業の進行速度は適切だった。	24 51.1	18 38.3	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.67

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	32 68.1	13 27.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.56
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	24 51.1	19 40.4	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.43	0.64
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	30 63.8	13 27.7	3 6.4	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.49	0.90

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	43 91.5	2 4.3	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.44
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	28 59.6	17 36.2	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.58
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	34 72.3	12 25.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.50



科目コード	110102	科目名	看護学概論 I	担当教員名	守田美奈子
-------	--------	-----	---------	-------	-------

＜教員からのコメント＞

初めて看護学を学ぶ1年生に看護に対する興味を深めてもらうために、ビデオや事例等を取り入れながら学生が感じ、考える授業を心がけています。授業評価からは、看護に興味をもてた、生徒が参加できた、グループワークが勉強になった、他の人の意見をたくさん聞けた等、肯定的な意見が多く書かれていました。積極的に授業に参加して貰えていることをうれしく思っています。今後も、更に刺激的な授業を心がけると同時に、最後の感想文を書く時間を確保することや、授業の進め方のスピード等、改善点で書いて頂いたことへの対策も講じていきたいと考えています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

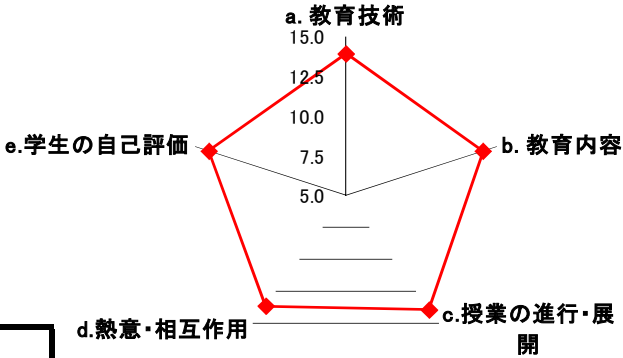
履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅰ

担当者:

堀井湖浪,鷹野朋実,遠藤公久,小宮敬子,
坂口千鶴,佐々木幾美,武井麻子,鶴田恵子,
守田美奈子,岡本有子,西田朋子,濱田真由美,太田智子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.96	1.22
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.09	1.38
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	13.89	1.39
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	13.62	1.74
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	46	14.11	1.03



N=70

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	26 55.3	20 42.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.54
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	28 59.6	18 38.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.54
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	36 76.6	10 21.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.48
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	33 70.2	10 21.3	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.64
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	35 74.5	11 23.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.49

c. 授業の進行・展開

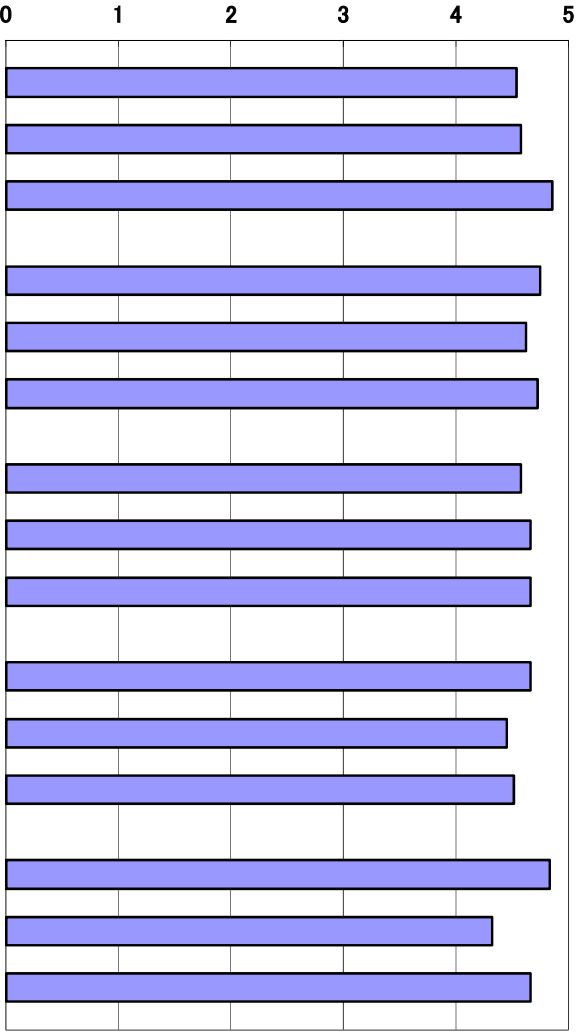
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	34 72.3	7 14.9	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.57	0.76
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	32 68.1	14 29.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.52
⑨	授業の進行速度は適切だった。	31 66.0	16 34.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.47

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	33 70.2	12 25.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.56
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	26 55.3	16 34.0	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.68
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	29 61.7	14 29.8	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.51	0.71

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	43 91.5	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.83	0.75
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	24 51.1	17 36.2	5 10.6	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.32	0.92
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	35 74.5	11 23.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.66	0.81



科目コード	1J0101	科目名	看護技術論 I	担当教員名	堀井湖浪・武井麻子・遠藤公久・西田朋子・岡本有子・太田智子
-------	--------	-----	---------	-------	-------------------------------

＜教員からのコメント＞

この授業では、約半分の時間を演習としており、そのなかでもグループワークを6コマ取り入れています。そのグループワークで体験したことにどんな意味があったのかを考えてもらうために、グループワークの前後で、感情について、自己理解について、グループで起こることなどのテーマで講義を行っています。みなさんの意見や感想には、「看護師として相手の感情や考えだけでなく、自分の感情についても考えなければいけない」「自分に向き合い、見つめ直す時間だった」「自分の気持ちに気づくことができる授業だった」「自分のことを表現したり、誰かの意見を聞くことは大事だ」など、グループワークで他者と関わるという体験が、自己理解を促す機会となっていたことが伺えました。ほかに、資料に関する意見をいただきましたが、全体の構成や内容なども考慮し、検討していきたいと考えています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

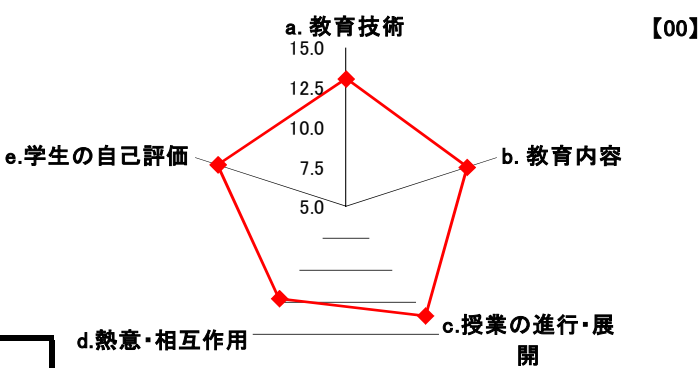
履修者数	70	回収数	47	回収率	67.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅰ

担当者:

鷹野朋実,堀井湖浪,遠藤公久,小宮敬子,
坂口千鶴,佐々木幾美,武井麻子,鶴田恵
子,守田美奈子,岡本有子,西田朋子,濱田
真由美,太田智子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.06	1.64
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	13.04	1.80
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	13.53	1.62
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	12.17	2.25
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	13.51	1.56



N=67

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	17 36.2	27 57.4	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.58
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	17 36.2	25 53.2	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.23	0.69
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	27 57.4	18 38.3	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.58

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	25 53.2	16 34.0	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.70
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	20 42.6	21 44.7	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.28	0.74
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	22 46.8	20 42.6	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.67

c. 授業の進行・展開

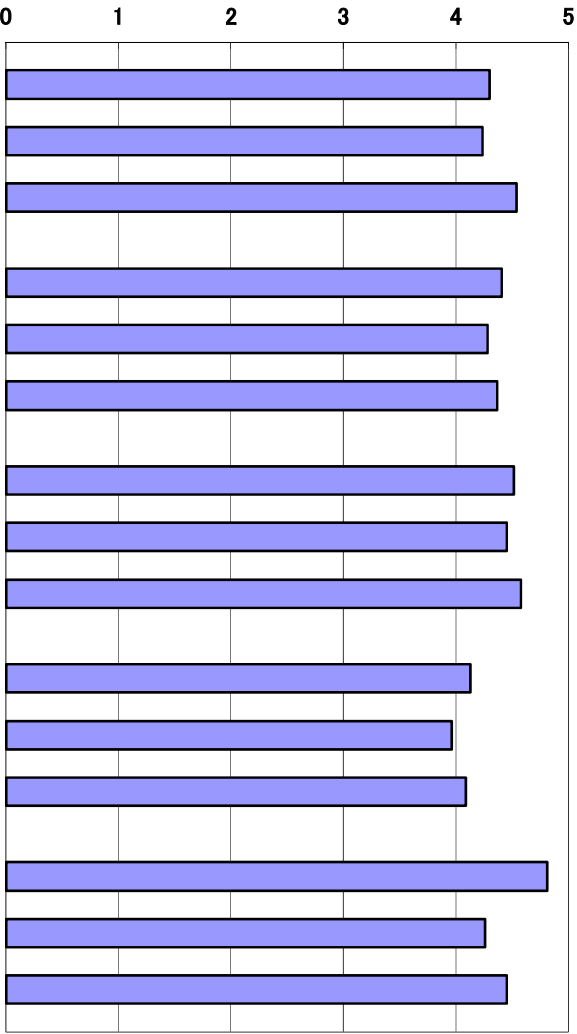
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	28 59.6	15 31.9	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.65
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	25 53.2	18 38.3	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.65
⑨	授業の進行速度は適切だった。	29 61.7	16 34.0	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.57

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	17 36.2	21 44.7	7 14.9	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.13	0.82
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	13 27.7	23 48.9	7 14.9	4 8.5	0 0.0	0 0.0	3.96	0.87
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	16 34.0	20 42.6	10 21.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.09	0.79

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	41 87.2	3 6.4	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.53
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	21 44.7	18 38.3	7 14.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.26	0.78
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入室をしない等)に協力した。	26 55.3	16 34.0	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.68



科目コード	1J0102	科目名	看護技術論 I	担当教員名	鷹野朋実、堀井湖浪、小宮敬子他
-------	--------	-----	---------	-------	-----------------

<教員からのコメント>

- ・4回のグループワークは、皆さんにとって負担でもあり、楽しみでもあり、個々人にとって様々な体験になっている、ということが皆さんのコメントからわかりました。このグループワークがよりよい学びにつながるような教員としてのサポートを考えていきたいと思っています。
- ・授業全般について皆さんからの授業評価をもとに、内容を検討してさらによりよいものにしていきたいと思っています。ありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

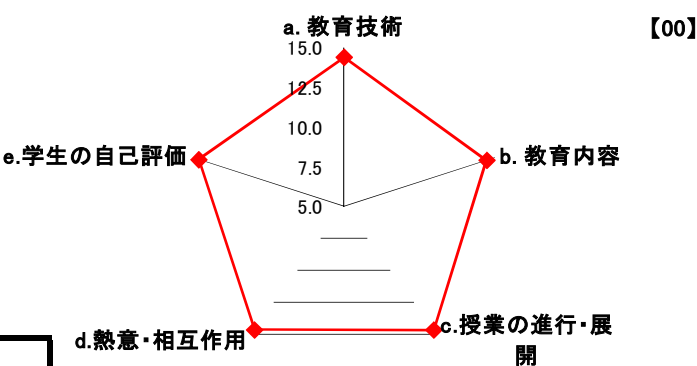
履修者数	71	回収数	47	回収率	66.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅰ

担当者:

川原由佳里,樋口佳栄,殿城友紀,田中孝美,梅田亜矢,下村裕子,和田美也子,川上明希,山本伊都子,住谷ゆかり,西田朋子,安島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.43	1.11
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.45	1.09
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.62	0.94
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	46	14.61	1.09
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.64	0.91



N=61

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	39 83.0	8 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	38 80.9	9 19.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.39
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	37 78.7	10 21.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	37 78.7	8 17.0	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.52
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

c. 授業の進行・展開

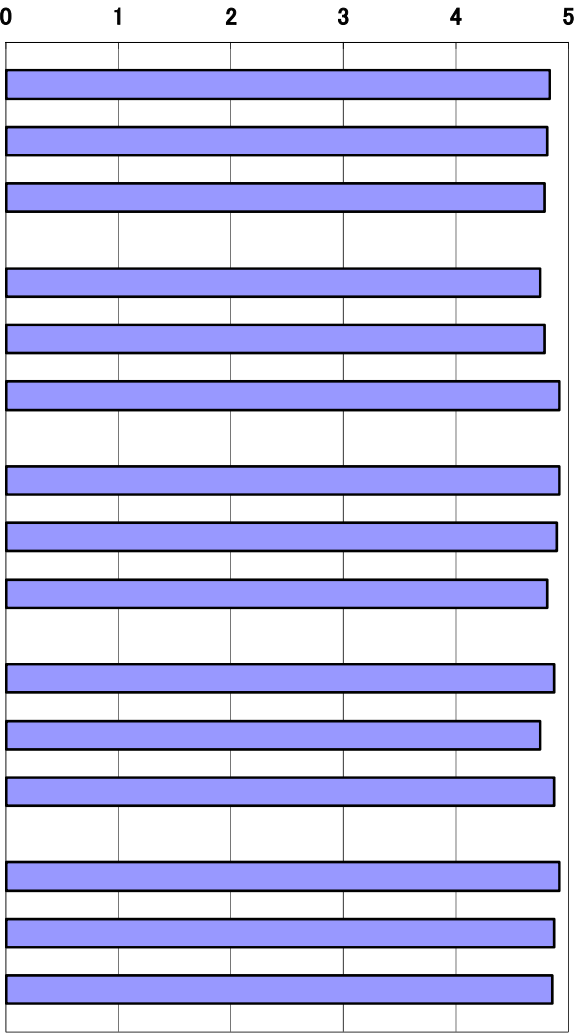
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑨	授業の進行速度は適切だった。	40 85.1	6 12.8	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.81	0.53

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	40 85.1	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.74	0.81
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36



科目コード	1K0101	科目名	看護援助論 I	担当教員名	川原由佳里,樋口佳栄,殿城友紀,田中孝美,梅田亜矢,下村裕子,和田美也子,川上明希,山本伊都子,住谷ゆかり,西田朋子,安島幹子,亀井縁
-------	--------	-----	---------	-------	---

<教員からのコメント>

自由記述の”この授業でよかったこと”では「実習で役立つ知識が多くの時間を割いてじっくり学べた」「大変だったけど実習前に勉強できてよかった」「実習に向けて少し自信がついた」「最初は絶対にできないと思ったけど、テストで初見のものを少しはアセスメントできたので、もっと頑張って実習につなげようと思った」、「課題は大変でしたが以前より書く力がついたかなと思いました」「文章力がついた」という意見の他、「一人一人のコメントを読んでくれて丁寧だった」「多くの学生の質問や感想をとりあげ、丁寧に応答していた。」「グループワークが為になった」「見回ってくれて質問しやすかった」「先生に聞きやすかった」などの意見をいただきました。この授業では、講義以外に小テスト、グループワーク、発表など、たくさんの課題を出しましたが、その分、身についたものがあっただけだと思います。

”この授業で改善してほしいこと”では、「最初の説明を理解するのに時間がかかった」「グループワークの時間を確保してほしい」「担任の先生がグループワークの時いなくて質問できないことがあった」「グループワークの時、先生の人数を増やしてほしい」「課題が多い」などの意見をいただいています。貴重な意見として、来年度の授業に活かしていきたいと思います。最後に、授業中そして授業後の評価を通じて、いろいろな意見を聞かせてくださり、ありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

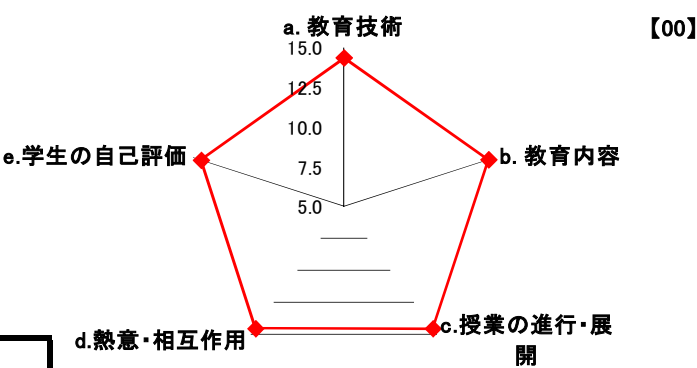
履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅰ

担当者:

川原由佳里,樋口佳栄,殿城友紀,田中孝美,梅田亜矢,下村裕子,和田美也子,川上明希,山本伊都子,住谷ゆかり,西田朋子,安島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.38	1.36
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	46	14.59	1.01
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.53	1.20
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.51	1.07
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.49	1.11



N=68

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	40 85.1	5 10.6	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.49

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	40 85.1	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.74	0.81
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24

c. 授業の進行・展開

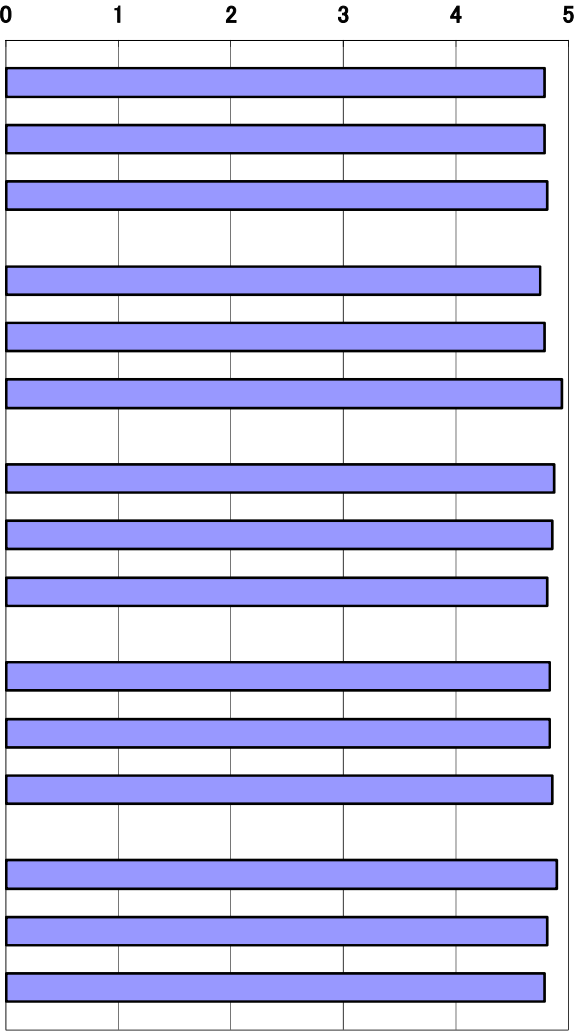
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41
⑨	授業の進行速度は適切だった。	39 83.0	7 14.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	40 85.1	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.43
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	39 83.0	8 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	39 83.0	7 14.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46



科目コード	1K0102	科目名	看護援助論 I	担当教員名	川原由佳里,樋口佳栄,殿城友紀,田中孝美,梅田亜矢,下村裕子,和田美也子,川上明希,山本伊都子,住谷ゆかり,西田朋子,安島幹子,亀井縁
-------	--------	-----	---------	-------	---

<教員からのコメント>

自由記述の”この授業でよかったこと”では「実習で役立つ知識が多くの時間を割いてじっくり学べた」「大変だったけど実習前に勉強できてよかった」「実習に向けて少し自信がついた」「最初は絶対にできないと思ったけど、テストで初見のものを少しはアセスメントできたので、もっと頑張って実習につなげようと思った」、「課題は大変でしたが以前より書く力がついたかなと思いました」「文章力がついた」という意見の他、「一人一人のコメントを読んでくれて丁寧だった」「多くの学生の質問や感想をとりあげ、丁寧に応答していた。」「グループワークが為になった」「見回ってくれて質問しやすかった」「先生に聞きやすかった」などの意見をいただきました。この授業では、講義以外に小テスト、グループワーク、発表など、たくさんの課題を出しましたが、その分、身についたものがあつたと感じていただければと思います。

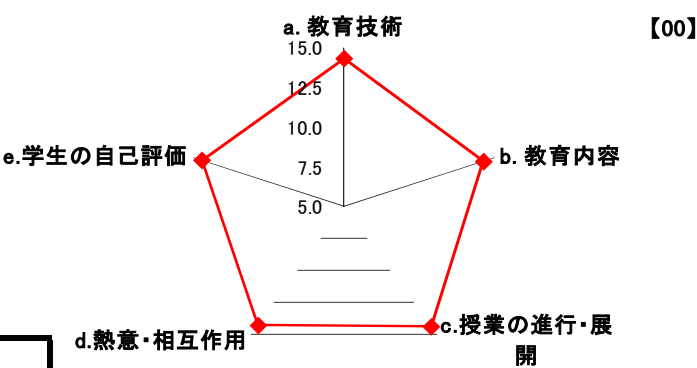
”この授業で改善してほしいこと”では、「最初の説明を理解するのに時間がかかった」「グループワークの時間を確保してほしい」「担任の先生がグループワークの時いなくて質問できないことがあつた」「グループワークの時、先生の人数を増やしてほしい」「課題が多い」などの意見をいただいています。貴重な意見として、来年度の授業に活かしていきたいと思います。最後に、授業中そして授業後の評価を通じて、いろいろな意見を聞かせてくださり、ありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	144	回収数	100	回収率	69.4%
------	-----	-----	-----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅱ
担当者:
千葉 京子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	100	14.34	1.29
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	99	14.25	1.40
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	99	14.34	1.34
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	99	14.24	1.39
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	98	14.43	1.08



N=125

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	80	20	0	0	0	0	4.80	0.40
		80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	80	19	1	0	0	0	4.79	0.43
		80.0	19.0	1.0	0.0	0.0	0.0		
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	78	20	1	1	0	0	4.75	0.52
		78.0	20.0	1.0	1.0	0.0	0.0		

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	76	21	3	0	0	0	4.73	0.51
		76.0	21.0	3.0	0.0	0.0	0.0		
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	78	20	2	0	0	0	4.76	0.47
		78.0	20.0	2.0	0.0	0.0	0.0		
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	77	21	1	0	0	1	4.72	0.65
		77.0	21.0	1.0	0.0	0.0	1.0		

c. 授業の進行・展開

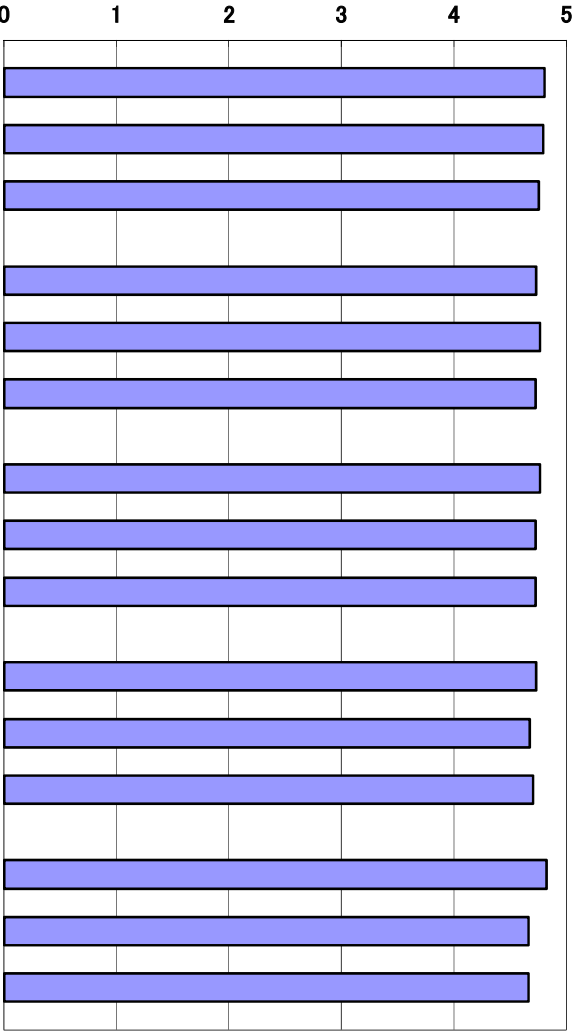
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	82	15	2	0	0	1	4.76	0.65
		82.0	15.0	2.0	0.0	0.0	1.0		
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	80	16	2	1	0	1	4.72	0.71
		80.0	16.0	2.0	1.0	0.0	1.0		
⑨	授業の進行速度は適切だった。	79	18	1	1	0	1	4.72	0.69
		79.0	18.0	1.0	1.0	0.0	1.0		

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	78	20	1	0	0	1	4.73	0.65
		78.0	20.0	1.0	0.0	0.0	1.0		
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	77	17	4	1	0	1	4.67	0.75
		77.0	17.0	4.0	1.0	0.0	1.0		
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	77	19	3	0	0	1	4.70	0.69
		77.0	19.0	3.0	0.0	0.0	1.0		

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	90	8	0	0	0	2	4.82	0.74
		90.0	8.0	0.0	0.0	0.0	2.0		
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	77	18	3	0	0	2	4.66	0.83
		77.0	18.0	3.0	0.0	0.0	2.0		
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	76	20	2	0	0	2	4.66	0.82
		76.0	20.0	2.0	0.0	0.0	2.0		



科目コード	1K0200	科目名	看護援助論Ⅱ	担当教員名	千葉京子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

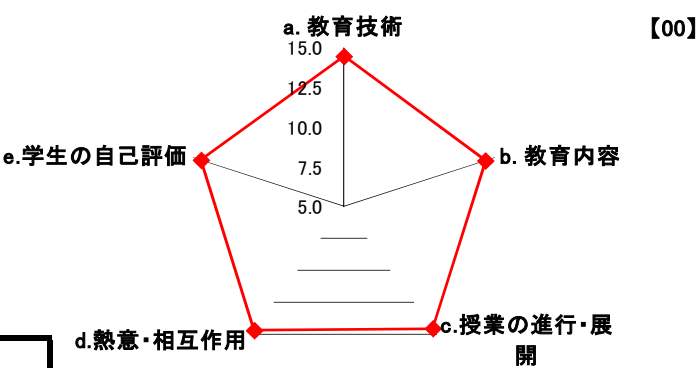
- ・多くの感想を記入いただき感謝します。資料の工夫などを評価頂くことが出来て嬉しく思います。
- ・今年度は、昨年度の授業評価を受けて呼吸と循環の試験を授業時間内で実施する計画としました。呼吸の試験は授業4回目に実施しましたが、循環の試験は授業時間内に実施できませんでした。これは教員に健康問題が生じたためです。そのため循環の試験は試験期間に実施することとなり、シラバス通りに行えませんでした。試験を呼吸と循環の2回に分けて実施することについては評価を頂けたので、来年度も分割して実施とする予定です。
- ・前回授業内容のポイントをミニテストとしたことで、理解を深めることができたようですので来年度も実施したいと考えています。
- ・レジュメはわかりやすいというコメントと、図の改善を求めるコメントがありましたので検討します。
- ・心電図の読み方は具体的事例を活用しましたが、興味がある学生さんが多いのでより理解を深められるよう説明内容の改善を行います。
- ・講義が早口であった点は重要な改善点と認識しました。学生の皆さんに伝わる内容を、適切なスピードで説明できるよう心掛けます。
- ・呼吸と循環の障害を得た患者にどのようなケアが必要なのか、内容の精選と教授方略の検討を続けたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅲ
担当者:
江本 リナ

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.49	1.40
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.38	1.44
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.53	1.30
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.66	1.12
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.49	1.20



N=61

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	40 85.1	5 10.6	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.49
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	42 89.4	3 6.4	1 2.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.83	0.56
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	40 85.1	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.43
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	38 80.9	7 14.9	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.51
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	40 85.1	4 8.5	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.54

c. 授業の進行・展開

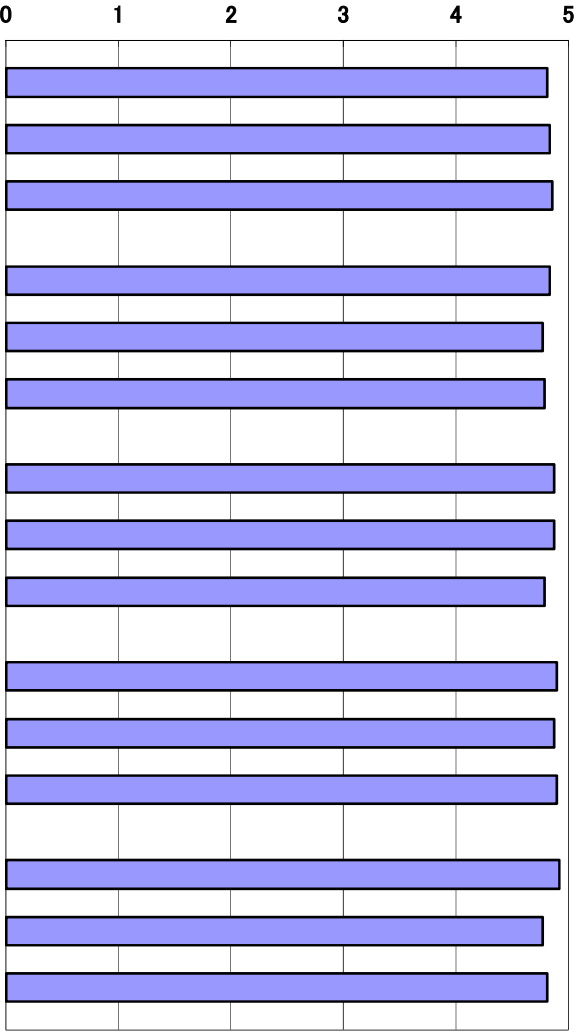
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39
⑨	授業の進行速度は適切だった。	40 85.1	5 10.6	1 2.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.79	0.58

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	44 93.6	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.35
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	38 80.9	7 14.9	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.51
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	40 85.1	5 10.6	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.49



科目コード	1K0301	科目名	看護援助論Ⅲ	担当教員名	江本リナ
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

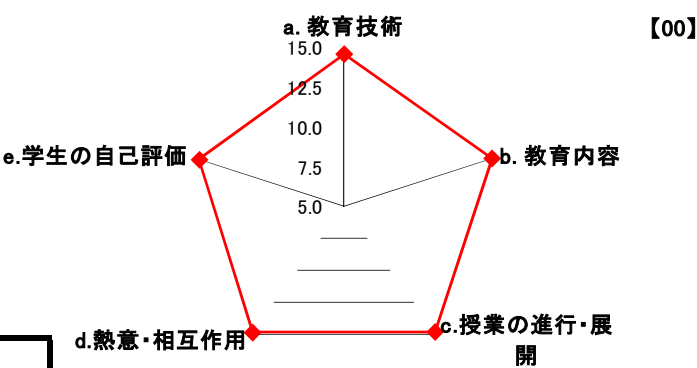
みなさまから大変高い評価をいただき、ありがとうございました。
授業内容に関連した海外DVDを多く取り入れたことで、楽しかった、理解が深まったとの感想を多くの方々からいただき、映像が大変効果的であったことが分かりました。
また、事例を用いたり、仲間と意見交換をするディスカッションを行ったりすることで、眠くなることなく、人の意見を多く聞き、自分も考えながら授業を受けることができたとの感想があり、工夫した甲斐があったと嬉しく思いました。
今後も、このような方法を続けていきたいと思っています。
レジメの記入スペースを広くとってほしいということや、大切なことをレジメにまとめてほしいという意見もありましたが、レジメは授業のアウトラインを紹介するものですので、是非、Myノートを作ることをお勧めします。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅲ
担当者:
江本 リナ

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.62	0.96
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.81	0.64
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.77	0.69
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.81	0.64
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.62	0.76



N=70

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	42 89.4	4 8.5	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.85	0.50
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	42 89.4	3 6.4	1 2.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.83	0.56
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

c. 授業の進行・展開

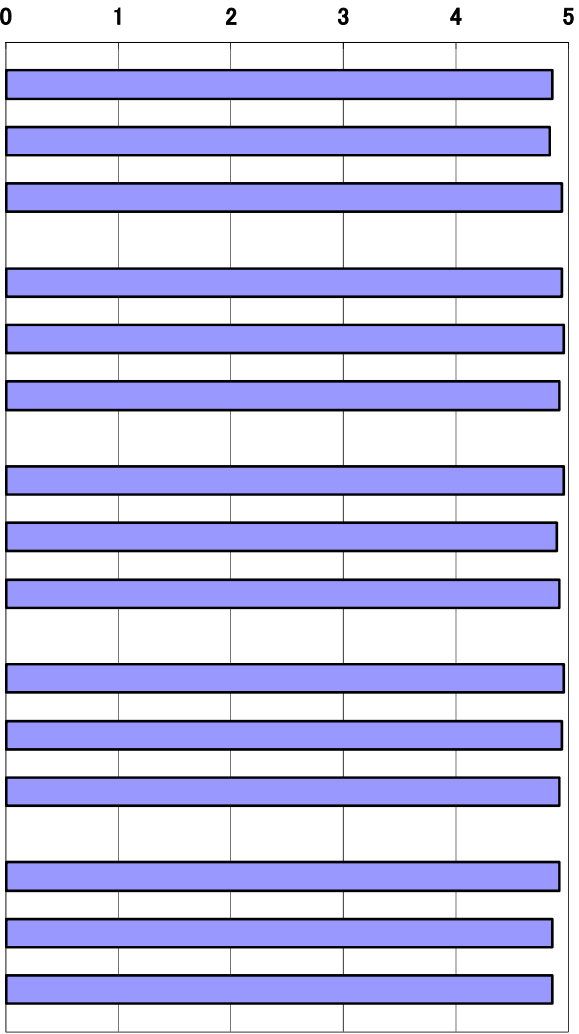
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑨	授業の進行速度は適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36



科目コード	1K0302	科目名	看護援助論Ⅲ	担当教員名	江本リナ
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

みなさまから大変高い評価をいただき、ありがとうございました。

授業内容に関連した海外DVD(ドラマ)を多く取り入れたことで、興味深く、分かりやすく、とても楽しく、眠気がとんだ！などの感想を多くの方々からいただきました。

仲間と意見交換をするディスカッションを行うことも楽しかったとの感想もあり、工夫したことが効果的であったことが分かりました。

今後も、このような方法を続けていきたいと思っています。

レジメはもう少し記載して欲しいという意見や、ポイントなどを書いて分かりやすくしてほしいとの意見もありましたが、レジメは授業のアウトラインを紹介するものですので、重要な点を自分で工夫して書けるMyノートを作ることをお勧めします。

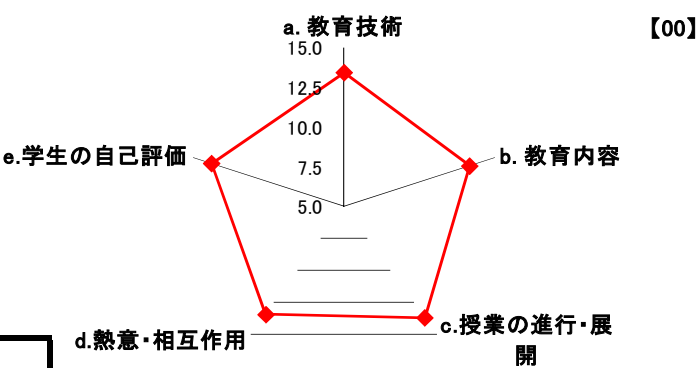
小児の教員が援助論や発達看護学概論の授業を担当していたこともあり、小児の授業なのか援助論の授業なのか混乱してしまったとのご意見をいただきました。これに対し、次年度は、同じ曜日に同じ教員が立て続けに出演しないよう出来るだけ工夫していきたいと考えています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	144	回収数	103	回収率	71.5%
------	-----	-----	-----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅳ
担当者:
清田 明美

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	102	13.46	1.89
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	103	13.34	2.12
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	103	13.67	1.80
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	102	13.40	2.11
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	103	13.79	1.59



N=123

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	58 56.3	35 34.0	10 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.67
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	58 56.3	33 32.0	11 10.7	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.72
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	61 59.2	35 34.0	6 5.8	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.50	0.75

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	60 58.3	33 32.0	9 8.7	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.69
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	58 56.3	31 30.1	12 11.7	1 1.0	1 1.0	0 0.0	4.40	0.80
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	60 58.3	32 31.1	10 9.7	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.71

c.授業の進行・展開

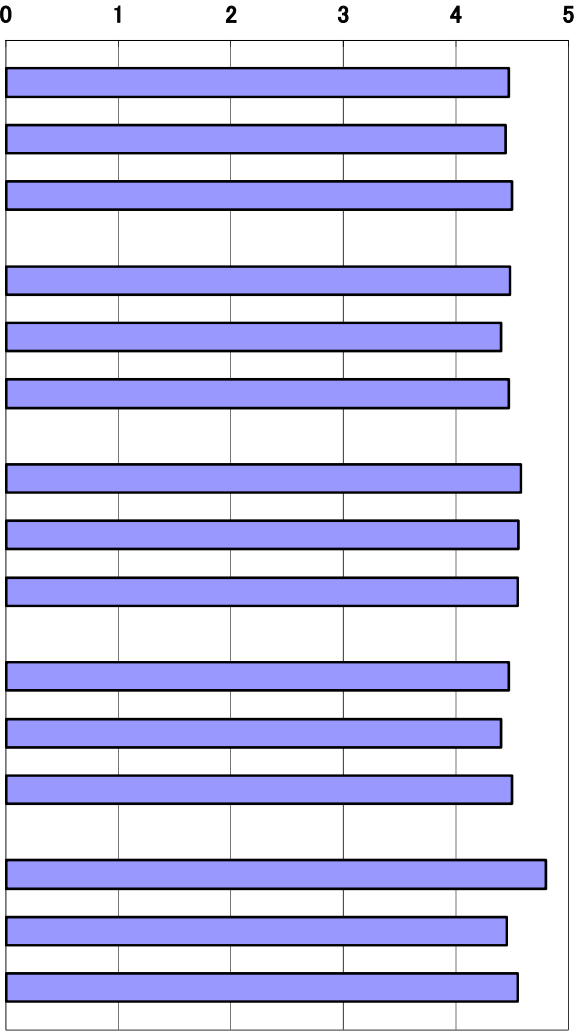
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	67 65.0	28 27.2	8 7.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.63
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	64 62.1	32 31.1	7 6.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.62
⑨	授業の進行速度は適切だった。	62 60.2	35 34.0	6 5.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.54	0.60

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	61 59.2	31 30.1	9 8.7	2 1.9	0 0.0	0 0.0	4.47	0.73
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	58 56.3	34 33.0	7 6.8	3 2.9	0 0.0	1 1.0	4.40	0.86
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	62 60.2	31 30.1	9 8.7	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.69

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	86 83.5	13 12.6	4 3.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.49
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	58 56.3	33 32.0	12 11.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.69
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	63 61.2	33 32.0	7 6.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.54	0.62



科目コード	1K0400	科目名	看護援助論Ⅳ	担当教員名	清田明美
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

・講義に関しては、人間の生活の営みの中で自然に行われている、食事を摂り排泄するまでの過程を理解していただくこと、その過程で障害が生じた場合、生きていく上で生活していく上でどのような影響があるのか、看護者はどのような支援ができるのか、について関連付けて考えられるように構成をしていきました。

・栄養についての授業を興味深く聞いていただけたという内容のコメントをいただき、うれしく思います。

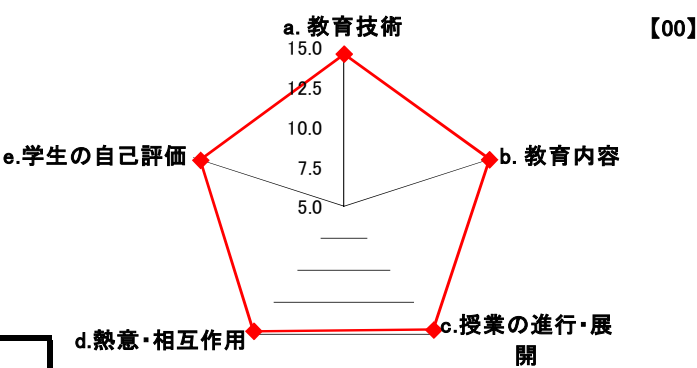
・賛否両論の意見をいただいたのは、グループワークについてです。グループワークは、講義の後半で行いましたが、基本的な栄養代謝に関する疾患が、生活者にどのような影響を与えるのかを考慮した上で必要な看護を導き出すということを、自分たちで考えられることを目的としました。また、発表に関しても、グループの発表を聞く、質問する、自分の学びとするという、受け身ではなく自ら学ぶ姿勢を養っていただきたいと思い、行いました。グループワークを通して深く理解できた、楽しかったという意見もいただきましたが、つまらない、役に立たないといった意見もありましたので、今後の進め方を検討していきたいと思います。テストへの出題に関しては、他グループの発表プリントをコピーする等配慮していきたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅴ
担当者:
川名 るり

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.62	0.86
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.64	0.98
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.60	1.07
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.72	0.84
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.53	0.96



N=65

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	39 83.0	7 14.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31

c. 授業の進行・展開

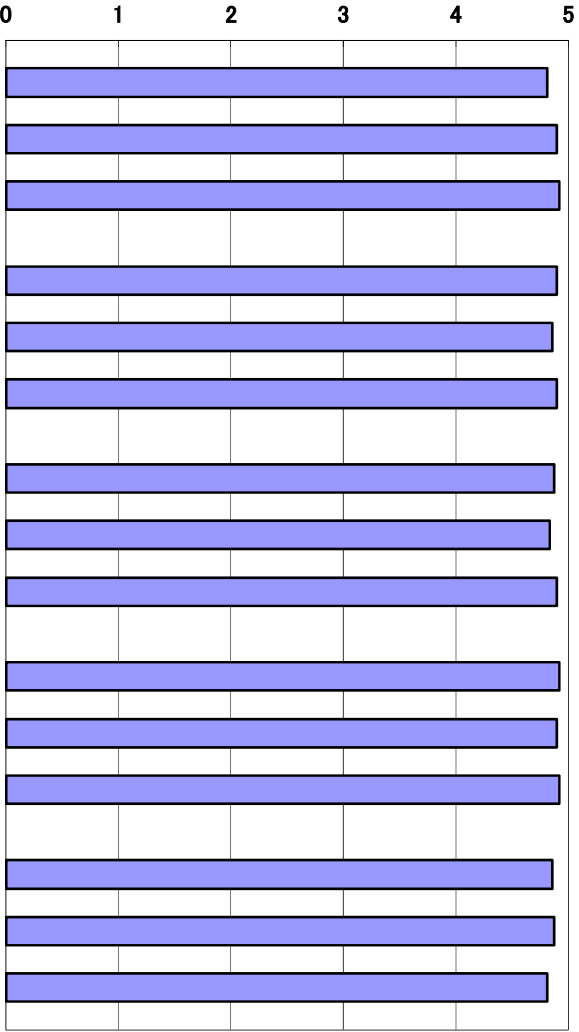
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	41 87.2	4 8.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.48
⑨	授業の進行速度は適切だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	40 85.1	5 10.6	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.49



科目コード	1K0501	科目名	看護援助論Ⅴ	担当教員名	川名るり
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

みなさまから大変高い評価をいただき、ありがとうございました。

授業内容に関連したDVDやビデオを多く取り入れたことで、学びやすかった、理解が深まったとの感想を多くの方々からいただき、映像が大変効果的であったことが分かりました。また、そこでの解説が理解を深めるのに役立ったとの感想もいただき、よかったです。

そして、活動が人にとって大切だということを改めて学べた、楽しくて眠れない授業だったとの感想もいただき、楽しく授業を受けながら学んでもらえたことが分かり、授業を工夫した甲斐があったと嬉しく思いました。次年度も同じような授業スタイルで頑張ります。

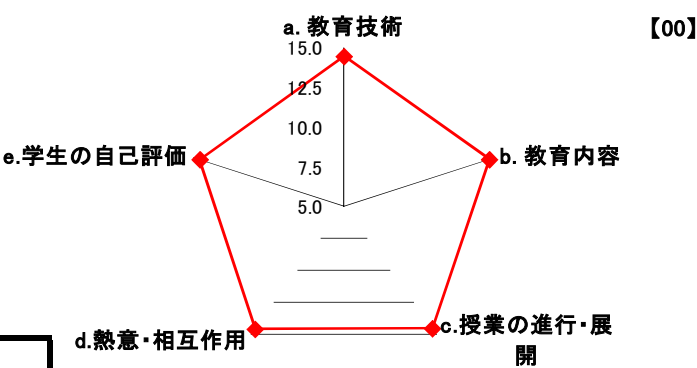
プリントの使い方がわからなかったという意見がありました。配布している資料は授業のアウトラインを示すレジメです。引き続き、配布時にはそのことを説明するようにいたします。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅴ
担当者:
川名 るり

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.49	1.07
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.64	1.04
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.49	1.35
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.55	1.25
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.57	0.96



N=66

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	37 78.7	7 14.9	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.70	0.65
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41

c. 授業の進行・展開

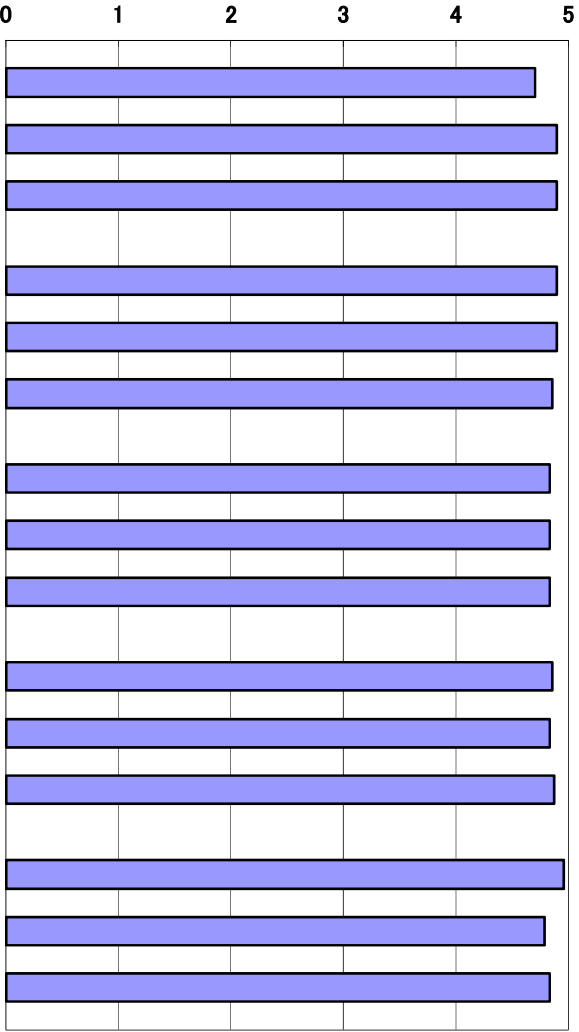
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	40 85.1	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.43
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	41 87.2	4 8.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.48
⑨	授業の進行速度は適切だった。	41 87.2	4 8.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.48

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	41 87.2	4 8.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.48
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	40 85.1	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.43



科目コード	1K0502	科目名	看護援助論Ⅴ	担当教員名	川名るり
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

みなさまから大変高い評価をいただき、ありがとうございました。
授業内容に関連したDVDやビデオを多く取り入れたことで、学びやすかった、理解が深まったとの感想を多くの方々からいただき、映像が大変効果的であったことが分かりました。
かみ砕いた説明でわかりやすかった、動くことが人間に及ぼす重要性が学べた、興味深い授業だったなどの感想もいただき、授業を工夫した甲斐があったと嬉しく思いました。
また、「熱意が伝わりました！」との意見もいただき、頑張った甲斐があったととても嬉しく思います。
来年も同じような授業スタイルで頑張りたいと思います。
この授業は「動く」ということについて色々な角度から考えてもらえるような構成にしています。引き続き、各回で関連性を説明しながら授業を進め、理解を深めてもらえるように努めたいと思います。
レジメにメモをとりにくいという意見がありました。レジメは授業のアウトラインを紹介するために配布しておりますので、是非、ノートを作ってもらえたらいいと思います。
国試の問題をあつかって欲しいという要望がありました。関連する分野の国試問題はできるだけ提示し解説していますが、引き続き、最新の情報をお届けできるように努めます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

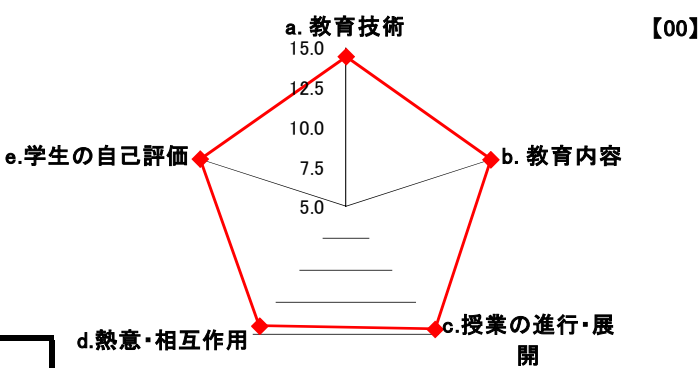
履修者数	143	回収数	62	回収率	43.4%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅵ

担当者:

谷津 裕子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	62	14.47	1.13
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	62	14.61	0.96
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	62	14.55	1.09
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	62	14.29	1.38
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	62	14.68	0.76



N=130

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	53 85.5	9 14.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.35
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	51 82.3	10 16.1	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.81	0.43
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	51 82.3	10 16.1	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.81	0.43

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	54 87.1	8 12.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.34
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	53 85.5	9 14.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.35
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	55 88.7	7 11.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.32

c. 授業の進行・展開

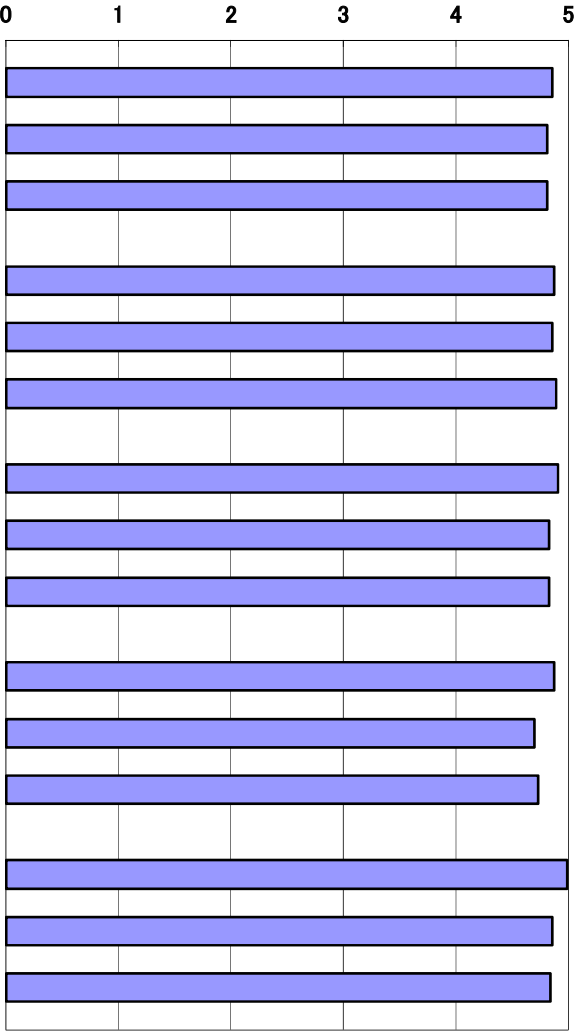
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	56 90.3	6 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	54 87.1	6 9.7	1 1.6	1 1.6	0 0.0	4.82	0.52
⑨	授業の進行速度は適切だった。	53 85.5	7 11.3	2 3.2	0 0.0	0 0.0	4.82	0.46

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	54 87.1	8 12.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.34
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	49 79.0	8 12.9	4 6.5	1 1.6	0 0.0	4.69	0.66
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	49 79.0	9 14.5	4 6.5	0 0.0	0 0.0	4.73	0.57

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	61 98.4	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.13
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	53 85.5	9 14.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.35
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	52 83.9	10 16.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37



科目コード	1K0600	科目名	看護援助論Ⅵ (セクシュアリティ)	担当教員名	谷津裕子
-------	--------	-----	----------------------	-------	------

<教員からのコメント>

全体的に高い評価、そして多くの感想をいただき、とてもうれしく思っています。

特に多かったのは、性同一性障害の当事者のお話に対する感想でした。「今まで考えることのなかった・考えることから避けてきた問題に目を向けることができた」、「身近なことだと感じることができた」、「性について考える貴重な体験となった」など、いずれも肯定的なご意見でした。レジュメや手記などを通して得られる知識も大切ですが、やはり当事者と出会い、お話をじかに聞くことは、その何倍も多くのことを教えてくれます。そう考えて毎年このような機会を設けておりますが、その意図が皆さんに通じてとても満足しています。

私の授業内容や語り方を評価してくださった方もありがとうございます。性に対する意味づけや価値観は、その人がこれまで体験してきたことと切り離せないものがあり、正誤や善悪では推しはかれないものです。授業では、性をそのようなものとして大切に扱い、言葉を選びながら、丁寧に話を進めるようにしています。その姿勢が、皆さんにしっかり伝わっているように思い、励みになりました。

授業進度が速すぎるように感じたというご意見については、たしかにその通りと感じます。毎回、セクシュアリティに関する異なるトピックスについて90分間で展開していくのは、少しハードな部分があったことと思います。これについては今後の課題として、より良い授業の組み立てを検討していきたいと思っています。

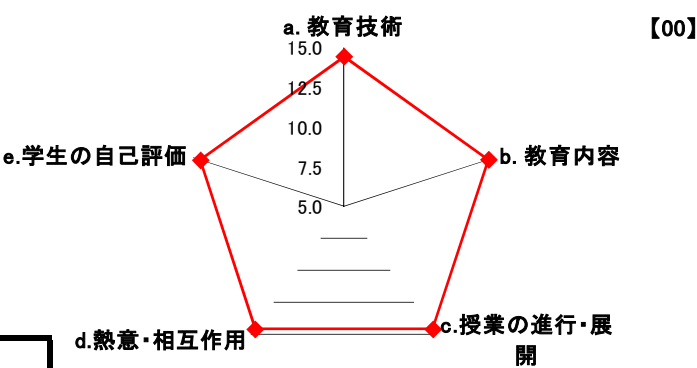
この授業を通して、皆さんがセクシュアリティというものに対してこれまで以上に思いをはせたり考えを深めたりできた様子であることが、大変うれしかったです。皆さんには、個々人のセクシュアリティに関心をもち尊重できる看護師になってほしいと心から願っています。加えて、看護師国家試験の出題基準にもセックス・ジェンダー・セクシュアリティの概念が明記されていますので、看護師に必須の知識としてしっかりと自分のものにしてほしいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	71	回収数	50	回収率	70.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅶ
担当者:
鷹野朋美,堀井湖浪

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	50	14.46	1.22
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	50	14.58	1.04
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	50	14.54	1.06
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	50	14.56	1.00
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	50	14.54	0.92



N=63

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	42 84.0	7 14.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.43
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	42 84.0	7 14.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.43
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	41 82.0	9 18.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.38

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	43 86.0	7 14.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	43 86.0	7 14.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	43 86.0	7 14.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35

c.授業の進行・展開

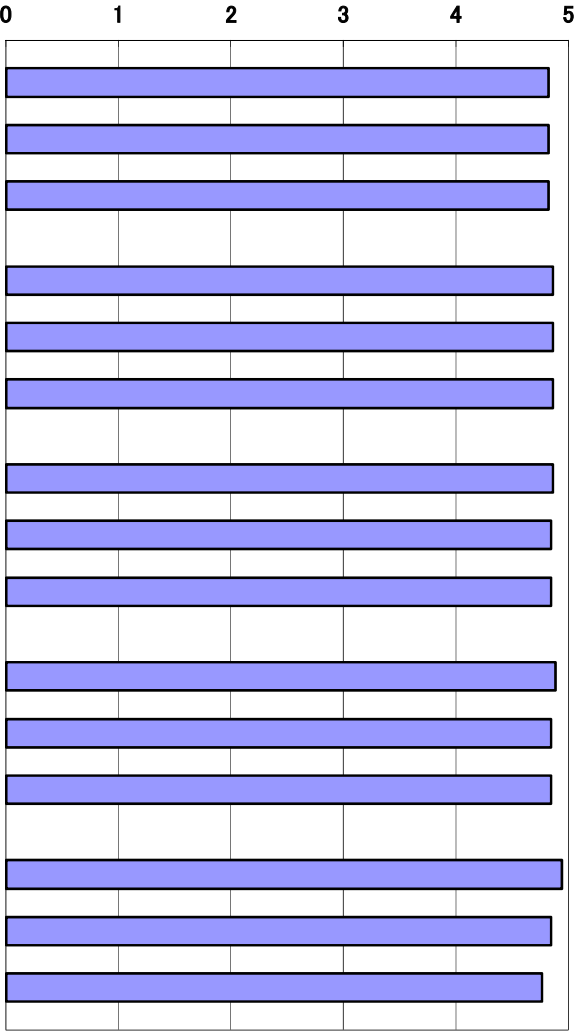
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	43 86.0	7 14.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	42 84.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37
⑨	授業の進行速度は適切だった。	42 84.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	44 88.0	6 12.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	42 84.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	42 84.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	47 94.0	3 6.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	42 84.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	39 78.0	10 20.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.76	0.47



科目コード	1K0701	科目名	看護援助論Ⅶ	担当教員名	鷹野朋実、堀井湖浪
-------	--------	-----	--------	-------	-----------

＜教員からのコメント＞

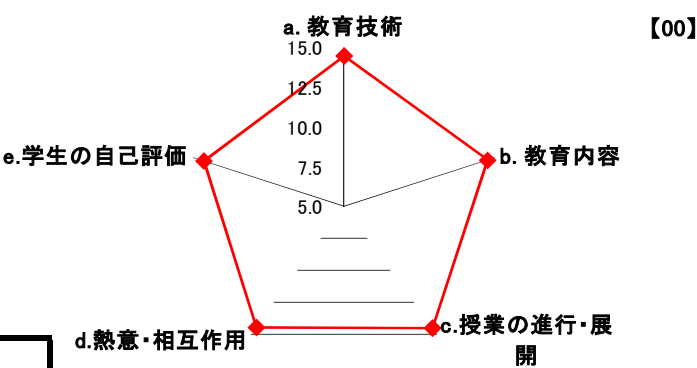
・回数の少ない授業ですが、学生の皆さんに、毎回、熱心に取り組んでもらえて教員としても楽しい授業でした。皆さんの授業評価を参考にして、学生がより興味関心を持てる授業へと改善していきたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	72	回収数	50	回収率	69.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護援助論Ⅶ
担当者:
堀井湖浪,鷹野朋実

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	50	14.50	1.25
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	50	14.52	1.12
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	50	14.48	1.25
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	50	14.42	1.43
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	48	14.29	1.43



N=66

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	43 86.0	6 12.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.42
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	43 86.0	6 12.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.42
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	42 84.0	7 14.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.43

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	42 84.0	7 14.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.43
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	43 86.0	7 14.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	42 84.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37

c. 授業の進行・展開

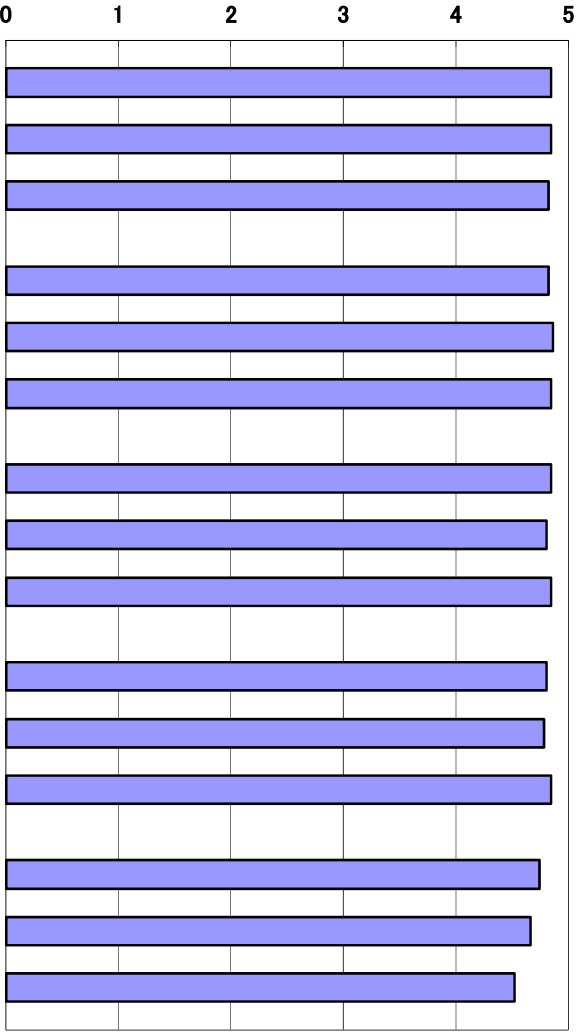
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	43 86.0	6 12.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.42
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	41 82.0	8 16.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.45
⑨	授業の進行速度は適切だった。	43 86.0	6 12.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.42

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	41 82.0	8 16.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.45
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	41 82.0	8 16.0	0 0.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.54
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	44 88.0	5 10.0	0 0.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.50

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	41 82.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.0	4.74	0.77
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	39 78.0	9 18.0	0 0.0	1 2.0	0 0.0	1 2.0	4.66	0.86
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	36 72.0	11 22.0	0 0.0	1 2.0	0 0.0	2 4.0	4.52	1.08



科目コード	1K0702	科目名	看護援助論Ⅶ	担当教員名	堀井湖浪・鷹野朋実
-------	--------	-----	--------	-------	-----------

＜教員からのコメント＞

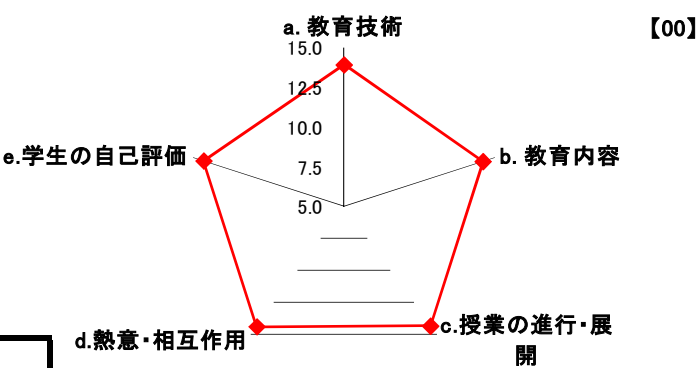
この授業では、人間の心と身体、家族について、必要な概念や理論を用いて解説しました。取り上げたテーマは「ストレス・コーピング」「心身相関」「防衛機制」「人間の怒りと攻撃心」「家族のダイナミクス」などでしたが、授業の内容が「身近に感じて楽しかった」、授業資料や事例がわかりやすかったなどの感想と高い評価をいただきました。授業後の感想には、自分自身の体験の意味を考え、言葉にする段階にまで到達していた人もいましたので、驚きました。これからもわかりやすく、自分の体験を振り返ってみたいくなるような事例を取り上げていきたいと思います。また、この授業で学習したことが対象理解に役立てられるといいと願っています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	66	回収数	47	回収率	71.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:精神保健看護学Ⅱ
担当者:
鷹野朋美,堀井湖浪,武井麻子,小宮敬子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.96	1.66
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.21	1.24
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.30	1.24
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.38	1.10
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.32	1.15



N=54

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	34 72.3	13 27.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.45
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	32 68.1	14 29.8	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.62	0.70
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	32 68.1	14 29.8	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.62	0.70

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	34 72.3	13 27.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.45
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	35 74.5	12 25.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	35 74.5	12 25.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44

c.授業の進行・展開

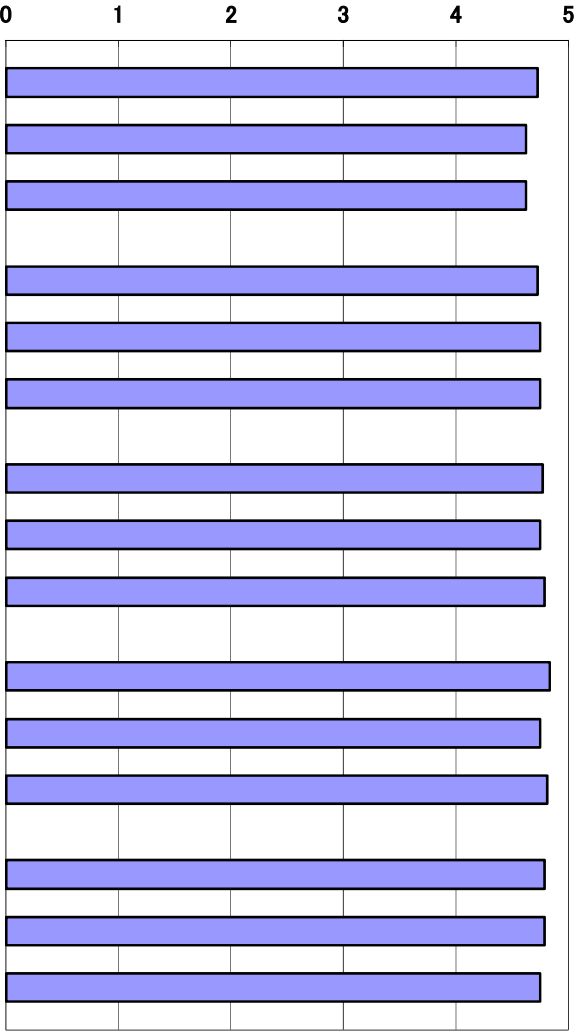
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	36 76.6	11 23.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.42
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	35 74.5	12 25.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑨	授業の進行速度は適切だった。	37 78.7	10 21.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	39 83.0	8 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	35 74.5	12 25.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	38 80.9	9 19.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.39

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	38 80.9	8 17.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.79	0.46
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	37 78.7	10 21.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	35 74.5	12 25.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44



科目コード	1L0201	科目名	精神保健看護学Ⅱ	担当教員名	鷹野朋実、堀井湖浪、武井麻子、小宮敬子
-------	--------	-----	----------	-------	---------------------

＜教員からのコメント＞

- ・遠藤公久先生の「知能検査・心理検査」の講義はとても大切なのですが、この授業の中で何を狙って位置づけているのかが学生に十分に伝えられていないということが皆さんのコメントからわかりました。精神保健看護学においてこの検査結果がどのように活用できるのか、具体的な事例などを組み込むなど、来年度に向けて工夫したいと思います。
- ・精神障害者の当事者の皆様の講義が学生の皆さんにとって有意義であったということがコメントからわかりましたので、来年度以降も継続できるように調整していきたいと考えています。講義にきていただいた方々にもこの授業評価のコメントはお伝えします。
- ・授業全般について、今回の授業評価の結果を反映させて、よりよいものに改善していきたいと思います。回答していただき、ありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

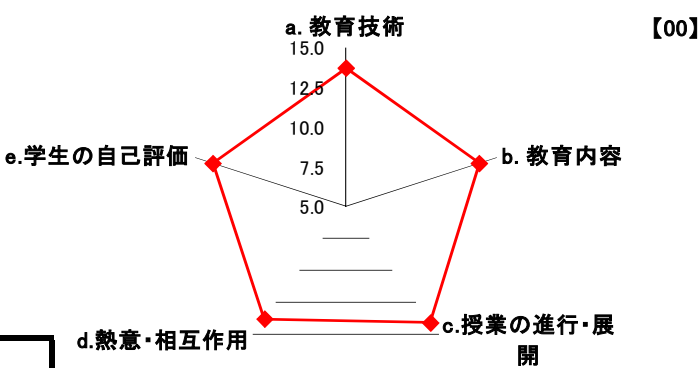
履修者数	69	回収数	47	回収率	68.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:精神保健看護学Ⅱ

担当者:

鷹野朋美,堀井湖浪,武井麻子,小宮敬子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	13.74	1.52
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	13.83	1.37
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.04	1.34
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	13.77	1.56
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	46	13.83	1.66



N=60

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	28 59.6	19 40.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	29 61.7	15 31.9	3 6.4	0 0.0	0 0.0	4.55	0.61
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	30 63.8	15 31.9	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.60	0.57

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	28 59.6	17 36.2	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.55	0.58
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	29 61.7	18 38.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.49
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	31 66.0	16 34.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.47

c.授業の進行・展開

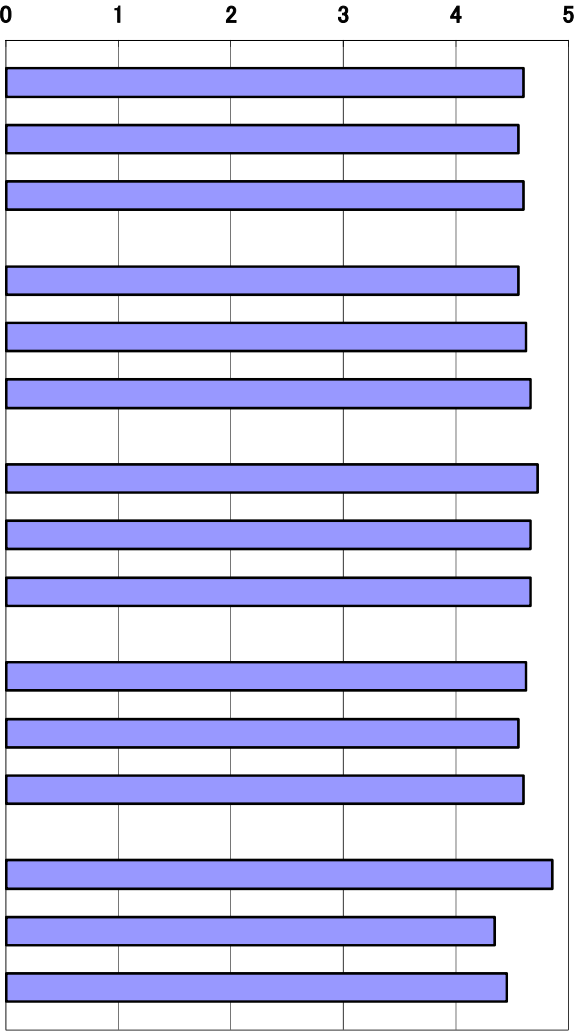
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	34 72.3	13 27.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.45
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	31 66.0	16 34.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.47
⑨	授業の進行速度は適切だった。	31 66.0	16 34.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.47

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	30 63.8	16 34.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.62	0.53
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	28 59.6	17 36.2	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.55	0.58
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	29 61.7	17 36.2	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.60	0.53

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	27 57.4	14 29.8	4 8.5	0 0.0	1 2.1	4.34	1.04
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	30 63.8	13 27.7	2 4.3	0 0.0	1 2.1	4.45	1.01



科目コード	1L0202	科目名	精神保健看護学Ⅱ	担当教員名	鷹野朋実、堀井湖浪、武井麻子、小宮敬子
-------	--------	-----	----------	-------	---------------------

＜教員からのコメント＞

- ・精神障害者の当事者の皆様の講義が、学生の皆さんにとってとても有意義な体験となったということがコメントからわかりました。来年度以降も継続できるように調整していきたいと考えています。講義にきていただいた方々にも皆さんの授業評価のコメントをお伝えしたいと思います。
- ・受講する学生数に対して、教室が狭かったようです。学務課教務係にこの件については伝えます。
- ・授業の中で5回課している感想レポートは、学生に授業内容について振り返ってほしいということと、担当した教員や講師へのフィードバック、さらには受け身になりがちな授業に学生が主体的に関わる機会にしたい、などという意図によるものです。レポートの時期、回数など、次年度に向けて検討したいと思います。
- ・授業全般について、今回の授業評価の結果を反映させて、よりよいものに改善していきたいと思います。回答していただき、ありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

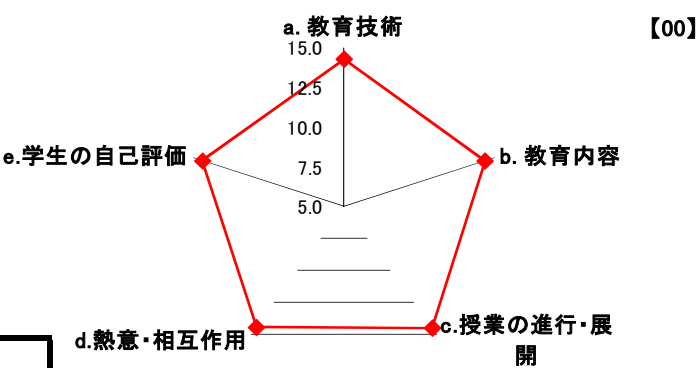
履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:発達看護学概論

担当者:

江本リナ,川名るり,千葉京子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.30	1.24
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.34	1.17
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.47	1.09
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.40	1.33
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.40	1.00



N=58

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	35	12	0	0	0	0	4.74	0.44
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	36	11	0	0	0	0	4.77	0.42
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	37	10	0	0	0	0	4.79	0.41

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	37	10	0	0	0	0	4.79	0.41
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	36	10	1	0	0	0	4.74	0.48
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	38	9	0	0	0	0	4.81	0.39

c. 授業の進行・展開

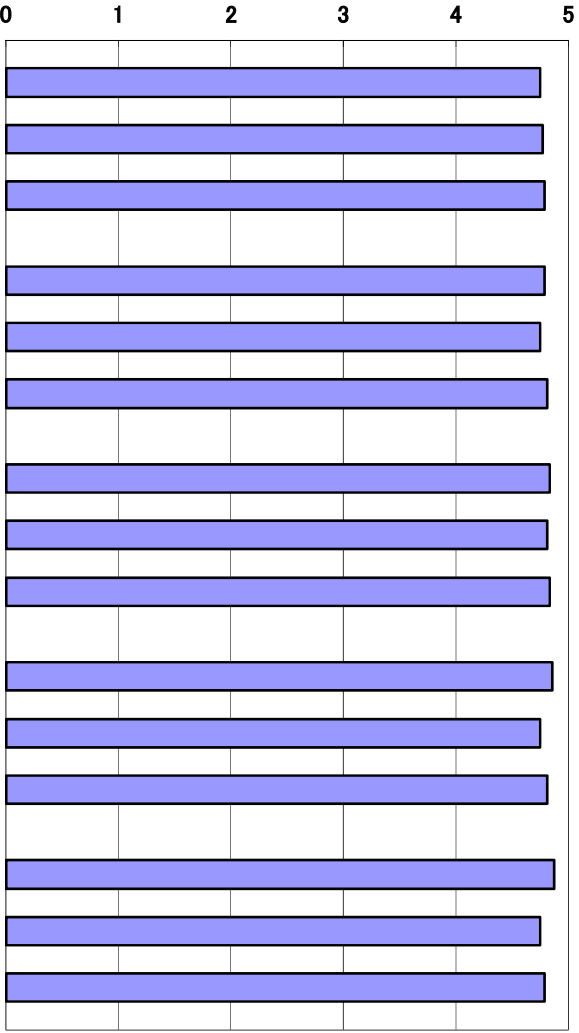
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	39	8	0	0	0	0	4.83	0.38
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	38	9	0	0	0	0	4.81	0.39
⑨	授業の進行速度は適切だった。	39	8	0	0	0	0	4.83	0.38

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	40	7	0	0	0	0	4.85	0.36
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	38	7	1	1	0	0	4.74	0.60
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	40	5	2	0	0	0	4.81	0.49

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	42	4	1	0	0	0	4.87	0.39
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	37	8	2	0	0	0	4.74	0.52
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	37	10	0	0	0	0	4.79	0.41



科目コード	1M0101	科目名	発達看護概論	担当教員名	江本リナ・川名るり・千葉京子
-------	--------	-----	--------	-------	----------------

<教員からのコメント>

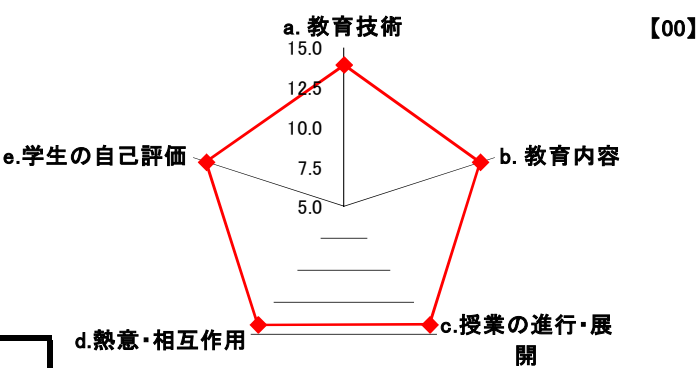
大変高い評価をいただきました。
授業内容によって教員が異なりましたが、複数の先生の講義をあきずに聞くことができたとの意見もあり、嬉しく思いました。
興味をもって授業に参加したことが分かる感想をいただき、授業の工夫をした甲斐があったと感じています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	73	回収数	50	回収率	68.5%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:発達看護学概論
担当者:
江本リナ,川名るり,千葉京子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	50	13.94	1.41
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	50	14.04	1.40
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	50	14.20	1.33
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	50	14.22	1.22
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	50	14.14	1.18



N=68

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	34 68.0	15 30.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.51
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	32 64.0	17 34.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.52
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	33 66.0	17 34.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.47

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	34 68.0	15 30.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.51
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	36 72.0	13 26.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.50
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	34 68.0	16 32.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.47

c. 授業の進行・展開

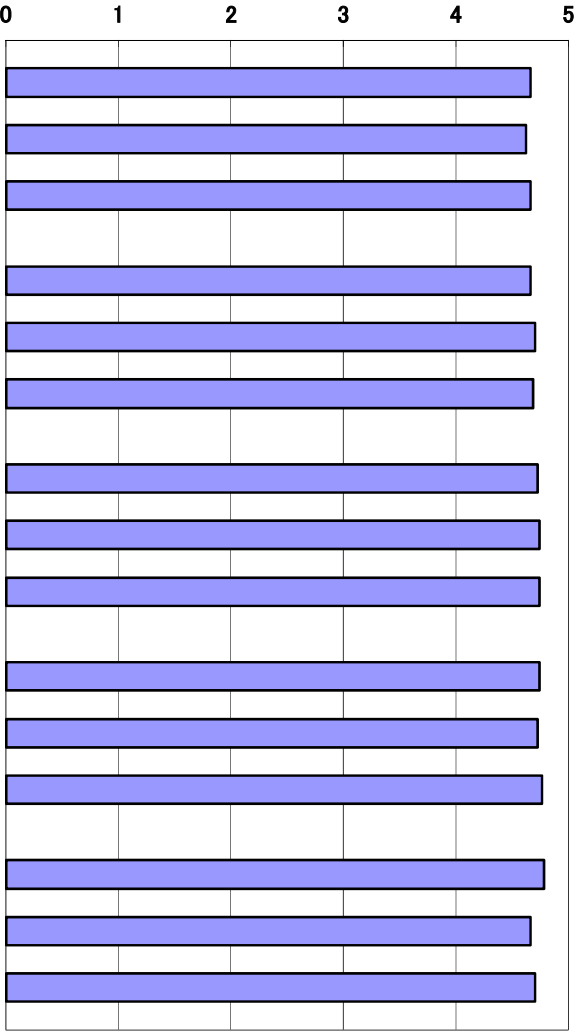
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	37 74.0	12 24.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.49
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	37 74.0	13 26.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑨	授業の進行速度は適切だった。	37 74.0	13 26.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	37 74.0	13 26.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	36 72.0	14 28.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.45
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	38 76.0	12 24.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.76	0.43

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	40 80.0	9 18.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.46
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	34 68.0	15 30.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.51
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	36 72.0	13 26.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.50



科目コード	1M0102	科目名	発達看護学概論	担当教員名	江本リナ・川名るり・千葉京子
-------	--------	-----	---------	-------	----------------

<教員からのコメント>

大変高い評価をいただきました。

1限であったにもかかわらず、授業に興味を持って楽しく参加していたことが分かる感想をいただき、嬉しく思っています。

配付資料は書き込みしづらいとのご意見がありましたが、授業のアウトラインを示したレジメですので、ご自分のノートを作成して授業内容をまとめてくださいね。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

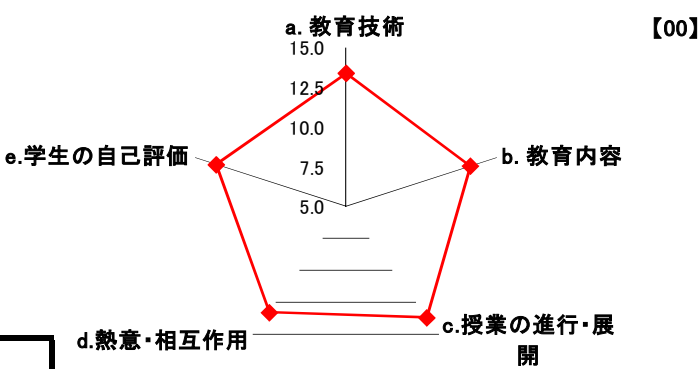
履修者数	144	回収数	104	回収率	72.2%
------	-----	-----	-----	-----	-------

科目:発達看護学(成人期の看護)

担当者:

本庄 恵子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	104	13.40	2.32
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	104	13.24	2.09
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	104	13.65	1.84
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	104	13.24	2.33
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	103	13.61	1.56



N=133

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	66 63.5	30 28.8	7 6.7	0 0.0	1 1.0	0 0.0	4.54	0.71
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	63 60.6	29 27.9	8 7.7	3 2.9	1 1.0	0 0.0	4.44	0.83
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	64 61.5	28 26.9	7 6.7	2 1.9	3 2.9	0 0.0	4.42	0.92

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	58 55.8	36 34.6	8 7.7	1 1.0	1 1.0	0 0.0	4.43	0.76
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	54 51.9	35 33.7	14 13.5	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4.37	0.75
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	58 55.8	35 33.7	10 9.6	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.70

c. 授業の進行・展開

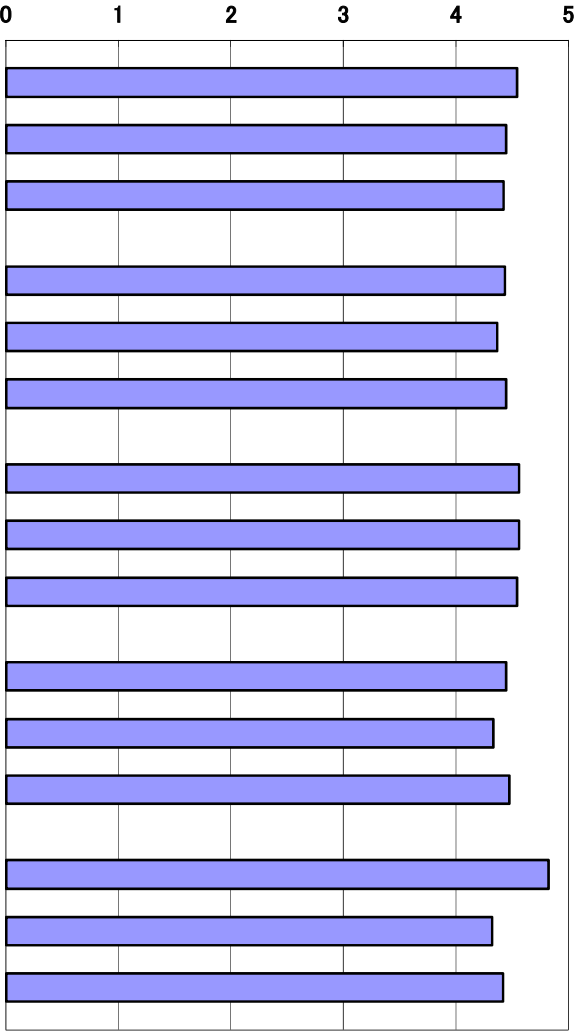
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	69 66.3	28 26.9	5 4.8	0 0.0	2 1.9	0 0.0	4.56	0.76
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	65 62.5	32 30.8	7 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.62
⑨	授業の進行速度は適切だった。	64 61.5	32 30.8	8 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.54	0.63

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	62 59.6	30 28.8	9 8.7	2 1.9	1 1.0	0 0.0	4.44	0.81
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	57 54.8	30 28.8	12 11.5	4 3.8	1 1.0	0 0.0	4.33	0.89
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	62 59.6	32 30.8	8 7.7	1 1.0	1 1.0	0 0.0	4.47	0.76

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	87 83.7	15 14.4	2 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.43
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	53 51.0	36 34.6	12 11.5	2 1.9	0 0.0	1 1.0	4.32	0.87
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	55 52.9	38 36.5	10 9.6	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4.41	0.70



科目コード	1M0200	科目名	発達看護学(成人期の看護)	担当教員名	本庄恵子
-------	--------	-----	---------------	-------	------

<教員からのコメント>

レジュメがわかりやすかったという意見や、穴埋め式であることが理解に役立ったという意見がありましたので、次年度も継続して資料を工夫したいと思います。

学生のみなさんからのリアクションペーパーをもとに、前回の授業の振り返りを毎回したことが良かったということですので、継続したいと思います。

実体験や実習で生かせる知識も役立つとのことですので、引き続き授業に取り入れていきたいと思っています。

授業中にマイクを回して学生の感想や意見を聞く時間をとりましたが、他の学生の意見がきくことが学習の助けになったということですので、継続したいと思います。

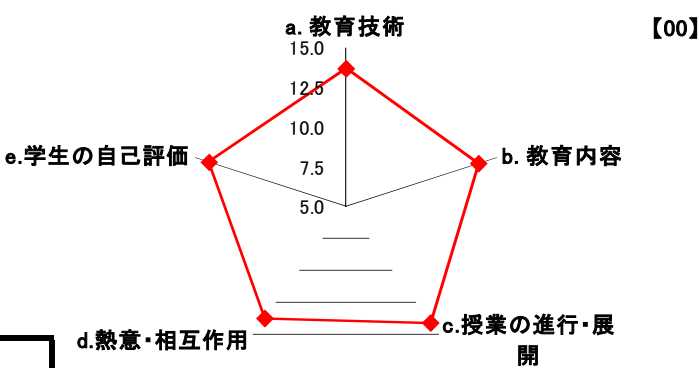
そして、学生のみなさん全員が気持ちよく授業に集中できるような環境づくりにも努めていきたいと思っています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	136	回収数	62	回収率	45.6%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:発達看護学Ⅰ②
担当者:
新田 真弓

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	62	13.71	1.66
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	62	13.81	1.73
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	62	14.06	1.35
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	62	13.73	1.78
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	62	14.11	1.33



N=89

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	42 67.7	19 30.6	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.51
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	39 62.9	21 33.9	0 0.0	2 3.2	0 0.0	0 0.0	4.56	0.66
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	37 59.7	20 32.3	3 4.8	2 3.2	0 0.0	0 0.0	4.48	0.73

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	40 64.5	18 29.0	2 3.2	2 3.2	0 0.0	0 0.0	4.55	0.71
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	41 66.1	17 27.4	3 4.8	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.58	0.66
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	43 69.4	18 29.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.50

c. 授業の進行・展開

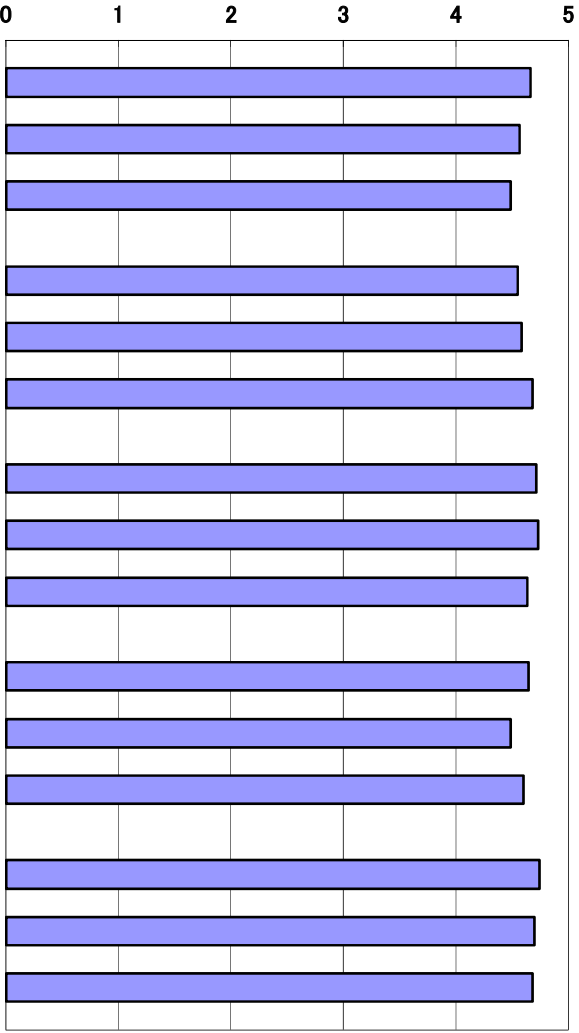
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	45 72.6	16 25.8	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.49
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	45 72.6	17 27.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.45
⑨	授業の進行速度は適切だった。	41 66.1	19 30.6	2 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.55

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	42 67.7	18 29.0	2 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.54
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	38 61.3	18 29.0	4 6.5	2 3.2	0 0.0	0 0.0	4.48	0.76
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	41 66.1	18 29.0	2 3.2	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.60	0.63

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46 74.2	16 25.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	43 69.4	19 30.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.46
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	44 71.0	17 27.4	0 0.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.68	0.56



科目コード	1M0400	科目名	発達看護学Ⅰ②	担当教員名	新田真弓
-------	--------	-----	---------	-------	------

＜教員からのコメント＞

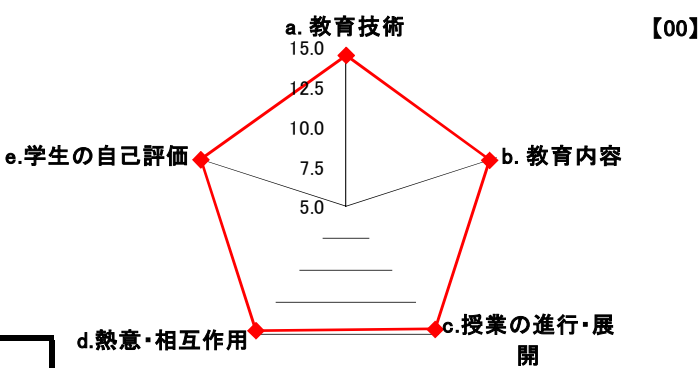
- ・いろいろなご意見ありがとうございました。
- ・授業内ではDVDや資料を用いて【新生児】や【新生児のいる生活】をイメージしてもらえたらと思っておりましたが、理解を助ける参考となったようで良かったです。また皆さんから毎回、質問や感想を提出していただきフィードバックしていますが、前回の復習になったり他の学生の考えを知る機会となっていたようです。
- ・看護過程の事例演習に関しては、事例の提示方法や授業内で演習時間・質問時間を確保できたことで取り組みやすくする工夫をしましたが、他の科目との重なり等があったようですので、次年度は提出時期については少し検討したいと思います。
- ・配布資料に関しては、今後も全授業分を配布しようと考えておりますが、皆さんが記入しやすい形式を考えていきたいと思ひます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	66	回収数	57	回収率	86.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:発達看護学Ⅱ②
担当者:
川名るり,江本リナ

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	57	14.54	0.99
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	57	14.51	1.05
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	57	14.54	1.11
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	57	14.68	0.88
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	57	14.63	0.91



N=57

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	48	9	0	0	0	0	4.84	0.36
		84.2	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0		
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	49	8	0	0	0	0	4.86	0.35
		86.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	48	9	0	0	0	0	4.84	0.36
		84.2	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0		

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	50	6	1	0	0	0	4.86	0.39
		87.7	10.5	1.8	0.0	0.0	0.0		
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	46	10	1	0	0	0	4.79	0.45
		80.7	17.5	1.8	0.0	0.0	0.0		
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	49	8	0	0	0	0	4.86	0.35
		86.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

c.授業の進行・展開

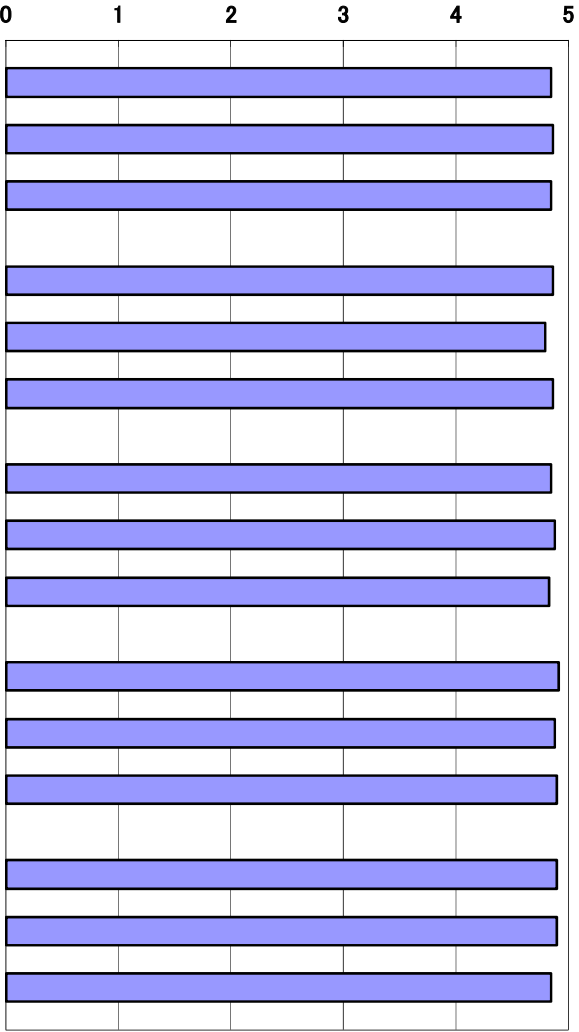
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	48	9	0	0	0	0	4.84	0.36
		84.2	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	50	7	0	0	0	0	4.88	0.33
		87.7	12.3	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑨	授業の進行速度は適切だった。	49	6	2	0	0	0	4.82	0.46
		86.0	10.5	3.5	0.0	0.0	0.0		

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	52	5	0	0	0	0	4.91	0.28
		91.2	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	51	5	1	0	0	0	4.88	0.38
		89.5	8.8	1.8	0.0	0.0	0.0		
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	51	6	0	0	0	0	4.89	0.31
		89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0		

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	51	6	0	0	0	0	4.89	0.31
		89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	51	6	0	0	0	0	4.89	0.31
		89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	49	7	1	0	0	0	4.84	0.41
		86.0	12.3	1.8	0.0	0.0	0.0		



科目コード	1M0601	科目名	発達看護学Ⅱ②	担当教員名	川名るり・江本リナ
-------	--------	-----	---------	-------	-----------

＜教員からのコメント＞

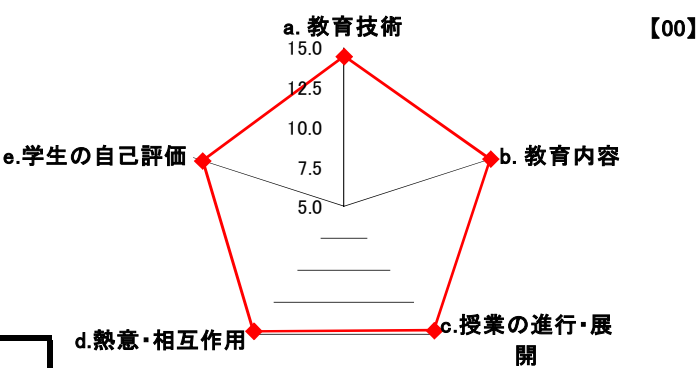
大変高い評価をありがとうございました。
授業の内容に沿ったDVD、映像でとてもよく理解できたという感想を多くの方からいただきました。
子どもの病気に対するイメージが沸くようにとの工夫が、効果的であったことがよく分かりました。
これからも映像を多く取り入れていきたいと思います。
小児の教員全員が担当しましたが、「先生方、完璧でした」との感想をいただき、ますます教育への意欲がわいてきました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	69	回収数	47	回収率	68.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:発達看護学Ⅱ②
担当者:
川名るり,江本リナ

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	47	14.49	1.05
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	47	14.70	0.92
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	47	14.66	0.88
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	47	14.72	0.71
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	47	14.38	1.44



N=52

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	38 80.9	9 19.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.39
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	38 80.9	9 19.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.39
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37

c.授業の進行・展開

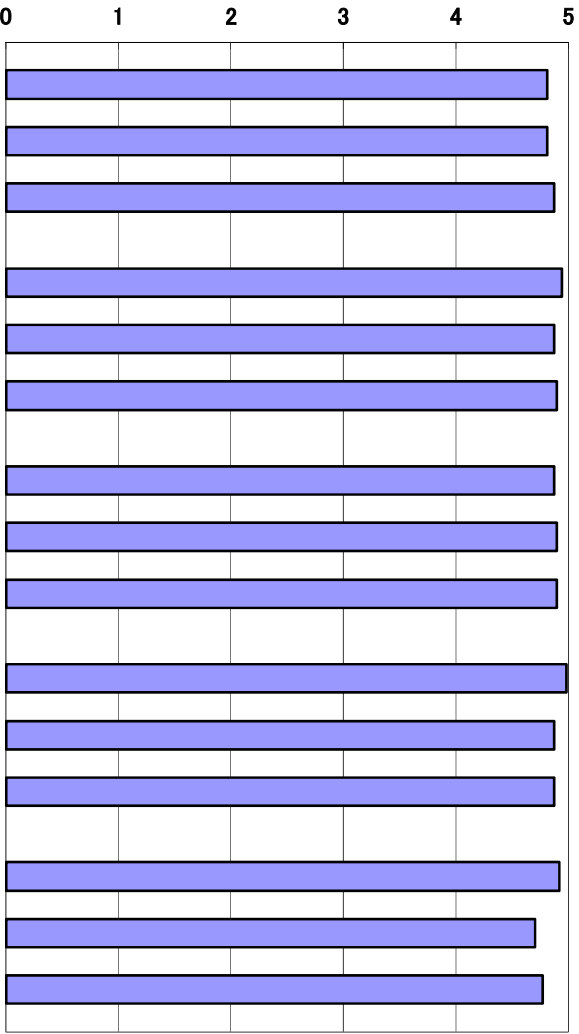
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	42 89.4	4 8.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.87	0.39
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑨	授業の進行速度は適切だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	37 78.7	8 17.0	1 2.1	0 0.0	1 2.1	4.70	0.71
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	40 85.1	5 10.6	1 2.1	0 0.0	1 2.1	4.77	0.69



科目コード	1M0602	科目名	発達看護学Ⅱ②	担当教員名	川名るり・江本リナ
-------	--------	-----	---------	-------	-----------

<教員からのコメント>

大変高い評価をありがとうございました。

授業の内容に関連する映像を多く取り入れましたが、それによってイメージしやすかった、分かりやすかったとの感想を多くの方々からいただき、工夫した事が効果的であったことが分かりました。

小児全員の教員で担当しましたが、毎回熱意が伝わった、面白いので寝た事がない、授業の内容が濃い、一人ひとりの進行度に合わせていたとの感想もあり、大変嬉しく思いました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

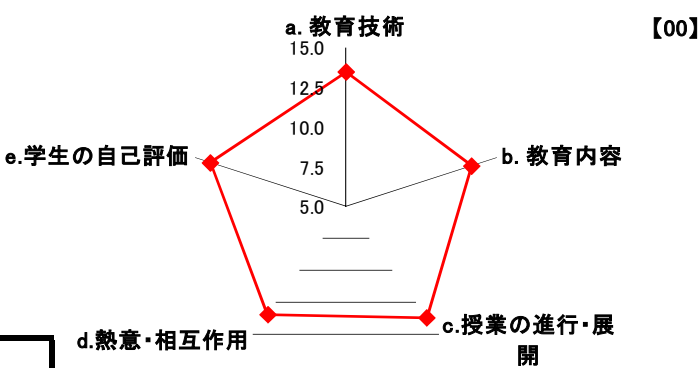
履修者数	136	回収数	69	回収率	50.7%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:発達看護学Ⅲ②

担当者:

千葉京子,坂口千鶴,清田明美,江見香月,
比留間絵美

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	69	13.49	1.62
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	68	13.32	1.97
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	69	13.68	1.80
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	69	13.42	2.03
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	69	14.00	1.26



N=96

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	37 53.6	29 42.0	3 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.49	0.58
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	36 52.2	30 43.5	3 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.58
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	39 56.5	27 39.1	3 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.52	0.58

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	34 49.3	31 44.9	3 4.3	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.42	0.65
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	36 52.2	24 34.8	8 11.6	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.38	0.74
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	41 59.4	22 31.9	4 5.8	1 1.4	0 0.0	1 1.4	4.45	0.86

c.授業の進行・展開

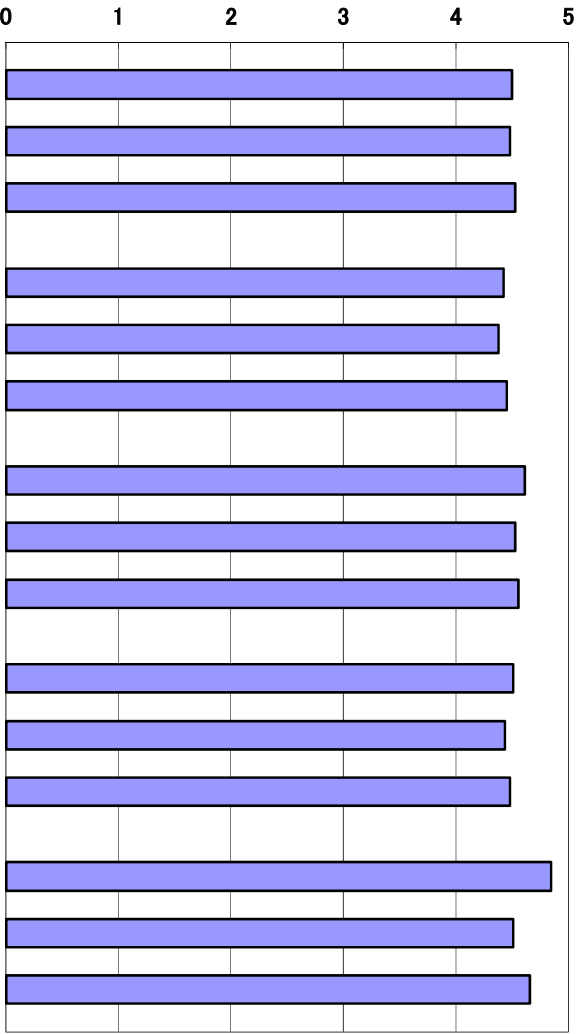
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	44 63.8	23 33.3	2 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.61	0.54
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	42 60.9	24 34.8	1 1.4	1 1.4	1 1.4	0 0.0	4.52	0.73
⑨	授業の進行速度は適切だった。	42 60.9	25 36.2	1 1.4	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4.55	0.67

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	40 58.0	26 37.7	2 2.9	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4.51	0.69
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	38 55.1	25 36.2	5 7.2	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4.43	0.75
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	40 58.0	24 34.8	4 5.8	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4.48	0.73

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	58 84.1	11 15.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.37
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	40 58.0	24 34.8	5 7.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.63
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	46 66.7	22 31.9	1 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.51



科目コード	1M0800	科目名	発達看護学Ⅲ②	担当教員名	千葉京子,坂口千鶴,清田明美,江見香月,比留間絵美
-------	--------	-----	---------	-------	---------------------------

<教員からのコメント>

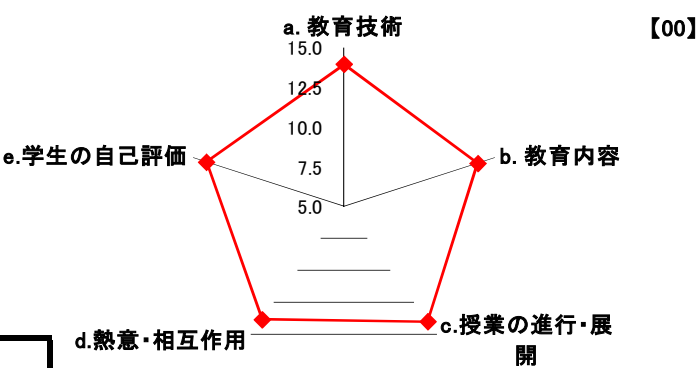
- ・今年度は新しいカリキュラムで実施した年度でした。学生の参加をより高めるアクティブ・ラーニング的授業になるよう工夫しました。具体的には授業の最初に事例とアセスメント記入用紙を提示し、アセスメント項目毎の授業内容とし、授業進行にあわせてアセスメントが完成するようにプログラムしました。
- ・アセスメントを記入する時間を授業時間内に設けたこと、高齢者の特徴が理解できたこと、レジュメがわかりやすかったことなどを評価いただき嬉しく思います。
- ・アセスメント枠がほぼ記入できた段階でグループワークによる全体像の把握や看護問題の明確化を行うようにしましたが、早い時期での実施を希望される方もいるので、時期については検討します。
- ・課題提出期限の連絡については、開講時に伝えられるよう改善します。
- ・毎回、授業内容に該当する個所を事前に読み、質問を3点用紙に記入いただきましたが、その質問への対応が充分行えませんでした。これは担当教員が複数関与して交代で授業を担当していることから、提出された質問を次の授業で解説したり、その日の授業内容に反映できなかったためと考えます。この点については方略を改善したいと思います。
- ・また、他の授業の課題との重複についてのコメントもいただきました。定期試験間近の時など、時期も配慮したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	155	回収数	77	回収率	49.7%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:プライマリーヘルスケア
担当者:
福井小紀子,岡本有子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	76	13.97	1.66
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	77	13.87	1.90
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	76	13.97	1.63
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	77	13.79	1.87
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	77	14.13	1.57



N=116

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	55 71.4	18 23.4	4 5.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.57
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	55 71.4	18 23.4	4 5.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.57
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	52 67.5	20 26.0	4 5.2	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.57	0.78

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	53 68.8	20 26.0	3 3.9	0 0.0	1 1.3	0 0.0	4.61	0.69
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	55 71.4	15 19.5	5 6.5	2 2.6	0 0.0	0 0.0	4.60	0.73
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	57 74.0	14 18.2	6 7.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.62

c. 授業の進行・展開

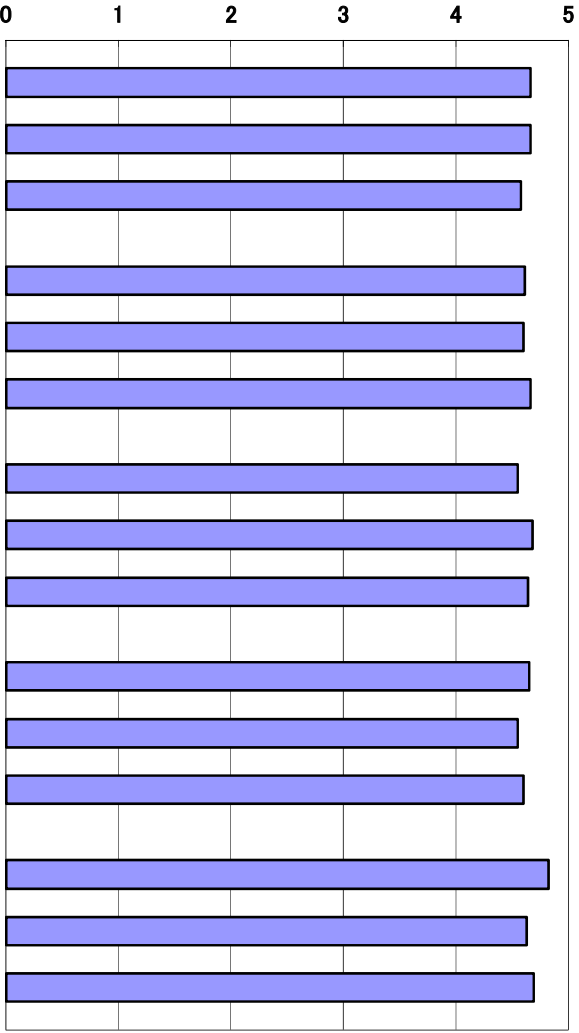
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	52 67.5	17 22.1	6 7.8	2 2.6	0 0.0	0 0.0	4.55	0.75
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	56 72.7	17 22.1	4 5.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.57
⑨	授業の進行速度は適切だった。	55 71.4	19 24.7	2 2.6	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.64	0.74

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	57 74.0	13 16.9	7 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.64
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	51 66.2	17 22.1	9 11.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.69
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	54 70.1	15 19.5	8 10.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.67

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	65 84.4	10 13.0	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.82	0.45
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	56 72.7	13 16.9	8 10.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.67
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	59 76.6	12 15.6	6 7.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.61



科目コード	1N0100	科目名	プライマリーヘルスケア	担当教員名	福井小紀子、岡本有子
-------	--------	-----	-------------	-------	------------

<教員からのコメント>

全体的に高い評価をいただき、とても嬉しく思います。

自由記載から、現場の実践者からの講義は大変好評で、在宅看護にも関心や興味をもってもらえたと思います。

また、ビデオによる映像もよかったとのことで、在宅での療養生活をイメージする際の助けになることがわかりました

グループワークの進め方、配布資料の作成等、講義を進める上での課題については、改善していくように努めていきます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

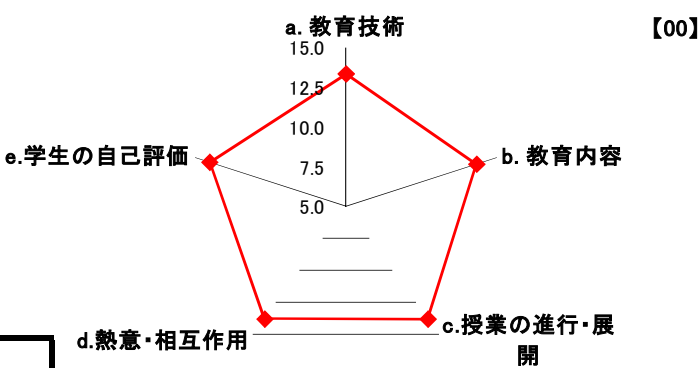
履修者数	145	回収数	73	回収率	50.3%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:慢性期ケア

担当者:

下村裕子,川上明希,丹羽淳子,住谷ゆかり

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	73	13.37	2.27
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	72	13.65	2.10
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	73	13.78	1.82
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	72	13.75	1.87
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	73	14.04	1.43



N=139

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	52 71.2	18 24.7	3 4.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.55
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	47 64.4	16 21.9	7 9.6	2 2.7	1 1.4	0 0.0	4.45	0.88
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	43 58.9	14 19.2	10 13.7	3 4.1	3 4.1	0 0.0	4.25	1.10

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	45 61.6	21 28.8	5 6.8	0 0.0	1 1.4	1 1.4	4.45	0.91
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	48 65.8	18 24.7	6 8.2	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.55	0.70
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	49 67.1	19 26.0	4 5.5	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4.58	0.72

c.授業の進行・展開

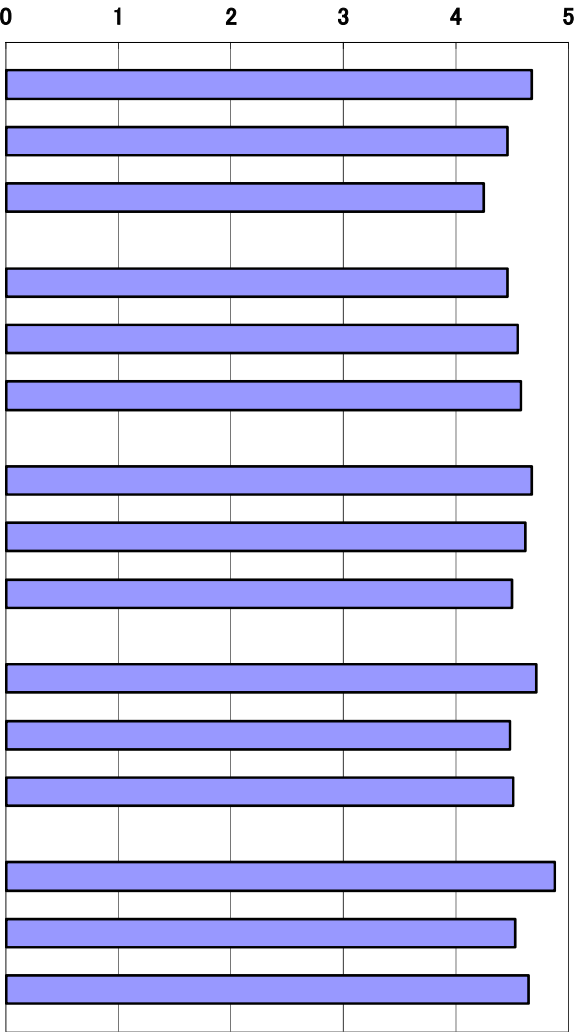
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	53 72.6	16 21.9	4 5.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.57
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	51 69.9	16 21.9	6 8.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.63
⑨	授業の進行速度は適切だった。	46 63.0	18 24.7	8 11.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.49	0.74

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	56 76.7	14 19.2	2 2.7	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.71	0.58
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	46 63.0	19 26.0	5 6.8	3 4.1	0 0.0	0 0.0	4.48	0.80
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	49 67.1	16 21.9	6 8.2	1 1.4	0 0.0	1 1.4	4.51	0.88

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	65 89.0	7 9.6	1 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.37
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	45 61.6	21 28.8	7 9.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.52	0.66
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	52 71.2	17 23.3	3 4.1	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.64	0.63



科目コード	1N0200	科目名	慢性期ケア	担当教員名	下村裕子,丹羽淳子,住谷ゆかり,川上明希
-------	--------	-----	-------	-------	----------------------

<教員からのコメント>

慢性期ケアの特徴を理解してもらうとともに、臨床(実習)で役立つように、実際のケアに役立ててもらいたいと願い・意図したことや、1年生の学習の上に2年生の学習を積み重ねていってもらいたいと考えたことなどが、少しでも皆さんに伝わり、役立つことができて良かったです。

15回の講義で、様々な慢性疾患をもつ人々のケアを取り上げたため、内容が盛りだくさんとなりましたが、昨年度の意見も参考に、今年度は内容の精選をはかりました。この点は今後も引き続き努力していきたいと思います。と同時に、コアとなる授業ですので、授業スケジュールを確認して、必要な資料・教科書を準備することや、予習・復習をして授業内容の理解に努めることは、学生の皆さんにとっての大切な課題です。これからも皆さんとともに、実りある授業を創りつづけていきたいですね。

学習環境、特に301教室の音響設備などの課題については、皆さんからのコメントをもとに、大学の関連委員会に申し入れをしました。順次改善がはかられていく予定です。沢山のコメントをありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

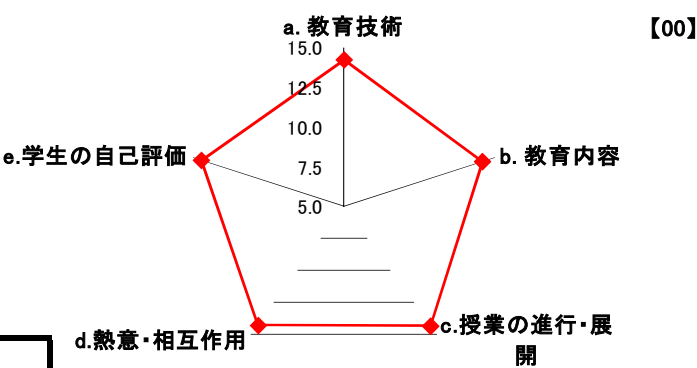
履修者数	144	回収数	77	回収率	53.5%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:急性期ケア

担当者:

和田美也子,梅田亜矢,丹羽淳子,山本伊都子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	76	14.26	1.40
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	76	14.18	1.47
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	76	14.29	1.34
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	76	14.25	1.52
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	76	14.46	1.08



N=108

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	60 77.9	15 19.5	1 1.3	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.71	0.70
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	59 76.6	16 20.8	0 0.0	1 1.3	0 0.0	1 1.3	4.69	0.74
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	57 74.0	18 23.4	1 1.3	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.68	0.71

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	57 74.0	14 18.2	5 6.5	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.62	0.79
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	58 75.3	17 22.1	1 1.3	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.69	0.71
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	59 76.6	15 19.5	2 2.6	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.69	0.73

c.授業の進行・展開

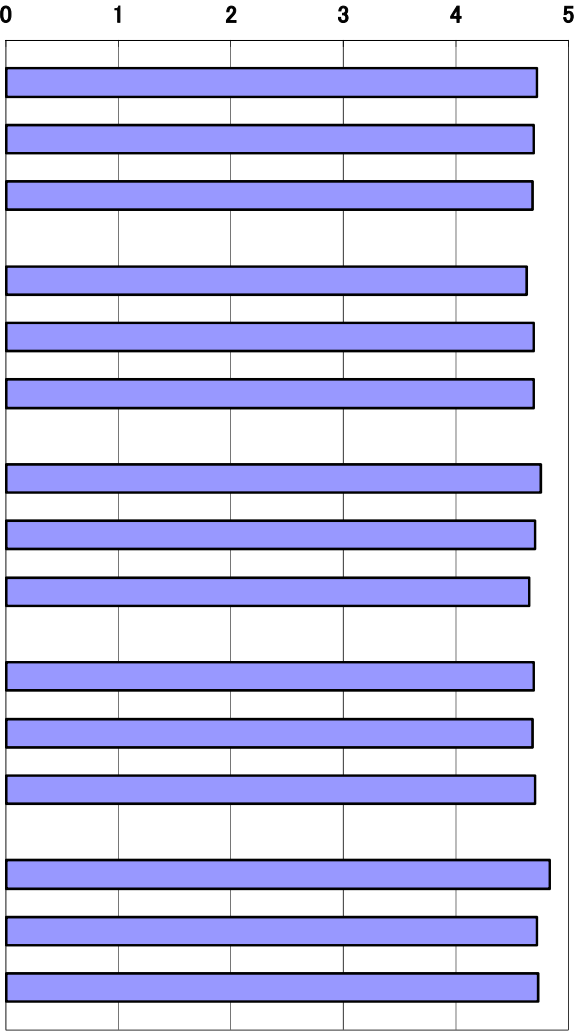
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	62 80.5	14 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.75	0.67
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	60 77.9	15 19.5	0 0.0	1 1.3	0 0.0	1 1.3	4.70	0.74
⑨	授業の進行速度は適切だった。	58 75.3	15 19.5	2 2.6	1 1.3	0 0.0	1 1.3	4.65	0.79

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	60 77.9	13 16.9	3 3.9	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.69	0.74
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	60 77.9	12 15.6	4 5.2	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.68	0.76
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	61 79.2	12 15.6	3 3.9	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.70	0.74

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	68 88.3	8 10.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.83	0.63
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	61 79.2	13 16.9	2 2.6	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.71	0.72
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	61 79.2	14 18.2	1 1.3	0 0.0	0 0.0	1 1.3	4.73	0.70



科目コード	IN0300	科目名	急性期ケア	担当教員名	和田美也子,丹羽淳子,山本伊都子,梅田亜矢
-------	--------	-----	-------	-------	-----------------------

<教員からのコメント>

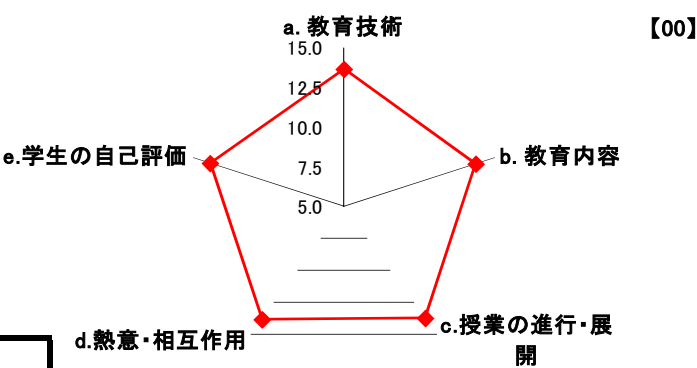
学生の皆様から全体的に良い評価をいただき、担当教員一同、大変うれしく思っております。
急性期ケアの特徴を理解するために、教員は視聴覚教材や実物などを可能な限り講義に取り入れて
実際に見て感じて、考えることができるように工夫しています。
その点を多くの方に評価していただきましたので、次年度も継続していきたいと思います。
配布資料の多さは、例年課題です。講義内容とあわせて、洗練を図っていききたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	149	回収数	60	回収率	40.3%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:緩和・終末期ケア
担当者:
吉田みつ子,田中孝美

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	60	13.67	1.46
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	60	13.73	1.60
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	59	13.69	1.46
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	60	13.80	1.42
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	59	13.88	1.43



N=102

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	34 56.7	24 40.0	2 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.53	0.56
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	37 61.7	20 33.3	1 1.7	2 3.3	0 0.0	0 0.0	4.53	0.69
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	36 60.0	24 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	36 60.0	23 38.3	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.53
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	38 63.3	17 28.3	4 6.7	1 1.7	0 0.0	0 0.0	4.53	0.69
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	40 66.7	18 30.0	1 1.7	1 1.7	0 0.0	0 0.0	4.62	0.61

c. 授業の進行・展開

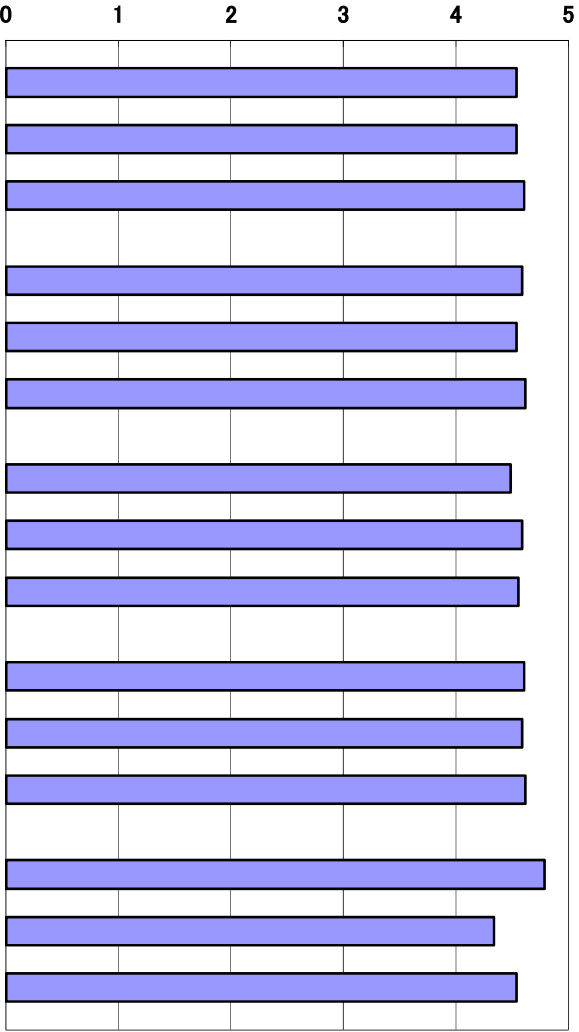
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	36 60.0	21 35.0	1 1.7	1 1.7	0 0.0	1 1.7	4.48	0.85
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	36 60.0	23 38.3	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.53
⑨	授業の進行速度は適切だった。	35 58.3	23 38.3	2 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.55	0.56

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	38 63.3	20 33.3	2 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.55
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	36 60.0	23 38.3	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.53
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	38 63.3	21 35.0	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.62	0.52

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	51 85.0	8 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.7	4.78	0.71
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	32 53.3	21 35.0	5 8.3	0 0.0	1 1.7	1 1.7	4.33	0.96
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	40 66.7	15 25.0	4 6.7	0 0.0	0 0.0	1 1.7	4.53	0.85



科目コード	1N0400	科目名	緩和・終末期ケア	担当教員名	吉田みつ子・田中孝美
-------	--------	-----	----------	-------	------------

<教員からのコメント>

多くの皆さんが、緩和ケア・終末期ケアに対して具体的なイメージをもって積極的に受講され、ありがとうございました。次年度は授業中にグループでの意見交換なども積極的に取り入れ、互いに学び合える時間を多くとりたいと思います。201室のプロジェクターやインターネット回線・パソコンの不具合が多く、授業開始時間が遅れることがあり、大変ご迷惑をおかけしました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

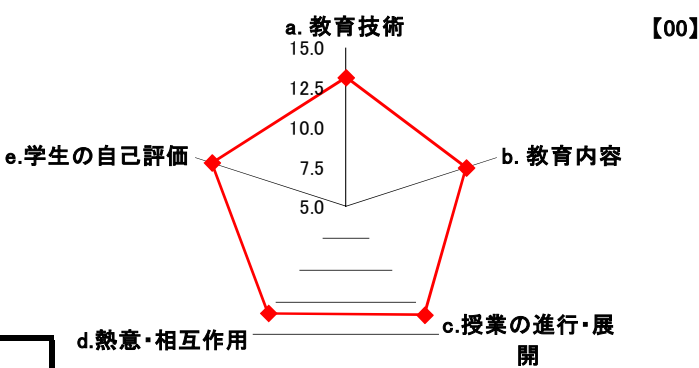
履修者数	148	回収数	77	回収率	52.0%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:在宅看護学

担当者:

藤田淳子,岡本有子,福井小紀子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	77	13.14	2.24
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	77	12.96	2.45
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	77	13.44	2.02
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	77	13.34	2.05
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	77	13.90	1.72



N=113

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	38 49.4	34 44.2	2 2.6	2 2.6	1 1.3	0 0.0	4.38	0.77
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	39 50.6	31 40.3	3 3.9	4 5.2	0 0.0	0 0.0	4.36	0.79
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	42 54.5	27 35.1	5 6.5	3 3.9	0 0.0	0 0.0	4.40	0.78

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	39 50.6	27 35.1	7 9.1	4 5.2	0 0.0	0 0.0	4.31	0.84
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	41 53.2	21 27.3	12 15.6	1 1.3	2 2.6	0 0.0	4.27	0.95
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	41 53.2	28 36.4	5 6.5	2 2.6	1 1.3	0 0.0	4.38	0.82

c.授業の進行・展開

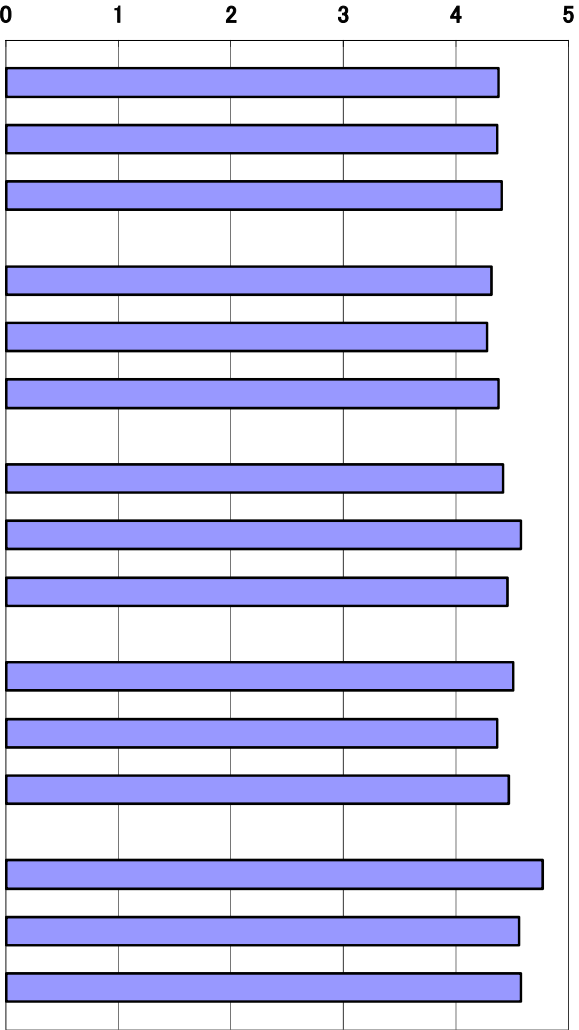
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	44 57.1	25 32.5	6 7.8	0 0.0	2 2.6	0 0.0	4.42	0.84
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	46 59.7	29 37.7	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.57	0.54
⑨	授業の進行速度は適切だった。	45 58.4	25 32.5	5 6.5	1 1.3	1 1.3	0 0.0	4.45	0.78

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	47 61.0	23 29.9	6 7.8	1 1.3	0 0.0	0 0.0	4.51	0.70
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	41 53.2	24 31.2	11 14.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0	4.36	0.77
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	44 57.1	25 32.5	8 10.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.68

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	61 79.2	14 18.2	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.48
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	51 66.2	20 26.0	5 6.5	0 0.0	1 1.3	0 0.0	4.56	0.73
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	51 66.2	21 27.3	4 5.2	0 0.0	1 1.3	0 0.0	4.57	0.71



科目コード	100500	科目名	在宅看護学	担当教員名	藤田淳子,岡本有子,福井小紀子
-------	--------	-----	-------	-------	-----------------

<教員からのコメント>

全体的に高い評価をいただき、とても嬉しく思います。

自由記載から、現場の実践者からの講義は大変好評で、在宅看護にも関心や興味をもってもらえたと思います。

また、ビデオによる映像もよかったとのことで、在宅での療養生活をイメージする際の助けになることがわかりました。今後も続けていきます。

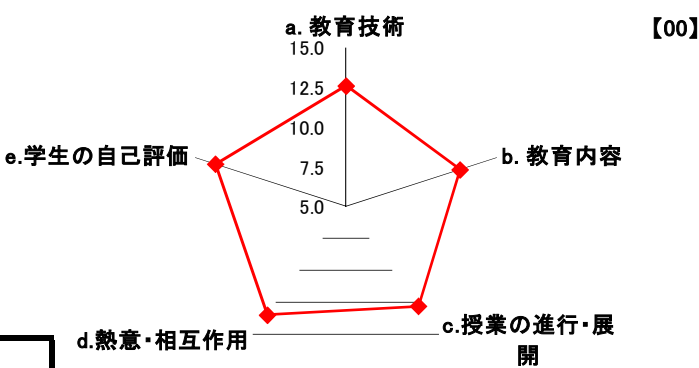
グループワークの進め方、配布資料の作成等、講義を進める上での課題については、改善していくように努めていきます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	148	回収数	63	回収率	42.6%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:国際看護学Ⅰ
担当者:
岡本 菜穂子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	63	12.62	2.05
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	63	12.57	1.98
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	63	12.78	2.14
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	63	13.44	1.83
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	63	13.67	1.54



N=99

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	24 38.1	25 39.7	14 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.16	0.76
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	24 38.1	23 36.5	16 25.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.13	0.79
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	28 44.4	29 46.0	5 7.9	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.33	0.69

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	29 46.0	24 38.1	10 15.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.73
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	22 34.9	31 49.2	10 15.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.19	0.69
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	22 34.9	26 41.3	13 20.6	2 3.2	0 0.0	0 0.0	4.08	0.82

c. 授業の進行・展開

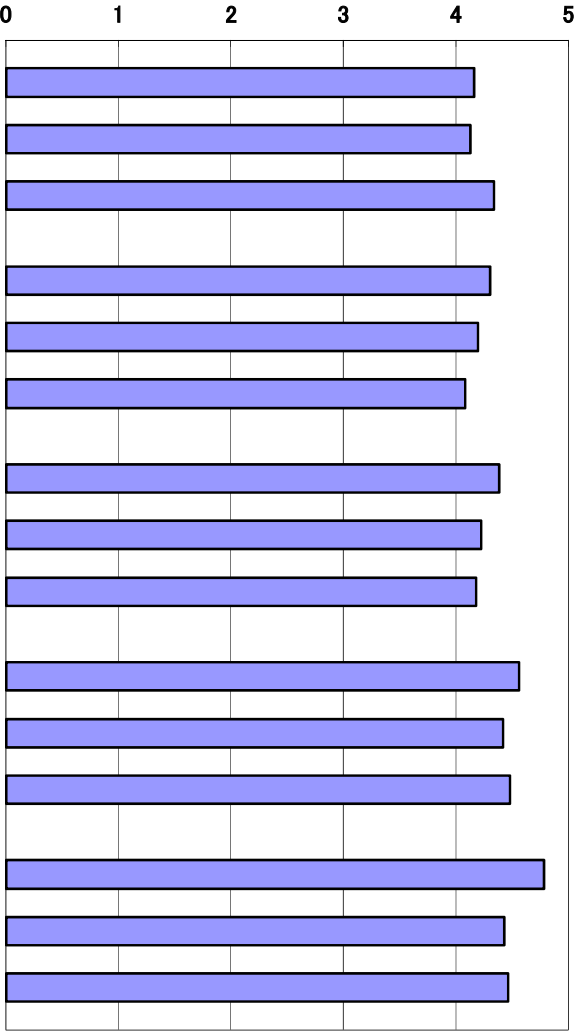
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	33 52.4	22 34.9	7 11.1	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.38	0.74
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	26 41.3	26 41.3	10 15.9	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.22	0.77
⑨	授業の進行速度は適切だった。	24 38.1	27 42.9	11 17.5	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.17	0.77

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	41 65.1	16 25.4	6 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.56	0.66
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	34 54.0	21 33.3	8 12.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.41	0.70
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	34 54.0	25 39.7	4 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.48	0.61

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	50 79.4	12 19.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.78	0.45
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	33 52.4	24 38.1	6 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.43	0.66
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	37 58.7	18 28.6	8 12.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.46	0.71



科目コード	1R0100	科目名	国際看護学Ⅰ	担当教員名	岡本菜穂子
-------	--------	-----	--------	-------	-------

＜教員からのコメント＞

今年度から3年次の必須科目として「国際看護学Ⅰ」が新カリキュラムで適用され、これまでの「応用看護学Ⅳ（異文化とケア）」が「国際看護学Ⅰ」として変更されました。異文化看護を理解するうえで異文化の理解と適応に関する基礎知識の習得と、実際に異文化の地に赴いた際にその知識を活用できるようになっていただきたいと考え、講義のみならずゲームやグループワーク、類似体験をする機会を多く取り入れました。皆さんの意見から、その意図をきちんと理解して異文化に対する興味を深めた人たちがいて嬉しく思います。

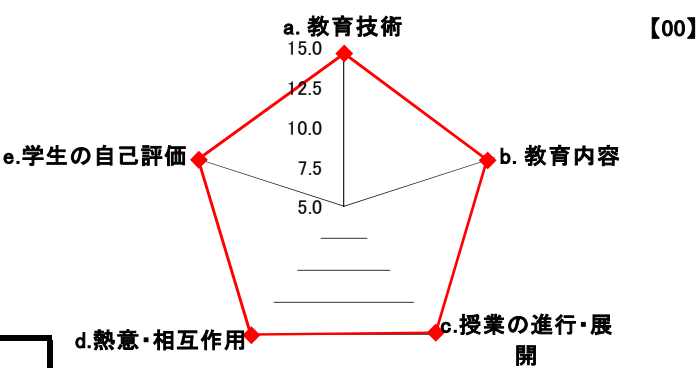
ただ、ゲームやグループワークの際の人数が多すぎて、まとまらない部分があったとの意見がありました。全員が積極的に参加できる形を検討したいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	6	回収数	6	回収率	100.0%
------	---	-----	---	-----	--------

科目:生涯学習論
担当者:
山崎 裕二

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	6	14.67	0.75
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	6	14.50	1.12
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	6	14.83	0.37
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	6	15.00	0.00
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	6	14.67	0.47



N=6

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37

c. 授業の進行・展開

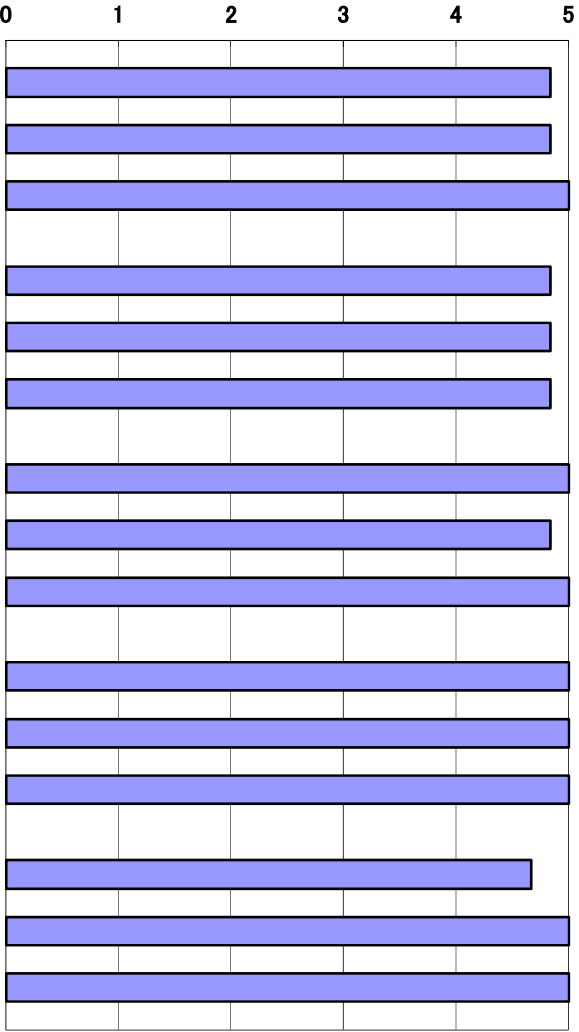
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑨	授業の進行速度は適切だった。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00



科目コード	A10700	科目名	生涯学習論	担当教員名	山崎裕二
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

少人数のゼミ形式で、討論やWeb調査、野外調査(健康と医学の博物館)などを行いました。アクティブラーニング方式だったので、受講生の皆さんも主体的に学ぶことができたのではないかと思います。授業で学んだことが今後の皆さんの生涯学習に役立てば嬉しいです。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

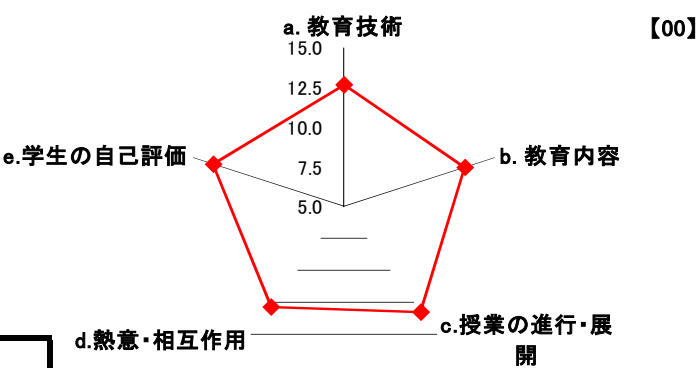
履修者数	151	回収数	101	回収率	66.9%
------	-----	-----	-----	-----	-------

科目:障がい論

担当者:

乙黒千鶴,坂口千鶴,小宮敬子,太田智子,
宮城恵里子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	100	12.68	1.70
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	100	13.02	1.69
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	100	13.22	1.55
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	100	12.83	1.83
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	98	13.68	1.38



N=133

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	32 31.7	60 59.4	8 7.9	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.20	0.72
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	32 31.7	60 59.4	8 7.9	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.20	0.72
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	33 32.7	58 57.4	5 5.0	4 4.0	0 0.0	1 1.0	4.16	0.82

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	37 36.6	54 53.5	8 7.9	1 1.0	0 0.0	1 1.0	4.23	0.77
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	44 43.6	50 49.5	5 5.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	4.33	0.76
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	43 42.6	52 51.5	5 5.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.34	0.72

c.授業の進行・展開

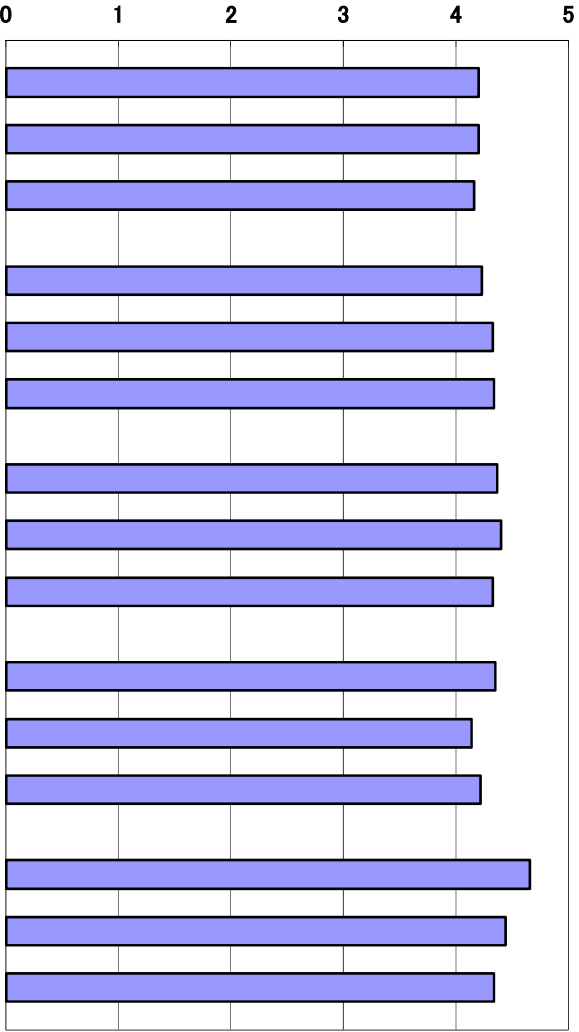
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	44 43.6	53 52.5	3 3.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.37	0.70
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	46 45.5	52 51.5	2 2.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.40	0.69
⑨	授業の進行速度は適切だった。	43 42.6	52 51.5	4 4.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	4.33	0.75

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	45 44.6	49 48.5	6 5.9	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.35	0.74
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	32 31.7	57 56.4	9 8.9	1 1.0	1 1.0	1 1.0	4.14	0.82
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	36 35.6	57 56.4	5 5.0	1 1.0	1 1.0	1 1.0	4.22	0.80

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	75 74.3	23 22.8	1 1.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	4.65	0.80
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	51 50.5	46 45.5	3 3.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4.44	0.71
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	48 47.5	45 44.6	6 5.9	0 0.0	0 0.0	2 2.0	4.34	0.86



科目コード	A11100	科目名	障がい論	担当教員名	乙黒千鶴
-------	--------	-----	------	-------	------

<教員からのコメント>

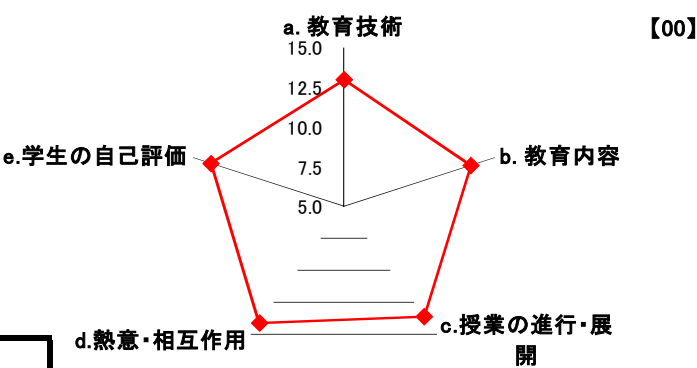
頂いたコメントに「それぞれの領域ごとに〈障がい〉を捉えて授業が受けられたことが良かった」とありました。この授業の狙いそのもので、多角的に障がいを捉えることで、視点の広がりを持て、視点が広がることで支援の広がりにつながる。7回のオムニバスと短いのですが、十分に学びが深まったことをコメントより読み取れて嬉しかったです。社会に出て行く4年生として、「障害の有無に関わらず誰もがその人らしく生活することが出来るような社会へと変化していくことができればいいな」とたくさんのことを考える、実際に知って深く考えることが出来た時間であったのではないのでしょうか。ありがとうございました。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	14	回収数	12	回収率	85.7%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:医療と経済
担当者:
阿曾沼元博,松山幸弘

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	12	13.00	1.91
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	12	13.42	1.38
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	12	13.58	1.50
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	12	14.08	1.19
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	12	13.83	1.28



N=12

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	6 50.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	5 41.7	5 41.7	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.25	0.72
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	5 41.7	6 50.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	4.25	0.83

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	4 33.3	5 41.7	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.08	0.76
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47

c. 授業の進行・展開

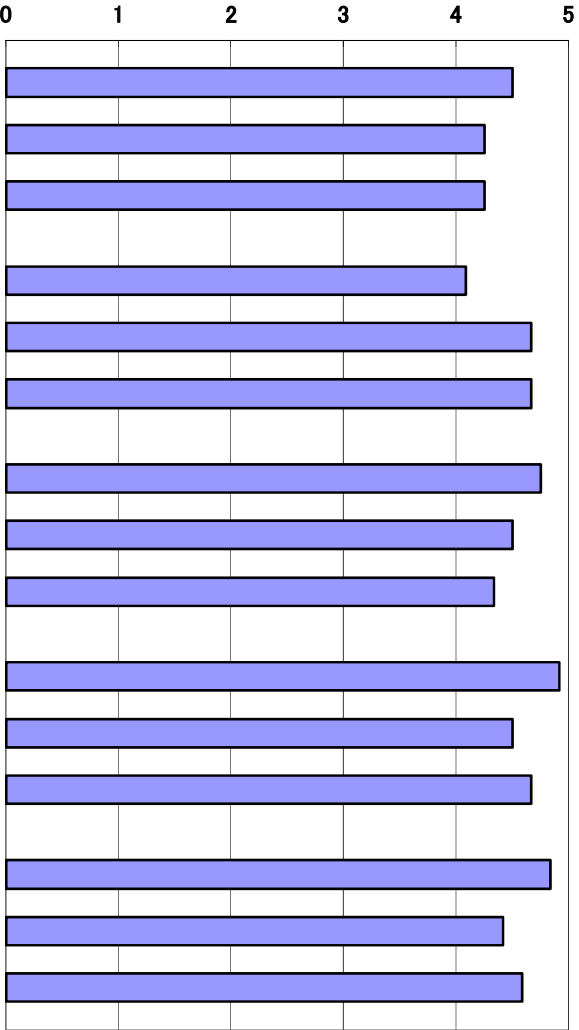
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	6 50.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑨	授業の進行速度は適切だった。	6 50.0	5 41.7	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	4.33	0.85

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	11 91.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.28
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	7 58.3	4 33.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.65
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	8 66.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	6 50.0	5 41.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.64
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	7 58.3	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.49

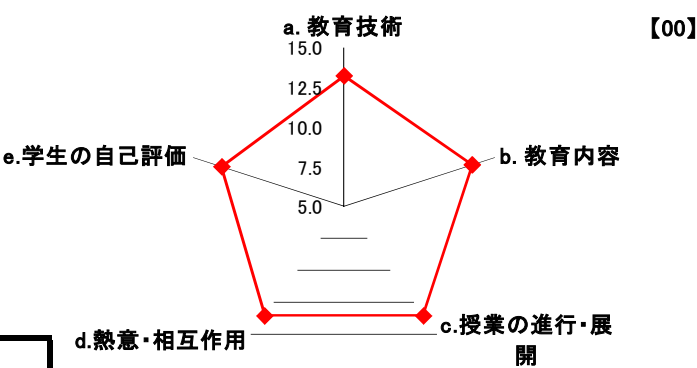


授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	17	回収数	8	回収率	47.1%
------	----	-----	---	-----	-------

科目:赤十字国際活動論
担当者:
小池 政行

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	8	13.25	1.39
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	8	13.50	1.50
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	8	13.50	1.32
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	8	13.50	1.32
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	8	13.13	1.45



N=8

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3 37.5	5 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.48
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3 37.5	5 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.48
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50

c. 授業の進行・展開

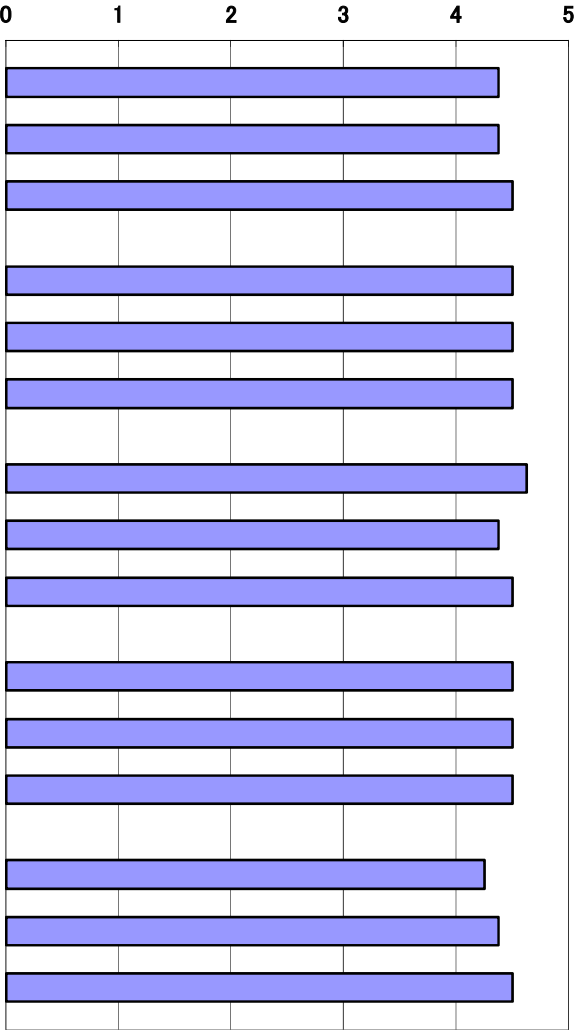
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.48
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	3 37.5	5 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.48
⑨	授業の進行速度は適切だった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.25	0.66
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	3 37.5	5 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.48
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50



科目コード	1A0200 G10400	科目名	赤十字国際活動論	担当教員名	小池政行
-------	------------------	-----	----------	-------	------

＜教員からのコメント＞

本、「赤十字国際活動論」は2008年度より開始され、「赤十字」の枠にとどまることなく、実際の赤十字の国際活動にとって密接な協力機関である、国連の専門機関である「国連高等難民弁務官事務所」UNHCR、「世界保健機関」WHO等の活動を学び、実際にこれら機関のおかれているスイス、ジュネーブを訪れ、UNHCR、WHOの本部を訪れ質疑応答を交わし、学生自らが皮膚感覚で捉えられる「赤十字国際活動」を得ることに主眼をおいたものであった。

右に加え、赤十字発祥の国であるスイスの多様性(フランス語20%、ドイツ語70%、その他イタリア語、ロマニユッシュ語10%)及びスイス大学教育における看護の総合性を学ぶためにも、スイス、ドイツ語圏であり、国の首都であるベルンを訪れ、総合大学であるベルン連邦大学の看護学科において、継続教育としての院における看護教育に触れつつ、学部教育における看護教育の模擬授業を座学である「赤十字国際活動論」と、演習である「赤十字国際活動論演習」と密接な連携を保ちつつ、赤十字の国際活動の有機的な広がりを体験できるものであった。

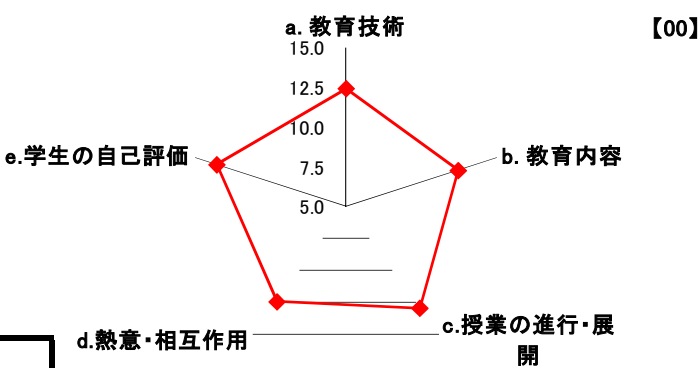
残念ながら、本年度は「演習」担当教員が異なったため、これまで2008年、2010年、2012年と常に40-50名弱演習に参加していた学生数が、14名と激減し、かつ、演習実施を確保するため院生3名、通常2名の教員も3名参加と、極めて従来とは異なる形態となった。このため、多くの「赤十字国際活動論」受講学生より、「演習」は毎年実施として、訪問場所も、過去の例と同じとしてしてほしい等々のクレームを受ける結果となった。講義をして先生が実施しない演習は、実施しないほうがよく、その参加費用も例年の1.5倍以上では、今年「赤十字国際活動論」を受講したものにとり、不公平であるとの指摘もあったことを、「赤十字国際活動論」、「赤十字国際活動論演習」をこれまでともに担当してきたものとして、重く受け止めたい。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	141	回収数	59	回収率	41.8%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:赤十字災害看護論Ⅱ
担当者:
小原真理子,亀井 緑

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	59	12.44	1.83
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	59	12.44	1.89
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	59	12.92	1.72
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	59	12.41	1.95
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	59	13.58	1.65



N=79

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	19 32.2	35 59.3	5 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.24	0.59
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	17 28.8	34 57.6	8 13.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.15	0.63
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	16 27.1	31 52.5	11 18.6	1 1.7	0 0.0	0 0.0	4.05	0.72

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	19 32.2	32 54.2	8 13.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.19	0.65
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	18 30.5	31 52.5	7 11.9	3 5.1	0 0.0	0 0.0	4.08	0.79
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	17 28.8	35 59.3	7 11.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.17	0.61

c. 授業の進行・展開

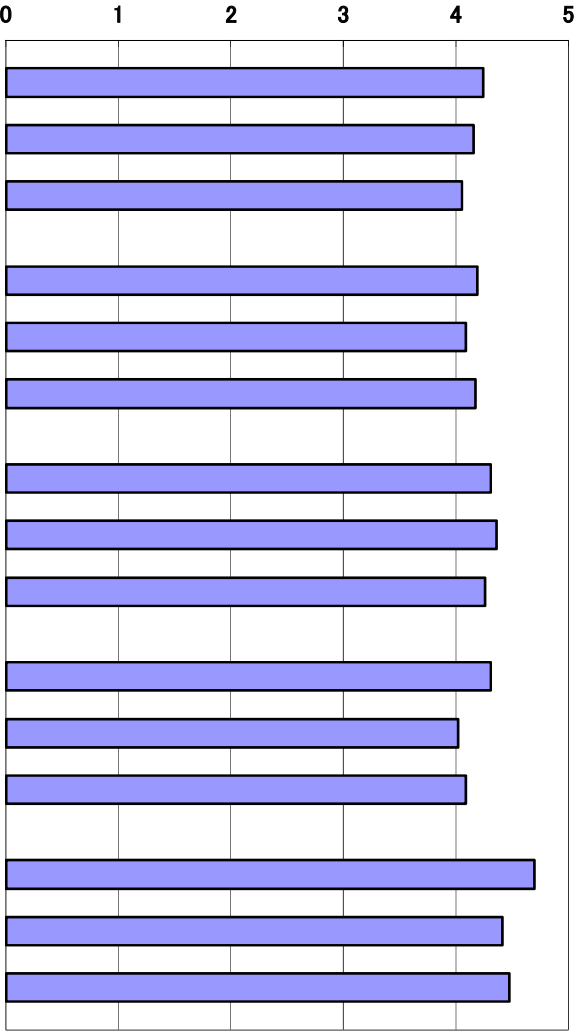
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	23 39.0	31 52.5	5 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.31	0.62
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	25 42.4	30 50.8	4 6.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.60
⑨	授業の進行速度は適切だった。	20 33.9	34 57.6	5 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.25	0.60

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	24 40.7	29 49.2	6 10.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.31	0.64
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	18 30.5	24 40.7	17 28.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.02	0.77
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	18 30.5	28 47.5	13 22.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.08	0.72

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	44 74.6	12 20.3	3 5.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.56
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	30 50.8	23 39.0	6 10.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.41	0.67
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	33 55.9	21 35.6	5 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.65



科目コード	G11000	科目名	赤十字災害看護論Ⅱ	担当教員名	小原真理子, 亀井 縁
-------	--------	-----	-----------	-------	-------------

<教員からのコメント>

・本授業は、1年時の必修科目「赤十字災害看護論Ⅰ」における災害看護の基本についての学びをふまえ、地域保健をふまえた災害看護の内容で構成しております。学生の皆さんが臨場感ある授業を望み、興味をひくことは授業の常ですが、現場活動をふまえた災害看護の基本的知識を理解することも重要です。

・マイクの音やスライドが見づらい等の授業環境についてコメントがありましたので、今後、マイクの調整とスライド作成の工夫をしていきたいと思ひます。

・教科書の活用についてのコメントに対しては、教科書と資料として提示したPPTとの整合性については授業中に示します。1年次の授業でお知らせしたように、災害看護の教科書は本授業だけでなく、4年間に渡り授業や演習、訓練で活用するものであったと理解して下さい。また卒業後も必要時、活用することを勧めます。

・授業中、学生のおしゃべり等の授業態度については、講師だけでなく、クラスメートにも迷惑がかかっていることを認識することがポイントです。その上で、学生自身も受講する態度を見つめ直すことを期待します。授業は双方向で作り上げてゆくものです。

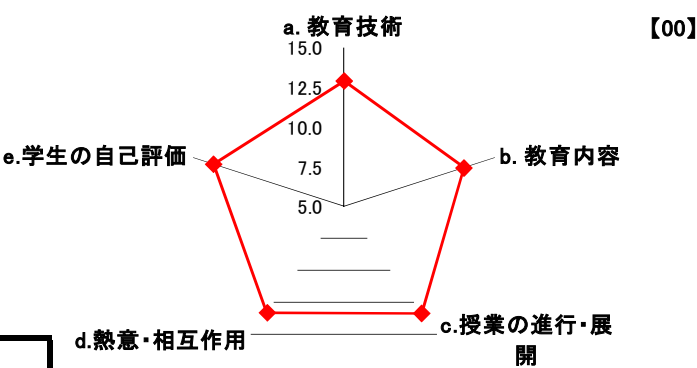
・授業に関して、双方向性の授業をするように心がけております。その方略として机間巡視をしながら、よく学生に質問をしたり、投げかけを行います。学生の意見についてのコメントですが、「質問に答えない学生に対して、「答えなければ欠席にする」ということは言っていないませんが、数回名前を読んでも返事をしない時には「〇〇番号さんはいませんか？」と確認をとったうえで、欠席ですね」と言ったことで、そのような印象を与えたかもしれません。今後は誤解を与えないように注意をしていきます。授業では学生に反応を返してもらうことを重視していますので、そのことを大事に今後も授業をしていきたいと思ひます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	141	回収数	70	回収率	49.6%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:看護関係法規
担当者:
安部陽子,鶴田恵子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	70	12.93	1.68
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	70	12.96	1.71
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	70	13.33	1.55
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	70	13.29	1.67
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	69	13.65	1.48



N=84

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	26 37.1	43 61.4	1 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.51
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	25 35.7	39 55.7	5 7.1	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.26	0.65
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	28 40.0	38 54.3	3 4.3	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4.31	0.69

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	26 37.1	39 55.7	5 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.59
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	27 38.6	35 50.0	7 10.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.26	0.69
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	30 42.9	38 54.3	2 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.55

c. 授業の進行・展開

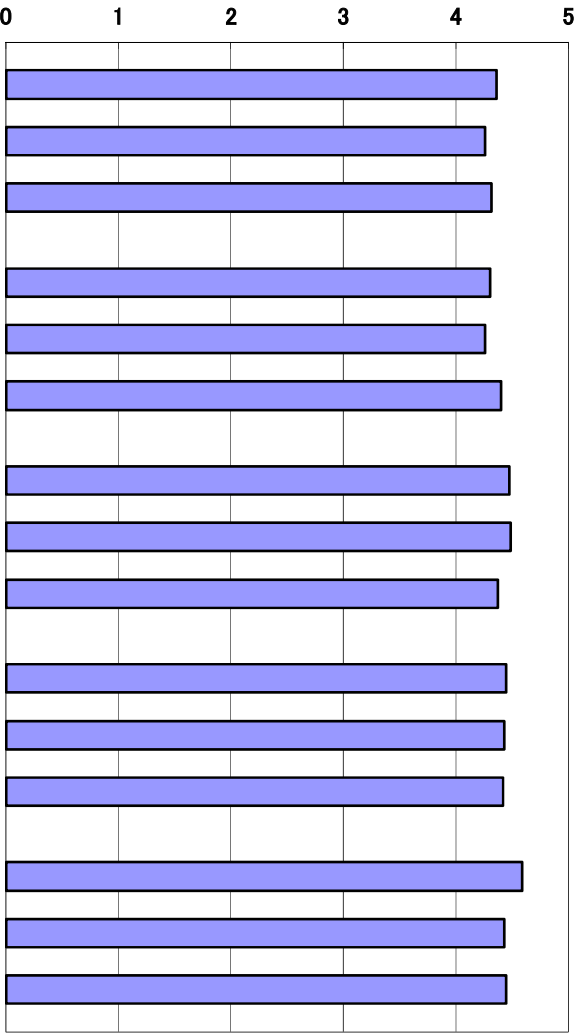
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	34 48.6	35 50.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.47	0.53
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	35 50.0	34 48.6	1 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.49	0.53
⑨	授業の進行速度は適切だった。	32 45.7	35 50.0	1 1.4	1 1.4	1 1.4	0 0.0	4.37	0.72

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	34 48.6	33 47.1	3 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.58
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	33 47.1	34 48.6	3 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.43	0.57
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	33 47.1	33 47.1	4 5.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.41	0.60

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46 65.7	22 31.4	1 1.4	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.59	0.75
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	37 52.9	29 41.4	3 4.3	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.43	0.79
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	36 51.4	32 45.7	1 1.4	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.44	0.75



科目コード	H10300	科目名	看護関係法規	担当教員名	安部陽子,鶴田恵子
-------	--------	-----	--------	-------	-----------

<教員からのコメント>

看護関係法規は看護師国家試験に出題される分野です。

今年度は国家試験形式のクイズを授業の最後に演習として行いました。

来年度から看護関係法規は15コマから8コマに短縮されますが、評価の内容を反映させ、

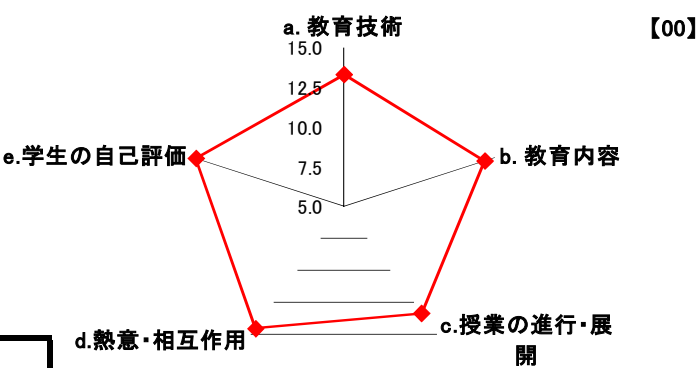
今後もクイズ形式の演習の時間を確保したいと考えます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	6	回収数	6	回収率	100.0%
------	---	-----	---	-----	--------

科目:看護制度論
担当者:
鶴田 恵子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	6	13.33	1.70
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	6	14.33	1.11
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	6	13.33	1.70
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	6	14.50	1.12
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	6	14.83	0.37



N=6

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.75
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.75
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.67	0.47
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37

c. 授業の進行・展開

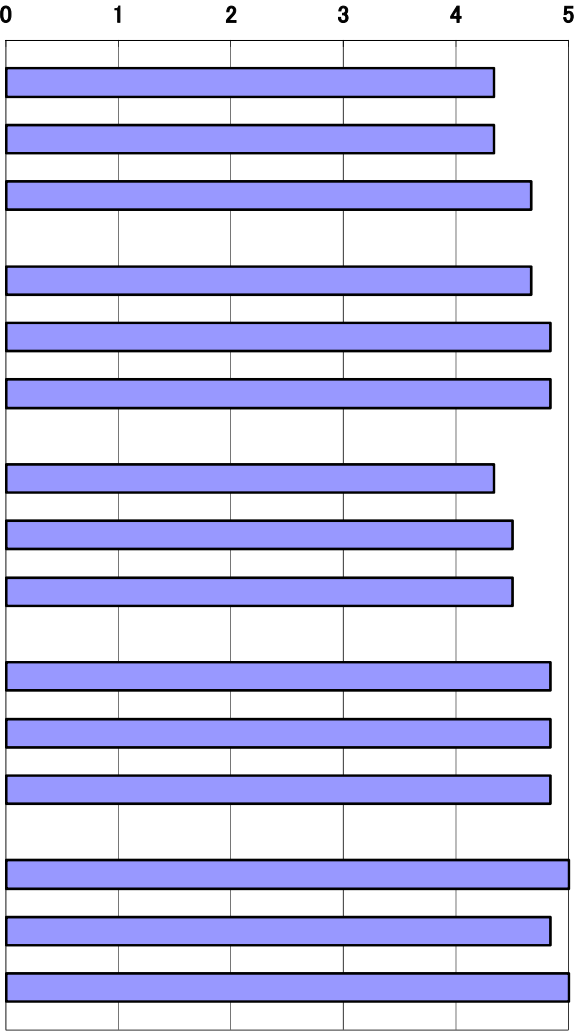
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.33	0.75
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	3 50.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑨	授業の進行速度は適切だった。	3 50.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に回答した。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00



科目コード	H10500	科目名	看護制度論	担当教員名	鶴田恵子
-------	--------	-----	-------	-------	------

<教員からのコメント>

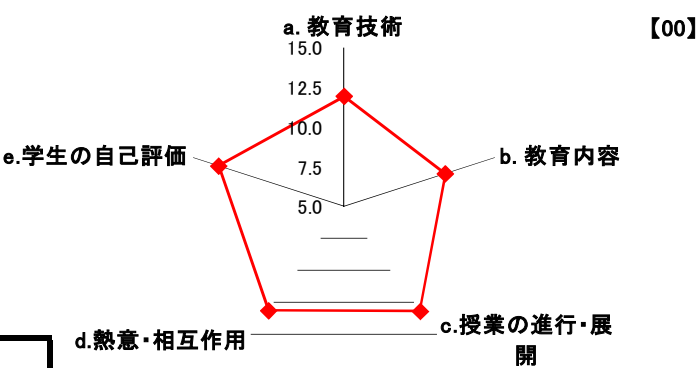
少人数でゼミ形式で行ったので、授業評価が高かったと思われます。今年度で閉講となり編入生が多く選択していたので直接討議ができなくなるのが残念に思われます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	151	回収数	62	回収率	41.1%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:保健福祉行政論
担当者:
永見 宏行

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	62	11.95	2.56
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	62	11.73	2.84
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	62	13.15	1.80
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	62	13.10	2.12
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	61	13.31	1.85



N=94

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	17 27.4	28 45.2	14 22.6	2 3.2	1 1.6	0 0.0	3.94	0.88
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	19 30.6	27 43.5	13 21.0	2 3.2	1 1.6	0 0.0	3.98	0.89
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	21 33.9	28 45.2	8 12.9	4 6.5	1 1.6	0 0.0	4.03	0.93

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	18 29.0	24 38.7	14 22.6	5 8.1	1 1.6	0 0.0	3.85	0.98
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	22 35.5	21 33.9	12 19.4	6 9.7	1 1.6	0 0.0	3.92	1.04
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	20 32.3	25 40.3	12 19.4	4 6.5	1 1.6	0 0.0	3.95	0.96

c.授業の進行・展開

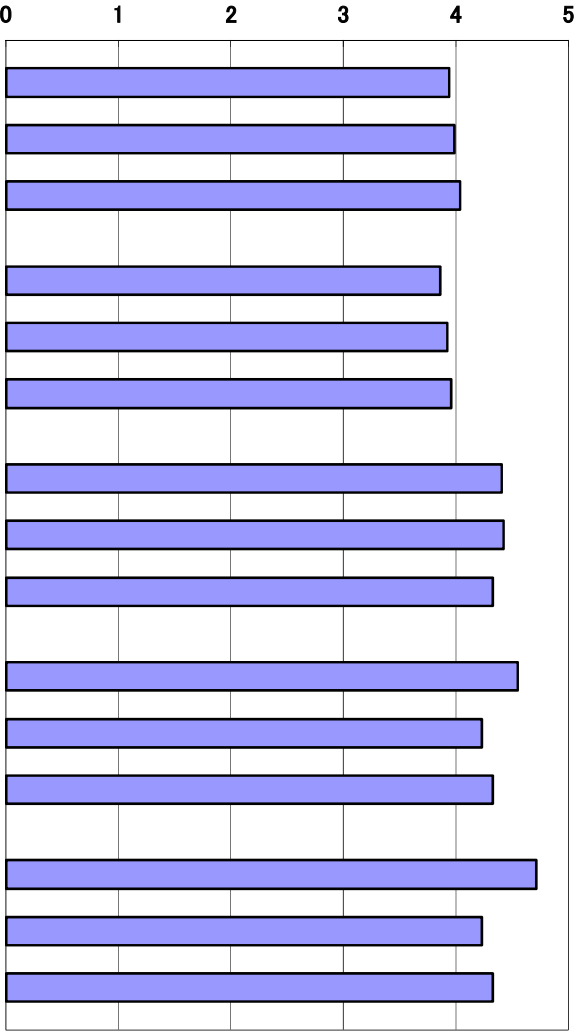
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	29 46.8	30 48.4	2 3.2	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.40	0.63
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	29 46.8	31 50.0	1 1.6	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.42	0.61
⑨	授業の進行速度は適切だった。	28 45.2	27 43.5	6 9.7	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.32	0.71

d.熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	38 61.3	21 33.9	2 3.2	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.55	0.64
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	29 46.8	23 37.1	6 9.7	3 4.8	1 1.6	0 0.0	4.23	0.92
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	30 48.4	25 40.3	4 6.5	3 4.8	0 0.0	0 0.0	4.32	0.80

e.学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	46 74.2	15 24.2	0 0.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	4.71	0.55
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	28 45.2	24 38.7	7 11.3	2 3.2	1 1.6	0 0.0	4.23	0.89
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	33 53.2	20 32.3	7 11.3	1 1.6	0 0.0	1 1.6	4.32	0.93



科目コード	O10300	科目名	保健福祉行政論	担当教員名	永見宏行
-------	--------	-----	---------	-------	------

<教員からのコメント>

グループワークについての評価が両極にわたりましたので、意図をコメントします。

1) 必要な知識を自分で見定めて学ぶ能力の開発

「保健医療福祉行政」に必要とされる知識は時代とともに変化します。従って、「教官が示す知識をインプットする」という姿勢で学んだ知識は近い将来無意味になります。

事例を使うGWで「健康の社会的決定要因を改善していくために何が必要な知識なのかを自分で見定めて学ぶ」姿勢を強めて頂くことを意図しました。

2) 自分の頭で考え・議論し・共感を得て・決定する能力の開発

「公衆衛生やヘルスプロモーションなどによって地域づくりをおこなうこと、およびそれを行うしくみ」である「保健福祉行政論」は、住民・コミュニティー・行政・保健師等関係者それぞれが、連携・協働する中でともにエンパワメントする論理です。

事例を使うGWで、事例から、そしてGWの議論から、「みんなが自分の頭で考え・議論し・共感を得て・決定していく」ことの大切さや手法を体感して頂くことを意図しました。

3) 主体的に学ぶ能力や、自分の頭で考え・議論し・共感を得て・決定する能力は臨床現場でも必要

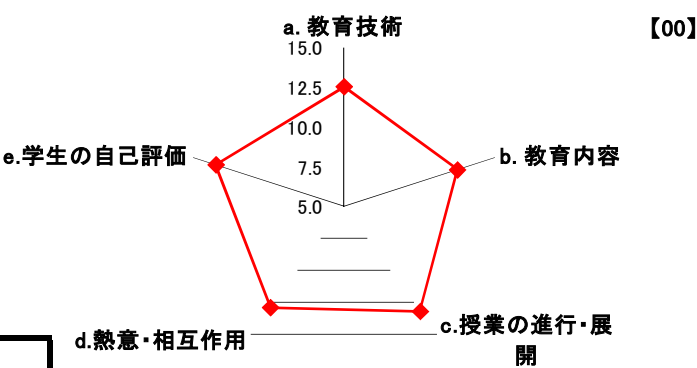
上記1)2)は、公衆衛生の現場のみならず、臨床現場でも必要とされている能力です。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	150	回収数	66	回収率	44.0%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:地域看護学Ⅱ②
担当者:
澤井 美奈子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	66	12.56	1.85
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	66	12.53	1.79
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	66	13.17	1.67
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	66	12.88	2.03
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	66	13.52	1.55



N=77

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	20 30.3	38 57.6	8 12.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.18	0.63
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	19 28.8	41 62.1	5 7.6	1 1.5	0 0.0	0 0.0	4.18	0.63
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	23 34.8	36 54.5	5 7.6	1 1.5	1 1.5	0 0.0	4.20	0.76

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	22 33.3	35 53.0	9 13.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.20	0.66
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	20 30.3	35 53.0	10 15.2	1 1.5	0 0.0	0 0.0	4.12	0.71
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	21 31.8	38 57.6	7 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.21	0.62

c. 授業の進行・展開

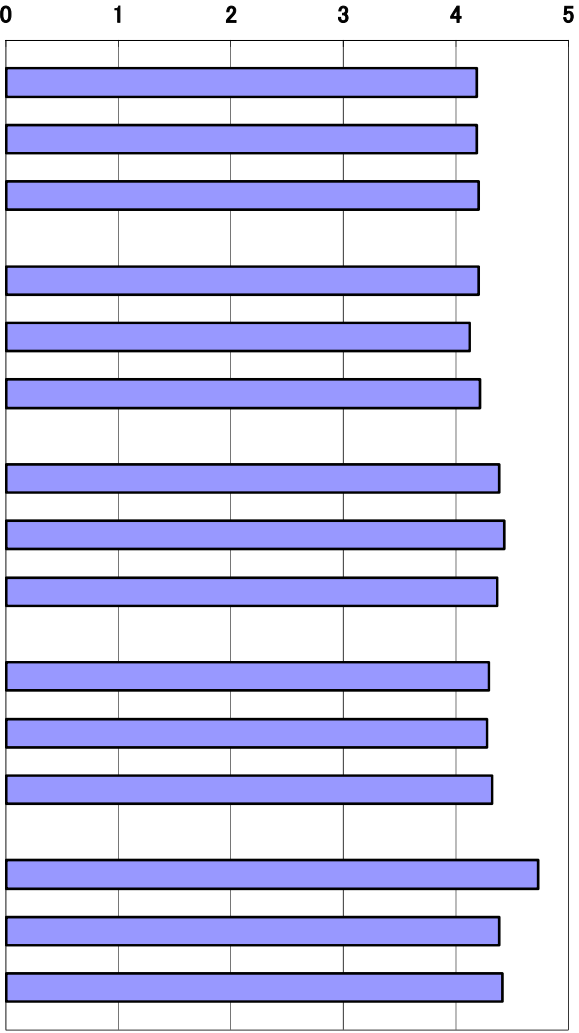
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	28 42.4	35 53.0	3 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.57
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	31 47.0	32 48.5	3 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.42	0.58
⑨	授業の進行速度は適切だった。	28 42.4	34 51.5	4 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.59

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	26 39.4	35 53.0	4 6.1	0 0.0	1 1.5	0 0.0	4.29	0.71
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	24 36.4	38 57.6	3 4.5	0 0.0	1 1.5	0 0.0	4.27	0.69
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	28 42.4	33 50.0	4 6.1	0 0.0	1 1.5	0 0.0	4.32	0.72

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	51 77.3	12 18.2	3 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.54
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	29 43.9	33 50.0	4 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.38	0.60
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	31 47.0	31 47.0	4 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.41	0.60



科目コード	○10700	科目名	地域看護学Ⅱ②	担当教員名	澤井美奈子
-------	--------	-----	---------	-------	-------

＜教員からのコメント＞

本年度より保健師課程履修が選択制となったため、従来行政保健師の活動に重点をおいて展開していた内容に、在宅看護活動および訪問看護ステーション運営や退院支援に必要な地域をみる視点での内容を大幅に追加して実施しました。

評価結果から、看護師としての進路を考えている履修者にとっては、実習経験のない保健師活動よりも身近な意味づけがされて看護師が地域を知る必要性の理解に役立ったと推測されました。

この講義は、次年度からは保健師課程履修者のみに開講となります。保健師だけでなく卒業後すぐは看護師として勤務する履修者の臨床看護活動にも役立つよう、保健師・在宅看護・退院支援の視点からの講義展開を継続したいと考えています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

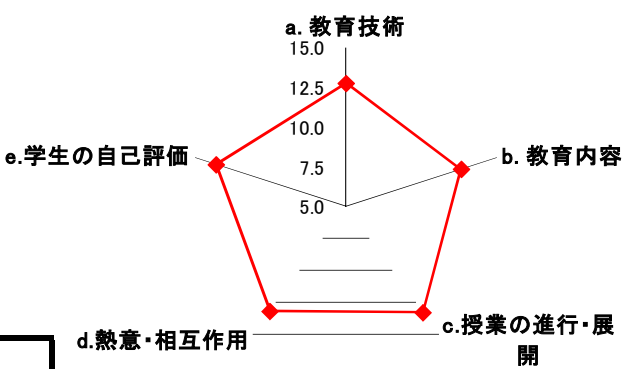
履修者数	151	回収数	72	回収率	47.7%
------	-----	-----	----	-----	-------

科目:在宅看護論

担当者:

藤田淳子,岡本有子,福井小紀子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	71	12.79	1.70
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	72	12.63	1.91
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	70	13.24	1.59
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	71	13.15	1.70
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	71	13.62	1.47



N=98

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	27 37.5	40 55.6	5 6.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.31	0.59
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	25 34.7	40 55.6	7 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.25	0.62
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	26 36.1	37 51.4	8 11.1	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.19	0.81

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	25 34.7	39 54.2	8 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.24	0.63
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	24 33.3	35 48.6	12 16.7	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.14	0.73
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	27 37.5	37 51.4	7 9.7	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4.25	0.68

c. 授業の進行・展開

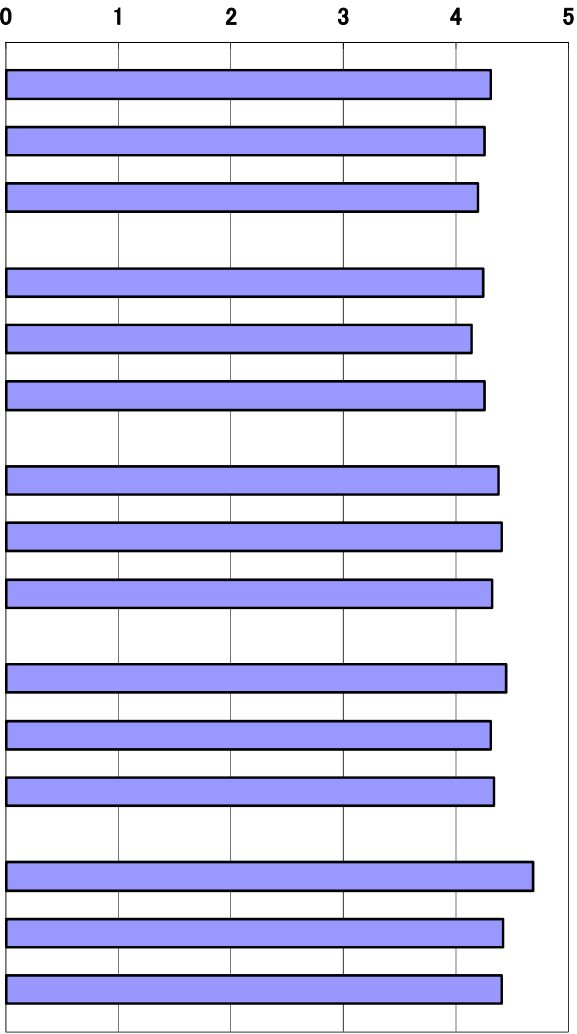
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	35 48.6	32 44.4	4 5.6	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.38	0.79
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	36 50.0	32 44.4	3 4.2	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.40	0.78
⑨	授業の進行速度は適切だった。	27 37.5	41 56.9	4 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.32	0.57

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	34 47.2	36 50.0	2 2.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.44	0.55
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	29 40.3	36 50.0	7 9.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.31	0.64
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	34 47.2	32 44.4	4 5.6	1 1.4	0 0.0	1 1.4	4.33	0.83

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	51 70.8	19 26.4	2 2.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.52
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	38 52.8	29 40.3	4 5.6	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.42	0.79
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	36 50.0	32 44.4	3 4.2	0 0.0	0 0.0	1 1.4	4.40	0.78



科目コード	O10800	科目名	在宅看護論	担当教員名	藤田淳子,岡本有子,福井小紀子
-------	--------	-----	-------	-------	-----------------

<教員からのコメント>

全体的に高い評価をいただき、とても嬉しく思います。「在宅看護により興味をもてた」「地域に興味をもてた」「病院だけではなく地域の視点や活動にも興味湧いた」という感想は、教員に元気を与えてくれます。ありがとうございます。

教員の経験談やビデオによる映像の活用により、在宅での療養生活をイメージする際の助けになることがわかりました。今後も続けていきます。

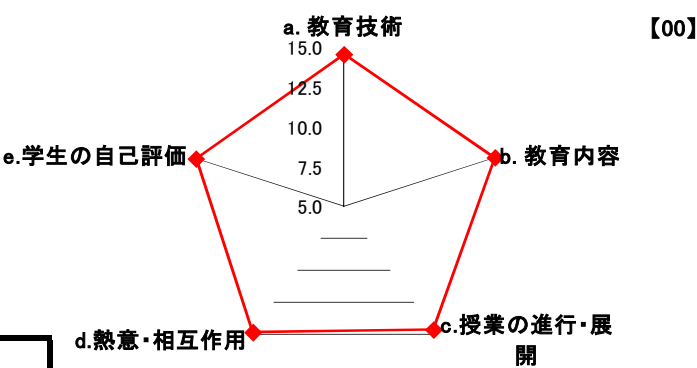
配布資料の作成等、講義を進める上での課題については、改善していくように努めていきます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	11	回収数	10	回収率	90.9%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護管理学Ⅱ
担当者:
安部陽子,鶴田恵子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	10	14.60	0.66
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	10	15.00	0.00
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	10	14.60	0.92
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	10	14.80	0.60
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	10	14.80	0.60



N=10

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.46
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

c. 授業の進行・展開

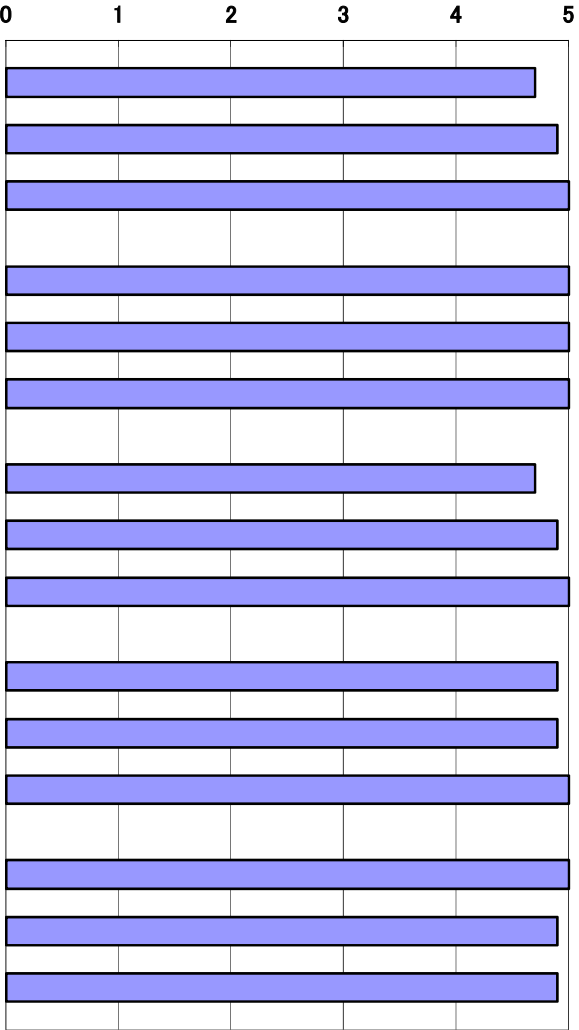
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	9 90.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.90
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑨	授業の進行速度は適切だった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.90	0.30



科目コード	P10200	科目名	看護管理学Ⅱ	担当教員名	安部陽子,鶴田恵子
-------	--------	-----	--------	-------	-----------

＜教員からのコメント＞

看護管理Ⅱでは看護管理Ⅰで学習した内容をふまえ、特に病棟などの看護単位の運営に役立つ実践的な知識を深めることを目的としています。

選択科目であり、かつ受講者も少人数であることから講義50%と演習50%の割合で授業を構成しています。

今年度からは、看護管理Ⅰが15コマから8コマになります。

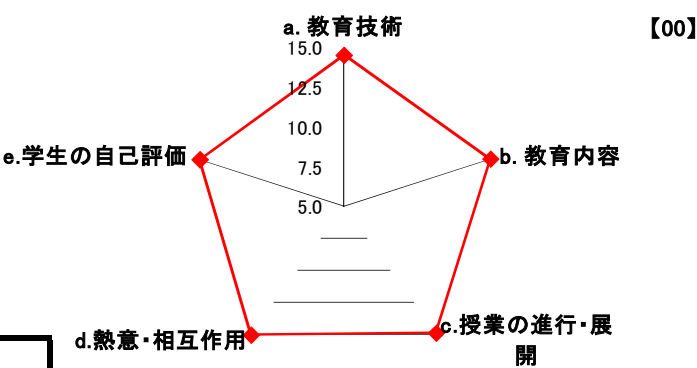
来年度の看護管理Ⅱではその変更をふまえつつ、役立つ知識を楽しく学ぶという方針はそのまま時間配分に配慮した授業計画を立てていきます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	7	回収数	7	回収率	100.0%
------	---	-----	---	-----	--------

科目:看護教育論Ⅱ
担当者:
西田 朋子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	7	14.57	0.73
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	7	14.71	0.70
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	7	14.86	0.35
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	7	15.00	0.00
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	7	14.57	0.73



N=7

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35

c. 授業の進行・展開

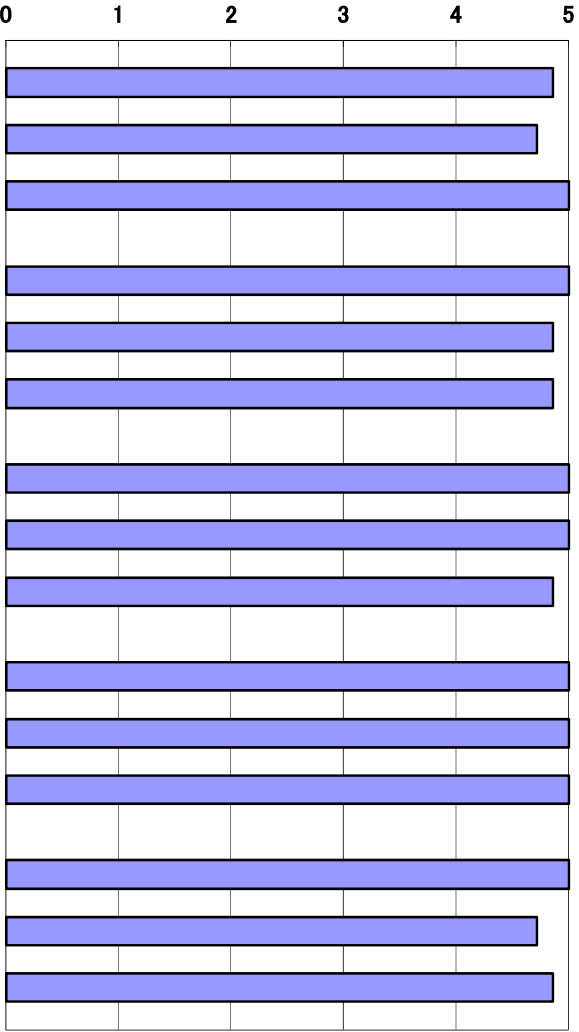
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑨	授業の進行速度は適切だった。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.45
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.86	0.35



科目コード	P10400	科目名	看護教育論Ⅱ	担当教員名	西田朋子
-------	--------	-----	--------	-------	------

＜教員からのコメント＞

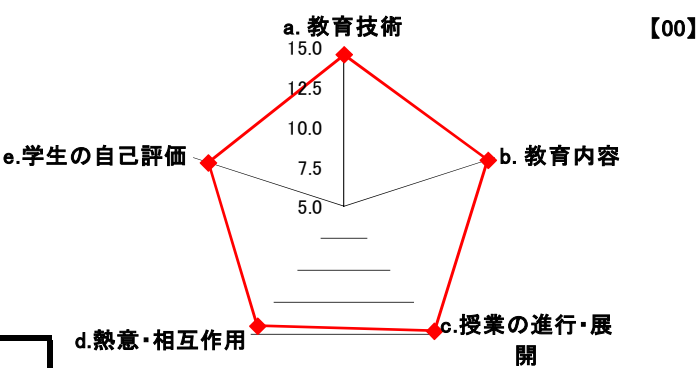
この授業は、3年次の看護教育論Ⅰで学習してきた制度的な面、さらには看護教育の歴史や教師論など、幅広く学習し深めていくものでした。選択授業のため少ない人数での授業となりましたが、皆さんが様々な疑問や関心を抱き、それを深めようとして様々な議論をしてくださったことが印象的です。自由記載にも「教育について具体的にわかった」「多面的に教育について考えられるようになった」「教師になりたいという望みが強くなった」等の前向きな意見ばかりでした。私自身もとてもうれしく思いますし、皆さんと共に行った議論を通してさらに自分の考えを深めることができました。今後も、学生の皆さんの興味関心を引き出し、さらに共に看護教育について考えていくことができるような授業にしていきたいと思います。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	26	回収数	26	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目:看護教育方法
担当者:
西田 朋子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	26	14.58	0.97
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	26	14.54	1.01
c.授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	26	14.69	0.82
d.熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	26	14.31	1.20
e.学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	26	14.00	1.44



N=26

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	21 80.8	5 19.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.39
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	23 88.5	3 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	23 88.5	3 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	22 84.6	3 11.5	1 3.8	0 0.0	0 0.0	4.81	0.48
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	22 84.6	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	23 88.5	3 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.32

c. 授業の進行・展開

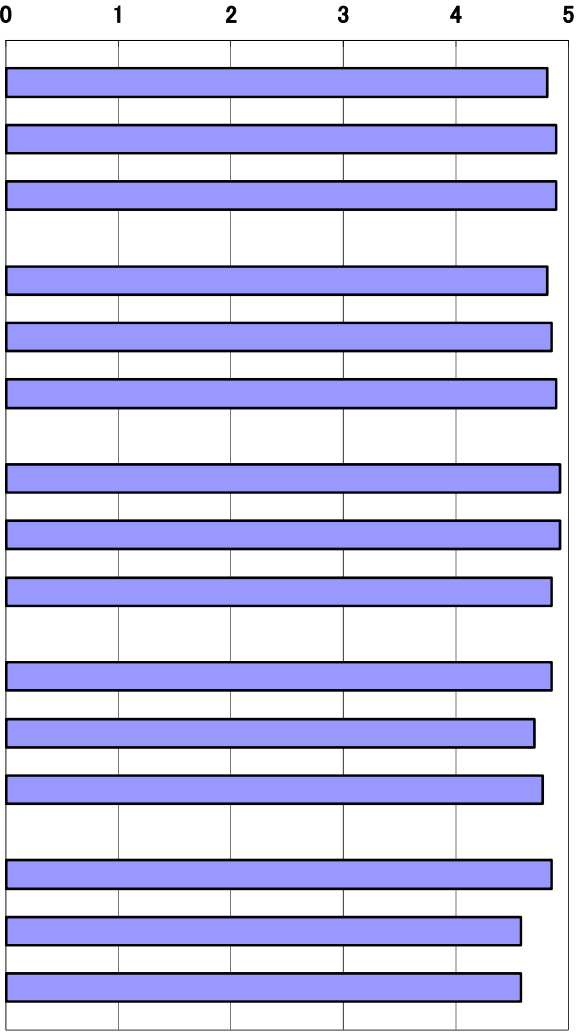
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	24 92.3	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.27
⑨	授業の進行速度は適切だった。	22 84.6	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	22 84.6	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	19 73.1	6 23.1	1 3.8	0 0.0	0 0.0	4.69	0.54
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	20 76.9	6 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.42

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	23 88.5	2 7.7	1 3.8	0 0.0	0 0.0	4.85	0.46
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	17 65.4	8 30.8	0 0.0	1 3.8	0 0.0	4.58	0.69
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	18 69.2	6 23.1	1 3.8	1 3.8	0 0.0	4.58	0.74



科目コード	P10500	科目名	看護教育方法	担当教員名	西田朋子
-------	--------	-----	--------	-------	------

<教員からのコメント>

約30名の方が受講してくださいました。概ね「強くそう思う」「そう思う」という評価がされていました。

学生の皆さんがより関心を持ち、看護教育方法について学びを深めていくことができる授業にしていきたいと思います。

自由記載には「板書など授業方法が工夫されていた」「わかりやすかったので、学習意欲や興味がわいた」等の意見や、「今まで考えたことがなかった”評価”や授業”の構成について学ぶことができこれから授業を見る目が変わりました」など、学ぶ側の視点から教える側の視点に見方を移行させながら授業に参加して下さっていたことも理解できました。

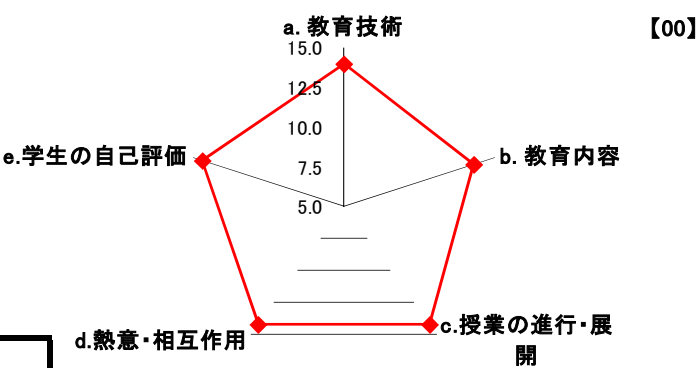
これからも皆さんが実体験をもとに考えを深め、また教える側がどのような点を考慮しているのかを知ることができるような授業展開を心がけていきます。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	5	回収数	5	回収率	100.0%
------	---	-----	---	-----	--------

科目: 応用看護学特論Ⅰ
担当者:
武井麻子, 小宮敬子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	3	14.00	1.41
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	5	13.60	1.36
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	5	14.20	1.17
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	5	14.20	1.17
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	5	14.40	0.80



N=5

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	2.80	2.32
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	2.80	2.32
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	2 40.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	3.60	1.85

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.40	0.49
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49

c. 授業の進行・展開

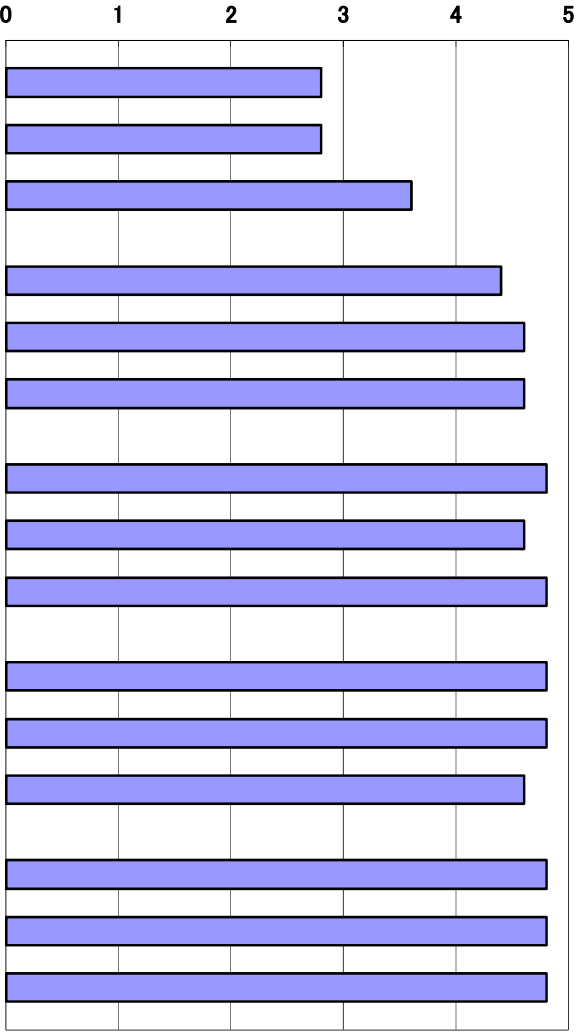
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49
⑨	授業の進行速度は適切だった。	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.49

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.80	0.40



科目コード	Q10200	科目名	応用看護学特論 I	担当教員名	武井麻子・小宮敬子
-------	--------	-----	-----------	-------	-----------

＜教員からのコメント＞

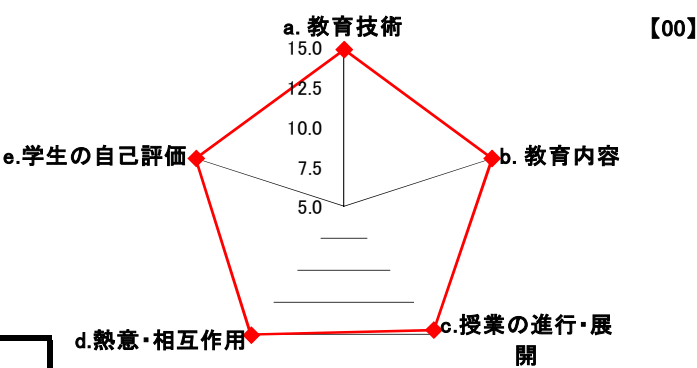
学生の皆さんからの具体的なコメントは、特に記載がありませんでしたが、少人数の体験グループの授業でしたので、グループの中で、大学全体や授業についての皆さんの意見を聞くことができました。授業評価の点数は全体的に高く、とりわけ学生の自己評価がとても高かったので、皆さんがこの授業に十分コミットしていたことがよくわかりました。これからもこの授業での体験を活かし、グループで語ること、聞くことを大事にしていってください。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	11	回収数	11	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目: 応用看護学特論Ⅱ
担当者:
井村真澄,喜多里己

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	11	14.91	0.29
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	11	14.82	0.57
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	11	14.64	0.64
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	11	15.00	0.00
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	11	14.82	0.57



N=11

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	11	0	0	0	0	5.00	0.00
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	10	1	0	0	0	4.91	0.29
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	11	0	0	0	0	5.00	0.00

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	10	1	0	0	0	4.91	0.29
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	10	1	0	0	0	4.91	0.29
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	11	0	0	0	0	5.00	0.00

c. 授業の進行・展開

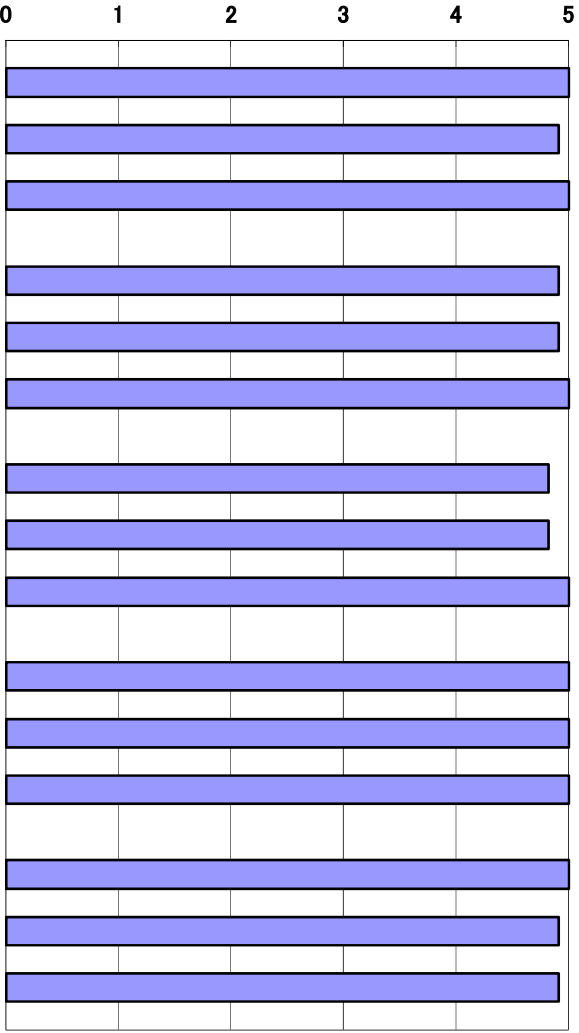
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	9	2	0	0	0	4.82	0.39
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	9	2	0	0	0	4.82	0.39
⑨	授業の進行速度は適切だった。	11	0	0	0	0	5.00	0.00

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	11	0	0	0	0	5.00	0.00
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	11	0	0	0	0	5.00	0.00
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	11	0	0	0	0	5.00	0.00

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	11	0	0	0	0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	10	1	0	0	0	4.91	0.29
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	10	1	0	0	0	4.91	0.29



科目コード	Q10300	科目名	応用看護学特論Ⅱ	担当教員名	井村真澄・喜多里己
-------	--------	-----	----------	-------	-----------

＜教員からのコメント＞

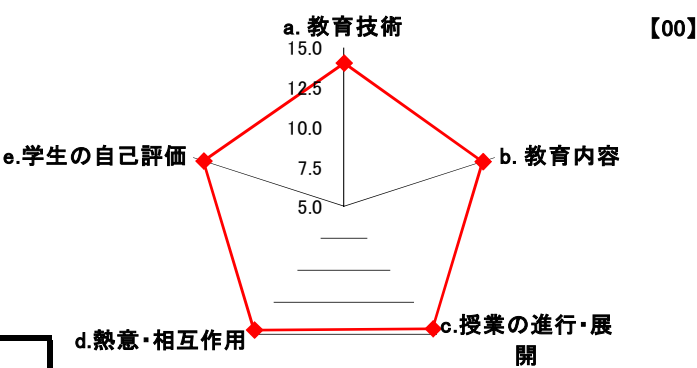
・この授業では、学生さんが授業に積極的に参加できる機会をより多く作るよう心がけています。また小グループ授業の特性を活かし、学生さんのリプロダクティブ・ヘルスに対する考えを聞き、ディスカッションしながら授業を進めています。学生さん各々の気づきや思い、深い考察を共有できるので、教員にとっても大変刺激的で楽しい授業です。コメント欄に頂いた、パワーポイントの字の大きさについては修正します。学生の皆さんから好評価頂いたことを継続し、さらに発展させていきたいと思っています。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

履修者数	19	回収数	19	回収率	100.0%
------	----	-----	----	-----	--------

科目: 応用看護学特論Ⅲ
担当者:
下村裕子, 濱中輝彦

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	19	14.05	1.57
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	19	14.21	1.20
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	19	14.53	0.82
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	19	14.63	0.74
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	19	14.32	1.08



N=19

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	14 73.7	5 26.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	15 78.9	3 15.8	0 0.0	1 5.3	0 0.0	0 0.0	4.68	0.73
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	13 68.4	5 26.3	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.58

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	14 73.7	5 26.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	13 68.4	6 31.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.46
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	15 78.9	4 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41

c. 授業の進行・展開

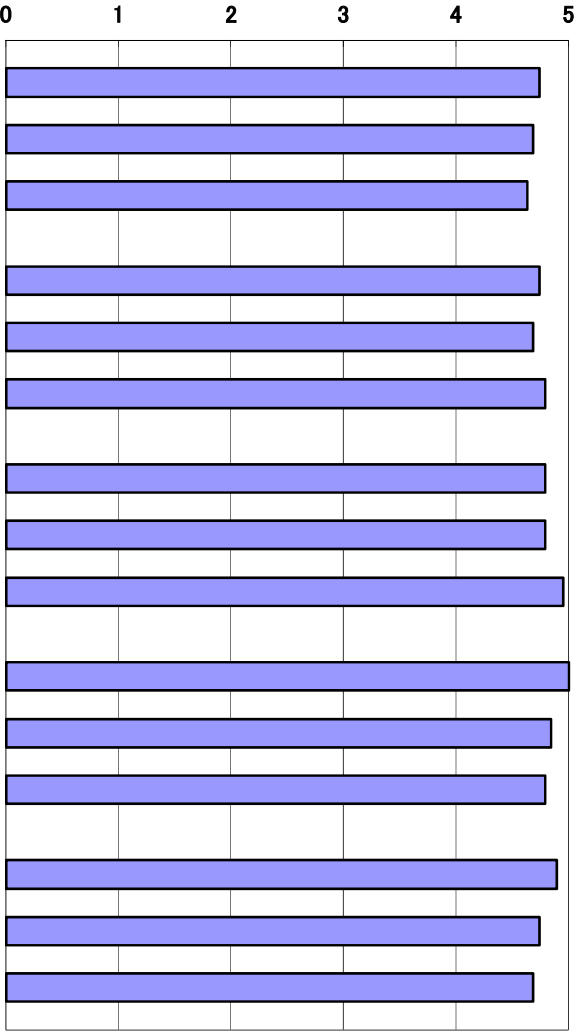
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	15 78.9	4 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	15 78.9	4 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41
⑨	授業の進行速度は適切だった。	18 94.7	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.95	0.22

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	16 84.2	3 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.84	0.36
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	15 78.9	4 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	17 89.5	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	14 73.7	5 26.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.44
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	13 68.4	6 31.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.68	0.46



科目コード	Q10500	科目名	応用看護学特論Ⅲ	担当教員名	下村裕子,濱中輝彦
-------	--------	-----	----------	-------	-----------

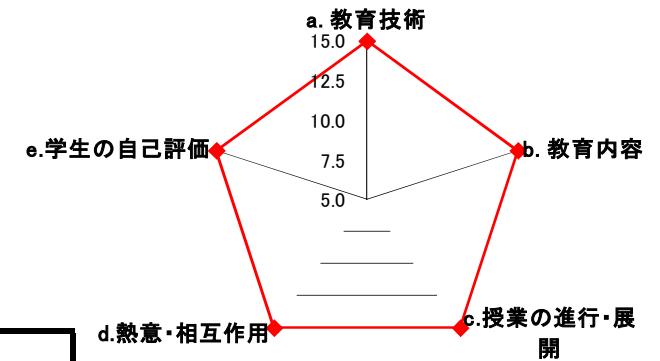
<教員からのコメント>

4年生になった皆さんと「感覚器障害を持つ患者の看護」について一緒に考えることができ、とても楽しく、多くのことを学ばせていただきました。この科目は、カリキュラム改正で今回が最後となりましたが、感覚器障害をもつ人への看護には、「看護の本質」が沢山含まれていることを再認識しましたので、「慢性期ケア」の中でも取り組めるように検討していきたいと思います。沢山のコメントをありがとうございました。

履修者数	3	回収数	3	回収率	100.0%
------	---	-----	---	-----	--------

高田早苗

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	3	15.00	0.00
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	3	15.00	0.00
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	3	15.00	0.00
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	3	15.00	0.00
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	3	15.00	0.00



強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

[illegible]

⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	3	0	0	0	0	0	5.00	0.00
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	3	0	0	0	0	0	5.00	0.00
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑨	授業の進行速度は適切だった。	3	0	0	0	0	0	5.00	0.00
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

[illegible]

⑬	私の授業への出席率は(5)は9割以上、(4)は8〜7割程度、(3)は6〜5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	3	0	0	0	0	0	5.00	0.00
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	3	0	0	0	0	0	5.00	0.00
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	3	0	0	0	0	0	5.00	0.00
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

[illegible]

科目コード	Q11000	科目名	応用看護学特論 I	担当教員名	高田早苗
-------	--------	-----	-----------	-------	------

<教員からのコメント>

応用看護学特論 I は、編入学生向けの選択科目です。今年度は、冒険かとも思いましたが、学生の経験した実践事例(これまでの実習や実務における事例)を記述し、看護理論を用いてその意味づけ解釈を深める、といった内容を中心にすすめました。

履修した学生は3名という少人数でしたので、当初のグループワークという計画を変更して、個人ワークや討議の時間をとりました。

最近の臨床で経験する頻度の高い「せん妄患者へのケア」や「抑制・拘束」、一通りのことはできるようになった中堅看護師にとっての「やりがい」や「現場の壁」など、学生の実際の経験をもとに議論できて、教員にとっても毎回楽しみにしていた授業でした。学生の皆さんも有意義で楽しいと感じてくれていた評価結果と受け止めています。

編入学生だけの授業は、よい面とよくない面の両方があると思いますが、少人数で自分の体験を振り返る、何気なくしてきたことの意味を再考する、というところは、よい面だと思います。履修する学生の顔ぶれ、人数等を考慮に入れて柔軟に組み立てることができる面もよい面だと思います。反面、なれ合い的になったり、わかってしまった感をもったりという、よくない面もあるかもしれません。意識することによって、よくない面が出ないようにできますので、今後も気をつけていきましょう。

授業(講義)評価結果(2014年度前期)

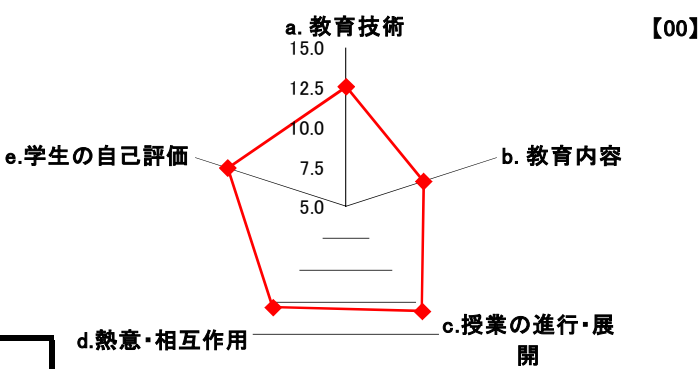
履修者数	7	回収数	7	回収率	100.0%
------	---	-----	---	-----	--------

科目: 研究方法論Ⅱ(情報科学Ⅱ)

担当者:

逸見 功

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	5,810	13.00	2.46	7	12.57	1.29
b. 教育内容	5,819	12.89	2.66	7	10.14	2.90
c. 授業の進行・展開	5,820	13.33	2.19	7	13.14	1.12
d. 熱意・相互作用	5,794	13.17	2.41	7	12.86	0.64
e. 学生の自己評価	5,803	13.84	1.63	7	12.86	2.17



N=7

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	授業で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	2	5	0	0	0	0	4.29	0.45
②	授業では、黒板、OHP、ビデオ、スライドなどの使い方が効果的だった。	1	6	0	0	0	0	4.14	0.35
③	教員の話し方(声量、スピード、マイクの使い方など)は適切だった。	2	4	1	0	0	0	4.14	0.64

b. 教育内容

④	授業の内容はわかりやすかった。	0	2	3	1	1	0	2.86	0.99
⑤	授業の内容は興味のあるものだった。	1	3	2	0	1	0	3.43	1.18
⑥	この授業は自分にとって価値があった。	2	3	1	1	0	0	3.86	0.99

c. 授業の進行・展開

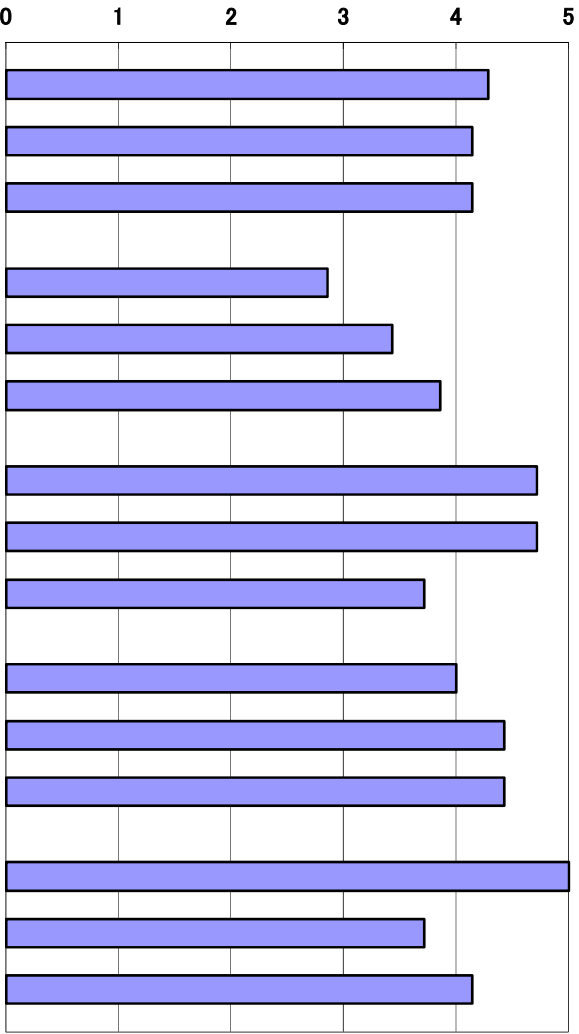
⑦	授業は、正規の時間に始まり、終わった。	5	2	0	0	0	0	4.71	0.45
⑧	シラバス(または講義予定表)に沿った授業が行われていた。	5	2	0	0	0	0	4.71	0.45
⑨	授業の進行速度は適切だった。	0	5	2	0	0	0	3.71	0.45

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	1	5	1	0	0	0	4.00	0.53
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況があった。	3	4	0	0	0	0	4.43	0.49
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	3	4	0	0	0	0	4.43	0.49

e. 学生の自己評価

⑬	私の授業への出席率は((5)は9割以上、(4)は8~7割程度、(3)は6~5割程度、(2)は4割程度、(1)3割以下)だった。	7	0	0	0	0	0	5.00	0.00
⑭	私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	3	1	1	2	0	0	3.71	1.28
⑮	私は授業の学びやすい環境作り(私語、携帯電話・メール、途中入退室をしない等)に協力した。	4	1	1	1	0	0	4.14	1.12



科目コード	U10300	科目名	研究方法論Ⅱ（情報科学Ⅱ）	担当教員名	逸見 功
-------	--------	-----	---------------	-------	------

<教員からのコメント>

履修生は4年生で、統計学は履修した2年次から遠ざかっていたということから、統計学の復習をしながら、PCを用いた演習を進めました。「統計ソフトが使えるようになった」「研究に役立つ」という感想があり、この授業の目標が達成されたことをうれしく思います。また「履修生が少ないので質問しやすく、適切に答えてくれた」のは少人数クラスの良さでした。

レポート課題が難しかったそうですが、4年生向けの研究方法論ということで、実データを分析する実際の研究に近いものにしました。

配付資料のデザインが統一されていない(1枚に1ページあるいは2ページ分が印刷される)という点については、改善したいと思います。

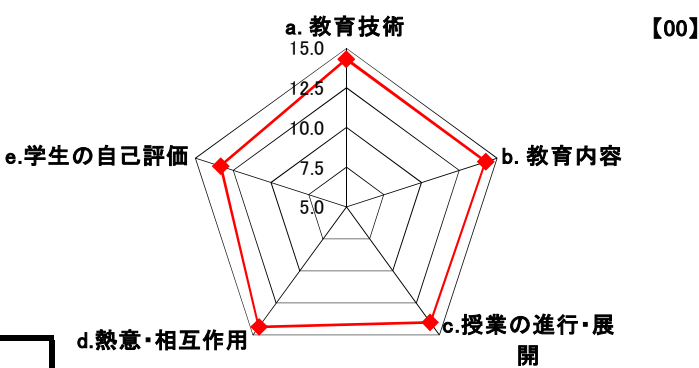
統計は重要な基礎科目なので、本授業と保健統計学とも通年で開講した方がよいという感想がありました。まったくそのとおりですが、残念ながらカリキュラムの変更を伴うので、すぐに改善できません。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

履修者数	756	回収数	636	回収率	84.1%
------	-----	-----	-----	-----	-------

科目:
担当者:

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	635	14.31	1.37
b. 教育内容	635	14.24	1.50	635	14.24	1.50
c. 授業の進行・展開	632	14.01	1.66	632	14.01	1.66
d. 熱意・相互作用	632	14.38	1.28	632	14.38	1.28
e. 学生の自己評価	622	13.34	2.30	622	13.34	2.30



N=636

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

① 演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	500 78.6	122 19.2	12 1.9	2 0.3	0 0.0	0 0.0	4.76	0.49
② 演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	506 79.6	112 17.6	15 2.4	2 0.3	0 0.0	1 0.2	4.76	0.53
③ 教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	516 81.1	102 16.0	17 2.7	1 0.2	0 0.0	0 0.0	4.78	0.48

b. 教育内容

④ 技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	503 79.1	106 16.7	23 3.6	3 0.5	0 0.0	1 0.2	4.74	0.57
⑤ 演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	503 79.1	103 16.2	24 3.8	4 0.6	2 0.3	0 0.0	4.73	0.59
⑥ 実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	500 78.6	119 18.7	14 2.2	3 0.5	0 0.0	0 0.0	4.75	0.51

c. 授業の進行・展開

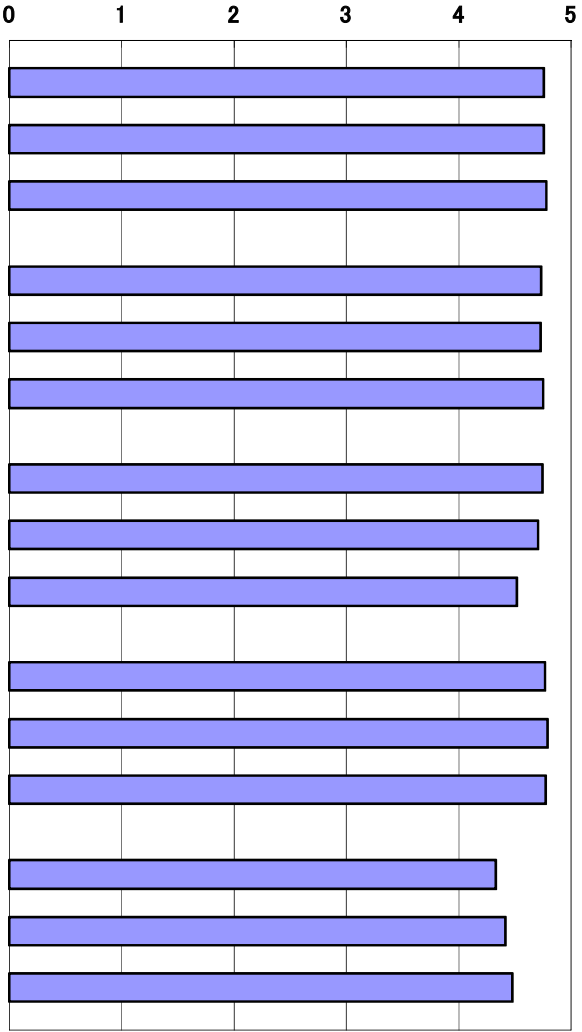
⑦ 学生への指示・安全への配慮は適切だった。	499 78.5	119 18.7	13 2.0	5 0.8	0 0.0	0 0.0	4.75	0.53
⑧ 演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	494 77.7	107 16.8	30 4.7	3 0.5	0 0.0	2 0.3	4.71	0.63
⑨ 演習の時間配分は適切だった。	429 67.5	139 21.9	42 6.6	24 3.8	0 0.0	2 0.3	4.52	0.82

d. 熱意・相互作用

⑩ 教員の熱意が伝わってきた。	510 80.2	110 17.3	14 2.2	1 0.2	0 0.0	1 0.2	4.77	0.51
⑪ 教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	521 81.9	103 16.2	9 1.4	2 0.3	0 0.0	1 0.2	4.79	0.49
⑫ 教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	523 82.2	96 15.1	11 1.7	3 0.5	0 0.0	3 0.5	4.78	0.58

e. 学生の自己評価

⑬ 私は事前学習をして演習に臨んだ。	400 62.9	115 18.1	68 10.7	40 6.3	11 1.7	2 0.3	4.33	1.04
⑭ 私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	405 63.7	138 21.7	61 9.6	23 3.6	5 0.8	4 0.6	4.42	0.93
⑮ 私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	401 63.1	178 28.0	40 6.3	6 0.9	0 0.0	11 1.7	4.48	0.88



授業(演習)評価結果(2014年度前期)

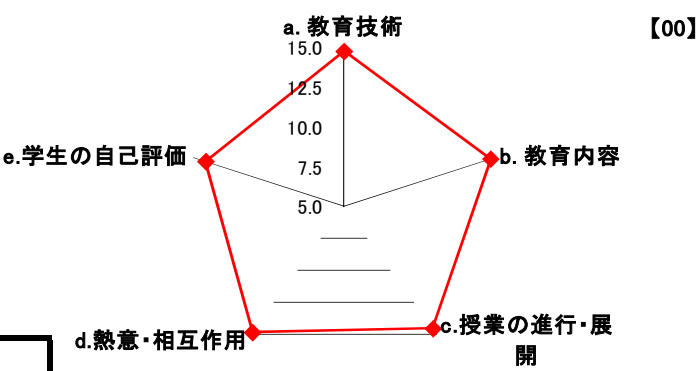
履修者数	72	回収数	66	回収率	91.7%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅱ②

担当者:

田中孝美,樋口佳栄,殿城友紀,安島
幹子,源川奈央子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	47	14.81	0.73
b. 教育内容	635	14.24	1.50	47	14.72	0.87
c.授業の進行・展開	632	14.01	1.66	47	14.51	1.07
d.熱意・相互作用	632	14.38	1.28	47	14.81	0.64
e.学生の自己評価	622	13.34	2.30	46	14.20	1.68



N=66

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

① 演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
② 演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
③ 教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24

b. 教育内容

④ 技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑤ 演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37
⑥ 実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

c. 授業の進行・展開

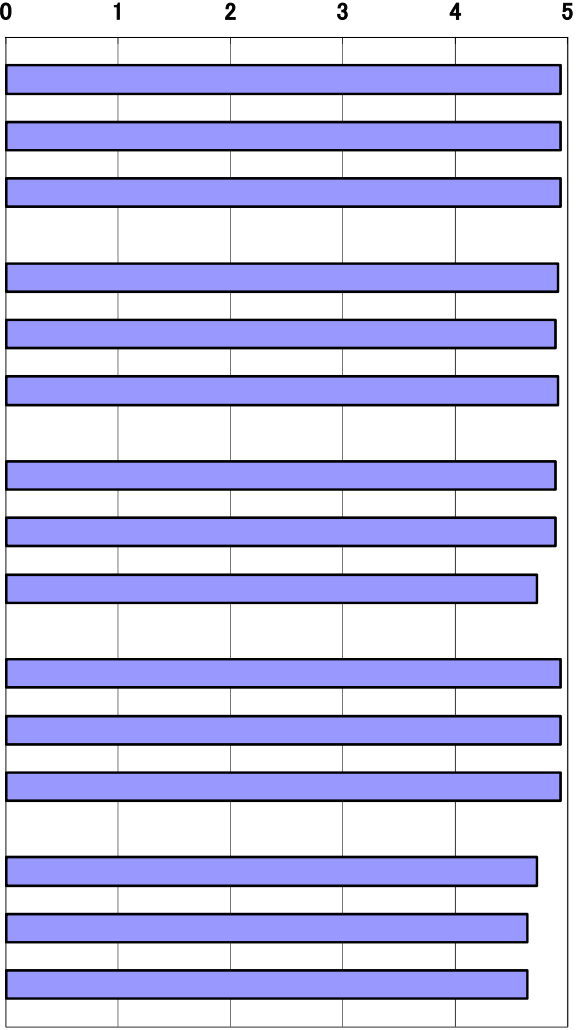
⑦ 学生への指示・安全への配慮は適切だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑧ 演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37
⑨ 演習の時間配分は適切だった。	37 78.7	7 14.9	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.57

d. 熱意・相互作用

⑩ 教員の熱意が伝わってきた。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑪ 教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑫ 教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24

e. 学生の自己評価

⑬ 私は事前学習をして演習に臨んだ。	39 83.0	4 8.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.72	0.67
⑭ 私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	38 80.9	5 10.6	2 4.3	1 2.1	0 0.0	1 2.1	4.64	0.93
⑮ 私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	36 76.6	8 17.0	2 4.3	0 0.0	0 0.0	1 2.1	4.64	0.86



科目コード	1J0301	科目名	看護技術論Ⅱ②	担当教員名	田中孝美、樋口佳栄、殿城友紀、安島幹子、源川奈央子
-------	--------	-----	---------	-------	---------------------------

<教員からのコメント>

楽しく学べた、デモンストレーションが分かりやすかった、説明が丁寧でよかったとの評価をありがとうございました。学生の皆さんが興味を持って演習に取り組んでいる姿に、教員側も刺激を受けながら授業・演習を運営することができました。これからも、各コマの授業・演習を皆さんが楽しく・探求的に取り組めるよう、また実践的にフィジカルアセスメントを学べるよう、工夫していきます。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

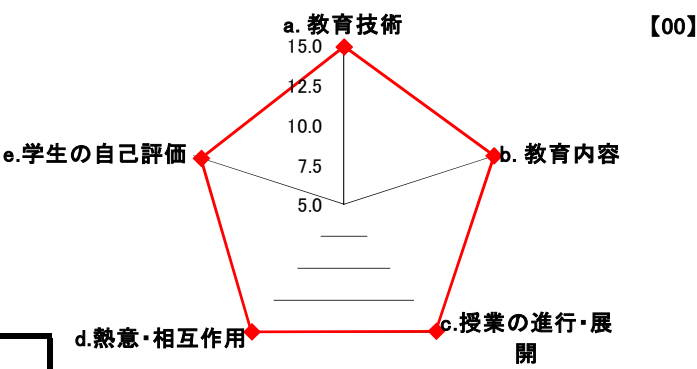
履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅱ②

担当者:

田中孝美,樋口佳栄,殿城友紀,安島
幹子,源川奈央子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	47	14.96	0.29
b. 教育内容	635	14.24	1.50	47	14.94	0.43
c.授業の進行・展開	632	14.01	1.66	47	14.87	0.49
d.熱意・相互作用	632	14.38	1.28	47	14.94	0.43
e.学生の自己評価	622	13.34	2.30	44	14.48	1.18



N=72

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

① 演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
② 演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
③ 教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	47 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5.00	0.00

b. 教育内容

④ 技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑤ 演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑥ 実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14

c. 授業の進行・展開

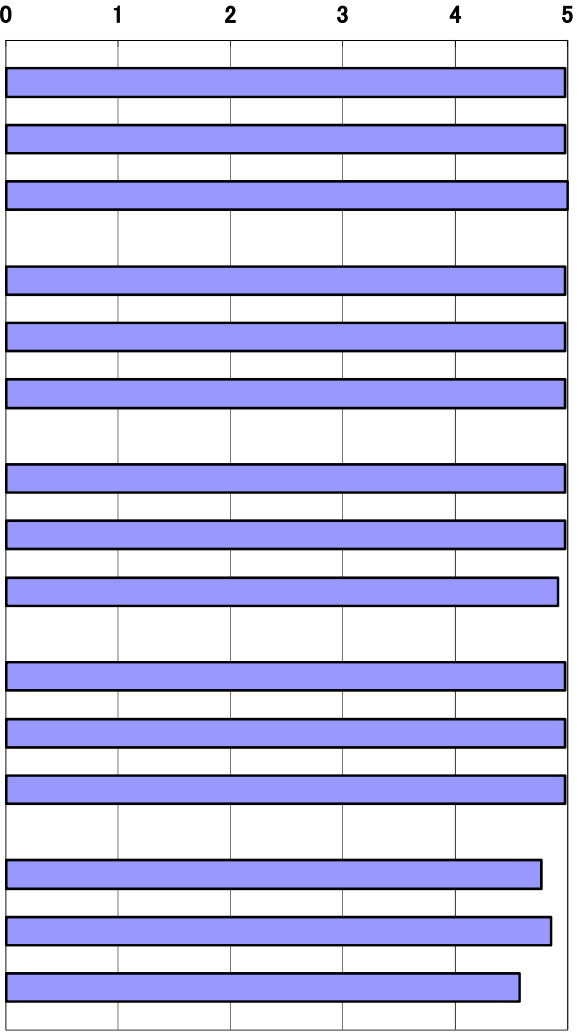
⑦ 学生への指示・安全への配慮は適切だった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑧ 演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑨ 演習の時間配分は適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

d. 熱意・相互作用

⑩ 教員の熱意が伝わってきた。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑪ 教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑫ 教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14

e. 学生の自己評価

⑬ 私は事前学習をして演習に臨んだ。	40 85.1	5 10.6	0 0.0	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.77	0.66
⑭ 私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	41 87.2	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.41
⑮ 私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	39 83.0	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 6.4	4.57	1.23



科目コード	1J0302	科目名	看護技術論Ⅱ②	担当教員名	田中孝美、樋口佳栄、殿城友紀、安島幹子、源川奈央子
-------	--------	-----	---------	-------	---------------------------

<教員からのコメント>

楽しく学べた、デモンストレーションが分かりやすかった、説明が丁寧でよかったとの評価をありがとうございました。学生の皆さんが興味を持って演習に取り組んでいる姿に、教員側も刺激を受けながら授業・演習を運営することができました。これからも、各コマの授業・演習を皆さんが楽しく・探求的に取り組めるよう、また実践的にフィジカルアセスメントを学べるよう、工夫していきます。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

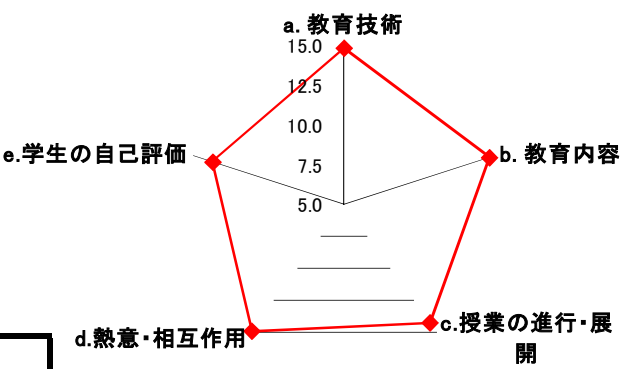
履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅲ①

担当者:

樋口佳栄,吉田みつ子,殿城友紀,田中孝美,安島幹子,川原由佳里,源川奈央子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	47	14.87	0.53
b. 教育内容	635	14.24	1.50	47	14.64	0.84
c.授業の進行・展開	632	14.01	1.66	47	14.21	1.34
d.熱意・相互作用	632	14.38	1.28	47	14.87	0.53
e.学生の自己評価	622	13.34	2.30	47	13.72	1.90



【00】

N=67

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
②	演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	40 85.1	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.43

c. 授業の進行・展開

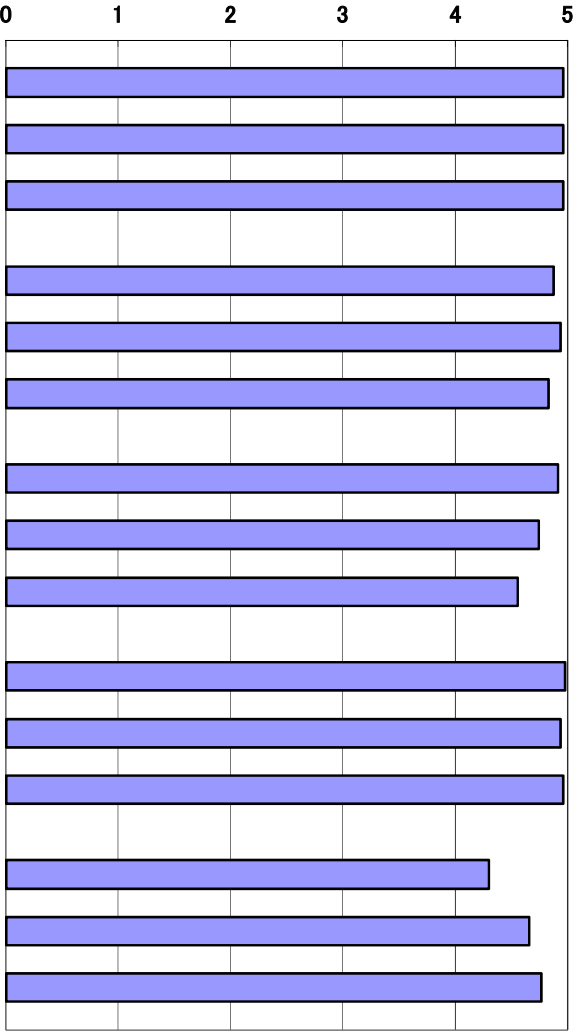
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	37 78.7	8 17.0	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.74	0.52
⑨	演習の時間配分は適切だった。	33 70.2	9 19.1	3 6.4	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.55	0.79

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	31 66.0	6 12.8	5 10.6	3 6.4	2 4.3	0 0.0	4.30	1.15
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	33 70.2	12 25.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.66	0.56
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	36 76.6	11 23.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.42



科目コード	1J0401	科目名	看護技術論Ⅲ①	担当教員名	樋口佳栄,吉田みつ子,殿城友紀,田中孝美,安島幹子, 川原由佳里,源川奈央子
-------	--------	-----	---------	-------	---

＜教員からのコメント＞

たくさんコメントをくださりありがとうございました。より分かりやすく参加しやすい授業にむけてのヒントをいただきました。みなさん全員が十分に体験できることと、終わりの時間を守ること、講義の要点の整理、グループでの演習時の配慮などまだまだ工夫の余地があると感じております。事前学習がしにくい様子もうかがわれましたので、事前学習も含めながら、全体で皆さんの学びが深まる工夫を重ねていこうと思っております。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

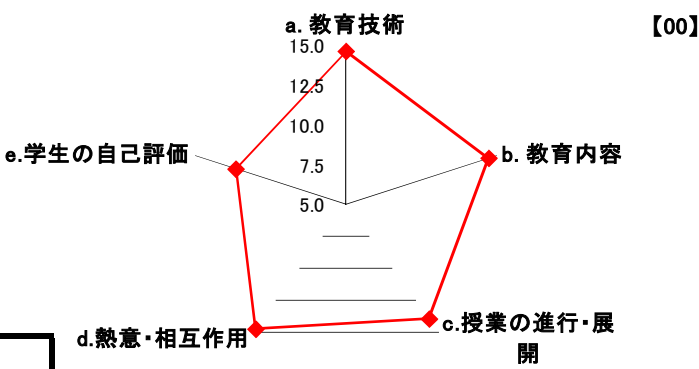
履修者数	70	回収数	47	回収率	67.1%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅲ①

担当者:

樋口佳栄,吉田みつ子,殿城友紀,田中孝美,安島幹子,川原由佳里,源川奈央子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	47	14.66	0.81
b. 教育内容	635	14.24	1.50	47	14.45	0.99
c.授業の進行・展開	632	14.01	1.66	47	13.89	1.49
d.熱意・相互作用	632	14.38	1.28	47	14.70	0.80
e.学生の自己評価	622	13.34	2.30	46	12.30	2.33



N=66

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
②	演習で使用了物品・モデル等は適切だった。	40 85.1	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	39 83.0	8 17.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	40 85.1	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.43
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	37 78.7	10 21.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41

c. 授業の進行・展開

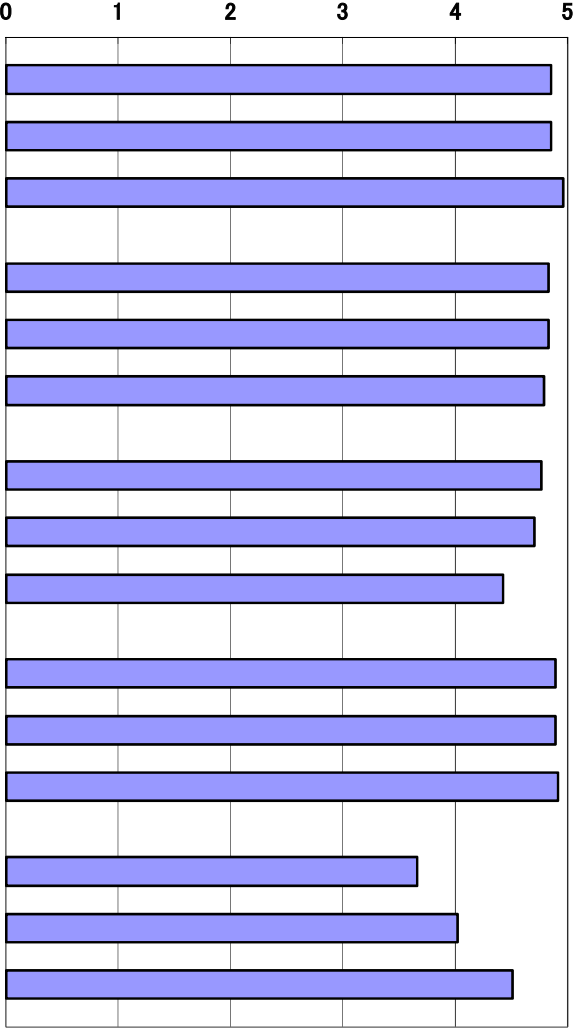
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	37 78.7	9 19.1	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.47
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	36 76.6	8 17.0	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.70	0.58
⑨	演習の時間配分は適切だった。	27 57.4	14 29.8	5 10.6	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.43	0.76

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に应答した。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	16 34.0	13 27.7	8 17.0	7 14.9	2 4.3	1 2.1	3.66	1.31
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	20 42.6	13 27.7	9 19.1	5 10.6	0 0.0	0 0.0	4.02	1.02
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	27 57.4	17 36.2	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.51	0.61



科目コード	1J0402	科目名	看護技術論Ⅲ①	担当教員名	樋口佳栄,吉田みつ子,殿城友紀,田中孝美,安島幹子, 川原由佳里,源川奈央子
-------	--------	-----	---------	-------	---

<教員からのコメント>

たくさんコメントをくださりありがとうございました。より分かりやすく参加しやすい授業にむけてのヒントをいただきました。みなさん全員が十分に体験できることと、終わりの時間を守ることにまだまだ工夫の余地があると感じております。事前学習がしにくい様子もうかがわれましたので、事前学習も含めながら、全体で皆さんの学びが深まる工夫を重ねていこうと思っております。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

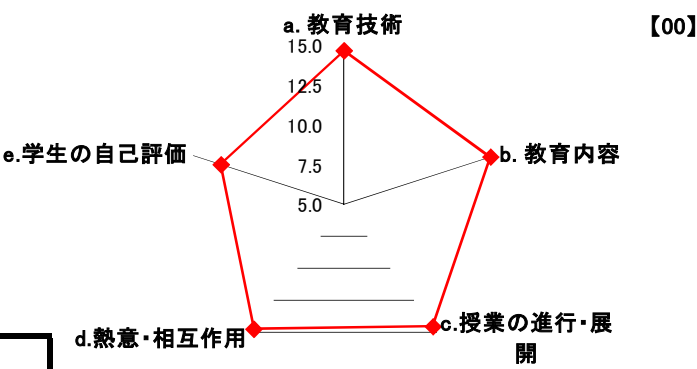
履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅲ③

担当者:

吉田みつ子,田中孝美,源川奈央子,
殿城友紀,川原由佳里,樋口佳栄,安
島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	47	14.70	0.82
b. 教育内容	635	14.24	1.50	47	14.70	0.80
c.授業の進行・展開	632	14.01	1.66	47	14.51	1.13
d.熱意・相互作用	632	14.38	1.28	45	14.69	0.86
e.学生の自己評価	622	13.34	2.30	47	13.17	2.57



N=58

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
②	演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33

c. 授業の進行・展開

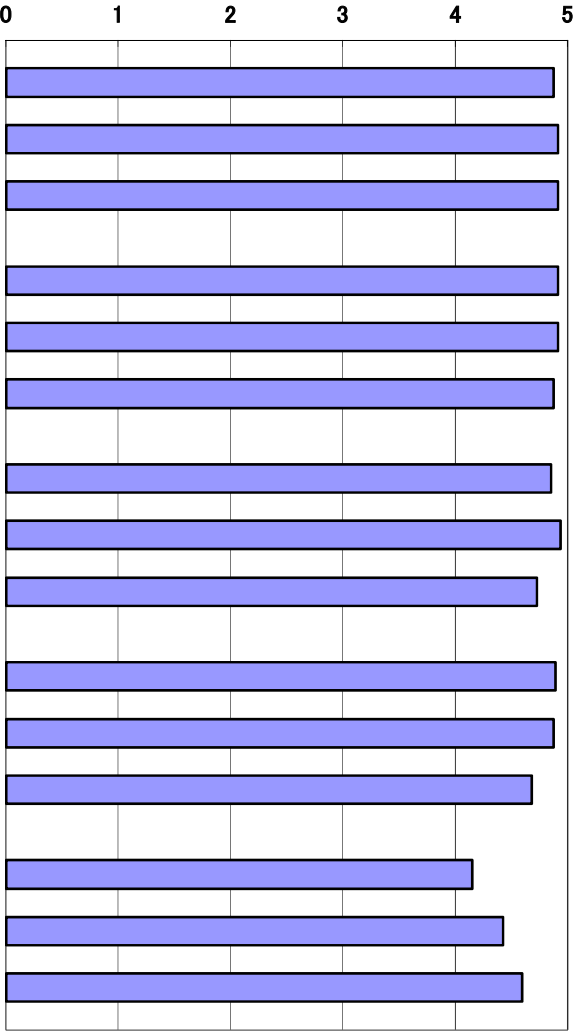
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	42 89.4	4 8.5	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.85	0.50
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑨	演習の時間配分は適切だった。	36 76.6	9 19.1	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.72	0.53

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	41 87.2	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.87	0.33
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	40 85.1	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 4.3	4.68	1.03

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	30 63.8	2 4.3	9 19.1	4 8.5	2 4.3	0 0.0	4.15	1.24
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	31 66.0	9 19.1	4 8.5	2 4.3	1 2.1	0 0.0	4.43	0.96
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	31 66.0	13 27.7	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.60	0.61



科目コード	1J0601	科目名	看護技術論Ⅲ③	担当教員名	吉田みつ子・田中孝美・源川奈央子・殿城友紀・川原由佳里・樋口佳栄・安島幹子
-------	--------	-----	---------	-------	---------------------------------------

<教員からのコメント>

教員によるデモンストレーションに対して、面白い、わかりやすいなど高い評価を頂きありがとうございます。演習時もみなさんと一緒に楽しく身体を使いながら、看護技術を学べるように努力していきたいと思います。実技試験の日程を早く教えてほしいというご希望がありました。最初の講義のスケジュールでお知らせしたいと思いますが、より具体的な試験方法やオフィスアワーについても早めに提示していけるようにいたします。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

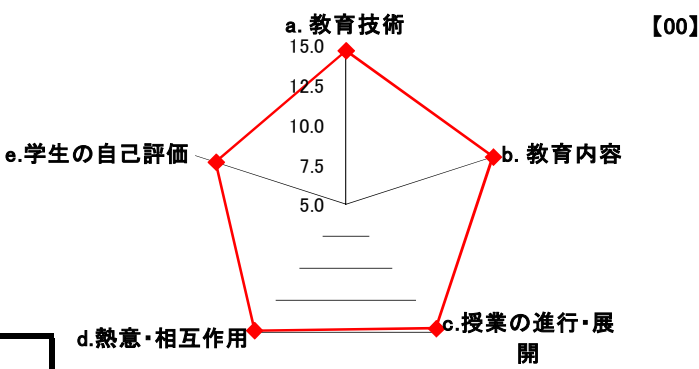
履修者数	72	回収数	47	回収率	65.3%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:看護技術論Ⅲ③

担当者:

吉田みつ子,田中孝美,源川奈央子,
殿城友紀,川原由佳里,樋口佳栄,安
島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	47	14.70	0.82
b. 教育内容	635	14.24	1.50	47	14.74	0.93
c.授業の進行・展開	632	14.01	1.66	47	14.66	0.88
d.熱意・相互作用	632	14.38	1.28	47	14.83	0.66
e.学生の自己評価	622	13.34	2.30	47	13.64	2.13



N=68

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
②	演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	42 89.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.31
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	43 91.5	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.28

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	44 93.6	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.91	0.35
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37

c. 授業の進行・展開

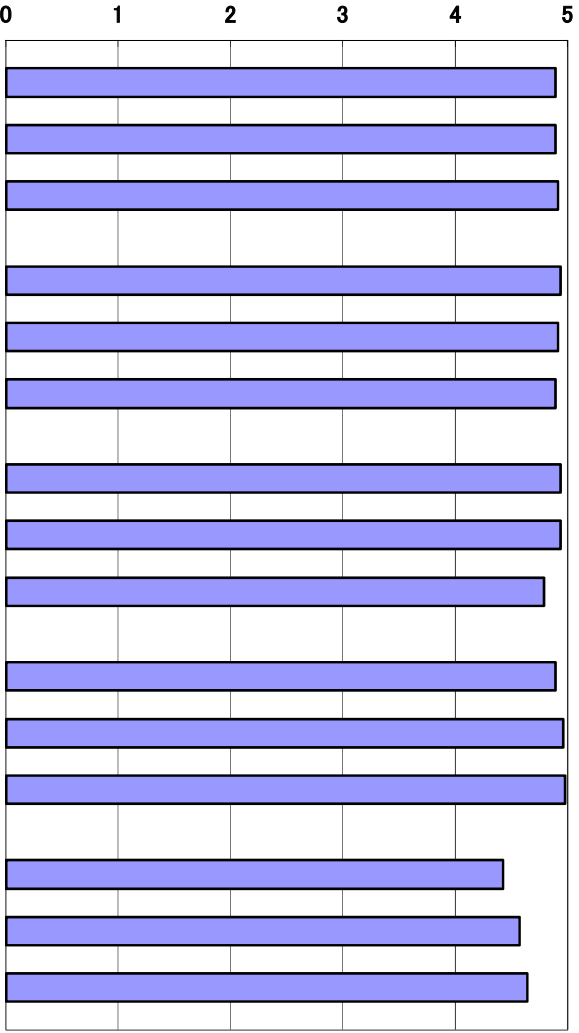
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	44 93.6	3 6.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.94	0.24
⑨	演習の時間配分は適切だった。	39 83.0	6 12.8	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.50

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	43 91.5	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.89	0.37
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	45 95.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.96	0.20
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	46 97.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.98	0.14

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	34 72.3	4 8.5	5 10.6	3 6.4	1 2.1	0 0.0	4.43	1.05
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	35 74.5	6 12.8	4 8.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.57	0.82
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	32 68.1	13 27.7	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.64	0.56



科目コード	1J0602	科目名	看護技術論Ⅲ③	担当教員名	吉田みつ子・田中孝美・源川奈央子・殿城友紀・川原由佳里・樋口佳栄・安島幹子
-------	--------	-----	---------	-------	---------------------------------------

<教員からのコメント>

教員によるデモンストレーションに対して、面白い、わかりやすいなど高い評価を頂きありがとうございます。演習時もみなさんと一緒に楽しく身体を使いながら、看護技術を学べるように努力していきたいと思います。デモンストレーションが見えにくいというご意見がありましたので、物品の位置などの工夫もしていきたいと思います。実技試験の日程を早く教えてほしいというご希望がありました。最初の講義のスケジュールでお知らせしたいと思いますが、より具体的な試験方法やオフィスアワーについても早めに提示していけるようにいたします。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

履修者数	67	回収数	26	回収率	38.8%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:健康レベル別看護学演習Ⅱ

担当者:

千葉京子,清田明美,江見香月,比留間絵美,武井麻子,小宮敬子,鷹野朋実,堀井湖浪,谷津裕子,新田真弓,齋藤英子,佐々木美喜,山本由香,濱田真由美,江本リナ,川名るり,太田智子,吉田玲子,小原真理子,亀井 縁,安島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	26	13.88	1.53
b. 教育内容	635	14.24	1.50	26	13.92	1.52
c. 授業の進行・展開	632	14.01	1.66	26	13.85	1.51
d. 熱意・相互作用	632	14.38	1.28	26	13.96	1.34
e. 学生の自己評価	622	13.34	2.30	26	11.50	3.72

N=26

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	17 65.4	8 30.8	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0	4.58	0.69
②	演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	17 65.4	9 34.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.48
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	17 65.4	9 34.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.48

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	17 65.4	7 26.9	0 0.0	2 7.7	0 0.0	0 0.0	4.50	0.84
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	18 69.2	7 26.9	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.65	0.55
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	20 76.9	6 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.42

c. 授業の進行・展開

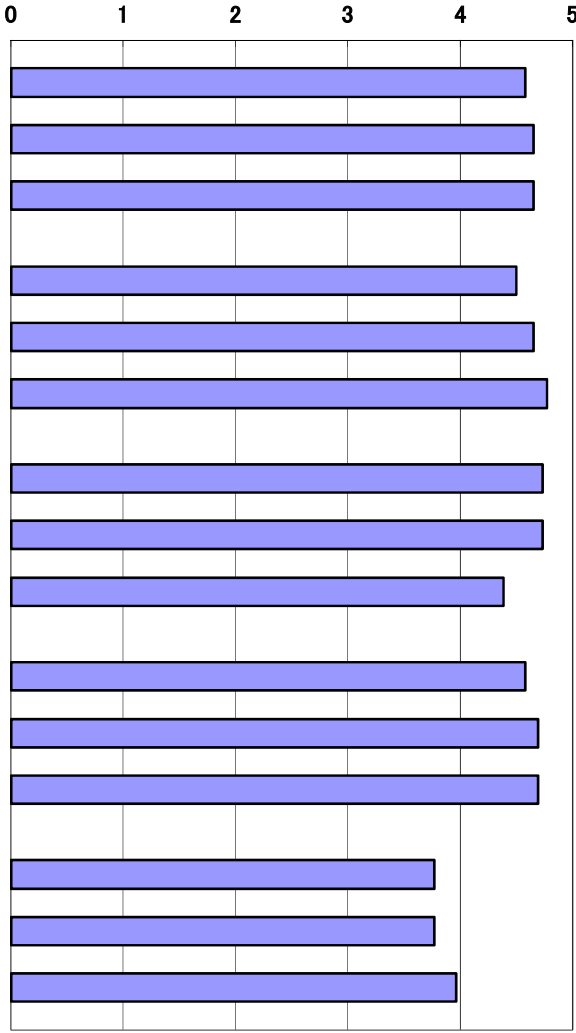
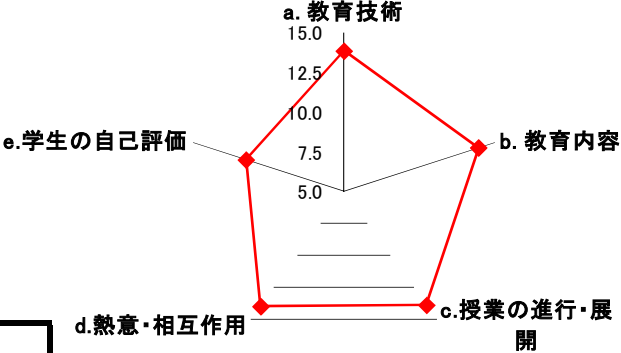
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	19 73.1	7 26.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.44
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	19 73.1	7 26.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.44
⑨	演習の時間配分は適切だった。	15 57.7	7 26.9	3 11.5	1 3.8	0 0.0	0 0.0	4.38	0.84

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	15 57.7	11 42.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.58	0.49
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	18 69.2	8 30.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.46
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	18 69.2	8 30.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.69	0.46

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	13 50.0	4 15.4	2 7.7	4 15.4	3 11.5	0 0.0	3.77	1.48
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	11 42.3	6 23.1	3 11.5	4 15.4	2 7.7	0 0.0	3.77	1.34
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	11 42.3	6 23.1	6 23.1	3 11.5	0 0.0	0 0.0	3.96	1.06



科目コード	1N0601	科目名	健康レベル別看護学演習Ⅱ	担当教員名	千葉京子,清田明美,江見香月,比留間絵美,武井麻子,小宮敬子,鷹野朋実,堀井湖浪,谷津裕子,新田真弓,齋藤英子,佐々木美喜,山本由香,濱田真由美,江本リナ,川名るり,太田智子,吉田玲子,小原真理子,亀井 縁,安島幹子
-------	--------	-----	--------------	-------	--

<教員からのコメント>

- ・本授業は新カリキュラムにより今年度初めて実施しました。5領域(精神保健看護学・母性看護学・小児看護学・老年看護学・災害看護学)で必要な技術を精選し、演習できるよう構成しました。演習を通して、5領域で必要な技術と態度を学んで頂けたと思います。
- ・時間的には十分とはいえませんでしたので、来年度は少しでも演習時間を増やすよう検討いたします。
- ・オフィスアワーは演習終了後に設けています。また、実習前にも練習ができるよう場所と物品を準備していましたが、活用されていなかったようです。来年度は演習後の活用について周知されるようオリエンテーションを改善します。
- ・災害看護学の内容についてですが、1年次と同じ映像シミュレーションを使用した意図は想起してもらうためでした。来年度は1年次の授業内容を想起する時間を短縮し、実演を多くします。また新企画として、シミュレーターを使用し、データーの読解によるフィジカルアセスメントや、応急処置後の状態変化についても取り入れる予定です。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

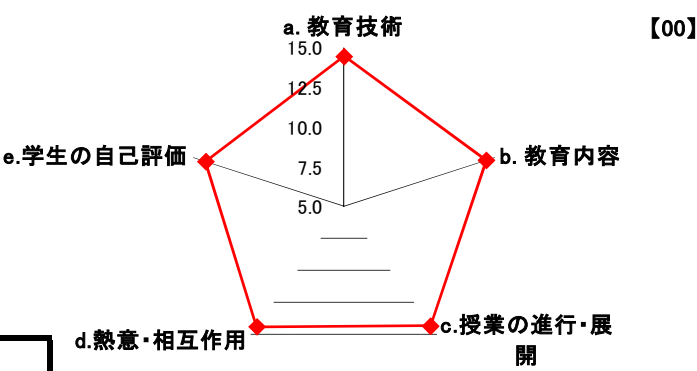
履修者数	69	回収数	52	回収率	75.4%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:健康レベル別看護学演習Ⅱ

担当者:

千葉京子,清田明美,江見香月,比留間絵美,武井麻子,小宮敬子,鷹野朋実,堀井湖浪,谷津裕子,新田真弓,齋藤英子,佐々木美喜,山本由香,濱田真由美,江本リナ,川名るり,太田智子,吉田玲子,小原真理子,亀井 縁,安島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	52	14.48	1.15
b. 教育内容	635	14.24	1.50	52	14.44	1.17
c. 授業の進行・展開	632	14.01	1.66	51	14.29	1.30
d. 熱意・相互作用	632	14.38	1.28	52	14.37	1.21
e. 学生の自己評価	622	13.34	2.30	51	14.20	1.41



N=67

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	43 82.7	9 17.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38
②	演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	44 84.6	8 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.85	0.36
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	44 84.6	6 11.5	2 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.48

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	43 82.7	8 15.4	1 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	43 82.7	8 15.4	1 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	43 82.7	9 17.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.38

c. 授業の進行・展開

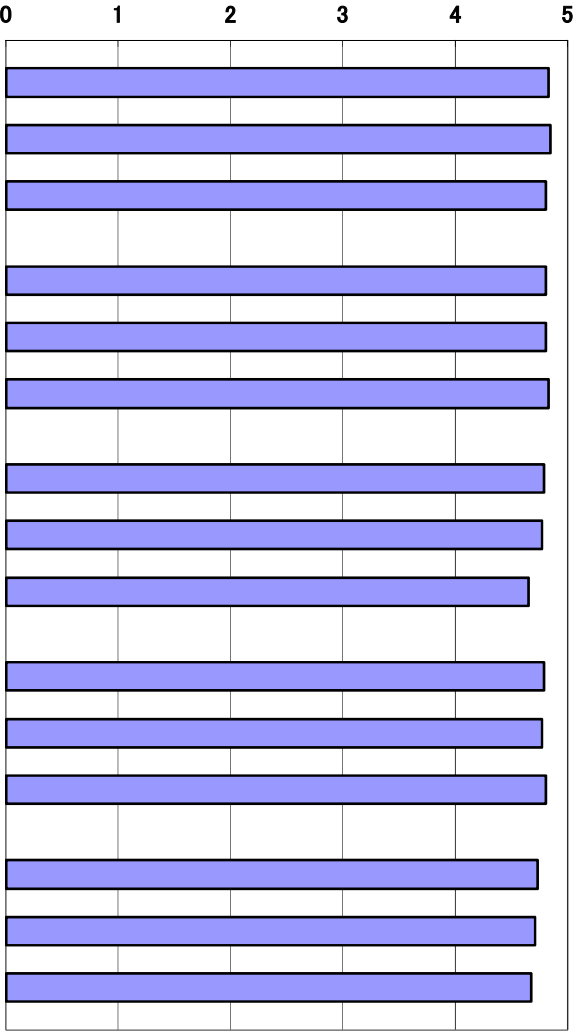
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	42 80.8	9 17.3	1 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.45
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	41 78.8	10 19.2	1 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.46
⑨	演習の時間配分は適切だった。	39 75.0	11 21.2	1 1.9	0 0.0	0 0.0	1 1.9	4.65	0.81

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	42 80.8	9 17.3	1 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.45
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	40 76.9	12 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.77	0.42
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	43 82.7	8 15.4	1 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.81	0.44

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	40 76.9	10 19.2	2 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.73	0.52
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	39 75.0	11 21.2	2 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.53
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	39 75.0	12 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.9	4.67	0.78



科目コード	1N0602	科目名	健康レベル別看護学演習Ⅱ	担当教員名	千葉京子,清田明美,江見香月,比留間絵美,武井麻子,小宮敬子,鷹野朋実,堀井湖浪,谷津裕子,新田真弓,齋藤英子,佐々木美喜,山本由香,濱田真由美,江本リナ,川名るり,太田智子,吉田玲子,小原真理子,亀井 縁,安島幹子
-------	--------	-----	--------------	-------	--

<教員からのコメント>

- ・本授業は新カリキュラムにより今年度初めて実施しました。5領域(精神保健看護学・母性看護学・小児看護学・老年看護学・災害看護学)で必要な技術を精選し、演習できるよう構成しました。演習を通して、5領域で必要な技術と態度を学んで頂けたと思います。
- ・時間的には十分とはいえませんでしたので、来年度は少しでも演習時間を増やすよう検討いたします。
- ・ビデオを見るときの姿勢についてコメントをいただきました。空間的余裕がなかったためですが、来年度は負担が少なくなるようプログラム順あるいは使用場所を検討することで改善したいと思います。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

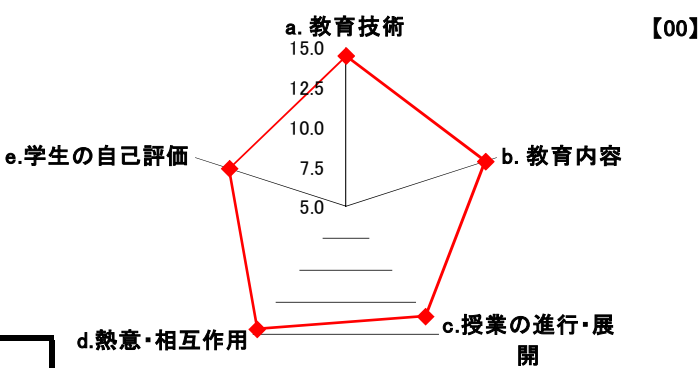
履修者数	35	回収数	24	回収率	68.6%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:災害看護活動論Ⅰ

担当者:

小原真理子,亀井 縁,安島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	24	14.50	1.00
b. 教育内容	635	14.24	1.50	24	14.25	1.45
c. 授業の進行・展開	632	14.01	1.66	24	13.54	1.83
d. 熱意・相互作用	632	14.38	1.28	24	14.54	1.00
e. 学生の自己評価	622	13.34	2.30	23	12.74	2.17



N=24

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	19 79.2	5 20.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.41
②	演習で使用了物品・モデル等は適切だった。	21 87.5	3 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.88	0.33
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	20 83.3	4 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	19 79.2	4 16.7	1 4.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.52
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	19 79.2	3 12.5	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.71	0.61
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	20 83.3	3 12.5	1 4.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.50

c. 授業の進行・展開

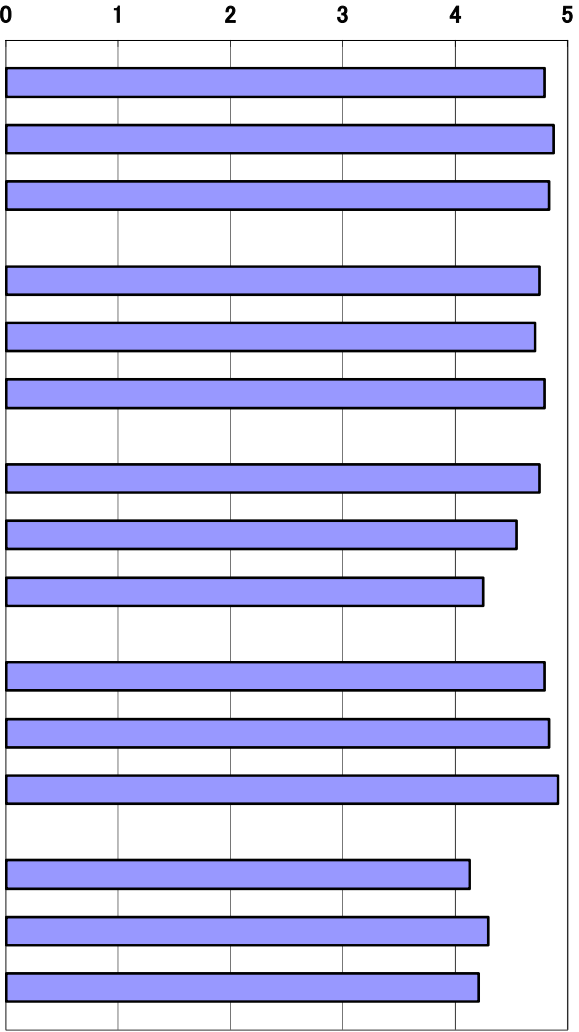
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	18 75.0	6 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	17 70.8	4 16.7	2 8.3	1 4.2	0 0.0	0 0.0	4.54	0.82
⑨	演習の時間配分は適切だった。	13 54.2	6 25.0	3 12.5	2 8.3	0 0.0	0 0.0	4.25	0.97

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	20 83.3	3 12.5	1 4.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.79	0.50
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	20 83.3	4 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.83	0.37
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に应答した。	22 91.7	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.92	0.28

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	11 45.8	7 29.2	4 16.7	2 8.3	0 0.0	0 0.0	4.13	0.97
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	11 45.8	9 37.5	4 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.29	0.73
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	11 45.8	10 41.7	2 8.3	0 0.0	0 0.0	1 4.2	4.21	1.08



科目コード	1R0600	科目名	災害看護活動論 I	担当教員名	小原真理子, 亀井 縁, 安島幹子
-------	--------	-----	-----------	-------	-------------------

<教員からのコメント>

良い評価を頂き、ありがとうございます。学生の皆さんが熱心に災害看護急性期のシミュレーションに取り組む姿は、私達教員や外部指導者にも伝わり、また知識と実践が統合されてゆくプロセスが確認できました。事故もなく、そして楽しく充実した学びある4日間の集中授業であったとのコメントを頂き、安心と同時に嬉しく思っております。長年に渡り、独自に開発してきた災害看護急性期のシミュレーション方法が生かされていると感慨無量です。病院や施設実習のように、災害看護実習が構成されていない領域ですので、演習は災害看護の重要な知識や技術、態度、行動力を養う場にと開発に当たってきました。シミュレーション教育による学習到達度は80%～90%と、講義のみよりはその学習効果が実証されています。今後もシミュレーション方法の開発に取り組んでいきたいと思ひます。

集中授業の時期について、集中授業の構成ですので、どうしても夏休みになってしまいます。熱い中での演習については、熱中症に罹らないように、特に外で行う災害救護技術演習、総合シミュレーション時は全指導者共々気をつけ、休み時間のとり方、飲水、帽子・サングラスの着用等の注意喚起による配慮をしております。その甲斐があつて、体調不良になった学生は演習を始めて8年間ありませんでしたが、今後も注意していきたいと思ひます。また集中授業の組み方についても検討していきたいと思ひます。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

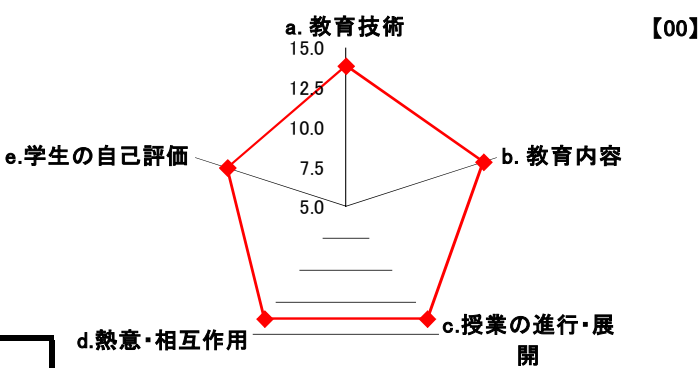
履修者数	9	回収数	8	回収率	88.9%
------	---	-----	---	-----	-------

科目:災害看護活動論Ⅲ

担当者:

小原真理子,亀井 縁,安島幹子

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	8	13.88	1.45
b. 教育内容	635	14.24	1.50	8	14.13	1.27
c.授業の進行・展開	632	14.01	1.66	8	13.75	1.39
d.熱意・相互作用	632	14.38	1.28	8	13.75	1.30
e.学生の自己評価	622	13.34	2.30	8	12.88	1.83



N=8

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.48
②	演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	5 62.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.71

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	6 75.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.70
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43

c. 授業の進行・展開

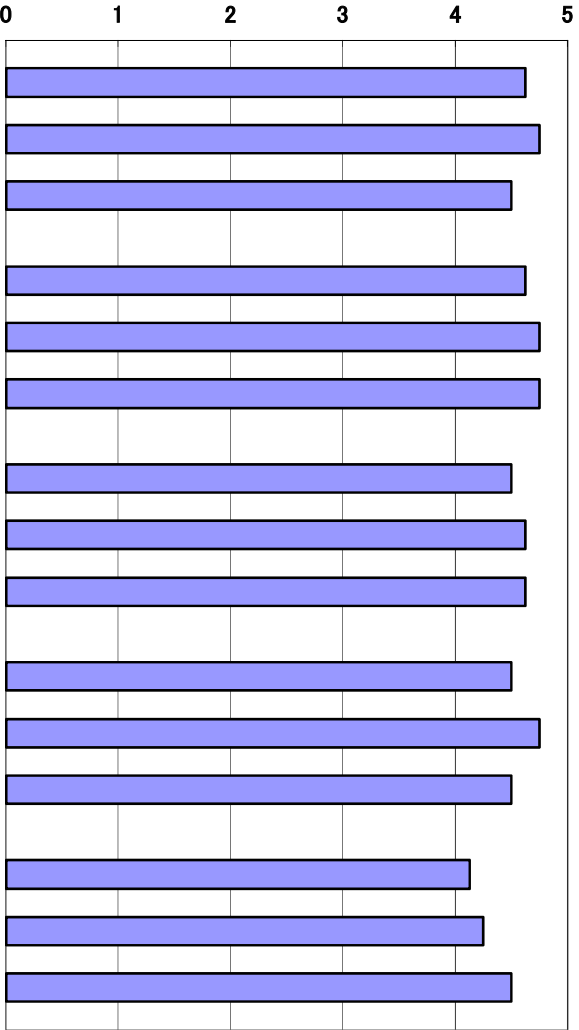
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.48
⑨	演習の時間配分は適切だった。	5 62.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.63	0.48

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	5 62.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.71
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	6 75.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.75	0.43
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	4 50.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	4.13	1.05
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.25	0.66
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.50	0.50



科目コード	1R0800	科目名	災害看護活動論Ⅲ	担当教員	小原真理子, 亀井 縁, 安島幹子
-------	--------	-----	----------	------	-------------------

・日本赤十字社の健康生活支援講座を取り入れた構成が学生にとっては興味深く、また学びに伝わったのが授業評価から伝わってきました。学生の皆さんが指導者からの教えを守り、避難所や仮設住宅に居住する高齢の被災者さんへのケアを考え、技術を習得する機会になったことが確認できました。

・講座以外、避難所のレイアウト、避難所の初動、仮設住宅の訪問とヒアリング等、被災者の健康と生活を考えるシミュレーションも取り入れてきました。今後もシミュレーションの開発に励みたいと思っています。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

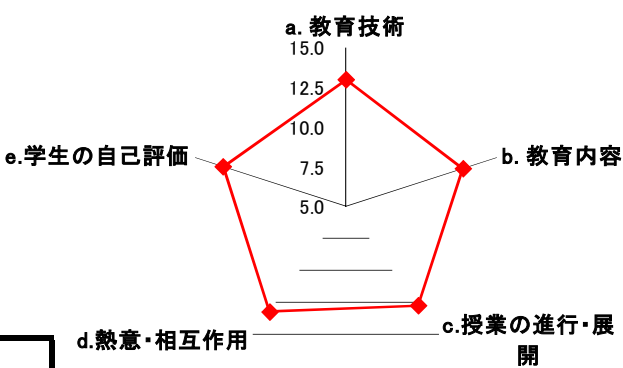
履修者数	66	回収数	47	回収率	71.2%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:研究方法論Ⅰ

担当者:

谷津裕子,遠藤公久,坂口千鶴,山崎裕二,岡本菜穂子,齋藤英子,新田真弓,藤田淳子,堀井湖浪,堀井湖浪

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	46	13.00	1.99
b. 教育内容	635	14.24	1.50	46	12.76	2.15
c. 授業の進行・展開	632	14.01	1.66	44	12.73	2.18
d. 熱意・相互作用	632	14.38	1.28	47	13.21	1.91
e. 学生の自己評価	622	13.34	2.30	45	13.16	2.20



【00】

N=53

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	20 42.6	23 48.9	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.32	0.69
②	演習で使用した物品・モデル等は適切だった。	20 42.6	22 46.8	3 6.4	1 2.1	0 0.0	1 2.1	4.23	0.93
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	21 44.7	22 46.8	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.34	0.69

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	20 42.6	18 38.3	7 14.9	1 2.1	0 0.0	1 2.1	4.15	0.99
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	17 36.2	23 48.9	4 8.5	3 6.4	0 0.0	0 0.0	4.15	0.82
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	21 44.7	22 46.8	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.34	0.69

c. 授業の進行・展開

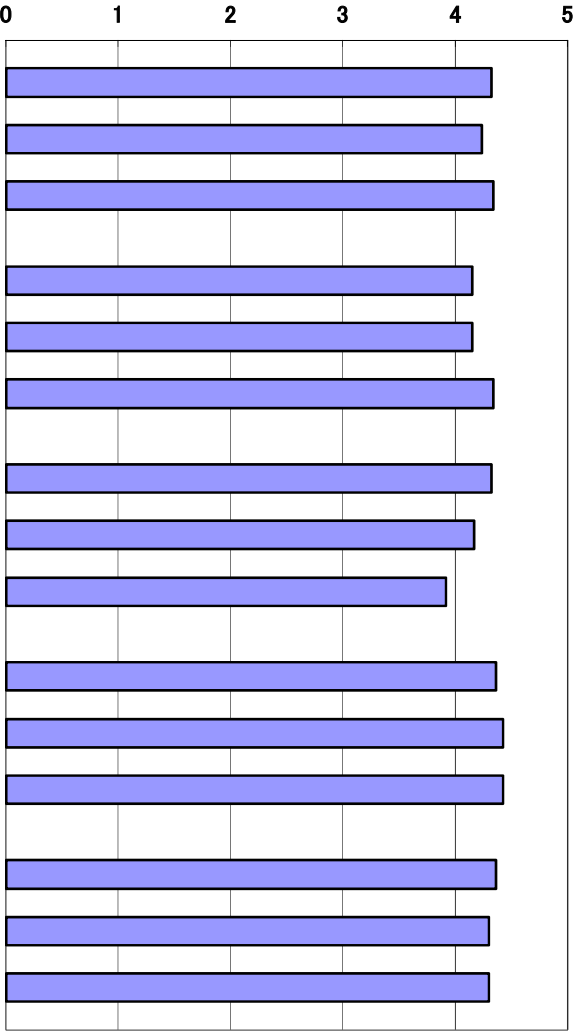
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	21 44.7	22 46.8	2 4.3	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.32	0.75
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	22 46.8	18 38.3	4 8.5	1 2.1	0 0.0	2 4.3	4.17	1.14
⑨	演習の時間配分は適切だった。	17 36.2	17 36.2	7 14.9	5 10.6	0 0.0	1 2.1	3.91	1.13

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	22 46.8	21 44.7	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.36	0.70
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	24 51.1	20 42.6	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.43	0.68
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	26 55.3	17 36.2	2 4.3	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.43	0.76

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	25 53.2	16 34.0	4 8.5	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.36	0.81
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	26 55.3	14 29.8	4 8.5	2 4.3	0 0.0	1 2.1	4.30	1.03
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	23 48.9	19 40.4	3 6.4	1 2.1	0 0.0	1 2.1	4.30	0.94



科目コード	1T0101	科目名	研究方法論Ⅰ（クラスA）	担当教員名	谷津裕子・遠藤公久・坂口千鶴・山崎裕二・岡本菜穂子・齋藤英子・新田真弓・藤田淳子・堀井湖浪
-------	--------	-----	--------------	-------	---

＜教員からのコメント＞

今年度から3年次に新カリキュラムが適用され、これまでの「研究方法論Ⅰ－1」が「研究方法論Ⅰ」として生まれ変わりました。研究に関して基礎からしっかり理解し、研究活動における文献検索や文献検討の位置づけを把握してから演習を行なっていただきたいと考え、文献検索・文献検討の演習に入る前に、研究の目的や意義、量的研究・質的研究の特徴について講義形式で一通りお話ししました。皆さんの意見から、その意図をきちんと理解している方がいることがうかがえ、嬉しく思います。

ただ、ほかの授業の課題と重なり演習課題に取り組む時間が足りなかった、もう少し早く演習作業に入りたかった、との意見が多くありました。時間割編成と関係してきますが、なるべく演習の時間を多く確保するようにしたいと思います。そのほか、質問に対する担当教員の回答の統一や機会の平等について、文献検索のアクセス数の増加などのコメントについても来年度の授業で可能な限り改善したいと思います。

演習内容については、概ね文献検索と文献検討の基本が理解できた様子がうかがえ安心しました。後期の授業や4年次の研究でも繰り返し活用して忘れないようにしてください。

授業(演習)評価結果(2014年度前期)

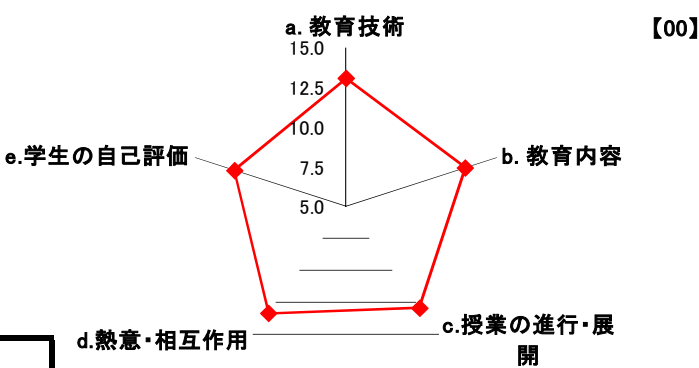
履修者数	80	回収数	47	回収率	58.8%
------	----	-----	----	-----	-------

科目:研究方法論Ⅰ

担当者:

谷津裕子,遠藤公久,坂口千鶴,山崎裕二,岡本菜穂子,齋藤英子,新田真弓,藤田淳子,堀井湖浪,堀井湖浪

	全体			有効数	平均得点	標準偏差
	有効数	平均得点	標準偏差			
a. 教育技術	635	14.31	1.37	47	13.09	1.77
b. 教育内容	635	14.24	1.50	47	12.91	1.89
c. 授業の進行・展開	632	14.01	1.66	47	12.89	2.19
d. 熱意・相互作用	632	14.38	1.28	47	13.32	1.65
e. 学生の自己評価	622	13.34	2.30	45	12.40	2.47



N=61

強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そうは 思わない	全くそうは 思わない	不明	平均	標準偏差
5点	4点	3点	2点	1点			

a. 教育技術

①	演習で使われたテキスト、配付資料などは授業の理解に役立った。	21 44.7	22 46.8	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.36	0.63
②	演習で使用了物品・モデル等は適切だった。	21 44.7	19 40.4	6 12.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.28	0.76
③	教員の話し方やデモンストレーションは適切だった。	25 53.2	18 38.3	4 8.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.65

b. 教育内容

④	技術の説明と、実施する実技の組み合わせは適切だった。	21 44.7	20 42.6	6 12.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.32	0.69
⑤	演習を通して、より興味をもち、深く学びたいと感じることができた。	21 44.7	18 38.3	7 14.9	0 0.0	1 2.1	0 0.0	4.23	0.86
⑥	実践的なレベルで技術および方法を学ぶことができた。	21 44.7	23 48.9	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.36	0.67

c. 授業の進行・展開

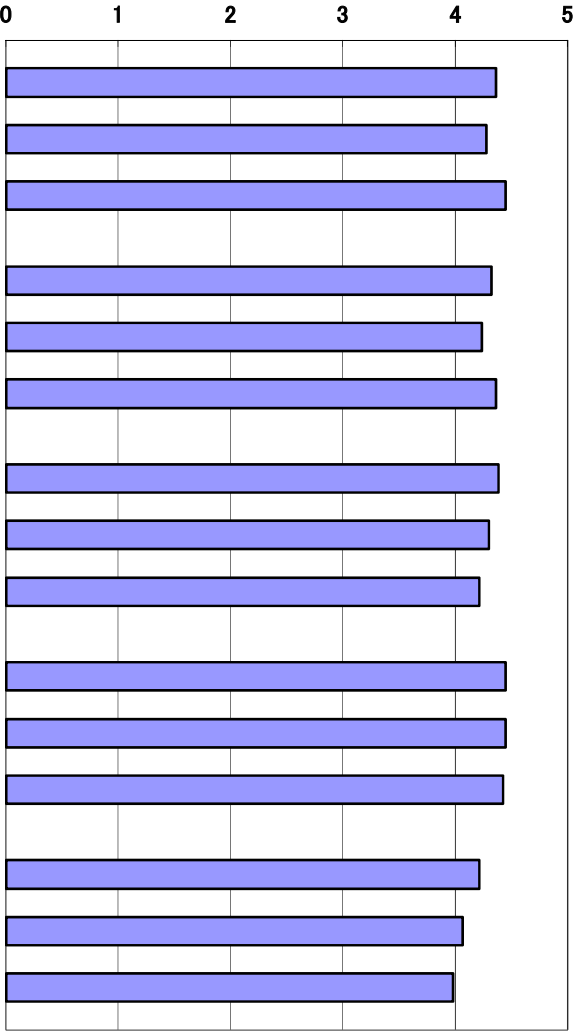
⑦	学生への指示・安全への配慮は適切だった。	23 48.9	20 42.6	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.38	0.70
⑧	演習時の(グループ等の)人数は適切だった。	21 44.7	19 40.4	7 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.30	0.71
⑨	演習の時間配分は適切だった。	23 48.9	16 34.0	3 6.4	5 10.6	0 0.0	0 0.0	4.21	0.97

d. 熱意・相互作用

⑩	教員の熱意が伝わってきた。	23 48.9	22 46.8	2 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.45	0.58
⑪	教員は学生の理解や反応を見ながら進め、質問しやすい状況であった。	25 53.2	19 40.4	2 4.3	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.45	0.68
⑫	教員は学生の質問や発言に適切に応答した。	25 53.2	18 38.3	3 6.4	1 2.1	0 0.0	0 0.0	4.43	0.71

e. 学生の自己評価

⑬	私は事前学習をして演習に臨んだ。	21 44.7	17 36.2	7 14.9	2 4.3	0 0.0	0 0.0	4.21	0.85
⑭	私は授業後に演習内容を復習した(オフィスアワーを含む)。	20 42.6	14 29.8	9 19.1	4 8.5	0 0.0	0 0.0	4.06	0.98
⑮	私は技術のプロセスを理解し、原則に基づいて技術を行なえるようになった。	17 36.2	19 40.4	8 17.0	1 2.1	0 0.0	2 4.3	3.98	1.14



科目コード	1T0102	科目名	研究方法論Ⅰ（クラスB＋編入）	担当教員名	谷津裕子・遠藤公久・坂口千鶴・山崎裕二・岡本菜穂子・齋藤英子・新田真弓・藤田淳子・堀井湖浪
-------	--------	-----	-----------------	-------	---

<教員からのコメント>

今年度から3年次に新カリキュラムが適用され、これまでの「研究方法論Ⅰ－1」が「研究方法論Ⅰ」として生まれ変わりました。研究に関して基礎からしっかり理解し、研究活動における文献検索や文献検討の位置づけを把握してから演習を行なっていただきたいと考え、文献検索・文献検討の演習に入る前に、研究の目的や意義、量的研究・質的研究の特徴について講義形式で一通りお話ししました。皆さんの意見から、その意図をきちんと理解している方がいることがうかがえ、嬉しく思います。

ただ、ほかの授業の課題と重なり演習課題に取り組む時間が足りなかった、もう少し早く演習作業に入りたかった、との意見が多くありました。時間割編成と関係してきますが、なるべく演習の時間を多く確保するようにしたいと思います。そのほか、質問に対する担当教員の回答の統一や機会の平等について、文献検索のアクセス数の増加などのコメントについても来年度の授業で可能な限り改善したいと思います。

演習内容については、概ね文献検索と文献検討の基本が理解できた様子がうかがえ安心しました。後期の授業や4年次の研究でも繰り返し活用して忘れないようにしてください。